
流星のロックマン4黄金のヨロイ・ライオーガ/ツバサ・ドラゲーン

レッドスター

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

流星のロックマン4黄金のヨロイ・ライオーガノツバサ・ドラゲーン

【Nコード】

N9637S

【作者名】

レッドスター

【あらすじ】

時は22XX年、星河スバルという少年は、AM星人のウォーロックと電波変換し青きヒーローロックマンに変身するのだ！

そしてついに新章突入！それは「ドラゲーンの章」！

ロックマンの新たな戦いが今始まる・・・！！

「ドラゲーンの章」もよろしくね！

あと11月からオリジナルキャラクター募集中です。

皆さんドシドシ送ろう

（送り方はとにかく俺がかいた活動報告を見てくれれば分かります。その送り方が書いてあるのは「新章いきました！」の所に書いています。

それに前回送ってくれた人は分かりますよね？送り方は前回と変わ
りません、

変わったのは1人何回でも送ってもOKな所です）

第1話 プロローグ

星河スバル小学6年生コダマ小学校に通っている少年

この少年はAM星人のウォーロックと合体（電波変換）し、青きヒーローロックマンに変身するのだ！

ロックマンは、3度に渡って世界を救いアンドロメダ・ラ・ムー・クリムゾン・ドラゴン数々の強敵と戦いキズナの力で乗り越えてきた。

そして父、星河大吾を救いそれから月日が流れ・・・春の4月・・・

スバル「父さん、母さん！行ってきます！」

茜「いつてらっしゃい、気よ付けるのよー！」

大吾「スバルの奴ずいぶん変わったな、茜」

茜「ええ！」

今日はスバルが六年生になる日、スバルは、いつもどおりに「ビジライザー」をかけ学校に向かう途中に委員長とキザマロとゴン太達に出会った。

委員長「あら久しぶり！」

委員長（白金ルナ）は、ロックマンが好きでいつも「ロックマン様

〜！」と言っている、そしてリーダー的な存在！

キザマロ「おはようございます。」

キザマロ（最小院キザマロ）運動は苦手だが勉強が得意

ゴン太「また一緒のクラスなれるといいな！」

ゴン太（牛島ゴン太）は食いしん坊で好きな食べ物は牛丼！

それにウィザードのオックスと電波変換しオックス・ファイアに変身するのだ！

今はすごく平和で誰もがこの平和がこのまま続くと思っていた、しかし、今、地球・・・いや・・・宇宙にも危機が迫っていた・・・そのことは・・・ただ1人の男だけが知っている・・・その男は・・・

・
「??？」・・・とうとう、この時が来たか・・・」
スバル達はいずれこの男に会う・・・果たしてどうなる!？
そして学校・・・

「????」

キザマロ「ほほう・・・背がたかいですね！」

先生「それでは、自己紹介を！」

ライオ「・・・ライオだ・・・」

スバル「ライオ君か！」

ウォーロック「・・・あいつ・・・」

ライオ「・・・ギロ・・・」

ライオはスバルをにらんだ！

スバル「!？」

第3話 ミソラ登場!

スバル「!?!」

先生「じゃー、星河君の隣の席が空いてるから、そこに座って!」
ライオは、スバルの隣の席に向かっていている。

スバル「ラ、ライオ君、よろしく!」

ライオ「・・・ギロリ・・・」

スバル「・・・」

キーンコーンカーンコーン

放課後

委員長「スバル君!」

スバル「何?委員長?」

委員長「今日、私の家でパーティーするんだけど、来なさい!」

スバル「えーと・・・分かった行くよ!」

委員長「じゃー5時に来て!」

スバル「うん!」

ライオ「・・・ニヤリ」

そして4時40分

スバル「よし!ウォーロックそろそろ行くか!」

ウォーロック「ああっ!」

ピーンポーン

茜「はい・・・あらっ!」

スバル「母さん、誰?」

???「久しぶりだね、スバル君!」

スバル「あーっ!ミソラちゃん!」

ミソラ「ピーンポーンあたり」

第4話 パーティー

スバルはびつくりしていた。

スバル「なんで、ここにミソラちゃんが!?」

ミソラ「なに? 来ちゃだめなの?」

スバル「い……いや、来てもいいんだけど……」

ミソラ「だけど……なに?」

スバル「えーと……」

ウォーロツク『ここにミソラがいるってことは……』

????『ポロローン久しぶりねロツク!』

ウォーロツク『げっ! ハ、ハープ!!』

ハープ『居ちや悪い?』

ウォーロツク『当たり前だーっ!』

そして2体は、喧嘩しながらどこかに行った。

スバル「ハハハ……」

ミソラ「……そういえばスバル君どこか行くの?」

スバル「うん! 今から委員長の家に行つてパーティーをするんだ!」

ミソラ「ふーん、ねえ! スバル君!」

スバル「えっ? なに?」

ミソラ「私も行つていい?」

スバル「えっ! 僕はいいけど……」

ミソラ「やった! じゃー行こうか!」

委員長の家

スバル「皆来たよ!」

ゴン太「おーっ! スバル早く始めよう……ぜ……」

ミソラ「皆、久しぶり!」

ゴン太「ミ、ミソラちゃん……!」

キザマロ「ほ、本物です」

委員長「な、なんでここにい、いるの!??」

ミソラ「暇だったから来ちゃった!」

ゴン太「なー、委員長もう俺腹減ったぜー、早く食べようぜー!」
委員長「そうね!食べましょう!」

皆「いただきまーす!」

こうしてパーティーが始まった・・・そして、ちよんどのころ・・・

???1「準備は・・・いいか?」

???2「・・・ああつ!」

ガチャガチャバチィ

第4話 パーティー（後書き）

面白かったですか？次回もよろしく！

第5話 パーティーの悲劇

ゴン太「モグモグバクバク」

ミソラ「モグモグ」

スバル「おおっ！おいしー！これ誰が作ったの？」

委員長「この料理はシェフが作ったのよ！それで、あっちが私が作った料理よ！」

ゴン太「モグモグ・・・ぐふっ・・・ガクッ」

キザマロ「ゴン太くーーん！」

スバル「・・・」

ウォーロック「・・・あれ・・・食べたら死ぬな・・・」

バチイ！

委員長「あら？」

バチイ・・・プッ！

一瞬にして家の電気が消えた！

スバル「うわあ！なんだ!？」

ウォーロック「スバル！電波ウイルスだ！」

スバル「ウイルス!？」

ウォーロック「スバル！やるぞ！」

スバル「うん！トランスコードシューティングスターロックマン！」

キイーン！

ロックマン「どこだ!？」

ウォーロック「キッチンの電脳だ！」

ロックマン「いくぞー！」

ミソラ「スバル君!？」

・・・キッチンの電脳・・・

第5話 パーティーの悲劇（後書き）

次回おまけ描きます。

第6話 ロックマン！（前書き）

今回から、おまけがあります。

第6話 ロックマン!

……キッチン電腦……

ロックマン「ここだね! ……あつ! いた、あそこだ!」

ウォーロック「見たことねえーウイルスがいるぞ!」

ロックマン「本当だ、それにウイルスがこんなにいる……」

ウォーロック「おいおいビビッてねーよな? スバル!」

ロックマン「ビビッてないよ! いくよロック!」

ウォーロック「おう!」

ロックマン「ウェーブバトル・ライドオン!」

ウイルスはロックマンに向かって攻撃してくる!

ロックマン「おっと! 危ない!」

ウォーロック「スバル! 攻撃だ!」

ロックマン「うん! じゃー、ロングソード!」

ロックマンは次々とウイルスを倒している……しかし

ロックマン「うわっ!」

ドサッ

ロックマン「くっ……あの、でかいウイルスは普通のウイルスとは違って強い!」

ウォーロック「だったら、一番強いやつで攻撃するんだ!」

ロックマン「よしなら、マッドバルカン3! つけええええええ

ー!」

ガガガガガガガガガガガン

ドオオン

ウォーロック「きまつたな!」

ロックマン「ふーちよつと緊張した……」

ウォーロック「ハハハまだまだだな!」

ロックマン「ハハ……」

おまけ

- スバルの一日 -

スバル「うーん・・・おはようロック」

ウォーロック「おはよーさん！」

スバル「ねえ！ロック！今日学校休みだから、どっか、行こうよ！」

ウォーロック「いいけど・・・どこ行くんだ？」

スバル「アマケン！」

- アマケン -

天地「やあ！スバル君」

スバル「久しぶりです！天地さん！」

そして5時間後・・・

スバル「あー！面白かった！でもまだ見たかったなー！」

ウォーロック「なんでスバルの奴は5時間も居て飽きないんだ！？」

そして、もちろん最後は・・・

- 展望台 -

スバル「わあー！すごいや！」

ウォーロック「飽きた飽きた飽きたー！ーっ！」

スバルは今日たくさん楽しい事がありました

そしてウォーロックは散々な一日でした・・・

おまけ次回も続く

第6話 ロックマン！（後書き）

頑張りましたー！！！！

第7話 パーティーの終わり

ウォーロック『ふー．．．戻るか!』

スバル「そうだね! 僕お腹すいちゃった!」

そしてスバルは、パーティーの場所に戻った．．．しかし、ある所では．．．

???1「なかなかやるね．．．ウォーロックも．．．」

???2「．．．ロックマンか．．．ククク．．．」

???1「お前が笑うなんて．．．珍しいな!」

???2「．．．面白い．．．今度やってやる．．．ロックマン．．．っ!」

???1「．．．．．」

そして夜の8時．．．皆、ミソラの歌で盛り上がり、楽しんでいた!

ゴン太「ミーソーラーちゃーん! パク! モグモグ．．．!」

キザマロ「ゴン太くーん!」

スバル「アハハハ!」

そして時間は、あつというまに過ぎ．．．夜の9時30分．．．

ミソラ「皆! またね!」

ハープ『ポロロンまたね、ロック!』

ウォーロック『二度と、来るな!』

そしてミソラは、帰って行った．．．

スバル「よし! 僕達も帰るか!」

ウォーロック『そうだな!』

そしてスバルは帰りました．．．

おまけ

第7話 パーティーの終わり（後書き）

次回もお楽しみに

第8話 まさかの・・・遅刻!?

パーティーがあつた次の日・・・

茜「ほら! スバル! 起きなさい!」

スバル「ふぁー・・・あと5分・・・」

茜「なに言つてるの!? あと10分で学校始まるよ!」

スバル「あと・・・10分!?!」

スバルは、急いで着替えて外に出ようとすると!

茜「待ちなさい! スバル!」

スバルは止まろうとすると走つてた勢いで止まらなく、おもいつきり転んだ!

スバル「いたた・・・なに? 母さん・・・」

茜「朝ご飯忘れてるわよ! 食べなさい!」

スバル「・・・はい・・・」

大吾「スバル6年に、なつて早速寝坊か!」

スバル「うん」

大吾「まあ寝坊するのは皆一緒だ! きにすんな!」

スバル「うん・・・」

そしてスバルは、3分で食べ終わった!

じゃー、父さん! 母さん! 行つてきます!」

ボタン!

スバル「やばいよ・・・あと5分で始まつちゃう!」

ウォーロック「まつたく・・・だらしねーなスバル!」

スバル「だつたら起こしてよー!」

ウォーロック「起こしたぜ・・・7回は、でもスバルが起きなかつ

たんだ! (いい顔で眠つてたしな・・・)」

スバル「ええつ! 7回もやつても僕起きなかつたの!?!」

ウォーロック「そうだ!」

そのときスバルは道の角を曲がる時!!

ドン！

スバル「うわっ！」

ドサツ！

スバルは誰かに当たってしまった！

おまけ

・ウォーロックの一日・

スバルが学校で勉強してる時たまーに、どっかに行く・・・たとえば・・・

・・・・どこかの電脳・・・

ウォーロック「おりゃ！」

ズバツ！

ウォーロック「でりゃ！」

ジャギ！

ウォーロック「とどめだあああああああ！」

ズバババン！！！！

ウォーロック「・・・やっぱり敵を倒すのってサイコーだな！よし

！どっか行くか！」

そして外に出ると・・・そこには・・・

ウォーロック「げっ！あのオッサンだ！」

五陽田「ここに大きな反応ありー！皆！つかまえるおおー！」

皆「おおー！」

ウォーロック「・・・逃げるか・・・」

これがウォーロックの一日でしたー

五陽田「むっ！あっちだ！おえー！」

皆「おーっ！」

ウォーロック『あーッ！こっちに来るなああああーっ
っ！！！』

おまけ次回も続く

第8話 まさかの・・・遅刻！？（後書き）

感想お待ちしています。

第9話 新しい先生

スバル「うわっ！」

????「ぐえっ！」

ドサツ！

スバル「いてて・・・あの、ごめんなさ・・・い・・・って、ゴン太！」

ゴン太「おおっ！スバルじねーか！」

ウォーロツク「おいスバル！遅刻するぞ？」

スバル「あーっ！そうだった！」

ゴン太「スバル！いくぞ！」

スバル「うん！」

そして学校

キーンコーンカーンコーン

スバル「はあはあ間に合った・・・」

先生「それでは、今日新しい先生を紹介します！さあ入ってきて！」

ドアから女の人が出てきた

スバル「（なんか前にもこんな展開があったような・・・）」

先生「この先生は学活担当のハナ先生です！」

ハナ先生「よろしく！」

ゴン太「（ハナ先生か・・・かわいいな・・・）」

スバル「・・・あれ？先生！」

先生「なに？星河君！」

スバル「今日ライオ君は、どうしたんですか？」

先生「今日は体調悪いみたいです」

スバル「そうなんだ・・・」

そして時間はたち・・・4時間目、学活

おまけ

・キザマロの一日・

キザマロは、朝早く起きると早速、牛乳コップ一杯と背がのびーるコーンを食べる！

そして身長を測る・・・

キザマロ「やった！伸びました！（ちよとね・・・）」

ペディア『キザマロくん！やったね！』

そして次が・・・背のびーる君！！！！！！

説明しよう！10分ぶら下がるとなんと・・・背がのびーる！

キザマロ「うー・・・」

ドサツ！

キザマロ「はあはあ10分間やり・・・ま・・・した・・・ガクッ
ッ！」

ペディア『キザマロくーーーーーん！』

そして最後は・・・！

パソコンで身長が伸びる食品を購入

キザマロの一日でした

おまけ次回も続く！

第9話 新しい先生（後書き）

感想待ってます。

第10話 キズナ

キーンコーンカーンコーン

ハナ先生「それじゃー今日は5年の復習をします」

スバル「5年の復習かー」

ハナ先生「5年の復習は「キズナ」です」

ゴン太「キズナか！」

ハナ先生「それじゃー・・・牛島君「キズナ」の意味を説明して！」

ゴン太「は、はい！キズナってのは人との友情のことです」

ハナ先生「まあ、大体あつてるわね」

ゴン太「ほ、本当ですか!？」

ハナ先生「んー・・・じゃー最小院君」

キザマロ「はい！キズナは、人の絶対的な信頼です」

ハナ先生「はい！よくできました！」

ゴン太「ハナ先生は信頼してる人っているのか？」

ハナ先生「・・・いたわ・・・昔ね・・・あつ、ごめんなさい、ち

よつと昔の事を思い出してて」

ウォーロツク「・・・」

そして4時間目が終わって放課後・・・

スバル「ねえ、ロツク！やっぱりキズナって大切だね!・・・ロツ

ク？」

ウォーロツク「・・・」

スバル「・・・ロツク？」

ウォーロツク「・・・!な、なんだスバル!」

スバル「どうかしたの？」

ウォーロツク「いや・・・なんでもねえ・・・」

スバル「？」

おまけ

・委員長の一日・

委員長はいつも早起きしている

朝4時に・・・

委員長「さあ！やりますか！」

3時間後・・・

そうすると、なんとということでしょうー

ボサボサだった委員長の髪が見事なドリルに

なっているではありませんか

モード『さすが、ルナちゃん！今日もきれいに整っているわー

そしてウィルスが現れれば・・・

委員長「ロツクマン様ー」

そしてロツクマン様応援グッズを作りそして就寝

委員長の一日でした

第11話 WAXA（ワクサ）

ワクサ
WAXAでは・・・

キーンキーンキーン

サテラポリス「な、なんだ!？」

ヨイリー「大変よ!究極プログラムが盗まれたわ!」

サテラポリス「くっ・・・こんな時に暁の奴どこに・・・」

そのころ暁は・・・

暁「サクサク・・・うーん・・・うまい!！」

世界各地のうまい棒を回っていた・・・

そのころスバルは家に居た・・・

ウォーロツク『・・・』

スバル「えーと・・・ここがこうで・・・」

ウォーロツク『スバル・・・』

スバル「なに?」

ウォーロツク『暇だあああああああ!!!!!』

スバル「あー、いつもいつも勉強の時『ひまだー』っていい加減にしてよ!」

ウォーロツク『だってよー!』

スバル「しょうがないなー、じゃーどっか行く?」

ウォーロツク『どこに!』

スバル「展望台!」

ウォーロツク『ええーっ』

スバル「ロツク嫌だったら、来なくていいよ?」

ウォーロツク『・・・』

そしてスバル達は展望台に向かった・・・

第11話 WAXA(ワクサ)(後書き)

ごめんなさい、おまけ書けませんでした・・・次回書きます！

第12話 黄金の石

――展望台――

スバル「わぁー……今日もいろんな星が見える！」

ウォーロツク「……楽しいか？スバル……」

スバル「うん！」

ウォーロツク「……！スバル！」

スバル「なに……あつ！父さん！」

大吾「やつぱり、ここに居たかスバル！」

スバル「でも何で……ここに父さんが？」

大吾「ちよつとな……スバル！」

スバル「なに？父さん？」

大吾「宇宙行きたいか？」

スバル「うん！行きたい！父さんが、乗ってた、ロケットで……！」

大吾「そうか……その日が楽しみだ！……スバル……」

スバル「ん？」

大吾「ロツクマンに変身して、なにかの変化を感じなかったか？」

スバル「えっ……何もなかったけど……何で？」

大吾「ならいいんだ……」

スバル「？」

大吾「！そうだスバル！」

すると大吾はポケットから黄金の石を、出した……

大吾「スバルに、これをあげるよ」

スバルは、大吾から黄金の石をもらった！

スバル「すごい！こんな石、見たこと無いや！」

大吾「……」

スバル「ありがとう！父さん！」

大吾「……ああ！」

大吾は遅く返事した……

スバル「・・・父さん？どうしたの？」

大吾「い、いや・・・なんでもない・・・」

ウォーロック「（大吾の奴・・・なんか、隠してるな・・・）」

大吾「そろそろ帰るか！」

スバル「うん！」

そしてスバル達は家に帰っていった・・・しかし展望台の近くにある木から人影が・・・

???「フッフ・・・ウォーロック・・・必ずあなたを・・・」
そして影が消えた・・・

おまけ

・ミソラの日記・

月×日

今日は、たくさんの仕事がありました！

月 日

今日は、仕事が早く終わって、ルナちゃんの家でパーティーしました！

月 日

ふうー、昨日は、楽しかったなー！

月× 日

明日は、サイン会！明日もがんばるぞ！おーっ！

おまけ次回も続く

第12話 黄金の石（後書き）

感想まっています！

第13話 ライオ

次の日の放課後・・・

キーンコーンカーンコーン

スバル「んーっ！やつと終わった！」

ウォーロツク『スバル明日から3連休だろ、なんかあるか？』

スバル「えっ、ないけど・・・」

委員長「だったらスバル君！」

ウォーロツク『（いきなりでやがった！）』

スバル「なに？委員長！」

委員長「明日2泊3日の旅行に行くの、スバル君も行く？」

スバル「いいの？・・・じゃーいくよ！」

委員長「わかつたわ！」

スバル「そうだ！ライオ君も行くよう！」

ライオ「・・・ことわる！」

委員長「なによ！せっかく誘ったのに！」

ライオ「・・・余計な世話だ・・・もう俺には、かかわるな・・・」

スバル「ご、ごめんライオ君・・・」

ライオ「・・・おまえ・・・「君」はやめる・・・」

スバル「え？」

ライオ「ウザいんだよ・・・おまえ・・・」

スバル「！！！！」

ライオ「・・・ふん・・・」

ライオはどっかに行ってしまった・・・

委員長「スバル君・・・気にしなくていいわよ！」

スバル「・・・うん」

そしてしばらくして・・・

おまけ

- ウォーロックの旅(上) -

ある晴れた朝の日・・・

ウォーロック『(スバル・・・俺・・・旅に出る!)』

そしてスバルの家から出て行った!

ウォーロック『・・・つとは言ったものの・・・どこいこう・・・』

すると近くにあったゴン太の家の犬小屋けいほうちがあった・・・

ウォーロック『・・・入ってみるか!』

しかし・・・ウォーロックは知らなかった・・・このあと、まさか、

あんなことが、起こることを・・・

おまけ次回も続く

第14話 謎の組織の計画

- 委員長の家 -

委員長「明日の7時にバス亭に集合よ、いい？」

ゴン太「おおー！」

キザマロ「ゴン太君、遅刻しないでくださいね！」

委員長「そうよ！」

ゴン太「うっっ」

スバル「そいえば、どこに行くの？」

委員長「ハマノタウンよ！」

スバル「ハマノタウン？」

委員長「知らないの!？」

スバル「うん・・・」

委員長「はあー、しょうがない・・・キザマロ！」

キザマロ「はい！ハマノタウンは・・・世界1有名なホテルがあるのです！」

スバル「へえー」

委員長「そのとおりね・・・じゃーまた明日！」

そのころミソラは・・・

「ミソラさん、おつかれさまでしたー」

ミソラ「おつかれさまでした」

ハープ「今日もよかったわ！ミソラ！」

ミソラ「はあー・・・いきたくないあー・・・」

ハープ「・・・どこに？」

ミソラ「ハマノタウンよ！」

ハープ「ふーん」

- 謎の組織 -

???1「ククク・・・そうか・・・」
???2「・・・ああ俺が行く・・・」
今動き出す！

おまけ

- ウォーロツクの旅(中) -
- - - 犬けいほうき小屋こや電脳 - - -
ウォーロツク「・・・なにもねー・・・」
すると後ろからさつきを、感じた・・・
ウォーロツク「誰だ！」
「???」ブロロロロ誰だー！
ウォーロツク「くっ！ウイルスか・・・って・・・オックス！」
オックス「・・・ウォーロツクじゃないか！」
そのとき犬けいほうき小屋が、急に鳴り始めた！
ワンワン！ワンワン！
いったい、なにが起きたのか！

おまけ次回も続く

第14話 謎の組織の計画（後書き）

感想待ってます！

第15話 2泊3日の旅行

次の日・・・

委員長「まったく！ゴン太の奴遅いわね！」

そしてゴン太が来た！

ゴン太「ごめんごめん！寝坊しちゃって・・・」

そのとき、ゴン太は殺気を感じた・・・

委員長「ごくんくた〜！！！」

ゴン太「ひいい！」

委員長「・・・まあ！いいわ、いくわよ！」

そのとき、ちょうどバスが、来た！

プップー

そしてしばらくして・・・

委員長「ふうー、ついたあ！」

スバル「ここがハマノタウンかあーっ！」

ウォーロツク「海・・・広いな・・・（まあ見たことあるけどな）」

ゴン太「ウォー海〜！」

キザマロ「ブルブル・・・」

ゴン太「どうしたんだキザマロ」

キザマロ「ちよつと昔のことを思い出して・・・ブルブル・・・」

ウォーロツク「ハハハいい加減に忘れるよ！」

キザマロ「・・・ブルブル」

委員長「皆、ホテルに行くわよ！」

皆「はい」

・・・ホテル・・・

スバル「おおっ！すごいや！」

ゴン太「なあ！キザマロ、あの絵なんだ？」

キザマロ「あの絵は、何百年前に、ここを立てた大金持ちの女社長
が書いた絵なんです！」

ゴン太「へえ〜」

委員長「皆！部屋に向かうわよ！」

スバル「オツケー！」

キザマロ「果たしてどんな部屋でしょうね・・・キラーン」

第15話 2泊3日の旅行（後書き）

おまけ書けませんでした・・・次回書きます！

第16話 狙われるウォーロック(前書き)

第16話 狙われるウォーロック

スバル達が部屋に向かっているところ・・・

????2「・・・ここか・・・AM星人がいるのは・・・」

????「そうだ！ここにいる！」

????2「いくぞ・・・」

????「ああつ！」

そのころスバルは・・・

スバル「おおーっ！広い！」

キザマロ「想像以上です！」

委員長「当然よ！何だってここは・・・」

ゴン太「海いこうぜ！」

委員長「ご〜ん〜た〜！」

ゴン太「ご、ごめんなさい・・・委員長・・・」

委員長「はあ〜・・・しょうがないわね〜」

ゴン太「うつつ」

委員長「海行きましょうか！」

するとゴン太の顔が笑顔になった！

ゴン太「やったああ！」

そして海に行った・・・

ゴン太「ウォー！またあれをやるぞおおーっ」

スバル「ま、まさか・・・あれを・・・」

ゴン太「ああつ・・・いくぜ！うおおおパ・・・」

委員長「やめなさい！」

ゴン太「ええっ!?!」

ウォーロック「(あたりまえだろ・・・)」

スバル「ハハハハ」

キザマロ「ぼくは・・・は、入りません！」
そしてスバル達（キザマロ以外）は、海でたくさん遊びしばらくしてスバル達は、海から上がった・・・しかしスバル達はきずいていなかった・・・ウォーロックが狙われているのを・・・

おまけ

- ウォーロックの旅（下） -

ワンワン！ワンワン！

ウォーロック「なんだ！？」

すると奇妙な声が出た・・・

????「・・・の・・・ど・・・えせ・・・」

ウォーロック「オックス！」

ウォーロックはオックスをみるとなんと！震えていた！？

オックス「くつ・・・ばれたか・・・」

ウォーロック「！！・・・オックス・・・一体なにをしたんだ？」

オックス「実は・・・俺・・・」

ウォーロックはつば（みたいなもの）を飲んだ・・・

ウォーロック「・・・ゴク・・・」

オックス「俺・・・」

トクン・・・

オックス「ゴン太の牛丼を食べたんだ！」

ウォーロックは思った・・・

ウォーロック「（ああっ・・・そうか・・・だから、ここにいるの

か・・・）」

このあと旅に飽きたウォーロックは、スバルのところに戻った！

おまけ次回も続く

第16話 狙われるウォーロック(後書き)

感想待ってます！

第17話 オックス

しばらくして・・・スバル達は、ホテルに帰ってきた！

ゴン太「ウォー！やったぜ！タコをとったぜ！」

キザマロ「・・・タコとつてなににするんです？」

ゴン太「食う！」

キザマロ「・・・やっぱり・・・」

ウォーロツク「（・・・なぜタコ？）」

スバル「あつ・・・そいえば、ゴン太、オックスつれてきてる？」

ゴン太「おうよ！つれて来てるぜ！」

するとゴン太は、オックスを外に出した！

ゴン太「ウィザード・オン！」

そしてオックスがでてきた！

オックス「ブロロロロロ」

するとウォーロツクもでて来た！

ウォーロツク「よお！オックス！」

オックス「おおっ！ウォーロツク！」

ウォーロツク「あいかかわらず熱いな・・・おまえ・・・」

オックス「ブロロロロロ、おうよ！」

ウォーロツク「・・・（やっぱり、こいつ変わってね・・・）」

ゴン太「オックス！そろそろ戻ろうぜ！」

オックス「おうよ！」

スバル「ぼくも戻ろうか！」

ウォーロツク「ああっ！」

しかし・・・このあと事件が起きる！スバル達は、知らない・・・

第17話 オックス（後書き）

おまけ書けませんでした・・・次回書きます！

第18話 ホテル！ピンチ！

????2「・・・クク・・・」

ゴン太「よし！部屋に行く・・・」

するとホテルの電気が・・・

ジジツ・・・プツン！

ゴン太「うおお、消えた!?」

キザマロ「急に電気が消えたです！」

委員長「もうっ何よ!?」

スバル「な、なんで・・・」

ウォーロツク『スバル、これはウイルスのしわざだ!』

スバル「!!!」

ウォーロツク『それに委員長の家の時と一緒にだ!』

スバル「!・・・それって・・・」

ウォーロツク『ああっ!・・・あの時の犯人だ!』

スバル「・・・いくよロツク!」

ウォーロツク『おう!』

スバル「トランスコード!シューティングスターロツクマン!」

光がスバルを包んだ!

キーン!

ロツクマン「いくぞおお!」

ウォーロツク『場所は・・・あの扉の向こうだっ!』

ロツクマン「わかった!」

ガチャガチャ・・・

ロツクマン「・・・あれ?」

ウォーロツク『どうした?スバル?』

ロツクマン「・・・開かない・・・」

ウォーロツク『なにいい!?』

ロツクマン「どうするロツク?」

ウォーロック「……！そっだ、ウェーブロードがあるじゃねーか！」
ロックマン「無理だよ……」
ウォーロック「何でだよ!?」
するとロックマンは、指をさした、ウォーロックは、さしたところを見ると……
ウォーロック「！」
ロックマン「道が誰かがとうせないようにしたんだよ！」
ウォーロック「……なら」
ロックマン「なら?」
ウォーロック「壊すうう！」
ロックマン「だめだよ、壊したりしたら！」
ロックマンは必死にウォーロックをとめている……
ウォーロック「うおおお！はなせーっ！」
ロックマン「ほかに、開ける方法があるだろーっ！」
ウォーロック「じゃー、どうやって!?!」
ロックマン「扉の電腦に入って扉の鍵を解除するんだーっ！」
するとウォーロックは止まった……
ウォーロック「……その手があったか……」
ロックマン「うん！」
ウォーロック「よし!さっさといくぞ!スバル！」
ロックマン「うん、いくよ!ロック」
ウォーロック「ああっ!」

おまけ

- 作者のアンケート -

Q1、好きな食べ物は何?

A、焼肉

オックス「俺も好きだぜーっ、ブロロロー！」

Q2、好きなアニメは？

A、ロックマン

ウォーロック「やっぱり！」

Q3、見てる人に一言！

A、まだ下手だけど頑張ってうまくなります！
スバル「頑張ってね！」

以上アンケート終了

第18話 ホテル！ピンチ！（後書き）

おまけのネタ待ってます！

第19話 ホテル！ピンチ！2

――扉の電腦――

ロックマン「ついたあ！」

ウォーロック「スバル！早く扉をあけるぞ！」

ロックマン「そうだね、えーと・・・あつた、あそこだ！」

ロックマンは鍵を開ける所に行った！

ロックマン「開けるよ！」

ピーピーガシャン！

ロックマン「やったあ、開いた！」

ウォーロック「！スバル、ウイルスだ！」

ロックマン「しまった！」

ウイルスはロックマンの周りにいた！

ウォーロック「また、見たこと無いウイルスだ！」

ロックマン「やるよ！ロック！」

ウォーロック「いいぜ！よーし、暴れるぜ！」

ロックマン「ウェーブバトル・ライドオン！」

ウイルス達は、ロックマンに攻撃して来た！

ロックマン「ロックバスター！」

ウイルス達は、どんどん倒していった！そして・・・

ロックマン「これで最後だ！」

デュン！

ドドン！

ウイルスはすべて倒した・・・

ロックマン「よし！終わった・・・」

ウォーロック「そろそろいくぞ！」

ロックマン「うん！」

ロックマンは電腦から出た。

ウォーロック「開けるぞ！」

ロックマン「うん！」
扉を開けた・・・そこには・・・
ロックマン「すごい・・・いろんな機会がある！」
ウォーロック「スバル！見てないで、行くぞ！」
ロックマン「あつ！そうだった・・・よし！行くよ、ロック！」
ウォーロック「ああつ！」
そしてロックマンは、電腦に、向かった！

おまけ

- ゴン太と・・・牛！？ -
ある日ゴン太は、牧場に来ていた・・・
ゴン太「・・・」
牛「モッ」
ゴン太「・・・じいじ・・・」
牛「・・・モッ」
ゴン太「・・・ごくり・・・」
ゴン太はヨダレをたらした・・・
牛「モッ!？」
牛は何かの殺気(?)を感じ逃げていった・・・
ゴン太「・・・牛・・・牛井・・・!」
オックス「・・・」
ゴン太は、本当に牛井が好きでしたあー

おまけ次回も続く

第19話 ホテル！ピンチ！2（後書き）

・・・感想・・・待つて・・・ますう~~~~

第20話 ホテルの電腦

-----ホテルの電腦-----

ロッキマン「よし！ついたあ！」

しかし、この電腦の中は、暗く周りが見えずらかった・・・

ロッキマン「早く犯人を見つけないと・・・でもむやみに動けない

・・・」

ウォーロック「明かりさえあれば・・・！」

ウォーロックは、なんか思いついた！

ロッキマン「ロック、なんか思いついたの？」

ウォーロック「ああっ・・・オックスの炎で明るくさせればいいんだ！」

ロッキマン「そうか！じゃー、早速ゴン太の所に行こう！」

そして1回電腦にでた！

ロッキマン「ゴン太ー！」

ゴン太「おおっ、ロッキマン！」

ロッキマン「ゴン太、オックスを貸して！」

ゴン太「おう、いいぜ！」

そしてロッキマンは、オックスを借りた・・・」

-----ホテルの電腦-----

ロッキマン「よし！オックス、お願い！」

オックス「まかせとけえ」

オックスは炎を吹いた！

ポオオオオ

ウォーロック「スバル！いまだ！」

ロッキマン「うん、進もう！」

ロッキマンは電腦のおくに進んだ！

おまけ

- スバルの過去 -

それは、まだ星河大吾が行方不明になる前の話・・・

スバル「父さん！」

大吾「ん？なんだ、スバル」

スバル「今度宇宙にいくでしょ！」

大吾「ああ・・・そうだけど・・・」

スバル「ねえ！お土産かって」

大吾「えっ？あつ・・・ああいいぞ買ってきてくるよ」

スバル「わーい！」

大吾「（宇宙にもお店あるかなあ？）」

そしてとうとう大吾が宇宙に行く日が来た・・・

3・2・1・・・GO！

スバル「父さーん、行ってらっしやーい！」

事件が起きるのはまだ先の話・・・

おまけ次回も続く

第20話 ホテルの電腦（後書き）

次回とうとう謎の敵が現れる！

第21話 謎の敵・・・ダーク・ナイト！（前書き）

今回のおまけは、超長いです。

第21話 謎の敵・・・ダーク・ナイト!

ロックマンは、どんどん先に進んでいた・・・
ポオオオオ!

ロックマン「ロックバスターー!」
デユン!

ウイルスがどんどん消えてゆく!

ロックマン「よし!先に行こう!」

オックス「ブロロロ、さすがロックマンだ!」

そして次々とウイルスを倒し、とうとう・・・

ロックマン「ついた・・・」

ウォーロック「(おかしい・・・誰もいねえ・・・)」

ロックマン「早く電気を直さないと!」

ウォーロック「ああつ、そうだ・・・!スバル!」

ロックマン「?なに?」

ウォーロック「上だ!」

すると上からソードがこつちに降ってきた!

ロックマン「うわあー!」

ロックマンはギリギリソードを、かわした!

ウォーロック「大丈夫か!?」

???「・・・よく交わしたな・・・ロックマン!」

ウォーロック「誰だ!」

ダーク・ナイト「俺は・・・ダーク・ナイトだ!」

ロックマン「ダーク・ナイト・・・」

ダーク・ナイト「そして、こいつが俺のウィザードの・・・ブラッ

ク・ナイトだ!」

ブラック・ナイト「・・・ククク・・・ウォーロック・・・」

ウォーロック「!!!?」

ロックマン「ロック、あの人知っているの!」

ウォーロック『いや・・・あんな奴しらねえ・・・』
ロックマン『えっ!?!』

ウォーロック『それに、あのウィザード・・・ただのウィザードじゃねー!』

ダーク・ナイト「・・・ロックマン、俺は、おまえに用じゃねー」
ロックマン「えっ?」

ダーク・ナイト「用があるのは・・・」
するとダーク・ナイトは、指をさした・・・
ウォーロック『!?!!』

ダーク・ナイト「おまえだ!ウォーロック!」
ウォーロック『なに!?!』

おまけ

- 昔のキズナ -

それはある時代ある世界の話である・・・

???「・・・正斗よ・・・」

正斗「なに?おじいちゃん・・・」

おじいちゃん「おまえにな、頼みがある」

正斗「うん!」

おじいちゃん「まだ先だが・・・」

するとおじいちゃん、は言った・・・

おじいちゃん「遅くてもいい、友達を作っつて、キズナを広めてほしい・・・」

正斗「・・・キズナ?キズナなんて・・・」

おじいちゃん「キズナはな、人を救う・・・」

正斗「人なんかすく・・・」

おじいちゃん「救えるさ!」

正斗「・・・」

そして外に出た・・・

正斗「なにが、キズナだ！」

???「・・・正斗君・・・」

正斗「・・・いくぞ・・・ロックマン」

ロックマン「???」どこに？」

正斗「・・・未来だ！」

そして・・・今新たな物語が始まる！

おまけ次回お休みします。

第21話 謎の敵・・・ダーク・ナイト！（後書き）

今回のおまけは、特別編に、つながります！

特別編はいつかやるので、お楽しみに！

感想待ってるぜ！

第22話 DM星人！

ウォーロツク「なにい！？」

ロツクマン「ウォーロツクに用が・・・」

ダーク・ナイト「そうだ！AM星人のウォーロツクに用があるんだ・
・・」

ウォーロツク「一体なんの用だ！」

ダーク・ナイト「ククク・・・ウォーロツクを・・・始末しに来た
んだ！」

ウォーロツク「！」

ロツクマン「ロツクを・・・始末？」

ダーク・ナイト「そうだ！」

ロツクマン「なんでロツクを始末するの？」

ダーク・ナイト「ウォーロツクは、我らDM星人を裏切った！」

ウォーロツク「DM星人・・・？」

ロツクマン「ロツクが裏切った？・・・本当なのロツク！」

ウォーロツク「・・・わからねえ・・・DM星人のことなんて知
らねえ」

ダーク・ナイト「そうか・・・なら教えてやるよ！」

ウォーロツク「！」

ダーク・ナイト「AM星人・・・つまり、ペガサス・レオ・ドラゴン
がアンドロメダの鍵を奪い・・・我らの星・・・DM星を破壊され
たんだ！」

ロツクマン「なんでアンドロメダが・・・」

ダーク・ナイト「もともとアンドロメダは、DM星の物だ！」

ロツクマン「ロツク・・・本当なの・・・」

ウォーロツク「わからねえ・・・なにも覚えてねえ・・・」

ダーク・ナイト「それは、そうだ・・・だって俺達が、おまえの記
憶を消したんだ・・・」

ウォーロツク『なっ!』

ロツクマン「なんで、こんな事を・・・!」

ダーク・ナイト「ククク・・・知りたいか?」

ウォーロツク『ああっ! 教える!』

ダーク・ナイト「つまり・・・おまえは、俺達DM星人が作った電
波体だ!」

ロツクマン「えっ?」

ウォーロツク『・・・』

ダーク・ナイト「おまえは、俺達の物だっ!」

ロツクマン「ウォーロツクが・・・なんで・・・」

ウォーロツク『・・・なんで、おまえは電波体を作れる!』

ダーク・ナイト「これが俺達の力だ・・・!!」

第23話 ウォーロックの力

ロックマン「ロックが・・・作られた!？」

ダーク・ナイト「そうだ・・・ウォーロックは、俺達がつつた電波体だ!」

ウォーロック「信じられるか!たとえ、俺が作られたとしても、なんで俺を作つた!」

ダーク・ナイト「簡単なことだ・・・この星もあの宇宙も俺達の物にするためだ!」

ウォーロック「俺は、そんな力もつ・・・」

するとダーク・ナイトが言った・・・
ダーク・ナイト「持つてるんだよ・・・おまえの中にある力があればな・・・」

ウォーロック「俺の・・・中の・・・力!？」
ダーク・ナイト「そうだ、おまえにはな・・・最強の力がある・・・」

ウォーロック「一体・・・その力は・・・なんだ!」

ダーク・ナイト「知りたいか?なら教えてやるよ!」

ウォーロック「・・・」
ダーク・ナイト「おまえには2つの力がある!」

ロックマン「2つ!？」
ダーク・ナイト「そう・・・ライオーガ・ドラグーンだ!」

ウォーロック「ドラグーンか」
ダーク・ナイト「その力は、1日で星を破壊する力・・・」

ウォーロック「!・・・まさか・・・」
ダーク・ナイト「そう・・・俺達の星を破壊したのはおまえだ!」

ウォーロック「!?!」

ダーク・ナイト「それに今のおまえの姿は本当の姿じゃない・・・」
ウォーロック「・・・」

ダーク・ナイト「ウォーロックはただAM星人の姿をした怪物だ！」
ウォーロック「怪物だと・・・」

ダーク・ナイト「そうだ！おまえは、怪物だ！」

ウォーロック「くっ・・・」

ロックマン「違う！ロックはおまえの物じゃない！ロックは怪物じゃない！」

ウォーロック「スバル・・・そうだ・・・俺は、おまえの物じゃね

ー・・・俺は、AM星人のウォーロックだ！」

ダーク・ナイト「・・・そうか・・・なら」

ロックマン「！」

ダーク・ナイト「たくさん痛めつけて、デリートしてやるよ！」

ウォーロック「スバル！やるぞ！」

ロックマン「いくよ、ロック！」

ウォーロック「いつでもいいぜ！」

ロックマン「ウェーブバトル・ライドオン！」

するとダーク・ナイトがこっちに向かってきた！

ウォーロック「くるぞ！」

ロックマン「うん！マッドバルカン3！」

ガガガガガガガガガガン！

しかしすべて外れた

ダーク・ナイト「それだけか？ならこっちもいくぞ！」

するとダーク・ナイトは黒い剣をだした！

ダーク・ナイト「ブラック・ブレイク！」

ズバーン！

すごい音がなりひびいた

ロックマン「うわぁぁーっ！」

ウォーロック『ぐっ！』

ダーク・ナイト「弱い！弱すぎる！」

するとダーク・ナイトは、ロックマンの頭においた

ダーク・ナイト「とどめだ！」

そのとき

キーン

ダーク・ナイト「だれだ！」

???「ロックマンは、ぼくが守る！」

第23話 ウォーロックの力(後書き)

しばらくおまけ書けません6月からかきます！

第24話 謎の戦士!

????「ロックマンは、ぼくが守る!」

突然ロックマンの目の前に謎の戦士が現れた!

ダーク・ナイト「おまえ・・・誰だ!」

????「・・・答える意味は、無い!」

ダーク・ナイト「・・・むかつく奴だ!おまえも、デリートしてやる!」

????「・・・いいよ、来なよ!」

ダーク・ナイト「いくぞおおおお!ブラック・ブレイク!」

スバアーン!

パシィ!

????は、ダーク・ナイトの剣を軽々と、止めた

ダーク・ナイト「なっ!」(こいつ・・・できる!!)「

ロックマン「あの人・・・すごい!」

ウォーロック「(・・・あいつ・・・どっかで・・・)」

????「・・・い・・・」

ダーク・ナイト「?」

????「いつてえ~~~~~~~~っつ!」

ダーク・ナイト「(俺の思い込みだったか・・・)」

????「つ~~~~.・・・この・・・仕返した!」

すると????の手から黄金の光が出てきた!

ダーク・ナイト「!!なんだ、この光は!」

ブラック・ナイト「・・・あのは・・・!」

????「くらえっ!」

ブラック・ナイト「逃げるぞ!あれは、やばい!」

ダーク・ナイト「なんでだ!」

ブラック・ナイト『いいから！早く！』

ダーク・ナイト「くっ……覚えてるよ！次は、絶対にデリートしてやる！ロックマン！そして……ウォーロック！！」

するとダーク・ナイトは、ウェーブアウトした……

???「……行っちゃた……」

すると光が小さくなり、消えていった……

ロックマン「……あの〜」

???「?、なに？」

ロックマン「助けてくれて、ありがとう！」

???「いいって、いいって！」

ロックマン「あの〜、なまえ教えてください」

???「……」

すると???は、言った……

???「いずれ……わかるさ！」

そして???は、帰っていった、ロックマンは、首を横にかしげた・

・

ロックマン「いずれ……わかるのかな、ロック……」

ウォーロック『さーな！それより早く戻そうぜ！電気！』

ロックマン「……あっ！わすれてた……」

ウォーロック『おい！（わすれるなよ）』

ロックマン「よし！」

ピーピーピー、ガシャン！

ホテルの光がもどった

ウォーロック『戻ったな！』

ロックマン「うん！じゃー、戻ろう！」

ロックマンは、ウェーブアウトした……

第24話 謎の戦士！（後書き）

感想待ってます！

第25話 やっと1日の終わり(前書き)

まじで1日終わります！
く〜っ、ながかった！

第25話 やつと1日の終わり

そのころ委員長たちは・・・

委員長「・・・あら？明るくなつたわ！」

キザマロ「そのようですね、スバル君やりましたね。」

ゴン太「ウオーーあかるくて、目がくくくっ！」

委員長「電気を直してくれたんだから・・・！ロックマン様に会えるわ！」

すると！

「委員長くくっ！」

すると、委員長の目がキラキラ光った！

委員長「ロックマン様くくく！」

スバル「ん？」

委員長は、がっかりした

委員長「なんで、ロックマン様じゃないの！？」

スバル「えっ!？」

委員長「あくくひさしぶりに、ロックマン様に会いたかつたわ！」

ゴン太「でも、スバルは、ロックマン・・・」

キザマロ「ゴン太君・・・禁句です。」

ゴン太「・・・あっ」

委員長は、ゴン太をにらんだ

・・・キイ！

ゴン太「ひいい！」

スバル「ハハハハ・・・くっ！」

ズキイ！

スバルの体全身に痛みが走った！

ゴン太「スバルう!？」

キザマロ「スバル君！」

委員長「スバル君!？」

スバルは、近くにあったイスに座った

スバル「はあはあはあ・・・」

ウォーロツク『（やはり、あいつらとの戦いですごいダメージをうけていたか・・・）』

キザマロ「・・・！すごいケガじゃないですか！スバル君！」

スバル「へ、平気だよキザマロ・・・」

スバルは、立ち上がった・・・しかしスバルはフラフラだった！

スバル「くっ！ああ・・・はあはあ・・・」

ゴン太「スバル！もう休めよ！」

スバル「う、うん・・・」

スバルは、ゴン太の肩に手をかけた・・・

スバル「・・・ゴン太、ありがとう」

ゴン太「いいつてことよ！」

そしてスバルは、部屋に行った、その日はゆっくり休んだスバル・・・

しかし・・・

????2「・・・チイ・・・なんだよ、あいつ・・・」

ブラック・ナイト『（まさか、あいつが居たとはな・・・）』

????1「まさか、君が逃げるなんてな・・・珍しいな・・・」

????2「うるせえ！」

????1「次は、俺の番だ！」

????『シャーシャシャシャ！やろうぜ！』

????1「ああつ・・・久しぶりのえもものだあ！」

そして旅行の1日目が終わった・・・

第25話 やつと1日の終わり(後書き)

感想・・・待ってるよ

第26話 海！（前書き）

2回目です。今回は、ちゃんと海のところを書きます！

第26話 海!

旅行2日目・・・

ウォーロック『・・・おゝいスバル』

スバル『・・・あとちよつと・・・』

ウォーロック『まあ、昨日の戦いで疲れているのは、分かる・・・
しかしな!時計見てみる!』

スバル『ん〜・・・8時・・・42分だつて〜!』

するとドアから委員長の声が!

委員長「スバル君!あけなさい!」

スバル「わかった!」

ガチャ!

委員長「スバル君、体だいじょうぶ?」

スバル「え?う、うん!でも、まだちよつといたいや・・・」

委員長「そう・・・これから海に行くんだけど・・・平気かしら?」

スバル「あつ、平気だよ!」

委員長「そう、でも無理しちゃだめよ!」

スバル「うん!分かった!」

そしてスバルは服をきがえて、そして部屋から出た瞬間!

ゴン太「スバルーっ!」

スバル「わっ!?!」

スバルは、びっくりして、しりもちついた!

ゴン太「ハハハ」

スバル「いてて・・・びっくりした〜・・・あつ、ゴン太!」

「ぼくもいます・・・」

スバル「この声は・・・キザマロ!一体どこから・・・?」

「ここです!」

ゴン太の後ろから出てきた!

スバル「あつ!そこに居たんだ!」

ウォーロツク『（小さすぎて隠れてるところも見えなかった・・・）

ゴン太「早く海行こうぜ！」

スバル「うん！」

スバルは、立ったそして・・・

海

ザザーン

塩のにおいがした・・・

ゴン太「ウォーリーッ！やっぱり海はいいぜ！」

キザマロ「・・・よし！」

スバル「？」

ゴン太「・・・キザマロ・・・泳ぐぞ！」

キザマロ「は、は、は、はい！」

キザマロの足が震えていた・・・

ウォーロツク『・・・やめたほうがいいと思うな・・・』

そのとき！

「イヤッホーリーッ！」

謎の男が海からこつちにやってきた！

バサー・・・

ゴン太「・・・すげー・・・波に乗ってたぜ！」

???「おいおいあぶないぞ坊主！」

ゴン太「なあ！すげーな！一体何もんだ！」

次郎「おう！よく聞いてくれたな！俺は、次郎だ！」

ゴン太「すげー！俺もやりてーっ！」

次郎「まだ君には、早いな！」

ゴン太「え〜っ！」

次郎「すまないな・・・俺もういかねーと、じゃーな！坊主！」

ゴン太「ああっ！」

ウォーロツク&オツクス『あやしい（ぜ）』

次郎「・・・ニヤリ」

第26話 海！（後書き）

なんか、あやしい展開ですね・・・
感想&おまけネタ待ってます！

第27話 ミソラやってくる!

スバル「厚い・・・(今4月だよな?)」
そのころゴン太とキザマロは・・・

ゴン太「がんばれ!キザマロ!」

キザマロ「うつぶ・・・ぐつぶぶ・・・」
ザバアザバア!

ウォーロツク「・・・今だな・・・」

キザマロ「・・・」

ゴン太「・・・?」

キザマロは沈んでいった・・・

ゴン太「キザマロオ!?!」

ウォーロツク「やっぱり・・・」

そのとき!

「皆ーっ!」

スバル「ん?」

ゴン太「あっ!ミソラちゃん!」

キザマロ「・・・ピクリ!」

スバル「なんでここに?」

ミソラ「久しぶりに来たかったから来ちゃった!」

スバル「へえ」

ウォーロツク「!・・・まさか・・・あいつも・・・」

バープ「ポロロ〜ン、ロツク!」

ウォーロツク「ゲツ、ハープ!」

ハープ「あら?歓迎してく・・・」

ウォーロツク「するかあああああ!」

スバル「ハハ・・・」

ミソラ「ねえ!スバル君・・・」

スバル「なに?」

ミソラ「ここに行くなら言ってよ!」

ミソラは、ちよつとふくれた・・・

スバル「えっ!?!」

ミソラ「だから、なんで誘ってくれないの?」

スバル「あ・・・ご、ごめん・・・」

ミソラ「まあ、わかればいいの!」

ゴン太「ミソラちゃん!泳ごうぜ!」

ミソラ「いいよ!」

キザマロ「いいですね・・・」

スバル・ゴン太・ウオーロック「『』(復活早っ!)(『』」

数分後・・・

キザマロ・ゴン太「『』・・・おおっ!」

ミソラは、水着姿になった!

キザマロ「(かわいいです!)」

ゴン太「(ミソラちゃんは、なに着てもにあつな・・・)」

ミソラ「じゃー、泳ごうか!」

第27話 ミソラやってくる！（後書き）

次回・・・ドキドキの展開が・・・

作者「・・・俺こついつの苦手だけががんばります！」

それとたぶん次回短いです・・・（たぶん）

第28話 スバルとミノラ（前書き）

・・・うまく書けるかなあ？

第28話 スバルとミソラ

スバル達が遊んでいるところ・・・

????1「・・・そろそろ、やるか！サーファー！」

サーファー「シャァシャァシャァ！やるぜえ！」

????1「電波変換！」

キイーン！

????「・・・やるぞ！」

そのころスバル達は・・・

スバル「けっこう、日焼けしたね・・・（今本当に4月!?!）」

委員長「それはそうよ！ハマノタウンは、冬以外、夏みたいなもの

よ！」

スバル「へえ」

ウォーロツク「・・・（なんて町だ!）」

そのとき！

キザマロがこっちにやって来た！

キザマロ「た、大変です！スバル君！」

スバル「どうしたのキザマロ？」

キザマロ「ミ、ミソラちゃんが渦に吸い込まれそうなんです！」

スバル「ミソラちゃんか!？」

キザマロ「とにかく、来てください！」

スバル「うん！」

スバルはミソラのところに行った！

スバル「ミソラちゃん！」

ミソラ「キャーッ！助けて！」

スバル「今、たすけるよ！」

スバルは、手を伸ばした！

スバル「くっ・・・あと少しなのに・・・とどかない・・・」

ギリギリまで手を伸ばした・・・すると

ギユウウ

スバル「やった！とど・・・い・・・た」

スバルは、バランスを崩してしまい渦に飲み込まれそうになった！

そのとき！

パシィ！

ゴン太「スバル！大丈夫か！？」

スバル「ゴン太・・・ありがとう！」

そしてスバルとミソラを引き上げた！

ミソラ「ありがとう！スバル君、ゴン太君！」

ゴン太「いいって！それよりスバル！ミソラちゃんを安全なところに

！」

スバル「うん！」

スバルは、ミソラを安全なところにつれてった！

ミソラ「・・・」

スバル「ここなら、安全だよ！」

ミソラ「・・・スバル君・・・」

スバル「なに？」

ミソラ「・・・手」

スバル「・・・手？」

スバルは、ミソラの手を握っていた・・・

スバル「あっ・・・ご、ごめん！」

ミソラ「いいの・・・それにうれしかった！」

スバル「・・・えっ？」

ミソラ「・・・あのね・・・スバル君に伝えたいことが、あるの・・・

」

スバル「？」

ミソラは、顔を赤くした・・・

ミソラ「わっ、私スバル君の事が・・・」
スバル「・・・」
ミソラ「す・・・す・・・」

第28話 スバルとミソラ（後書き）

・・・いやあ・・・疲れた・・・

感想&おまけネタ待ってます！

第29話 まさかの・・・？（前書き）

まさかのタイトルが「まさかの・・・？」です。

第29話 まさかの・・・？

ミソラ「わっ、私スバル君の事が・・・」

スバル「・・・」

ミソラ「す・・・す・・・」

スバル「・・・」

するとスバルの目を見た・・・

ミソラ「私スバル君の事が、す・・・」

そのとき！

ゴン太「スバルウ〜〜！」

スバル「・・・！ゴン太！」

ミソラ「・・・えっ!？」

ゴン太「ミソラちゃん！大丈夫か？」

ミソラ「えっ!？あ・・・平気だよ!」

ゴン太「よかつたぜ・・・」

スバル「そいえばミソラちゃん、さっきなんて言おうとしたの?」

ミソラ「えっ?ああ・・・え〜と・・・」

ミソラは、ちよつと顔が赤くなつた・・・

スバル「どうしたの?ミソラちゃん、顔赤いよ?」

ミソラ「な、なんでもないよ!」

スバル「そうなんだ!」

ハープ『（はあく、あとちよつとだったのにね・・・）』

スバル「・・・ねえ、ロック!」

ウォーロック『なんだ?』

スバル「ずつと思つてただけ・・・急に渦がでるのっておかし

いよね・・・」

ウォーロック『ああつ・・・俺もそのことを考えていた・・・』

スバル「やっぱり……」

ウォーロック「誰かが操って作り出したものだ……」

スバル「誰かって……まさか……」

ウォーロック「予想だが……昨日の奴の仲間だろう……」

スバル「……」

ウェーブロードでは……

???「ククク……もうばれたか……」

ウォーロック「！」

スバル「どうしたのロック……」

ウォーロック「スバル！ウェーブロードに誰かいるぞ！」

スバル「！いくよ、ロック！」

ウォーロック「おう！」

スバル「トランスコードシューティングスターロックマン！」

キーン！

ロックマン「いくぞ！ウェーブロードに！」

第29話 まさかの・・・？（後書き）

「まさかの・・・？」意味わかったかな？（まあ・・・わからなくてもいいです）感想待ってます

第30話 ブルー・ジェット！（前書き）

またまた新たな敵！

果たしてロックマンはどくなるー！？

第30話 ブルー・ジェット!

ミソラ「ロックマン、がんばって!」
ゴン太「がんばれよー!」

……ウェーブロード……

ロックマン「ついた!このウェーブロードのどこかにいるんだよね!」

ウォーロック「そうだ、さがすぞ!」

ロックマンは、ウェーブロードのあっちこっちさがした……
ロックマン「くっ……見つからない……」

そのころミソラは……

ハープ「ねえ、ミソラ!」

ミソラ「ハープなに?」

ハープ「行かないの?」

ミソラ「……ハープいこっか!」

ハープ「ええっ!」

ミソラは、変身した!

キーン!

ハープ・ノート「じゃーいくよ!」

ハープ・ノートは、ウェーブロードに行った!

ロックマンは……

ロックマン「どこだ……!いた!」

青い後ろ姿があった!

ロックマン「おい!そこでなにをしている!」

???「おっと、見つかってしまった……」

ロックマン「おまえは、何者だ!」

ブルー・ジェット「俺は、ブルー・ジェット！DM星人だ！」

ロックマン「DM星人だつて!？」

ブルー・ジェット「そうさ！」

ロックマン「でもおまえを、おいつめたぞ！」

ブルー・ジェット「・・・ククク」

ウォーロック「なにがおかしい！」

ブルー・ジェット「おいつめたのではなく・・・俺が誘い込んだんだ！」

ロックマン「なにっ!？」

ロックマンの周りにウイルス達が集まってきた!

ウォーロック「ちい!畏か・・・」

ブルー・ジェット「ククク、やれっ!ウイルスども！」

ウイルスがロックマンを襲う!

ロックマン「ロックバスター！」

しかしウイルスは、効いていなかった!

ロックマン「なっ!？」

ブルー・ジェット「ククク、無駄だこいつらは、ちよつとの攻撃は、効かない！」

ロックマン「くっ・・・なら！」

ブルー・ジェット「！」

ロックマン「カウントボム2！」

ピ・ピ・ピ・ピーー!

ドオオオオオオオオン!

大爆発した!

第30話 ブルー・ジェット！（後書き）

感想&おまけネタ待ってます！

第31話 ブルー・ジェットの罠!

ウイルスが次々とデリートされている!

ロックマン「やったあ!」

ウォーロック「……! スバル、あいつがいねえーぞ!」

ロックマン「なにに!」

ロックマンは、周りを見回した……

ロックマン「本当だ、いない……」

ウォーロック「おそらく、どこかの電腦に逃げたかもしれない」

ロックマン「どこかの電腦か……」

ウォーロック「ここから近い電腦は……あそこだ!」

ロックマン「行ってみよう!」

ロックマンは、近くの電腦に入った!

……ビーチの電腦……

ロックマン「ついた……!」

ウォーロック「いたぞ! あそこだあ!」

ロックマン「もう逃げられないぞ!」

ブルー・ジェット「……クク……ハハハ……」

ロックマン「?」

ブルー・ジェット「ウアーハハハハハハハハハ!」

ウォーロック「な、なんだ?」

ブルー・ジェット「ハハ……また俺の罠に引っかかるとは……

馬鹿なやつめ!」

ロックマン「……罠?」

すると、ロックマンの足に水がこぼれていた……

ブルー・ジェット「まだわからないのか……」

ウォーロック「……まさか……」

ブルー・ジェット「そう……このステージは、俺の有利な、ステージだ！」

ロックマン「なんだって!?!」

ブルー・ジェット「さあ、こいよ!」

ロックマン「……」

ウォーロック「スバル!」

ロックマン「そうだね、ぼくがやらないと! ウェーブバトル・ライドオン!」

ブルー・ジェット「ククク……くっえ! ウェーブジェット!」

ドドドドドド!

ロックマン「くっ……バリアー!」

ズドン!

ロックマン「うわあああああつ!」

ドサツ!

ウォーロック「スバル!?!」

ロックマン「……」

ウォーロック「ス、スバル……!」

ブルー・ジェット「とどめだあー、ウェーブジェット!」

ドドドドドドドドドド!

第31話 ブルー・ジェットの間！（後書き）

次回は、2、3日間書けそうにないです。

感想&おまけネタ待ってます！

第32話 危機一髪！（前書き）

久しぶり・・・かな？

第32話 危機一髪!

トトトトトトトト

ブルー・ジェット「おりゃー!」

ロックマン「……ん……」

ウォーロック「スバル!早くたつんだ!」

ロックマン「うん……」

ブルー・ジェット「もう遅い!」

ロックマン「!」

ウェーブジェットがまともに当たった!

ロックマン「うわあああつ!」

ドサツ!

ロックマンは、倒れた

ブルー・ジェット「終わったぜ……」

ロックマン「……」

ブルー・ジェット「あっけなかつたな……帰るか!」

ブルー・ジェットが後ろを向いたとき……

ロックマン「ロックバスター!」

デュン!

ブルー・ジェット「ぐあつ!」

ロックマン「はあはあ……」

ブルー・ジェット「な、なぜ……」

ロックマン「あの時、ギリギリオーラを使ったんだ!」

ブルー・ジェット「……ククク、そこなくちゃな!」

ロックマン「いくぞ!」

そのころハープ・ノートは……

ハープ・ノート「んどこだろ?」

そのときハープ・ノートの目の前に誰かが現れた!

ハープ・ノート「！なに？」

???「フフフ・・・あなたをおとりにするわ！」

ハープ・ノート「おとり!？」

ハープ『ミソラ、あいついやな感じがするわ!』

ハープ・ノート「あなた、何者!？」

???「私？私は、DM星人よ」

ハープ・ノート「!」

ハープ『（・・・まさか・・・また・・・）』

???「来てもらおうわ」

ハープ『くるわ、ミソラ!』

ハープ・ノート「うん!」

ロックマンは・・・

ロックマン「ロックバスター!」

デュンデュン!

ブルー・ジェット「くっ・・・やるな・・・」

ロックマン「はあはあはあ」

ウォーロック『（やばいな・・・スバルの奴限界だな・・・）』

ロックマン「はあはあ・・・どうやってやれば、倒せるのかな・・・

!」

ウォーロック『なんか思いついたのか?』

ロックマン「うん!」

ウォーロック『どうやってだ!』

ロックマン「使うのは、ボボボンボムとソードとマヒプラスとミ

ニグレネードだよ!」

ウォーロック『?』

第32話 危機一髪！（後書き）

感想&おまけネタ待ってます！

第33話 コンボ！

ウォーロック「おい・・・それで勝てるのか？」

ロックマン「今は、これしかない！」

ウォーロック「そうか・・・やるぞ！」

ロックマン「うん！」

ロックマンは、ボボボンボム3を投げた！

ブルー・ジェット「！」

ブルー・ジェットは、守り体制になった

サツ・・・

・・・何も起きなかった・・・

ブルー・ジェット「・・・へっ！爆発しねえじゃねえーか！」

ブルー・ジェットは、「ホッ」とした。

ロックマン「！、いまだ！ウォーロックアタック！ソード+マヒプラス！」

ブルー・ジェット「！（しまった、油断してた！）」

スバアーン！

ブルー・ジェット「ぐうっ！」

ロックマン「やったあ！」

ブルー・ジェット「・・・クククまだ俺は、やれる・・・！」

ブルー・ジェットは、動かなかった・・・

ブルー・ジェット「（体が、う、うごかねえ・・・）」

ロックマン「無駄だよ、マヒプラスでしばらく動けないよ！」

ブルー・ジェット「なにいつ!？」

ロックマン「そして、これが僕のコンボだ！」

ロックマンは、ミニグレネードを投げた、そして爆発した同時にさつき投げたボボボンボム3も爆発した！

ドカアアーーーーッ！

ブルー・ジエツト「ぐあああつ！」

キーン！

ブルー・ジエツトの変身が解けた・・・

ロックマン「・・・この人は・・・次郎さんだ・・・」

ウォーロック「・・・この感じは・・・てでこい！」

サーファー「シャァシャァ！ばれたらしょうがねえ・・・」

ウォーロック「おい！おまえも俺を狙っているのか！」

サーファー「そうだ！」

ウォーロック「そうか・・・」

サーファー「1ついい事をおしえてやろう・・・」

ウォーロック「なんだ!？」

サーファー「これからおまえを狙う奴らは、皆DM星人がおまえを狙う！」

ウォーロック「！」

サーファー「それに・・・」

ウォーロック「それに?」

サーファー「おまえの大切な人が危険なこに次々と巻き込むことになる！」

ウォーロック「なにっ！」

第33話 コンボ！（後書き）

感想&おまけネタ待ってます！

第34話 さらわれた!?(前書き)

第34話 さらわれた!?

ウォーロック「なにっ!?!」

サーファー「・・・時間だ!」

ウォーロック「ま、待て!」

サーファー「じゃーな!」

次郎とサーファーは、消えた

ロックマン「ロック僕達も戻ろう」

ウォーロック「そうだな・・・(なんか嫌な予感がする・・・)」

スバル達は、委員長達の所に戻った

ゴン太「スバル、平気か?」

スバル「うん平気だよ」

キザマロ「・・・あれ?スバル君」

スバル「なに?」

キザマロ「ミソラちゃんと一緒にじゃないんですか?」

スバル「え、ミソラちゃん?知らないよ」

ゴン太「じゃーどこに行つたんだろ?」

????「あら、誰を探しているの?」

ゴン太「誰って、ミソラちゃ・・・ん?」

ウォーロック「誰だ!」

皆が上を向いた!

スバル「!おまえは・・・」

フラワー・ピンク「おまえじゃないでしょ!私は、フラワー・ピンク

よ!」

ゴン太「また敵か!っ!?!」

スバル「なんの用?」

フラワー・ピンク「1言いに来たのよ!」

委員長「なにを言いに来たのよ!」

フラワー・ピンク「あなた達の大切な人を誘拐したわ・・・」
ゴン太「ゆうかい？」

ウォーロツク「まさか・・・」

スバル「ミソラちゃん！」

フラワー・ピンク「正解」

ゴン太「ミソラちゃんを帰せ！電波・・・」

そのときゴン太の腕に木の根が巻きついていて。

ゴン太「くっ・・・電波変換できねえー」

スバル「なんのためにミソラちゃんを誘拐した！」

フラワー・ピンク「フフ・・・おしえな〜い」

ウォーロツク「テメーいい加減にしろ！」

フラワー・ピンク「・・・」

????「時間よっ」

フラワー・ピンク「そう・・・帰るわ！」

スバル「ま、待って！」

フラワー・ピンク「返してほしいければあさつての、コダマ小学校の

屋上に来なさい！私は、そこに居るわ・・・待ってるわよ！」

フラワー・ピンクは、帰って行った・・・

ウォーロツク「スバル・・・」

スバル「ミソラちゃんは、僕が助ける！」

ゴン太「俺も居るぜ！」

キザマロ「僕もです！」

委員長「私も忘れないでよね！」

スバル「皆・・・ありがとう！」

そして・・・2日後・・・

スバル「助けよう、ミソラちゃんを！！」

おまけ

・作者とライオのコント・

作者「どーもー作者のレッドスターです。」

ライオ「・・・」

作者「ほらっ、自己紹介して！」

ライオ「・・・ライオだ・・・」

作者「ライオは、食べ物なにが好き？」

ライオ「・・・」

作者「ねえー何々？」

ライオ「うざい！」

ガーン

作者は、ライオが言った「うざい！」にショックをうけた

作者「・・・ねえ、ライオ俺・・・どうすればいい？」

ライオ「消えろ！」

作者は、このあと泣きました

第34話 さらわれた!?(後書き)

次回「特別編」です!

特別編 100年前の戦士(前書き)

どーもーレッドスターでーす。

最近小説書けませんでした。理由は、風邪ひいたり体調崩したり・

・(マジで)

さて！今回の「特別編」は、なんと、100年前から謎の少年現れる！

果たしてその少年の狙いとはーっ！？

(この話はスバルが過去から帰ってきた何日後の話です。)

特別編 100年前の戦士

21xx年

- インターネットの中 -

???? 「ここか・・・」

???? 「本当に行くの?」

???? 「あたりまえだ!・・・絆なんて・・・」

???? 「・・・正斗くん・・・」

正斗 「いくぞ・・・」

正斗は、究極プログラムを発動した

キイイイイイン!

究極プログラムの光がさらに強くなった、そして・・・

カッ!

正斗は、光に包まれ消えていった

時は戻り22xx年

スバル 「大変だーっ!」

ウォーロック 「どうしたスバル、敵か?」

スバル 「違うよ、今日委員長達とミソラちゃんのライブに行くんだ!」

ウォーロック 「チッ、めんどくせーな」

スバル 「なんでロックがめんどくさがるの?」

ウォーロック 「いや・・・それは」

スバル 「?」

ウォーロック『それよりどうしたんだ、そんなにあわてて』

スバル「遅刻しそうなんだよ、あと・・・5分!？」

ウォーロック『（最近のスバルは、だらしねーな）』

スバル「よし!いくよロック」

スバルは、家からでた

ウォーロック『・・・ん?』

スバル「どうしたのロック?」

ウォーロック『ああ、ちよつと変な感じがした』

スバル「変な感じ?」

ウォーロック『・・・!』

スバル「ロック?」

ウォーロック『スバル、止まれ!』

スバル「え?」

スバルが止まった瞬間に爆発した音がした・・・さらにスバルは、ギリギリ巻き込まれていなかった

スバル「な、なんだ!？」

???「なかなかやるな、お前」

スバル「誰!？」

そこには、ロックマンの姿をした少年が居た

正斗「俺の名は、正斗・・・またの名は、ロックマン!」

スバル「ロックマンって・・・ええっ?あのロックマン!？」

ウォーロック『ロックマンって、前過去に居た奴か?』

正斗「!、そうか・・・おまえか、未来から来たロックマンは!」

スバル「なんでそのことを」

正斗「おじいちゃんから聞いたぜ・・・おまえが教えたのか、キズナのことを!」

スバル「え?」

ウォーロック『なに言ってるんだこいつ』

正斗「キズナなんてクソだ・・・キズナなんていらねー!」

????『ねえ、やめ・・・』

正斗「ロックマンは、黙ってる！」
ロックマン??? 『正斗くん・・・』
正斗「いくぞ！バトルチップ、ロングソード！」
スバル「うわーっ！」
ウォーロック『スバル、あぶねーっ！』
正斗「くらえええっ！」

ズバアン！

ウォーロック『ぐがああああ』
スバル「ロック！」
ドサツ

ウォーロックは、倒れた

正斗「ふん！次は、おまえだ！」

正斗は、ソードを少しずつスバルに近づけた
スバル「！」

正斗「終わりだ・・・」

スバル「ま、待って！」

正斗「・・・なんだ」

スバル「なんでキズナを嫌うの？」

正斗「・・・おまえには、関係ない・・・」

スバル「でも・・・」

正斗「消える！」

ウォーロック『や、やめろおお！』

ウォーロックは、痛みを絶えて正斗に突っ込んだ

正斗「なっ！」

スバル「ロック！」

ウォーロック『スバル！電波変換だ！』

スバル「うん！」

正斗「くっ・・・」

ロックマン???'大丈夫?正斗君』

正斗「ああっ・・・!」

スバル「トランスコード!シューティングスターロックマン!!!」

キイイイン!

スバルは、ロックマンに変身した!

ウォーロック「あいつを止めるぞ!」

ロックマン「うん!」

特別編 100年前の戦士（後書き）

ふうー、どうでしたか？こっちも楽しく書けました！
次回も「特別編」！楽しみに待っててねー！

特別編 ロックマンVSロックマン!? (前書き)

最近もつと暑くなりましたね・・・俺の家では暑さ対策で氷を袋に入れてひたいにあててます

さて今回の特別編は、2人のロックマン対決です!

果たしてどっちのロックマンが勝つのかーーーーっ!??

特別編 ロックマンVSロックマン!?

そのころ委員長達は……

委員長「……遅い……スバル君遅いわ……」

キザマロ「何かあったのでしょうか？」

すると……

???「委員長」

委員長「もうスバ……」

そこにはゴン太がいた……

ゴン太「?……!」

委員長から「ゴゴゴ」という音が聞こえている……

ゴン太&キザマロ「ひいひいひい」

ロックマンとウォーロックは……

ロックマン「いくぞ!」

正斗「来い!」

ロックマン「ロングソード!」

正斗「ソード!」

ガツキイン!

激しくぶつかりあっている

正斗「やるじゃないかお前」

ロックマン「君もね!」

正斗「でも……」

ロックマン「!」

正斗「ずに乗るなあーっ!」

すると正斗は、もう1つの手からソードを出した

正斗「うおおお」

ズバァン！

ロックマン「うわあぁっ」

ドサッ

ロックマン「くっ……」

そのとき

正斗「絆なんて……」

ロックマン「……」

正斗「なんの意味があるんだぁっ！！！」

ロックマン「??？」

正斗「絆なんてクソだぁぁぁっ！」

ロックマン「違う！」

正斗「！」

ロックマン「「キズナ」は、クソなんかじゃない！」

ウォーロック「ス、スバル……」

ロックマン「僕は、「キズナ」の力でこの世界を守れたんだ！「キ

ズナ」の力で僕は、変われた！……だから僕は今ここに居るんだ

！」

正斗「はっ！だったら見せてみるよ、その……絆の力を！」

ロックマン「いくよ……ロツ」

「??？」ロックマン様」

ロックマン「えっ？委員長!？」

委員長「あれ？あそこにいるロックマンさまみたいな人は……あ

っ！ロックマン様の友達ね！」

すると委員長が正斗の所に近づいた

ロックマン「だ、だめだ委員長今すぐここからにげて……」

委員長「え？」

そのとき正斗が委員長を捕まえた

委員長「キャアーーーーッ！」

ロックマン「委員長！・・・卑怯だ、早く委員長を放せ！」
正斗「返してほしければ俺に勝ってみろ！」
ロックマン「（委員長・・・今助けるからね！）」
委員長「は、はな・・・しなさい・・・よ・・・」
正斗「態度たかい女だ・・・」
ロックマン「うおお、ウエーブバトル・ライドオン！」
今ロックマンどうしの戦いが第2ラウンドをむかえた！

特別編 ロックマンVSロックマン!? (後書き)

特別編は、まだまだ続く・・・次回は、正斗の過去が分かる!(たぶん)

特別編 正斗の過去（前書き）

どーもーレツドスターでーす。

最近パソコン買ってくれました、嬉しいです！

今回も特別編！今回もロックマン同士の戦いです！

特別編 正斗の過去

ロックマン「委員長は、僕が助ける!」

正斗「さあ来い!」

ロックマン「ヘビーキャノン!」

ドオン!

正斗「バリアー!」

キーン バアアアン

ロックマンの攻撃が防がれた

正斗「次は俺からいくぜ!フミコミザン!」

ウォーロック「くるぞ、スバル!」

ロックマン「うん、スーパーバリア!」

スバアアン!

正斗「何っ!?!」

ロックマン「(今だ)エドギリブレード3!」

ズバアアン!

正斗「ぐはっ!」

ロックマン「これで終わりだ!」

正斗「く……」

ロックマン「ロングソード!」

正斗「うわあああ」

……

正斗「……あれ?」

ロックマン「正斗君・・・なんで「キズナ」が嫌いななの？」

正斗「・・・」

ウォーロック『・・・こいつ・・・ぶんなくってやる!』

ロックマン「だ、だめだよロック」

正斗「・・・俺が小学1年のころだ・・・」

ロックマン「!」

正斗の時代から4年前・・・

正斗「た・・・たすけて・・・」

隣の中学の中学生が正斗を絡んでいた・・・

「おい、おまえいい物もってるな」

正斗がもっているのは、おじいちゃんからもらったナビ「ロックマンEXE」だった

「それ見せてくれよ!」

正斗「た・・・助けてよ・・・」

友達は、怖くなって逃げてしまった

正斗は、なんとか無事だったロックマンEXEも無事だった

でも不幸は続き2年後・・・正斗は、3年生になっていた

しかしそのころから正斗は、イジメにあっていた・・・

正斗「やめてよ・・・ロックマンをかえして」

「やだねーだっ」

こないじめにあっても、友達はたすけるどころか、ずっとこっちを見て笑っていた・・・

そして・・・また2年後・・・

ある日おじいちゃんから言われた

おじいちゃん「・・・正斗よ・・・」

正斗「なに?おじいちゃん・・・」

おじいちゃん「おまえにな、頼みがある」

正斗「うん!」

おじいちゃん「まだ先だが・・・」

するとおじいちゃん、は言った・・・

おじいちゃん「遅くてもいい、友達を作って、キズナを広めてほしい・・・」

正斗「・・・キズナ？キズナなんて・・・」

おじいちゃん「キズナはな、人を救う・・・」

正斗「人なんかすく・・・」

おじいちゃん「救えるさ！」

正斗「・・・」

そして外に出た・・・

正斗「なにが、キズナだ！」

ロックマンEXE『・・・正斗君・・・』

正斗「・・・いくぞ・・・ロックマン」

ロックマンEXE『どこに？』

正斗「・・・未来だ！」

ロックマンEXE『・・・』

正斗「（もう信じないキズナなんて!）」

現在

ロックマン「正斗君・・・」

正斗「もう・・・いやなんだ！裏切られるの！」

ロックマンEXE『正斗君』

正斗「・・・さあ、早くとどめをさせっ！」

ロックマン「・・・そんなことしないよ」

正斗「！」

ロックマン「ねえ、正斗君1つお願いがあるんだ・・・」

正斗「なんだよ・・・」

ロックマン「僕と・・・友達になろうよ！」

正斗「!・・・」

ロックマンは、手を伸ばした

特別編 正斗の過去（後書き）

正斗の過去はどうでしたか？次回も特別編！

特別編 友達と別れ（前書き）

どーもーレッドスターでーす。

なんと今日2回目です。

今回の特別編は・・・正斗は果たして心を開いてくれるのかー
ーっ!?

特別編 友達と別れ

正斗「俺と・・・友達に？」

ロックマン「うん！」

正斗「・・・でもどうせ俺と友達になつたらお前も裏切るんだ」

ロックマン「僕は、そんなことしない！僕は・・・君と友達になりたい」

正斗「いいや、絶対に裏切る！」

ロックマン「裏切らない！」

正斗「裏切る！」

ロックマン「裏切らない！」

正斗「裏切る！」

ウォーロック『だー！っ、なんと言えはわかるんだー！っ！』

ウォーロックのイライラが爆発した

ロックマン「ちょ、ちょっとロックー」

ロックマンはウォーロックを必死に抑えている

正斗「・・・」

ロックマン「お、おちつけよーロックー」

ウォーロック『うおおお放せー』

正斗「・・・ぷっ」

ロックマン「えっ？」

正斗「はははははっ」

正斗は笑っている

ロックマン「正斗君が笑ってる」

正斗「ははは・・・は・・・あっ・・・」

ウォーロック『なんだよあいつ笑えるのか・・・』

正斗「（しまった・・・つい）」

ロックマン「ぷっ・・・あははははっ」

ウォーロック『ははははははは』

正斗「・・・へ？」

ロックマン「ははは、正斗君も笑うんだ」

正斗「あっ、当たり前だろ！」

ウォーロック「めっちゃでかい声で笑ったしな」

正斗は、顔を赤くした

ロックマンEXE『はははっ』

正斗「なんだよ！ロックマンまで」

ロックマンEXE『今の正斗君はいい顔してるよ』

正斗「え？」

正斗は、顔をかえた

正斗「う、うるせー」

ロックマン「ねえ、もう一回言うよ・・・僕と友達になろうよ！」

正斗「・・・」

すると・・・

正斗「しょうがねーな！いいいぜ！」

ロックマンEXE『（正斗君は、素直じゃないな）』

正斗「（そうか・・・これが「キズナ」なのかな・・・なんか、いいなこんなのも・・・）」

するとロックマンは、変身をといた・・・

正斗「なあ・・・」

スバル「なに？」

正斗「お、おまえの名前はなんだ？」

スバル「僕の名前は、「星河 スバル」！」

正斗「スバルか・・・こつちも改めて・・・俺は、「光 正斗」よろしく！」

スバルと正斗は握手した・・・

ロックマンEXE『正斗君、大変だ、僕達が来たトンネルが閉まりそうだ』

正斗「なにっ・・・スバル」

スバル「なに？」

正斗「すまなかつたな・・・いろいろ・・・」

そして正斗は変身をといた・・・スバルは、目を丸くした、そこには正斗は熱斗によく似ていた

正斗「じゃーなスバル！いくぞロックマン！」

ロックマンEXE『OK』

正斗・ロックマンEXE「クロス・フュージョン！」

キイイーン！

スバル「正斗君、また会おうねー」

正斗の姿が見えなくなった

スバル「・・・あっ」

ウォーロック『どうしたスバル』

スバル「委員長のことを忘れてたー」

数分後・・・

委員長を助けたあとミソラのライブにいった・・・

21××年

正斗「ねえおじいちゃん！」

おじいちゃん「なんだ？」

正斗「俺、友達出来たぜ！」

おじいちゃん「ほう・・・よかったな」

正斗「でなその友達の名前が・・・」

「スバルなんだ！」

特別編 完

特別編 友達と別れ（後書き）

今回で特別編終わりです。

次回から本編に戻ります！

お楽しみに！

第35話 ミソラを助ける！（前書き）

（本編の）前回のあらすじは・・・
ブルー・ジェットを倒したロックマンは委員長の所に戻ったが、ミソラがいない事にきずいた皆、ミソラは、ロックマンを追いかけたあとから帰ってきてない・・・そのときに新たな敵「フラワー・ピンク」が現れた、さらにフラワー・ピンクの手元にミソラがつかまっていた・・・スバルは、ミソラを助けるために学校の屋上に向かった・・・

第35話 ミソラを助ける！

スバルは、屋上に向かった・・・
スバル「ロック行くよ！」

ウォーロック「あ、ああ・・・（まさかスバルが授業をサボるとは・・・成長したな・・・）」

スバル「トランスコード！シューティングスターロックマン！！」

キイイイン！ カッ！

光がスバルを包む

ロックマン「（待っててねミソラちゃん！）」

ウォーロック「！、スバルウェーブロードに乗れ！」

ロックマン「うん」

ロックマンはウェーブロードに乗った

そして屋上につくと・・・

ロックマン「！」

ロックマンの目の前にハープ・ノート（ミソラ）がいたそれに根っこのロープでしばられていた

ハープ・ノート「んーんー」

ロックマン「今助けるね」

ごそごそ・・・ぶちっ、ぱら

ロープが解けた

ハープ・ノート「ありがとう、ロックマン」

ロックマン「いって、それよりフラワー・ピンクどこに居るか知ってる？」

ハープ・ノート「んー、たしか、あそこの電腦に入ったわ！」

ロックマン「わかった、ありがとう！行こう。ロック」

ウォーロック「おう！」

ハープ・ノート「待って、私も行く」

ロックマン「ハープ・ノートは、休んでいいよ!」

ハープ・ノート「私も行きたいの、お願い!」

ロックマン「えっ……でも……」

ウォーロック「(負けるな、スバル!)」

ハープ「(ポロロンがんばりなさいミソラ)」

ロックマン「あ……(だめだ……負けてしまう)」

ハープ・ノート「お願い!(あともう少しだわ)」

ロックマン「……わかった……」

ハープ・ノート「やったあ!」

ロックマン「でもピンチの時は逃げてね」

ハープ・ノート「はい」

ロックマン「じゃー、行こう!」

ロックマン達は、電腦に入った

- 水やりシステム電腦 -

シユン

ロックマン「ついた……ええっ!?!」

ハープ・ノート「どうしたの……えっ!?!」

電腦の中は木の根っこだらけだった

ウォーロック「どうなってんだ?」

ロックマン「前は、こうなってなかったのに……」

???「フフフ……来たようね、でもまだ授業中よ」

ロックマン「!、フラワー・ピンク!」

フラワー・ピンク「いきなりだけど……ロックマン、あなたを倒

す!」

ロックマン「!」

おまけ

- 作者のどうでもいい話 -

作者「どーもーレッドスターです・・・知ってるよね？にしても暑いねーさすが夏って感じだね！（夏だから当たり前かーあははは）最近カードゲームにはまってます。友達に「ただでくれよ！」って言われているけどその人から一回もただでもらった事ありません・（いやですねーそんな人）あとイナズマイレブン3とかゼルダとか・・・もちろん流星のロックマン3まだまだやりまくってます（よくロックマンのデータ2をさいしょっからにしています。皆さん「おまけ」の「どうでもいい話」を最後まで見てくれてありがとうございます！」

おまけ次回も続く！

第35話 ミソラを助ける！(後書き)

次回もよろしくー
感想待ってます！

第36話 フラワー・ピンク（前書き）

レッドスターです。

今回は、フラワー・ピンクと対決です！

第36話 フラワー・ピンク

ウォーロック『くるぞ』

ロックマン『ウェーブバトル・ライドオン!』

フラワー・ピンク『じゃー、やりましょう』

フラワー・ピンクは、手をたたいた

パン!

そのとき

ゴゴゴゴゴ

ロックマン『うわっ!』

ウォーロック『うおおっゆれてる!』

ハープ・ノート『キヤアア電腦が崩れてるわ!』

ハープ『どうなったんの!?!』

フラワー・ピンク『あら、すきだらけよ』

ロックマン『えっ……』

ドゴッ

ロックマン『ぐはっ』

ハープ・ノート『ロックマン!』

フラワー・ピンク『あら……まだ居たのあなた』

ハープ・ノート『次は、私よ! ショックノート!』

ギュイイン

フラワー・ピンクは、よけた

フラワー・ピンク『それだけ?』

ハープ・ノート『まだよ! 連続ショックノート!』

ギュイイン

しかし、またよけられてしまった

ハープ・ノート『もう! すばしっこいわね!』

フラワー・ピンク『次は私から行くわ……フラワーボム!』

ハープ・ノートの下から花が現れたさらに花の中から爆弾が現れた

フラワー・ピンク「終わりなさい！」

爆弾が爆発した

ポオオオオン

ハーブ・ノート「キヤアア」

ロックマン「はあはあハーブ・ノート！」

ハーブ・ノート「キヤアアア」

ロックマン「やめろ、フラワー・ピンク！」

フラワー・ピンク「やめるは・・・あなたがウォーロックを渡すな

らね・・・」

ウォーロック『（こいつも俺狙いか・・・）』

フラワー・ピンク「さあ、どうするの？」

ロックマン「くっ・・・」

そのとき

ロックマンの足元が崩れた

第36話 フラワー・ピンク（後書き）

おまけ書けませんでした・・・

第37話 ロックマンピンチ！（前書き）

レッドスターです。

夏は本当に暑いですねー、海とかが行きたいなー……で今回は……
ロックマンはどうなってしまっただのか？

第37話 ロックマンピンチ!

電腦がどんどん崩れている・・・

ロックマン「うわっ!」

ウォーロック「スバルッ!」

ロックマン「くっ」

ガシッ

ロックマンは木の根っこにつかまった

ロックマン「ふう」

フラワー・ピンク「しぶといロックマンだわ・・・でも」

ハープ・ノート「キヤアアア」

ボボボボボン

ロックマン「ハープ・・・ノート・・・」

ロックマンは、根っこを上っている

フラワー・ピンク「この女もしぶといわね」

ハープ「(ミソラ耐えるのよ、きつとロックマンが・・・)」

ハープ・ノート「キヤアアア(ロックマン・・・)」

ロックマン「くっ、あとちよつと・・・」

ガシッ

ロックマンは無事に上れた

ロックマン「!」

フラワー・ピンク「フフフこれでとどめよ・・・ツリースピア!」

ロックマン「やめるおおお」

そのとき

カアッ

フラワー・ピンク「!!--!」

ロックマンの体から黄金の光がでていた

フラワー・ピンク「(な、なにこの感じ……まさかこれが……
「ライオーガ」!?!」

ロックマン「……ロックバスター!」

ドン!

フラワー・ピンク「キャア!」

フラワーボムが消えた

ロックマン「……ハツ、ハープ・ノート!」

ハープ・ノート「はあはあ……ロック……マン」

ハープ・ノートは、気絶した

ロックマン「ロックやろう!」

ウォーロック「ああつ……」

ロックマン「バトルカード「ウォーリアーブラッド」!」

ロックマンは、すごい速さでロックバスターを打つ

ドドドドドドドド

フラワー・ピンク「くっ、すばしっこいやつ……」

ロックマン「くっ……(体が痛い……)」

ドドドドドドドド

ロックマン「(これで)とどめだっ! プラズマガン3!

ジジッ

フラワー・ピンク「くっ(動けない)」

ロックマン「これで終わりだ! ブレイクサーベル!」

ズバアアアン

フラワー・ピンク「キャアアア」

ロックマンは、フラワー・ピンクを倒した

おまけ

- ウォーロック番長 やってくるの巻 -

ここは、人は誰も知らない電波世界「西電脳学園」である、その学園には10体の番長がいる……

その中の1体は……伝説の暴れ番長「ウォーロック」……そうこの物語はウォーロック番長の成長伝説物語なのだーっ！

3・0組休み時間

ウォーロック番長「おい……金よこせこの女！」

ハーブ女子高生「キャアアたすけてー」

ウォーロック番長「さっさと金だせデブ女！」

ピクッ

ハーブ女子高生「だれがデブブサイク女ですってーっ！っ！」

女子高生から悪魔が見えた

ウォーロック番長「ヒィィィ（ブサイクは言ってるねー）」

そしてウォーロック番長とハーブ女子高生の成長伝説が始まる！

ウォーロック番長たぶん続く

第37話 ロックマンピンチ！（後書き）

おまけネタ&感想待ってます

第38話 フラワー・ピンクの正体（前書き）

あと少しで七夕ですね、俺の願いは「3DS」です。

今回はなんとあの人がフラワー・ピンクの正体だった！

果たしてあの人は……っ！？

第38話 フラワー・ピンクの正体

ロックマンはフラワー・ピンクを倒したあと変身を解いた

スバル「ミソラちゃん！」

ミソラ「ん・・・スバル君？」

ミソラは、目を覚ました

スバル「大丈夫？」

ミソラ「あ、うん平気・・・ッ！」

ミソラは足を怪我していた

スバル「怪我してるじゃないか！早く手当てしないと・・・」

ミソラ「！、スバル君後ろ！」

スバル「！」

スバルは、後ろを向いた、そこにはフラワー・ピンクが居た

フラワー・ピンク「ま、まだよ・・・くっ」

フラワー・ピンクは変身が解けた

スバル「えっ・・・」

ウォーロック「おいおいまさかフラワー・ピンクの正体って」

スバル「ハ、ハナ先生」

ハナ「私は、先生じゃないわ、私は、スパイだウォーロックの観察

そして・・・ウォーロックを消す者よ」

スバル「なんで・・・なんで先生が」

ウォーロック「教えてくれなんで俺だけ狙う！」

ハナ「いいえ、あなただけじゃないわ、この世界に居るもう1体の

「DM星人」も狙っているわ」

ウォーロック「なっ（ほかにも居るのかDM星人が）」

????「ちよつとー、ハナったらもう立つのも限界なのに早く帰る

うよ」

ハナ「そうね・・・フラワー」

フラワー「じゃ行きましょーう」

近くにある木の枝が伸びた
ハナ「じゃあね、スバル君」
スバル「待って！」

すると木の枝が大きくなってハナの姿が見えなくなった
そして少しずつ木の枝が小さくなっている

完全に木の枝がもとに戻ったがハナの姿がなかった

スバル「・・・ハナ先生・・・」

そのあとミソラをスバルの家に運んで怪我の手当てをしたしばらくしてミソラは帰っていった

そしてスバルは、ぐっすりやすんだ・・・

しかしスバルは、忘れていた・・・そう地獄の「テスト」を・・・

おまけ

- バトルカード紹介 -

?1「キャノン」前方の敵を攻撃する！ヒットするとおくに吹き飛ばすぞ！

?2「プラスキャノン」キャノンの進化版、キャノンより少し破壊力すが高い！

?3「ヘビーキャノン」さらに進化したキャノン、破壊力がすごく高い！

?4「プラズマガン」攻撃力は弱いがあいて1体をしびらせて少しだけ動けなくする！

おまけ次回も続く！

第38話 フラワー・ピンクの正体（後書き）

おまけネタ&感想待ってますーっ！

第39話 地獄のテスト（前書き）

今回の話は・・・地獄のテストです・・・（そのまんま）

第39話 地獄のテスト

次の日の朝

ウォーロック『おいスバルー』

スバル『ぐうぐう』(爆睡)

ウォーロック『起きろ!』

スバル『ぐーぐー』

ウォーロック『起きなさい、スバル君!?』(委員長の真似声)

スバル『くーくー・・・鬼・・・』

ウォーロック『・・・』

スバル『くーすー』

ウォーロック『・・・テスト・・・』

スバル『!、そうだったーっ!』

スバルは、一瞬にして目覚めた!

ウォーロック『(こいつ・・・本当に寝てたのか?)』

数分後・・・

キーンコーンカーンコーン

スバル『(ホッ・・・間に合った)』

先生『ではテストを始めます今から算数からやりましょう』

スバル『(いきなり算数ーっ!)』

ゴン太『(・・・終わった・・・)』

キザマロ『(いいでしょう受けてあげましょう)』

委員長『(出来るかしら、まー私に解けない問題なんてないわオー

ホホホホ)』

先生『皆さんテストの紙がいききましたか・・・では・・・』

キーンコーンカーンコーン

先生『始めっ!』

皆はいっせいに始めた

スバル「・・・（意外といけそう）」

ウォーロック「（・・・暇だ）」

生徒（男の子）「ゴン太君なにしてんだろ・・・」

ゴン太「・・・」

鉛筆を転がしていた・・・

コロコロ・・・

「3」

ゴン太「（3か!）」

委員長「（この問題・・・簡単ですわ・・・）」

キザマロ「（ゴン太君なにしてるのでしょうか?）」

ゴン太「ぐーぐー」

寝ていた・・・

そして・・・

キーンコーンカーンコーン

ゴン太「お・・・終わった・・・」

キザマロ「ゴン太君まだですあと「国語」があります」

ゴン太「・・・」

さあー

ゴン太は灰になった

ゴン太「がくっ」

キザマロ「ゴン太くうーん!」

スバル「がんばったね」（自分に言っている）

ウォーロック「テストって・・・やばいのか?」

ゴン太「に・・・肉・・・川の向こうに牛丼が・・・」

スバル「（まさかゴン太がこんなになるとは・・・おそろべし!テスト!）」

スト!）」

そのあと地獄のテストは続くのであった

- スバルの夢の中 -

スバル「やったあ！宇宙にきたぞ、すごいやこころが宇宙か」

ゴゴゴゴゴゴ

スバル「あれ？なんの音」

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ

スバル「うわあーこっちにくるー」

そのとき

ウォーロツク『スバルは俺が守る！』

スバル「ロツク！」

ウォーロツク『うおおおおおおおおお』

スカッ

ウォーロツクの体をすり抜けた

スバル「ぎゃあああああ.....」

.....

.....ガバア！

スバルは起きた

スバル「...夢でよかった」

そのあとしばらく眠れなかったそうなの...

おまけ次回も続く！

第39話 地獄のテスト（後書き）

おまけネタ&感想待ってるぜえええええ！

第40話 地獄のあとの誘い（前書き）

今回の話は、テストの後の話です。

第40話 地獄のあとの誘い

キーンコーンカーンコーン

放課後……

ゴン太「お……終わった」

スバル「なんか知らないけどテストいけそうな気がする……」

ウォーロツク『ああー、暇だった』

委員長「スバル君！」

スバル「うわっ、委員長！」

イラ

委員長「なに、その反応は!?!」

スバル「ご、ごめんなさい」

委員長「まあいいわ、スバル君今週の(土)曜日あいてる?」

スバル「え……あいてるけど……?」

委員長「じゃあ、デパートに行きましようよ！」

スバル「うん、行こう」

委員長「じゃあ、きまりね」

ゴン太「楽しみだなー……ジュール」

キザマロ「(ゴン太君は食べ物狙いですね)」

スバル「(それにしても今日もライオ君居ない……どうしたのかな?)」

ウォーロツク『スバル、早く帰ろうぜ!』

スバル「そうだね……」

スバルは、家に帰った……しかしある所では……

ハナ「くっ……」

次郎「弱いな……おまえ」

ハナ「うるさいわね! あんたも負けたでしょ!」

????2「やめる……」

????4「そうですよ……次は……私が……ヒヒヒ」

「????5」(ロックマンか・・・楽しめそうだ・・・)「

そして(土)曜日

バス停

スバル「・・・」

キザマロ「・・・」

ゴゴゴゴゴ

委員長「お・・・そい
すると

ゴン太「ゴツメーン」

スバル「！」

委員長「おつつっそーいーい！」

ゴン太「ヒイイイ」

キザマロ「(あーあー・・・)」

ゴン太「ご、ごめんなさい」

委員長「まったくもう」

そのとき

プップー

バスがきた

委員長「いくわよ」

スバル・ゴン太・キザマロ「」「はい!」「」

皆はバスに乗った

おまけ

・ウォーロック番長 ほかの番長現る

ウォーロック番長「うおおお番長バアアアンチ」

「ぐえっ」

ウォーロック番長「さあ金よこ・・・」

ハープ女子高生「やめなさいーい」

ドカッ

ウォーロック番長「いつてーなにすんだこのブ……」
バキィ

ウォーロック番長「な……なんか変な音したぜ……」
そのとき

???「ブローロー」

ウォーロック番長「お……おまえは……」

オックス番長「おまえには仮があるだからかえすぜ」

ウォーロック番長「……だれだっけ……」

オックス番長「ガアーン」

ウォーロック番長「？」

オックス番長「くっそーおぼえてろよー（涙）」

勝者ウォーロック番長……

ウォーロック番長たぶん続く！

第40話 地獄のあとの誘い（後書き）

感想&おまけネタ待ってます！

第41話 マジックデパート（前書き）

明日は七夕ですね、あー、「3DS」ほしー！
今回のロックマンは、マジックデパートに来た話です。

第41話 マジックデパート

数分後・・・

『次はー「マジックデパート」の入り口前ー繰り返します・・・』

そして・・・

委員長「ついたわ!」

スバル「そいえば、委員長は何を買ったの?」

委員長「そ・・・それは・・・」

ここから少し委員長の想像に入ります

パレードを見ている委員長とロックマン

ロックマン「きれいだ・・・委員長」

委員長「そうね・・・このパレード」

ロックマン「ちがうよ」

委員長「えっ」

ロックマン「君の瞳がきれいだ・・・」

委員長「ロ・・・ロックマン様・・・」

想像終了

委員長「フッフ」

スバル「い、委員長?」

委員長「・・・ハッ、何でもないわホホホ」

ウォーロック『・・・』

スバル「・・・」

委員長「さあいきましょうか・・・」

ゴン太「うおおお、食べるぞおおお!」

キザマロ「(やっぱり食べるだけですね・・・ゴン太君は)」

そして皆はマジックデパートに入った

スバル「おおっ」

キザマロ「本で見るよりすごいですね」

ゴン太「あそこにレストランがある!」

委員長「パレードをやる時間は・・・午前ね！」

スバル「パレード？」

委員長「そうよ、パレードを見るために来たのよ！」

スバル「へ、へえ」

ウォーロック「（ただ見るだけかよ）」

委員長「まだ時間があるからご飯にしましょう！」

ゴン太「うおおおめしいい！」

そして皆はご飯にした

???4「ヒヒヒ来ましたね・・・ウォーロック！」

???「カカカ、ハヤクヤロウヨ」

???4「あせるなよ・・・やるのは、パレードが始まったらだ・・・

・ヒヒヒ」

そしてパレードが始まるまで30分・・・

おまけ

・フラワー・ピンクの戦いのあと

先生「スバル君・・・」

スバル「ご、ごめんなさい」

先生「授業をサボった事はいいの」

スバル「へ？」

先生「先生は、なんでそこに響ミソラちゃんが居るのか言ってるのよ」

スバル「（そつちかーっ！）」

先生はミソラの大ファンだったのだー

おまけ次回も続く！

第42話 パレード(前書き)

今日は、七夕だあああ！うおおお「3DS」がほしいい！！
・・・さて今回のロックマンもなにやら怪しい影が・・・

第42話 パレード

マジックレストランでは・・・

ゴン太「うめええ」

スバル「本当においしー！」

委員長「（あー早くパレード始まんないかなー）」

キザマロ「あと15分後です」

委員長「キザマロなんで私の心読めたの？」

キザマロ「わかりません」

ゴン太「おかわりするぜえ！」

キザマロ「まだ食べるんですか!？」

ゴン太「おうよ」

ウォーロック「スバルもこれぐらいたべねえと、強くなれねえぞ！」

スバル「ははは・・・」

そして15分後・・・

ピーンポーンパーンポーン

『パレードが始まります。見たい人は、パレードスタジアムに来て

ください、繰り替えます・・・』

委員長「さあ行きましょう！」

ゴン太「まって、あとこのに・・・」

キザマロ「委員長はもう行きましたよスバル君も」

ゴン太「・・・」

そしてパレードスタジアム・・・

ワーワーワー

委員長「すごい人ね・・・」

スバル「そうだね」

委員長「スバル君1つお願いがあるのよ」

スバル「えっ、なに」

委員長「スバル君! ロッ・・・」

『それでは始まります』

ワーワーワー

ワーワーワー

委員長「うるさいわねー」

スバル「で、何」

委員長「だからロック……」

ワーワーワー

『それではーパレードの主役のロッキーさんです!ー』

ワーワーワー

委員長「……」

スバル「ロックがどうかしたの？」

ウォーロック「ん?」

委員長「な……なんでもないわ……」

ワーワーワー

ロッキー「みなさんこのパレードに来ていただきありがとうございます!」

ワーワーワー

ロッキー「それでは楽しい……地獄のパレードをお楽しみください!」

スバル「!」

ウォーロック「スバルここから逃げろ!」

スバル「うん」

スバルはその場所から逃げた、すると下からフーセンが現れて人をフーセンの中に吸い込んだ!

スバル「ふー、あぶない……」

委員長「きゃああ何これ!？」

スバル「委員長!」

委員長は、フーセンに吸い込まれた

おまけ

- もしもゴン太がロックマンだったら -

ゴン太「うめええ」

ウォーロック「・・・」

ゴン太は、牛丼を3杯食べた

そのときウイルスが現れた

ゴン太「いくぞロック！」

ウォーロック「お、おおっ」

ゴン太「トランスコード・シューティングスターロックマン！」

キイーン

その姿は丸いロックマンだった！

おまけ次回も続く！

第42話 パレード（後書き）

感想待ってます！

第43話 地獄のパレード(前書き)

今日は少し涼しいですね。

今回は、とうとう謎の敵現る！

第43話 地獄のパレード

ロッキー「ヒヒヒ」

????『ウォーロックヲデリート』

ロッキー「そうだな・・・やるぞマジジャン！」

マジジャン『オー』

ロッキー「電波変換」

キイイン！

????「ヒヒヒ・・・」

ウォーロック『！、スバルあれを見る！』

スバル「あれは・・・」

ウォーロック『たぶんあいつだ！』

スバル「あいつを倒せば委員長を助けられるかも・・・やろうロクク！」

ウォーロック『ああっ』

スバル「トランスコード・シューティングスターロックマン！」

キイイン！

委員長「ロックマン様」

ロックマン「委員長、まっててね！」

委員長「はい」

ロックマン「ロック！」

ウォーロック『あのでかい物の上に居るぞ！』

ロックマン「わかった」

????「・・・来る・・・ヒヒヒ」

すると????は、でかい物の電脳に入っていた

ロックマン「待てーっ！」
ロックマンも電脳に入っていた

- - - パレードの建物電脳 - - -

ロックマン「ここか・・・」

ゴロゴロ・・・

ウォーロック「スバル・・・これ何の音だ？」

ロックマン「ん？」

ロックマンが後ろ向くと・・・

ゴロゴロゴロゴロ

大きなボールが転がってきた！

ロックマン「わわっにげろー」

ロックマンは必死に逃げているすると・・・

ロックマン「わわっ道が2つにわかれてるーどっちロック」

ウォーロック「さあ？」

ロックマン「ええええっーっじゃ右！」

ロックマンは、右にいった・・・すると・・・

道が途切れていた・・・

ロックマン「わっ・・・」

ロックマンは落ちそうになった・・・

ロックマン「ふうーあぶなかつたー」

ウォーロック「スバル、後ろ！」

ロックマン「えっ・・・」

ロックマンはボールにあたってしまった・・・

ロックマン「うわあああ」

ロックマンは下に落ちてしまった・・・

第43話 地獄のパレード(後書き)

ピンチロックマン次回ロックマンの行方は・・・

第44話 グリーン・マジック(前書き)

すみません・・・前の回のおまけ書けませんでした・・・
今回のロックマンも見逃せません！

第44話 グリーン・マジック

ロックマン「うわあああ」

????「ヒビヒ落ちたな……」

マジジャン『アソコニワ、ウイルススタクサンイル』

????「ヒビヒどうする、ロックマン……ウォーロック！
ドサッ！」

ロックマン「いてて……あれ？」

ウォーロック『なんだこの玉？』

ロックマンが落ちた場所は小さい玉がたくさんある場所だった
ロックマン「さわってみよ……」

ロックマンは触ってみた……
ちよん

すると玉が動き始めた
ぐによくによ

ウォーロック『うわっ気持ちわるっ』

すると玉がウイルスになった！

ロックマン「ええっどうなってるのーっ！」

さらに次々と玉がウイルスになっていく

ウイルスはロックマンに襲い掛かってきた！

ロックマン「くっカウントボム！」

ピ・ピ・ピ・ピーー！

ポオオオオオン

ウイルスがどんどん消えてゆく

そして……

ロックマン「ふうー終わった……さあ行こう！」

このころゴン太達は……

ゴン太「はあはあついたー」

キザマロ「食べすぎですよ、ゴン太君！」

ゴン太「うわっなんだこれっ!？」

キザマロ「あっあのフーセンの中に委員長がいます！」

2人は委員長の近くに行つた

委員長「ロックマン様」

ゴン太「・・・」

キザマロ「うかれてますね・・・」

委員長「ロックマン様」

そのころロックマンは・・・

???「ヒヒヒ・・・ん？」

ロックマン「はあはあ・・・」

???「きたな・・・ヒヒヒ」

ロックマン「僕はおまえを倒す！」

???「ウオーロック・・・ヒヒヒ」

ウオーロック「!・・・おまえ」

グリーン・マジック「そう・・・私はDM星人・・・グリーン・マ

ジック!そしてこいつは俺のパートナーのマジジャン」

マジジャン「ウオーロック」

ロックマン「今すぐフーセンを消して！」

グリーン・マジック「ヒヒヒやだね 消してほしければ私を倒して

みなさい・・・ヒヒヒ」

ロックマン「グリーン・マジック、おまえを倒す!ウェーブバトル

!ライドオン！」

おまけ

・小さいころのキザマロ・

4年前のキザマロは・・・

キザマロ「・・・」

ゴン太「なんだ？キザマロ」

キザマロ「でかい・・・」

ゴン太「何が？」

キザマロ「背です・・・6年になったらゴン太君をこえます！」

そして・・・現在・・・いまだ越えられず・・・

おまけ次回も続く！

第44話 グリーン・マジック(後書き)

七夕・・・もう終わってしまっ・・・

第45話 グリーン・マジックの力！(前書き)

今回のロックマンはとうとう決闘！

第45話 グリーン・マジックの力！

ロックマン「いくぞ、ロックバスター！」
デュン

グリーン・マジック「マジックシールド！」
ロックマン「なっ」

ロックバスターはマジックシールドにあたったてさらに跳ね返ってきた

ロックマン「わわっ」

ロックマンはスーパーバリアを使った

ロックマン「ふうー危なかったー」

ウォーロック「スバル油断するなくなるぞ！」

グリーン・マジック「ヒヒヒ次は私からいきます・・・マジックビーム！」

ビィィィーッ！

ロックマン「ぐあああっ」

ロックマンはまともに当たった

ロックマン「はあはあ・・・！」

ロックマンはしびれて動けなかった

ロックマン「こ、これは・・・」

グリーン・マジック「マジックビームは相手を少しだけ動けなくする技だ」

ロックマン「まだだ・・・くっ」

クリーン・マジック「動かさせませんよ！ヒヒマジックソード！」
ズバン！

ロックマン「ぐはっ」

グリーン・マジック「・・・さあウォーロックをわたせ・・・ヒヒヒ」

ロックマン「くっ・・・（強い・・・）」

グリーン・マジック「ヒヒヒ・・・渡してもらいましょうか・・・ヒヒヒ」

ウォーロック『(くっ・・・どうすれば・・・)』

グリーン・マジック「・・・そうですか・・・渡さないつもりですね、だったらむりやり取るまでです・・・ヒヒヒ、マジックストーン！」

ロックマンの上から大きい岩が落ちてきた

ロックマン「うわあああ」

ウォーロック『これまでか・・・！、この感じは、まさか・・・』

そのとき大きな光がやってきた

キーーーーーン

ロックマン「・・・えっ」

岩が2つに割れていた

ロックマン「こ・・・これは」

???「大丈夫かロックマン！」

ロックマン「ア・・・アシッド・エース！」

アシッド・エース「遅れてすまなかったなロックマン！」

ロックマン「なんでここに・・・」

アシッド・エース「話はあとだやるぞ！」

ロックマン「はい！」

おまけ

- 新キャラ -

作者「どーもーレッドスターです、急にですが新キャラクターを俺のほうに送っていただけばなんと、そのキャラを絶対に出します。締め切りは、7月9日 8月31日までです、皆どしどし送ろう！なお1人1回までです、送りかたは「名前・しゃべりかた・性格・どんなことをするか」です。

それでは、またあいましょー」

おまけ次回も続く

第45話 グリーン・マジックの力！（後書き）

・・・というわけでよろしくお願いします。

第46話 アシッド・エース！（前書き）

最近眠くて眠くて・・・たまりません！
今回のロックマンはアシッド・エース登場！

第46話 アシッド・エース!

グリーン・マジック「ヒヒヒ、仲間が増えようとおまえの負けは決まってる……」

アシッド・エース「それはどうかな……」

グリーン・マジック「!(速い!)」

アシッド・エース「はああ」

ズバン

グリーン・マジック「ぐうう!」

アシッド・エース「いまだロックマン」

ロックマン「はい、ロックバスター!」

デュン

グリーン・マジック「ぐぐ……」

ロックバスターは命中した……

ロックマン「くっ……(力が……)」

アシッド・エース「なにしてるロックマン!」

ロックマン「くっ……もう……」

アシッド・エース「……ロックマンこれを受け取れ!」

ロックマンは何かを受け取った

ロックマン「これは……」

アシッド・エース「それは「RKプログラム」ロックマンを強くするプログラムだ……しかしまだ試作品……ロックマンにもなんだかの影響を受けるかもしれない……」

ロックマン「……やります……」

ロックマンは、「RKプログラム」を起動した

『「RKプログラム」起動シューティングスターロックマン同化』

カッ!

Q1、好きな漫画は何ですか？

A、ナルトとかロックマンとかマリオくんとか・・・
ミソラ「そんなに読むんだ・・・」

Q2、ロックマンシリーズでは何が好きですか？

A、えーと・・・ロックマンEXEと流星のロックマンです・・・
ウォーロック「1つにしろよ・・・」

Q3、最後の質問です、とんこつラーメン好きですか？

A、食べれますけど好きではありませんね・・・
スバル「最後の質問必要あるの？」

おまけ次回も続く！

第46話 アシッド・エース！（後書き）

感想まつて・・・まーす！

第47話 RKプログラム！ロックキャノン！（前書き）

今回の話はロックキャノンというプログラムができましたが果たしてこの先にもこのプログラムが役にたつのか……っ！

第47話 RKプログラム！ロックキャノン！

グリーン・マジック「ぐあああ
ドサッ

グリーン・マジックは倒れた

ロックマン「はあはあ・・・やった・・・ぐっ」

ロックマンはひざをついた

ウォーロック「おいおい大丈夫か・・・」

ロックマン「うん・・・だいじょ・・・う・・・ぶ・・・」

バタッ

ロックマンは倒れた

ウォーロック「スバル!？」

アシッド・エース「大丈夫さ、気絶してるだけだ・・・」

ウォーロック「そうか・・・よかった」

ロックマン「・・・」

そのとき

マジジャン「ハアハアウォーロック」

ウォーロック「まだ居たのか」

マジジャン「ウォーロックキミハ、キケンナソンザイ・・・イカス

ワケニハイカナイ」

ウォーロック「どうしてだ・・・」

マジジャン「ウォーロックハ、ミツカゴ・・・ミンナヲキズツケル

コトニナル・・・」

ウォーロック「俺が・・・」

マジジャン「ソノイシガアルカギリ・・・」

ウォーロック「うるせー消える！うおりやややや」

ズバン

マジジャン「ぎゃああ」

シュン

ウォーロック「逃げたか・・・」
アシッド・エース「三日後って・・・」
ウォーロック「俺が・・・皆を・・・」
そして・・・現実世界にでた・・・
スバル「・・・ん・・・」
委員長「スバル君！」
ゴン太「スバル！」
キザマロ「スバル君」
スバル「皆・・・無事だったんだ・・・ぐっ」
暁「まだ動かないほうがいい」
スバル「は、はい・・・暁さん・・・」
暁「なんだ」
スバル「なんでここに？」
暁「ああそれは・・・スバルに言いたい事があったんだ・・・」
スバル「はい・・・」
暁「最近ウォーロックが狙われてるみたいだね」
スバル「はい」
暁「ウォーロックを狙っている組織の名前がわかったんだ」
スバル「それは・・・」
暁「「ダークムーラ」だ！」
ウォーロック「（なんかラ・ムーと似てるな・・・）」
スバル「「ダーク・ムーラ」・・・」
ウォーロック「おいそいえばこの「RKプログラム」はなんだ」
暁「このプログラムは、ロックバスターの進化版ロックキャノンだ、
攻撃力も命中力もあるが・・・問題は自分にも負担がかかることだ・
・・・」
スバル「どうしたら負担かからずに出来ますか・・・」
暁「1つある・・・」
スバル「それは・・・」
暁「最強の体・・・もしくは最強の・・・ヨロイだ」

スバル「……最強のヨロイ……」

おまけ

- 作者とウォーロックのコント -

ウォーロック「……コントってなんだ？」

作者「(ええーっ！そこから！?)」

ウォーロック「おい！なんだ」

作者「コントってのはお笑いみたいな事だよ」

ウォーロック「ふーん……お笑いってなんだ？」

作者「(まじで！知ってると思ったのに……)」

ウォーロック「？」

作者「えーと長くなるからパツパツと説明するね……カクカクジ

カジカ」 省略

ウォーロック「おおっそうだったのか人を笑わせるのか」

作者「そうだよ」

ウォーロック「……どうやって？」

作者「……」

作者は決めた……「もうやめよう」って決意したのであった……

おまけ次回も続く！

第47話 RKプログラム！ロックキャノン！（後書き）

感想&おまけネタ&オリジナルキャラクター待ってます！

第48話 黄金の石の秘密(前書き)

ロックマン、オリジナルキャラクター今日から送れます、皆も送ろう！

なお1人1回までです。

第48話 黄金の石の秘密

スバル「・・・ヨロイ・・・」

ウォーロック「！、スバルそいえばグリーン・マジックが言ったんだが三日後ってなんかあるのか？」

スバル「三日後・・・あつ！そいえばその日「まんげつ」が出る日だ！」

ウォーロック「（まんげつ・・・）」

暁「スバル、その金色の石はなんだ？」

スバル「あつ、この石は「黄金の石」だよ、父さんからもらったんだ！」

暁「（もしかして・・・あいつがいった石って・・・このことか）」

すると暁が・・・

暁「スバルちよつと来てくれ・・・」

スバル「？」

WAXA^{ワクサ}

スバル「久しぶりだなあWAXA^{ワクサ}」

ウォーロック「過去に行つてからきてねえもんな」

「???」あらあらスバルちゃんロックちゃん

ウォーロック「ぐつ・・・」

スバル「ヨイリー博士！」

ヨイリー「久しぶりね・・・」

暁「ヨイリー博士、スバルが持つてるこの石を調べてください！」

ヨイリー「はいはい・・・」

スバルは黄金の石を渡した

そして・・・そのころ・・・

ダークムーラ組織

「???2」・・・そろそろ俺行くぜ・・・ウォーロックを始末しに」

「???5」まで・・・まだ行くのは三日後だ・・・」

「???2」なんだ・・・それに三日後って言ったら・・・」

次郎「そうだぜ・・・」

ハナ「そうよ・・・今じゃないと」

「???5」いいんだ・・・これで三日後ならウォーロック自分でくる・・・それに「星河 スバル」

がいる限りウォーロックの力は半減する、つまりこれがチャンスだ！」

ハナ「そうなんだ・・・」

「???5」ウォーロックかならず私たちがおまえを始末するそうこの組織「ダークムーラ」が！」

「???2」なら三日後、俺が行くぜ・・・」

「???5」いいですよ・・・」

「???2」ニヤツ」

そのころWAXA^{ワックス}では・・・

スバル「・・・」

ヨイリー「わかったわー!」

スバル「えっ」

そして・・・

ヨイリー「これはね・・・ロックちゃんの一部よ!」

ウォーロック「!」

おまけ

- 緊急ニュース! -

作者「なーーんと、とうとう新たな章に行きます、たぶん第50話くらいから入りますさらに物語もドドンと急展開も!新たな

章、新たな展開も見逃せない！そして、その章の名は・・・
次回判明！お楽しみに！」

おまけ次回も続く！

第48話 黄金の石の秘密（後書き）

感想&おまけネタ&オリジナルキャラクター待ってまーーーーす
！

第49話 ウォーロックの一部（前書き）

どーもーレッドスターです。

今日も祭りだあああチョコバナナをくいます！

今回はとうとう新章の発表です！発表はおまけで！

第49話 ウォーロックの一部

ウォーロック『どういうことだよ……』

スバル『ロックの一部……』

ヨイリー『でもねこの石今はぜんぜんがいは無いの』

スバル『今……は？』

ヨイリー『ええ……三日後になにか起こるかもしれないわね……』

ウォーロック『……』

暁『とりあえず三日後ウォーロックを監視します』

ヨイリー『そうね……それがいいわ』

スバル『はい』

ヨイリー『スバルちゃんもう遅いから帰りなさい』

スバル『はい』

スバルは外に出た……

スバル『！』

ウォーロック『どうしたスバル上向いて』

スバル『（三日後は……まんげつ……）』

ウォーロック『おい』

スバル『（ロックとなにか関係があるのかな……）』

ウォーロック『おーーーいスバルーーッ！』

スバル『ど、どうしたの？』

ウォーロック『さっさと帰ろうぜ』

スバル『あ、うん』

ウォーロック『（なに考えてたんだスバルのやつ）』

そして……

ガチャ

スバル『ただいまー』

茜『おかえりスバル』

大吾「遅かったなどこ行ってた」

スバル「あ、うんちよつとWAXAワックスに」

大吾「そうか」

茜「ごはん出来てるわよ」

スバル「わかつたー」

ウォーロック「・・・なあ大吾」

大吾「なんだ」

ウォーロック「あの黄金の石ってなんだ」

大吾「・・・そうか・・・とうとうこひの時が来たか・・・」

ウォーロック「この時？」

大吾「たぶん知っているかもしれないがあれはウォーロックの一部だ、あれはウォーロックの本当の力を引き出せる石だ・・・さらにあの石は、おまえの記憶でもある・・・」

ウォーロック「俺の記憶・・・」

大吾「さらにこの石はまんげつの夜に反応するんだ・・・」

ウォーロック「やはりそうか・・・」

大吾「しかし・・・これだけは言える事がある・・・」

ウォーロック「なんだ」

大吾「おまえは確実に自分を失う・・・」

ウォーロック「！」

スバル「ふー食ったー・・・ロック？」

ウォーロック「・・・」

そして二日後の夜・・・

WAXAワックス

暁「今夜は、ここにとまるんだスバル」

スバル「はい」

ヨイリー「明日ね・・・」

ウォーロック「（明日の俺は・・・どうなっちまうんだ・・・）」

そして・・・次の日の朝・・・

おまけ

- 緊急ニュース!2 -

作者「いや どもレッドスターです、とうとう次回からの章が発表!その名は…….」

「ライオーガの章」です!いやあ 章か……なんかいいね!それとオリジナルキャラクターを送ってくれた人いましたありがとうございます!」

おまけ次回も続く

第49話 ウォーロックの一部(後書き)

次回とうとう新章です！

感想&おまけネタ&オリジナルキャラクター待ってます！

第50話 ウォーロック！（前書き）

とうとう新章始まりました！
ライオーガの章もよろしく！

第50話 ウォーロック!

スバルは走っていた

スバル「はあはあ・・・ここは・・・」

そのとき

???「ガアアアオオオオオオ」

スバル「!(これは・・・)」

???「グガアアアアアア」

スバル「まさか・・・ロック・・・」

ウォーロック「ガアアアアアアアアアアオオオ」

スバル「ロック!」

ウォーロック「グオオオオオオオオオオ」

ウォーロックは攻撃しようとしている・・・

スバル「ロッククイーーンツ!」

バアアアン!

スバル「!」

スバルは起きた・・・

スバル「・・・夢・・・」

スバルは窓のカーテンを開いた
カッ

スバルの顔に光があたった

スバル「うわっ」

スバルはまた寝転んだ

ウォーロック「ハハハ情けねーな!」

スバル「ぐ・・・目が・・・」

ウォーロック「(今日の夜・・・俺は・・・)」

スバル「(ロックは・・・)」

暁「スバル起きろー」
スバル「は、はい」
ウォーロツク「お．．．おい！までスバル！」
そして．．．
スバル「いち．．．にー、さん．．．し．．．」
ヨイリー「スバルちゃんもつと声を大きく」
スバル「は．．．はい！いち！にー！さん！し．．．」
ウォーロツク「なんであんなに元気なんだ？」
暁「さあ」
ウォーロツク「おまえはやんねーのか？」
暁「体操だけは．．．」
ウォーロツク「．．．」
暁「．．．」
そして．．．
スバル「ゼーゼーはいはい」
ウォーロツク「たらしねーな」
スバル「いま何時ですか暁さん」
暁「8時30分」
スバル「（約1時間！）」
暁「腹減ったな．．．くうか」
ウォーロツク「なにを．．．」
暁「サクサクうまい！」
スバル「（またうまい棒．．．ナポリタン味だ！）」
ヨイリー「ごはん出来たわ」
スバル「わーい」
ウォーロツク「（俺には関係ないな．．．）」
スバル「．．．うまそう」
ヨイリー「どんどん食べてね」
スバル「いただきまー．．．」
「博士！」

ヨイリー「なんでしょう」

「お客様です」

暁「（お客様つて・・・レストランかつ！普通に客でいいだろ！）」
ヨイリー「・・・あらルナちゃん！」

委員長「スバル君！」

スバル「委員長！」

ゴン太「よっ」

キザマロ「やあ」

スバル「ゴン太、キザマロなんでここに！」

委員長「3人とも心配してたのよ！」

スバル「3人？」

「???」「スバル君！」

スバル「あーっミソラちゃん！」

ミソラ「やつほー」

スバル「でも・・・」

暁「俺がよんだ」

スバル「でも危険じゃー・・・」

ミソラ「私たちのことは気にしないで！」

ゴン太「おう」

委員長「そうよ！」

キザマロ「です・・・」

委員長「それに私達はブラザーよ！だから私達のことには気にしないで！」

スバル「皆・・・」

暁「それより早く食べよう！」

スバル「わすれてた・・・じゃー」

皆「いただきます」

おまけ

- 緊急ニュース!3 -

作者「なんとロックマンの新キャラを送ってきてくれた人は一人で
す!・・・少ないけど嬉しい!
皆もどしどし送ろう!」

第50話 ウォーロック！（後書き）

感想&おまけネタ&オリジナルキャラクター待っぜ！

第51話 ソロ登場(前書き)

今日はいい事あった・・・まじで、
すげえーうれしい・・・

第51話 ソロ登場

????2「……ここかWAXAは……」
ワクサ

????「なにをしている」

????2「だれだ！」

ソロ「俺はソロ……おまえを倒しに来た……」

????2「ソロか……（どっかで聞いたことあるな）」

ソロ「……電波変換！」

キイイイン

ブライ「……」

????2「！……やはりお前は孤高の戦士ブライだったか……」

ブライ「……来い！」

????2「電波変換！」

キイイイン！

ダーク・ナイト「……」

ブライ「！（この感じは……なんだ!?)」

ダーク・ナイト「いくぜーっ！」

ドオオオオオン

スバル「！」

ウォーロック「なんの音だ」

暁「外に出てみよう！」

スバル「委員長達はここで待っててね」

ミソラ「スバルくん……」

ゴン太「気よつけるよ！」

スバル「うん！」

そして外に出た・・・そこには・・・

スバル「！」

ウォーロック「あいつは・・・ダーク・ナイト！」

スバル「それにブライ！」

ドゴオオオン！

ブライ「くっ・・・」

ダーク・ナイト「やるな・・・」

ブライ「ラプラス！」

ラプラスは剣になった！

ブライ「はああ」

ズバァン！

ダーク・ナイト「くはっ・・・」

ブライ「これで終わりだ！」

ダーク・ナイト「（いまだ）ダークブレイド！」

ズドオオオン

ブライ「ぐうああああ」

スバル「ブライ！僕達もやろう！」

ブライ「来るな！」

スバル「！」

ダーク・ナイト「強気言いやがって・・・素直になれ・・・」

ブライ「だまれっ・・・俺は孤高の戦士ブライ・・・人の手などいらない・・・」

ダーク・ナイト「ククク、素直じゃねーな！」

ブライ「！」

ダーク・ナイト「きえろーームーの生き残りーー！」

ズバンッ！！！

ブライ「・・・」

ダーク・ナイト「……………ぐふっ」
ドサッ

スバル「やったあ」

キイーン

ダーク・ナイトの変身が解けた

スバル「……………君は……………」

おまけ

- バトルカードの紹介 -

? 5 「エアスプレッド1」 ヒットした所からV字にゆうばくする、
3 ヒット攻撃!

? 6 「エアスプレッド2」 エアスプレッド1の進化版X字にゆうば
くする、3 ヒット攻撃!

? 7 「エアスプレッド3」 ヒットすると周りの8マスにゆうばくす
る、3 ヒット攻撃!

? 8 「マッドバルカン1」 前方に5連射!さらに奥にもゆうばくす
る!

? 9 「マッドバルカン2」 前方に8連射するバルカン攻撃!後ろに
もゆうばく!

? 10 「マッドバルカン3」 前方に12連射する、この小説でもよ
く使うぞ!

おまけ次回も続く!

第51話 ソロ登場（後書き）

久しぶりにダーク・ナイトを出しました！
感想&おまけネタ&オリジナルキャラクター待ってマース！

第52話 ダーク・ナイトの正体(前書き)

あ・・・頭が痛い・・・今回のロックマンもよろしく

第52話 ダーク・ナイトの正体

スバル「!・・・キミは・・・ライオ君・・・」

ライオ「・・・ちっ」

スバル「な、なんで」

ウォーロック『やはりな・・・あいつが学校に来た時から変な感じがした!』

スバル「ライオ君、なんでこんな事を!」

ライオ「やらなくちゃならねーんだ!」

スバル「!」

ライオ「・・・やるぞ・・・」

ブラック・ナイト『いいぜ』

ライオ「電波変換!」

キイイイイン!

ダーク・ナイト「ククク」

ブライ「おまえは俺が倒す!」

ダーク・ナイト「・・・」

ブライ「はあああ!」

ズバン!

ブライ「くっ・・・」

スバル「ブライ!」

ウォーロック『あいつがやられただと!』

ダーク・ナイト「今度は本気でウォーロックを始末する!」

スバル「・・・」

ウォーロック『・・・やるぞスバル!』

スバル「で、でも・・・」

ウォーロック『甘つたれるな!』

スバル「!」

ウォーロック『あいつは敵だ!いつまでもそんな事いうな!』

スバル「・・・わかった・・・やろう!」

ダーク・ナイト「やっとやる気になったか・・・」

スバル「トランスコード・シューティングスターロックマン!」

キイイイン!

ロックマン「・・・」

ダーク・ナイト「・・・来い!」

ロックマン「ウェーブバトル・ライドオン!」

ダーク・ナイト「食らえ!ダークブレイドー!」

ズドオオオ

ロックマン「スーパーバリア!」

ダーク・ナイト「防いだか・・・だが」

ロックマン「ロックバスター!」

デュン デュン!

ダーク・ナイト「くっ・・・(けっこうやるな・・・だが・・・あと少し)」

ロックマン「マッドバルカン3!」

ガガガガガガガガガガン!

ダーク・ナイト「ブラックシールド!」

ロックマン「何っ!?!」

ダーク・ナイト「そんなよわつちい攻撃などきかねえよ!」

ロックマン「まだまだ・・・!」

ロックマンの動きが一瞬止まった

ウォーロック『どうしたスバ・・・!』

ウォーロックはなにかを感じた・・・

ドックン　ドックン

ウォーロック『(なんだ……この胸騒ぎ……)』

ロックマンは上を見た

ロックマン「！」

・　ロックマンがみたものは……うつすらとまんげつが見えていた……

第52話 ダーク・ナイトの正体（後書き）

次回番外編！（特別編ではありません）

番外編 謎の作者？&主人公なしストーリー (前書き)

主人公なしっと言ってもうオーロックは居ます

番外編 謎の作者? & 主人公なしストーリー

番外編ストーリー1

??? 「ふはははははっ」

スバル 「君だれ？」

??? 「なっスバルだっ！皆ー出てこーい！」

スバル 「ええっなんでーっ！」

.....

??? 「.....」

スバル 「.....来ないね」

??? 「.....」

..... あっ..... 思い出した..... 用事が.....

.....」

ウォーロック 「うそだろ！」

??? 「ぎゃー！ウォーロックだー！」

ウォーロック 「なっ..... テメー.....」

スバル 「..... あれよく見たら.....」

ウォーロック 「作者じゃねーか！」

作者? 「へ？」

ウォーロック 「おおっあのコント以来だな」

作者? 「へ? (コント?)」

スバル 「ぜんぜん気がつかなかったよ」

作者? 「えっ..... あのぼっよーし作者!一緒に暴れようぜ!」

スバル 「だめだよロツ」

作者? 「はウォーロックとともにどっか行ってしまった.....」

そのころ本物は.....

作者「やった！いいネタ思いついたぞーっ！」
なんと小説を書いていた！
しかし1つ謎が・・・果たしてウォーロックが連れて行った作者？
は誰なのか・・・誰も知らない

番外編ストーリー2

ウォーロック「・・・ひまだースバルのやつどこに行ったんだ？」

・・・

ウォーロック「・・・この小説大丈夫か？」

???「そんなこと言わないで（涙）」

ウォーロック「うわっ作者（泣いてやがる!）」

作者「俺だって本気で書いてるんたよ小説（涙涙）」

ウォーロック「わ、わるかったな・・・（めっちゃ泣いてる!）」

作者「いいんだ・・・俺はな友達に誘われ小説を書いたんだ」

ウォーロック「へ、へえ（なんか語り始めた!）」

作者「小説っていいよね漫画と同じくらい」

ウォーロック「そ、そうだな（漫画?）」

作者「やはり漫画も最高だよ!」

ウォーロック「（あれ小説は？漫画なんてどうでも・・・）」

作者「よくない!」

ウォーロック「なんで心読めたんだよ!」

作者「さあ?」

ウォーロック「ええーっ!」

作者「さっ帰るか!またねウォーロック!」

ウォーロック「お、おお」

作者は去っていった

ウォーロックは思った
ウォーロック『何しにきたんだ？』

おわり

第53話 オックス・ファイアとハーブ・ノート（前書き）

オリジナルキャラクターを送ってくれた人は、3人です（少ない・
・）

第53話 オックス・ファイアとハーブ・ノート

ダーク・ナイト「！（動きが鈍くなった、今だ！）」

ロックマン「！」

ウォーロック「……………」

ロックマン「ロック？ロック！」

ウォーロック「！なんだ？」

ロックマン「どうした……………」

ウォーロック「スバル後ろ！」

ロックマン「え……………」

ズバアン

ロックマン「ぐあああ」

ダーク・ナイト「どうしたんださっきの勢いはどこに行ったんだ！」

ロックマン「（体が重い……………」

ウォーロック「（くそ……………このままではスバルが……………」

ダーク・ナイト「ロックマン……………ウォーロックを渡せばおまえを

みのがしてやる」

ロックマン「く……………」

ダーク・ナイト「渡さないってなら……………こうしてやる！」

ロックマン「なっやめて」

ダーク・ナイト「ダークブレイドー！」

ダーク・ナイトはWAXA本部のほうにやった

そのころ委員長達は……………

委員長「……………」

ミソラ「……………大丈夫かな……………」

ハーブ「平気よ」

ミソラ「そうかな・・・」
ゴン太「・・・俺行ってくる」
キザマロ「だめですよスバル君にいわれ・・・」
ミソラ「行こう！」
キザマロ「えーミソラちゃんまで・・・」
そのとき

ドゴオオオン

ミソラ「きゃ何!?!」
ヨイリー「ルナちゃん達大丈夫？」
委員長「は、はい」
ゴン太「・・・オックス！」
オックス「おう」
ゴン太「電波変換！」

キイイイン

ミソラ「ハープ」
ハープ『いつでもいいわミソラ』
ミソラ「電波変換！」

キイイイイン

オックス・ファイア「いくぞおおおおお」
ハープ・ノート「ええ」
ダーク・ナイト「もう一切り！」
ロックマン「やめろーロックバスター！」
デューン
ダーク・ナイト「そんなの痛くも・・・」

ハープ・ノート「シヨックノート！」
ギイン

ダーク・ナイト「くっ」

オックス・ファイア「オックスタツクル！」

ドオオオーーーン

ダーク・ナイト「ぐあっ」

ロツクマン「二人とも・・・どうして」

ハープ・ノート「私達ブラザーでしょ」

オックス・ファイア「助けるのは当然だぜ！」

ロツクマン「二人とも・・・ありがとう！」

夜になるまであと・・・5時間後・・・

おまけ

- 作者とスバルのコント -

作者「どーもー作者のレッドスターと」

スバル「ほ、ほ、星河 スバルです！」

作者「スバルくん・・・緊張してるの？」

スバル「へ、平気・・・」

作者「(あっだめそう)」

スバル「・・・」

作者「・・・今回はもう終わりにしようかスバル君・・・」

スバル「・・・」

おまけ次回はお休みします

第53話 オックス・ファイアとハーブ・ノート（後書き）

感想&おまけネタ&オリジナルキャラクター待ってるよ・・・フハ
ハハハハハ

第54話 電波変換解除！？（前書き）

レッドスターです・・・今少し機嫌が悪いです・・・

第54話 電波変換解除!?

オックス・ファイア「ファイヤー」
ポオオオオオ

ダーク・ナイト「ブラックシールド!」

ハープ・ノート「(今よ) ショックノート!」

ギューイイイン

ダーク・ナイト「くっうおおおブラックシールド!」

ハープ・ノート「えっ2つもシールド出せるの!?!」

オックス・ファイア「いまだロックマン!」

ロックマン「ロックバスター!」

デュン

ダーク・ナイト「ぐあっ」

ロックマン「やった!」

ウォーロック「ぐ...ああ」

ロックマン「ロック!?!」

ダーク・ナイト「く...ザコはじゃまだああああ!」

オックス・ファイア「!」

ハープ・ノート「!」

ダーク・ナイト「ダークホール!」

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴ

オックス・ファイア「ぐおおお」

ハープ・ノート「きゃあああ」

ロックマン「! オックス・ファイア! ハープ・ノート!」

二人ははじき飛ばされた

ダーク・ナイト「へっザコ倒したぜ...次は貴様だロックマン!

ウォーロック!」

ウォーロック「ぐ...おおお」

ロックマン「!... (なんか...体が...

動かなく・・・なってきた」

暁「ロックマン！くっ・・・アシッド！」

アシッド『・・・危険です』

暁「・・・そうか・・・（やはり今俺が行ったとしても・・・）」

ダーク・ナイト「ククク終わりだあああ」

カッ！

ダーク・ナイト「なっなんだ」

キーン

スバル「ん・・・あれ変身が解けてる・・・」

『オオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ』

スバル「ロックの声・・・まさか」

ダーク・ナイト「な、なんだ・・・ウォーロックから黄金の光が出

ている・・・」

ウォーロック『オオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ』

オ』

夜になるまであと・・・・・・2時間後・・・

第54話 電波変換解除！？（後書き）

いつもより少し短いですね・・・
感想&おまけネタ&オリジナルキャラクター待ってる・・・

第55話 暴走！ウォーロック！？（前書き）

夏休みか・・・楽しみです・・・

第55話 暴走！ウォーロック！？（後書き）

おまけはしばらくお休みします8月から再開するのでお楽しみに！
感想&おまけネタ&オリジナルキャラクター待ってるよ

第56話 ライオーガ（前書き）

とうとうこの物語も激しく動きだした！これからの展開も目が放せない！

スバル「委員長！」

委員長「助けて！足が・・・」

委員長の足にたくさんの物がのっかている

キザマロ「スバル君もてつだってください！」

スバル「うん」

外では・・・

暁「くっ・・・まだかあいつは・・・」

ライオーガ『ガアアオオオオオオオオオオオオオオオオ』

また雷が落ちてきた

暁「・・・このままではWAXAが破壊されてしまう・・・」

ガコン！

スバル「ふう・・・委員長足大丈夫？」

委員長「平気よ」

スバル「よかった・・・」

ドオオオオオオン

スバル「！」

委員長「スバル君・・・どうなってるの外は」

キザマロ「ゴン太君は？ミソラちゃんは？」

スバル「・・・委員長・・・ごめん危険だから言えないよ・・・」

委員長「なんで！」

スバル「・・・行ってくる・・・」

そして・・・

スバル「・・・ロック！」

ライオーガ『グガアアアアアアアアアアアアアア』

スバル「元に戻って！」

ダーク・ナイト「はあはあ何を言っている・・・ウォーロックの本
当本の姿はこれだ！」

ライオーガ『ガオオオオオオオオオオオオオオオオ』

第56話 ライオーガ（後書き）

次回スバルの声が届くのかっ!？
感想&おまけネタ&オリジナルキャラクター待ってまっす!

第57話 ウォーロックの決意！（前書き）

今回の話はライオーガの中に居るウォーロックの心の中の話です。
なんかややこしいですね……

第57話 ウォーロックの決意！

ライオーガの中では・・・

『・・・暗い・・・』

ウォーロックは暗い闇の中にいた・・・

そのとき

ハロツクーーーーーッーーーーーッーーーーーッーーーーーッ

ーーーーーッ!!!!!!!!!!!!!!

『この声・・・聞いたことがある・・・思い出せない・・・』

ウォーロックは思い出せない・・・

『・・・俺は・・・なんだ・・・なんのためにここに居る・・・な

んのために・・・』

ウォーロックは頭も抱えた

『くっ・・・さっきの声・・・懐かしい感じがする・・・』

ハロツク、聞こえる！？僕だよ星河スバルだよ！

『星河・・・スバル・・・どこかで・・・聞いたことがある・・・』

・・・

ハ覚えてる？僕達一緒に戦った事を！

『一緒に・・・戦った事・・・』

ウォーロックはさらに頭を抱えた・・・

『くっ・・・スバル・・・一緒に戦った事・・・』

ドツクン ドツクン ドツクン ドツクン

ドツクン

『く・・・あああああ』

ハロツク、思い出してよーっ！

すると暗い闇にひとつの光がさした

『俺の名は・・・ロツク・・・ウォーロツク・・・なんだこ

の暖かい光・・・』

ドツクン、ドツクン、ドツクン、ドツクン

『俺の名はウォーロック・・・AM星人・・・そしてスバル！・・・
思い出したぜ！うおおおお』

暗い闇が晴れてきた

パアアアアアアアアア

ウォーロック『スバルー！ーッ！』

キイイイイイイイイイイイ！

そして・・・現実世界

ライオーガ『グオオオオオオオオオオオオオオ』

スバル『くっ・・・ロック・・・クッキーッ！』

『たつく・・・うるせーなスバル！』

スバル『ロック・・・ロックなの』

『スバル・・・ありがとうな・・・』

スバル『きゆうに何言ってるのロック・・・』

『そつだよな・・・俺らしくねーよな・・・』

スバル『ロック？』

『俺はきめたぜ・・・スバル』

スバル『えっ』

『俺をデリートしろ！そのあいだなんとかこいつを抑える・・・』

ライオーガ『ぐっ・・・オオ・・・オオ』

『さあ・・・早く・・・』

スバル『・・・無理だよ・・・僕には出来ない・・・』

ダーク・ナイト『・・・ちっ・・・楽しくねえ・・・』

『早くしろおおおお』

スバル『・・・』

『俺は決意したんだ・・・もう皆の傷つく姿なんてみたくねえ・・・』

スバルの傷つく姿も見たくねえ・・・たのむ・・・これが最後のお

願いだああああああ』

スバル『ロック・・・』

第57話 ウォーロックの決意！（後書き）

なんか暗くなつたな・・・次回ウォーロック・・・そしてスバルの決意は————っ！どうなる！？

第58話 スバルの決意！（前書き）

今日・・・楽しかったです。

今回はスバルの決意の話・・・

第58話 スバルの決意！

「俺は決意したんだ・・・もう皆の傷つく姿なんてみたくなえ・・・スバルの傷つく姿も見たくねえ・・・たのむ・・・これが最後のお願いだああああああ」

スバル「ロック・・・」

「たのむ・・・わかってくれ」

スバル「（なんで・・・ロックが消えないといけないの・・・なんで・・・）」

「スバル・・・俺はもう元に戻れないかもしれねえ、一生この姿のまま暴れるかもしれねえ、だったら俺は思うんだ・・・俺がデリートされればいいって・・・」

スバル「・・・」

「・・・俺は・・・おまえのおかげで変わった・・・俺はおまえに出会えてよかった・・・まだこの地球にいてえけど別れのときがきたんだスバル」

スバル「・・・僕だってロックにであって変わった・・・友達になれた・・・でも・・・」

「でも・・・？」

スバル「目の前で友達が消えるなんてやだよ！」

「・・・だから俺も目の前でスバルが俺のために傷つくところなんてみられねえーんだ！」

スバル「そんなの間違ってるよ！」

「！」

スバル「ロック・・・帰ろうよ家に・・・」

「スバル・・・ッ！」

スバル「ロック？」

「ぐあああああつくつ・・・暴れてやがる・・・」

ライオーガ『オオオオ・・・グオオオオ』

「スバルー早く．．．しろ．．．」

ライオーガ「オオオ．．．オオオオオ」

暁「（しかたがない．．．あれを渡すか．．．）」

「くっ．．．」

暁「スバル」

スバル「？」

暁「これを．．．」

スバルは、謎のプログラムを受け取った

スバル「これは．．．」

暁「DDプログラム．．．ウォーロックをデリートできるプログラ

ムだ．．．」

スバル「!!」

暁「そのプログラムを使うんだ．．．」

スバル「でも．．．」

「は．．．やくしろ．．．」

スバル「（ロック．．．）」

暁「ウォーロックも頑張っているんだ．．．スバル．．．わかって

くれ」

スバル「（僕は．．．僕はどうしたらいいんだ．．．）」

そのとき黄金の石が光った

パアアアア

スバル「！」

どんだん光が大きくなっている

スバル「暖かい．．．」

するとスバルは思いついた

スバル「．．．（もしかしたらすぐえるかもしれない）」

スバルはライオーガの所に歩いていった

暁「だめだスバル、戻って来い！」

「ス．．．バル．．．来るな．．．」

スバルはライオーガの前にきた．．．

第59話 奇跡の電波変換！（前書き）

ふっふっふっ・・・また「あれ」がやります・・・この話のあとに
発表します！

第59話 奇跡の電波変換！

スバルは、ライオーガの前に来た

「この馬鹿……来るなって……言っただろ」

スバル「……僕は……」

「？」

スバル「ロックを救う！」

するとスバルは片方のライオーガに触った瞬間

バチイイイバチイ

スバル「ッ！」

ライオーガの体は静電気に包まれていた

スバル「まだまだー」

「や……める……そんなことしたら」

バチイビリリ

スバル「くっ……おお」

すると黄金の石もスバルの声に反応しさらに光った！

スバル「うおおおおおお」

静電気が邪魔して手が届かなかった……

スバルの手は少し血がでていて黒くなっていた

スバル「あと……少して届くの……」

「ダーク・ナイト……（スバルのやつ……無駄なことを……）」

「

するとスバルはもう一つの手も使った

ビリリリリリリ！

「やめる……やめてくれ……」

「暁「そうだよめるんだ！」」

スバル「おおおおおお」

バリチイイイイ！

スバル「うおおおお届け……！！！」

すると黄金の石がさらに光スバルとライオーガを包んだ

パアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア

!!!!!!!!!!!!

ライオーガ「グオオオオオオ・・・オオオ・・・オ・・・オ・・・

」

そのときスバルの手がライオーガに届いた！

スバル「（今だ！）電波変換！」

すると・・・

キイイイイイイイイイイイイイイイイイン!!!!!!!!!!!!

暁「!!!」

ダーク・ナイト「!!!」

アシッド「!!!」

皆が見たもの・・・それは・・・

黄金のロックマン！

その姿は小さい鬼のような姿・・・そしてかたそうなヨロイ・・・
さらにロックマンの周りには雷が落ちてくる・・・しかし驚くのは
黄金の体をもっている・・・それはまるで・・・

黄金のヨロイ・ライオーガ！

第59話 奇跡の電波変換！（後書き）

それでは発表します！

「特別編2！」

その「特別編2！」のストーリーは7月の最後らへんに発表します！
お楽しみに！

第60話 黄金のヨロイ・ロックマンライオーガ！（前書き）

名前なつが！名前が「黄金のヨロイ・ロックマンライオーガ！」て・
・・まあいいか

第60話 黄金のヨロイ・ロックマンライオガ！

ダーク・ナイト「(うそだろ・・・あいつウオーロックをとめただけではなく・・・ライオガの力まで手に入れやがった、この場合・・・ロックマンを倒さねえーといけねえな)」

ロックマン「・・・これは・・・」

ライオガ『さーな』

ロックマン「わっロックその姿・・・」

ライオガ『ああっなんか知らないがこのままだったぜ』

ダーク・ナイト「クククじゃーそろそろ始めよう」

ロックマン「！」

ライオガ『・・・スバル』

ロックマン「うん！」

そして声そろえて言った

ロックマン・ウオーロック「ウエーブバトル・ライドオン！」

ダーク・ナイト「くらええダークブレイドオオオ」

ズバァン！

ロックマン「・・・」

ダーク・ナイト「ツ・・・」

ロックマンはビクともしなかった

ダーク・ナイト「くっダークホール！」

ギョオオオオオ

ロックマン「効かないよ・・・」

ダーク・ナイト「何っ!？」

暁「・・・なんだあれ・・・」

ロックマン「次はこっちからいくよ！」

するとロックマンは金色のハンマーをだした

ロックマン「ゴールデンハンマー！」
地面を叩いた

ドオオン！

ダーク・ナイト「どこに叩いてるんだ・・・ロックマン」
ロックマン「ニヤ」

するとダーク・ナイトの足元にひびが入った
ダーク・ナイト「!?」

ロックマン「地雷！」
地面から雷が出てきた

ババババババババババババ

ダーク・ナイト「ぐあああああああ」
ロックマン「やったあ」

ダーク・ナイト「ククク・・・こんな・・・で・・・まけ・・・て・・・
たまる・・・か！」

ダーク・ナイトは、ダークホールを出した
ぎゅおおおおお

雷を吸い込んだ
ロックマン「！」

ダーク・ナイト「・・・クククもう・・・限界だ・・・だが、これ
で終わらず！」

ロックマン「なんだ・・・あの黒いオーラは・・・」
ダーク・ナイト「ウオオオオオオオオオオオオオオオオ」

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ
ダーク・ナイト「ブラックナイトスピアー」

ドギューーン
ロックマン「くっ・・・」

ライオーガ『RKプログラムだ！』
ロックマン「わかった！」

第60話 黄金のヨロイ・ロックマンライオーガ！（後書き）

なんかすごい展開ですね・・・

第61話 決着(前書き)

今日から夏休みだああたくさん遊ぶぜええ
スバル「宿題は？」

・・・忘れてた！

第61話 決着

ドギユウウウウウウウウウー！！！！！！！！！！

そのときブラックナイトスピアとロックキャノンのぶつかりあいが始まった

ドドドドドドドドドドドドドドドドドドドド

ロックマン「うおおおおおとおおおおー！」

ダーク・ナイト「はあああああああああ」

ロックマン「つ、強い・・・あの技いままでとパワーが違う！」

ダーク・ナイト「まさかこんなに強いなんて・・・」

2人の技は激しくぶつかりあった

ドドドドドドドドドドドドドドドドドドドド

ロックマン「くっ・・・（負けるわけにはいかない！）うおおお

おおおおお」

ロックマンの体から黄金の光が出てきた

ズンッ

ダーク・ナイト「ぐうっ（急に力が強くなりやがった、いったいあ

いつはなんなんだ！）」

ロックマン「うおおおおおとおおおお」

ダーク・ナイト「！」

ロックマン「！」

そのとき・・・

ドオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ

!!!!!!!!!!

2人の攻撃が激しくぶつかりあつたため大爆発した

2人はその爆発にのみこまれた

暁「ロックマン！」

ロックマン「うわあああああ」

ダーク・ナイト「くううう」

ブアアアア！

ロックマン「くっ……負けて……たまるか……」

ダーク・ナイト「こんな所で……」

2人は最後の力を振り絞つて

ロックマン「うおおおロックバスター！」

ダーク・ナイト「ダークブレイドオオ！」

デュン　　ズバアン

ロックマン「……」

ダーク・ナイト「……」

2人はそつと倒れた……

ロックマン「（ロック……）」

ロックマンはすつと目を閉じた

ライオーガ「スバルウウウ！！？」

暁「！あれは……」

スバルの変身は解けていて倒れていた……

スバルの前にはライオも倒れていた・・・

暁「・・・！大変だっ息してない！」

ライオーガ「何っ！」

スバル「・・・」

「暁さん」

暁「！」

ミソラ「どうしたんです・・・！」

ゴン太「ス、スバル・・・」

スバル「・・・」

暁「皆、早くスバルを運ぶぞ！」

ミソラ「嘘・・・スバル君・・・」

スバルは運ばれた・・・

ライオーガ「（俺のせいだ・・・くそつくそつくそーっ！）」

そして3日後・・・スバルは命には助かったがいまだ目を覚まさな

かった・・・

第61話 決着（後書き）

次回・・・スバルは目を覚ますのか・・・？

第62話 ライオの決意！（前書き）

今日は涼しいですね・・・（寒いぐらいに）

第62話 ライオの決意！

ライオ「はあはあ．．．くそっ 負けた．．．」

?????5「ぶざまですね．．．ライオ．．．」

ライオ「うるせえ．．．」

ライオはひざをおいた．．．

ライオ「（俺は．．．俺は．．．絶対にウォーロックを倒さなければいけないんだ）」

ライオは少し過去のことを思い出していた．．．

5年まえ．．．

ライト「あらあらライオピーマン残しちゃだめでしょ！」

ライオ「えーっ、だって苦いんだもん！」

ロンオ「はは分かるぞその気持ち俺もよく残してたもん！」

ライト「ちよつとあなた！」

ロンオ「わりいわりい」

ライオ「！あつそろそろ塾に行かないと！」

ライト「あつライオ！ピーマン食べなさい！」

ライオ「いつてきまーす」

このまま幸せな暮らしが続くとおもっていた．．．でも．．．

ライオ「わわっ遅くなっちゃった」

ライオはいそいで家に帰った．．．しかし

ライオ「．．．お母さん．．．お父さん．．．？」

家には誰も居なかった．．．

そのとき

?????『ケケケ．．．やはり人間の生命はうまい．．．』

ライオ「だ、誰．．．」

?????『．．．ケケケ、ラッキーまだいたのか．．．こいつも食べ

よう．．．』

ライオ「えっ．．．こないで．．．怖いよお」

「???? いただきますーす」

ズバアン!

「???? 『! 誰だ!』」

「???? 『ククク・・・坊主助けてほしいか?』」

ライオ「うん」

「???? 『テメエーは誰だ!』」

ブラック・ナイト「ブラック・ナイト・・・DM星人だ!」

「???? 『(なに・・・DM星人だと!?)』」

すると・・・

「???? 『へっ・・・今回は見逃してやる、だが5年後・・・おまえを食ってやる!』」

そう言つて去つていた・・・

ライオ「うつつ・・・お母さん・・・お父さん・・・」

ブラック・ナイト「・・・くやしいか・・・」

ライオ「うつつん」

ブラック・ナイト「だったら力を与えてやる・・・しかし条件がある・・・」

ライオ「?」

ブラック・ナイト「ウォーロックをデリートするんだ」

ライオ「・・・」

ライオはその条件をのんだ

そして・・・

ライオ「5年後だ・・・僕・・・いや俺はすべてをブラック・ナイトに預けた・・・待っているウォーロック5年後・・・お前を・・・」

「・」

現代・・・

ライオ「はあはあ俺はウォーロックを・・・始末する!」

「????5」そうだ……それでいい、だが次は俺が行く……これは命令だ！」

ライオ「わかった……」

そのころスバルは……

スバル「……んっ……」

スバルは目を開けた……

第62話 ライオの決意！（後書き）

次回スバルが目覚める！

第63話 スバルの記憶（前書き）

なんか最近展開が暗い？ですね・・・しばらく続くかもしれません。

第63話 スバルの記憶

2日前・・・

ソロ「俺が・・・あんな奴ごときに負けた・・・」

ラプラス「・・・」

ソロ「ロックマン・・・お前はどこまで強くなるんだ・・・」

2日後・・・

スバル「・・・んっ・・・」

ウォーロック「スバル!？」

スバル「・・・!?わああああ」

スバルはベットから落ちた

ウォーロック「?、どうしたスバル?」

スバル「お・・・お化け・・・」

ウォーロック「!?なに寝ぼけてんだスバル」

スバル「うわああああ来ないでー」

そのとき

暁「どうした?」

スバル「お化け・・・」

スバルはウォーロックをゆびさした

暁「・・・お化けって・・・ウォーロックの事か?」

ウォーロック「・・・スバル・・・」

スバル「怖いよ・・・」

しばらくして・・・

皆「ええ

記憶喪失

!？」

ミソラ「それって・・・スバル君は私達のこと忘れちゃったの?」

ヨイリー「そうね・・・どうやらスバルちゃんのお父さんが事故に

あう前の記憶はのこってるみたいだね・・・」

スバル「あの」

ヨイリー「何？」

スバル「ここ……どこですか？」

ヨイリー「ここはWAXAよ」
ワクサ

スバル「わくさ？」

ゴン太「……スバル……」

スバル「えっ……誰？」

ゴン太「本当に俺達の事忘れたのかよ

委員長「ゴン太！そんなに強く言ったら……」

スバル「……ごめん……」

ゴン太「！」

スバル「僕……本当に覚えてないんだ……」

ミソラ「スバル君……」

ウォーロック「……スバルごめんな……俺が無茶させて……」

スバル「なんで、おば……ウォーロックがあやまるの……？」

ウォーロック「……そりゃ……」

スバル「僕があやまんないといけないのに……ウォーロックがあ

やまるなんて……」

ウォーロック「いいや俺があやまんねーといけないんだ……あの

時俺が助けてれば」

スバル「ウォーロック……」

しかしある所では……

????5「……そろそろ行くところ……」

????「そうだな……」

????5「……」

第64話 フェニックス！（前書き）

・・・なんか少しややこしい展開になってしまったーっ！？

第64話 フェニックス！

夜・・・

スバル「（僕はなんでこんな事に・・・どうして・・・）」

ウォーロック「（やばいな・・・今のスバルの状態で敵が来たら・・・

・確実に負ける・・・）」

スバル「・・・ねえ・・・ウォーロック・・・」

ウォーロック「なんだ？」

スバル「僕ってどうだった？」

ウォーロック「・・・はあ？スバルはスバルだろ・・・」

スバル「いや・・・記憶が無くなる前の・・・僕」

ウォーロック「・・・教えてくれた・・・」

スバル「なにを？」

ウォーロック「「キズナ」だ」

スバル「キズナ・・・」

ウォーロック「・・・スバルは自分の命ではなく人の命を守った・・・

・自分がどんなに傷つこうとも・・・」

スバル「ウォーロック・・・」

ウォーロック「それで俺は知った・・・人は守ってこそ「キズナ」

が広がっていく事を・・・」

スバル「・・・」

そして・・・次の日の朝・・・

スバル「ふぁ」

スバルは起きた・・・

スバル「（・・・記憶が無くなる前は・・・ウォーロックと合体してたんだよね・・・なんか頭の中が真っ白になってくる・・・考えるほど・・・）」

そのころ・・・
「????5」・・・やるか・・・」
「????」ああ・・・」
「????」「まて！」
「????」!」
「????5」誰だ！」
「????」「こたえる必要も無い・・・いくぞ!バード！」
バード「いいぜ！」
「????」電波変換！」

キーン!

「????」・・・こいつは・・・」
「????5」知っているのか？」
「????」「ああ、こいつは・・・俺達で作った電波体だ・・・」
「????5」「そうか・・・」
「????」「・・・さあやるぞ・・・」
「????5」「・・・お前・・・なんなんだ・・・」
フェニックス「僕はフェニックス・・・お前達の野望を壊しに来た・・・」
「」
「????5」フェニックスか・・・覚えておこう・・・サラバだ・・・」
「」
そして????5はきえていった・・・
フェニックス「・・・(動いたか・・・あいつが・・・)」
バード「どうする?」
フェニックス「とりあえずWAXAワクサに向かおう」
バード「そうだな」
そして・・・WAXAワクサに向かった・・・

第64話 フェニックス！（後書き）

新キャラクター「フェニックス」！

果たして敵か？味方か？どっちだぁー！？

第65話 電波変換！？（前書き）

！
最近ストックがなくなりそうです・・・誰かー助けてくださーい

第65話 電波変換！？

昼・・・

ウォーロック「ス・・・スバル・・・お前・・・」

スバル「記憶はないけど・・・ウォーロックと合体できるかもしれない・・・」

ウォーロック「しかし・・・」

スバル「でももし敵が来た時どうするの？」

ウォーロック「それは・・・ゴン太や暁がいるだろ・・・」

スバル「でも！本当は僕がやるんでしょ！？」

ウォーロック「・・・（スバル・・・）」

スバル「それに・・・もしかしたら合体したら思い出すかもしれない」

ウォーロック「・・・分かった・・・だが無理はすんな」

スバル「うん」

ウォーロック「スバル叫べ！電波変換って！」

スバル「・・・で・・・電波変換！」

キーン！

ロックマン「・・・うわっ僕の手が！」

ウォーロック「（なんかスバルと初めて電波変換した事を思い出す

な・・・）」

ロックマン「おおっ体がかかる・・・ッ」

ウォーロック「どうしたスバル！」

ロックマン「い・・・痛い・・・頭が・・・」

ウォーロック「スバル・・・思いだしたか？」

ロックマン「くっつうわあああ」

ウォーロック「スバルーッ！」

キイーン！

スバル「……」

ウォーロツク「スバル……」

スバル「ん……あれ……痛いのがなくなった……」

ウォーロツク「大丈夫か？」

スバル「平気だよ……」

そのころ……

???「ついた……ワクサWAXAに……」

バード「入るか？」

???「入るに決まってるでしょ！」

バード「……もしかしてこの兄ちゃんに会うためにここに来たりして……」

???「(ギクツ)」

バード「(凶星か……)」

???「まあ行こうよ……」

バード「うん」

???とバードはワクサWAXAに入った

第65話 電波変換！？（後書き）

????のいとこがWAXAワクサにいる・・・果たして誰なのか？
わかる？

第66話 ドラケ

暁「（スバルの記憶か・・・）」

アシッド「暁・・・そう心配しないで、平気ですよウォーロックがいますしね・・・」

暁「ああ・・・」

ヨイリー「・・・あら、いたわ」

暁「？ヨイリー博士・・・」

ヨイリー「あなたにお客さんよ」

暁「客？」

スバルは・・・

スバル「ねえウォーロック」

ウォーロック「なんだ？」

スバル「もう一度合体しようよ！」

ウォーロック「だめだこれ以上は」

スバル「なんで？」

ウォーロック「合体・・・電波変換は想像より危険なものなんだ・・・」

スバル「危険？」

ウォーロック「ああ・・・とくに今のスバルとでは最大でも2分間しか変身できない・・・それにそれ以上やると・・・」

スバル「・・・」

ウォーロック「自分の神経も破壊するしな・・・」

スバル「えっ？」

ウォーロック「記憶をなくしている今は・・・自分の力を制御できないから自分の体がもたないそれに、敵が来たとき・・・足手まといになるからな・・・」

スバル「足手まとい・・・」

そのころ……

暁「なつ……おまえなんでここに!?ドラグ!」

ドラグ「へへへ……」

バード「(やつぱり会いにきただけか……)」

ドラグ「そいえばあか兄、あいつ達が動きだした!」

暁「……やはり動きだしたか……(あのとときディーラーを抜けたやつか……)」

ドラグ「ねえあか兄あの人いる?」

暁「ああ……いるが……今記憶喪失なんだ……」

ドラグ「ええっ!?!」

バード「(記憶喪失……まさか……)」

ドラグ「ねえいつていいスバルさんの所」

暁「いいが迷惑かけんなよ」

ドラグ「うん!」

バード「たしかめてみるか……」

ドラグ「いこうバード!」

バード「わかったまっつて」

ドラグは、スバルがいる部屋に行った……そして
ドラグ「ここだ……よし入ろう!」

ガチャ!

第66話 ドラゲ（後書き）

なんと新キャラドラゲ！
やっと味方の仲間ができた！

第67話 記憶の鍵(前書き)

はあ・・・いいネタでねえー！

第67話 記憶の鍵

ドラグ「おじやまします……！」

スバル「！」

ウォーロツク「誰だ！」

ドラグ「まあまあ怪しい物ではないから……」

バード「それよりちよつと星河スバルの頭を見せてくれ」

ウォーロツク「なっ……いつからそこに居た！鳥！」

バード「誰が鳥だ！（鳥だけでも）」

ウォーロツク「それよりなんだ？おまえ達は……」

ドラグ「僕はドラグ！それと隣に居るのは僕のウィザードのバード
！」

バード「よろしく、じゃー頭を……」

ウォーロツク「ちよつと待て、なんで頭を見るんだ？」

バード「星河スバルの記憶を見るのさ」

ウォーロツク「はあ？スバルは記憶をなくしてるんだ！それをどう

やっ……」

バード「メモリーロック記憶見！」

ウォーロツク「めもりーるつく？」

ドラグ「バードは人の記憶を見る事が出来るんだ！」

バード「……！（これは）」

ウォーロツク「ふーん」

バード「……わかつたぞ……星河スバルの記憶が消えたのが……」

……」

ウォーロツク「マジで！？」

バード「星河スバルの記憶は誰かの手によって鍵がかかっている」

ウォーロツク「鍵？」

スバル「あの それでその鍵を外すとは……」

バード「無理だな今は」

ウォーロツク「どうやったら外せる！」

バード「人間の解除プログラムを作ってもらつか……鍵をかけた奴を倒すしかないな」

ウォーロツク「しかし……鍵をかけた奴は誰だ？」

ドラグ「たぶんあいつだよ……」

ウォーロツク「あいつ？」

ドラグ「元ディーラーの人だよ……」

ウォーロツク「元？」

バード「たしかにあいつしか、こんな鍵をかけるプログラムをつくれないしな」

ウォーロツク「……だがあいつをたおせばいいんだな」

バード「それも無理だな」

ウォーロツク「なつなんでだ！」

バード「たしかにWAXAには強い奴も居る……しかしウォーロツクの中にいるライオオーガの力じゃなければ勝てない……」

ウォーロツク「じゃーどうしたら……」

バード「やはり解除プログラムを作ってもらうしか……」

ヨイリー「ならいい人が居るわよ」

ウォーロツク「うおおいつの間に！」

ドラグ「ヨイばー！」

バード「それで博士そのいい人って……」

ヨイリー「私の友達の子供が科学者なのたぶんその人ならそのプログラムを作ってくれるわ！」

スバル「科学者？」

第67話 記憶の鍵（後書き）

次回オリジナルキャラクターです！
送ってくれてありがとうございます！

第68話 科学者ダイヤモンド！(前書き)

ダイヤモンドか・・・(ポケモン?)

第68話 科学者ダイヤパール!

????「はあ……暇……」

????「なあ……博士……」

????「なによ実験台……」

????「(実験台って……)なんであのとき俺をえらんだ」

????「さあね……ただびったりだったのよ……あなたのその目が……」

????「目って……」

そのころ……

ウォーロツク「……まだか?」

バード「何言つてんだ……まだ1時間しか歩いてないぞ」

ウォーロツク「いや……歩いてないが……暇だ」

バード「……フツ……」

ウォーロツク「このお……笑つたな……」

バード「いや……以外にわががまだつたもんで……」

ウォーロツクはきれた

ウォーロツク「このやるお俺がいつわががま言ったああああ!」

ドラグ「あはははは(笑)」

スバル「あつ……見えたよ」

皆「えつ……」

そこには……お城がありました

バード「……期待できそうですね……」

ウォーロツク「でえええ」

ドラグ「わーいわーい」

そのとき……

????「誰だ! テメエーら、ぶつ飛ばすぞ!」

ウォーロツク「なんだ……おまえ、いきなり出てきて」

「???」へっこの怪しい奴らめ俺様が追い出してやる!」
バード「こいつ・・・やらないといけないみたいだ・・・」
「???」へっ、見せてやる!俺の電波変換を!」
ウォーロック「何いいい」
「???」電波へ・・・」
すると女の声が出た・・・
「???」やめなさい!」
「???」わわっ・・・」
バード「!」
スバル「!」
ドラグ「!」
「???」はあ・・・まったく・・・」

数時間後・・・

スバル「・・・あの・・・」
「???」なによ」

ウォーロック「(なんだ・・・この女は・・・まるで委員長だ)」

バード「・・・まずは自己紹介からだ・・・俺はバード」

ドラグ「ドラグです!」

スバル「ス・・・スバルです・・・」

ウォーロック「ウォーロックだ」

ダイヤパール「そう・・・私はダイヤパールよ・・・そしてこのチビは弓垂よ」

弓垂「チビって言うなああ!」

ダイヤパール「なまいきよチビ!」

弓垂「ぐぐっ・・・(このヤロオ)」

ダイヤパール「んで・・・なんでここに来たの?」

ウォーロック「スバルの記憶の鍵を解除してほしい・・・だから作ってくれそのプログラムを」

ダイヤパール「・・・あのね・・・一言、言うわ・・・無理よ!」

ウォーロック『なにいいいい!』

ダイヤパール「普通に考えなよ人はデータとは違ってそんなの作れないわ……」

スバル「……」

ダイヤパール「……でもね……電波人間なら出来るわ……」

ウォーロック『本当か!?!』

ダイヤパール「ええ……でも……」
すると

弓埴「あ?なんだ博士」

ダイヤパール「このチビにかつたらやってあげるわ……でも負けたら……」

ドラグ「負けたら?」

ダイヤパール「あなた達を実験台にするわ……フフフ」

皆「ええー!」

第68話 科学者ダイヤパール！（後書き）

いきなり・・・バトル！？それに負けたら実験台って・・・
次回どうなるのか！？

第69話 弓亜の電波変換！（前書き）

・・・オリジナルキャラクターを送ってきてくれた人は・・・4人・
・・・前回より1人増えました・・・（それでも俺嬉しい・・・）（
涙）

第69話 弓亜の電波変換!

ウォーロック「実験台って……たとえばどんな実験するんだ……？」

ダイヤパール「フフフそれわね……」

するとウォーロックだけに教えた

ダイヤパール「コソコソ……コソコソ……フフフ」

ウォーロック「……ひいひいひい」

そして……

バード「……で、実験ってなんだ？」

ウォーロック「……おい……この勝負勝つぞおお！」

バード「(そんなに恐ろしい実験なのか?)」

弓亜「……はあ……」

ダイヤパール「……さあ行きなさい、実験台！」

弓亜「実験台いうな！」

ウォーロック「(あいつ……実験台なのか……)」

バード「やるぞドラグ！」

ドラグ「おおっ」

弓亜「へっ2人でもいいぜ！」

バード「俺達だけでいい……いくぞ！」

ドラグ「電波変換！」

キーン!

フェニックス「うおおお」

弓亜「……へえ　これがテメエの変身か……でも俺のほうが
すげえーぜ！」

ウォーロック「!……こいつ……」

弓亜「テメエなんか10分で倒してやる……電波変換！」

キイイン！

アーチェリー・R「アーチェリー・R！」ニミ

フェニックス「おお かつこいい！」

アーチェリー・R「へっ・・・余裕こいてるのも今のうちだ！」

フェニックス「いくよ フェニックスブレード！」

すると羽が剣になった・・・

フェニックス「うおおお」

アーチェリー・R「バリア！」

ズバン！

フェニックス「なにい・・・」

アーチェリー・R「これでもくらいな！インフィニティーアロー！」

するとたくさんの矢がこつちやつてくる

フェニックス「うわああああ」

フェニックスにたくさんの矢がふりそそぐ

アーチェリー・R「チェックメイトだ！」

ダイヤパール「・・・3分51秒・・・わるくないわ」

フェニックス「くっ・・・」

バード「無理するな！」

ウォーロック「・・・やべえ・・・このままだと・・・」

スバル「・・・ウォーロック・・・」

ウォーロック「なんだ？」

スバル「合体しよう！」

ウォーロック「しかし・・・」

スバル「でもこのまま実験台になるよりは、まだよ！」

ウォーロック「スバル・・・そうだな・・・スバル！暴れよう

ぜ！」

スバル「うん！」

ウォーロック「電波変換だ！」

スバル「電波変換！」

キイイイイン！

ロックマン「……ぜったいに取り戻すんだ、僕の記憶を！」

第69話 弓亜の電波変換！（後書き）

次回ロックマンVSアーチェリー・Rリミットの戦い！

第70話 ロックマンVSアーチェリー・R(前書き)

ロックマン対アーチェリー・Rミニどっちが勝つか？

第70話 ロックマンVSアーチェリー・R

アーチェリー・R「……ほう temeエーが噂のヒーロー……ロックマン！」

ロックマン「噂？」

アーチェリー・R「おもしれえ……こいよ！」

ロックマン「……ウォーロック……」

ウォーロック「なんだ？」

ロックマン「どうすればいいの？」

ウォーロック「（そうだった……戦い方も忘れてるんだ……）
とにかく「バトルカード」を使え！」

ロックマン「……これか……わかった！ロングソード！」

すると腕がロングソードになった

ロックマン「わわっ……腕が……」

ウォーロック「こいつで攻撃すんだ……やれ！」

ロックマン「うん……」

アーチェリー・R「はっ、記憶なくしてても容赦しねえーぜ！」

ロックマン「うおおおおお」

ズバン！

アーチェリー・Rはトゲかわした

アーチェリー・R「遅い！スピアショット！」

シューッ

すばああん

ロックマン「わあああああ」

ロックマンの体に弓矢が命中した！

ドサッ

ロックマン「くっ……い……痛い……」

アーチェリー・R「……これが世界を救ったヒーローか？……はっ！だつたら俺がヒーローになってやるよ……おまえみたいなザコじゃねー俺が！」

ウォーロック「おまえ……やっぱり気にいらねえ……」

ダイヤパール「……フフ……終わりね……」

アーチェリー・R「とどめだ！」

ロックマン「……ロックバスター！」

デュン！

アーチェリー・R「ぐっ……まだやるようだな……」

ロックマン「はあはあ……体がかつてに……動いた……？」

ウォーロック「……（スバルは完全に忘れてるわけじゃねえ……

・スバルの体が覚えているんだ戦い方を！）」

アーチェリー・R「……やっぱり戦いはこうじゃねえとな！」

ロックマン「……ロックバスター」

デュン！

アーチェリー・R「もう同じもんは、きかねえよ！」

アーチェリー・Rはかわした

ロックマン「くっ……もういつか……！」

ロックマンの体に痛み走った

ウォーロック「スバル？」

ロックマン「ぐっ……あああああ！」

ダイヤパール「……10分まであと……3分……」

第70話 ロックマンVSアーチェリー・R（後書き）

ロックマンピンチ！？次回どうなるーっ！？

第71話 ロックマン暴走!?(前書き)

つかれた・・・

第71話 ロックマン暴走!?

ロックマン「うわああああああ」

ウォーロック「スバル!」

アーチェリー・R「どうした?大声だして」

するとロックマンの姿が変わっていく

アーチェリー・R「なんだ・・・へっ姿が変わっても俺には勝てねえよ!」

ロックマン「ぐっ・・・おおお」

ウォーロック「やべえ・・・(俺は「あの」プログラムがあるから暴走しないが・・・)」

ロックマン「ぐおおおおお」

アーチェリー・R「へっ・・・これでとどめだ!インフィニティアロ
ー!」

すると上に無数の矢が降ってきた

ロックマン「ぐおおおお」

ロックマンは無数の矢を交わした

バード「・・・あいつ・・・」

アーチェリー・R「何・・・(全部交わしたと?)」

ロックマン「ぐおおおおおおおおおおおお」

アーチェリー・R「くっ・・・」

ダイヤパール「あの子・・・まさか・・・」

アーチェリー・R「なあ・・・博士」

ダイヤパール「何よ」

アーチェリー・R「あれ」やってもいい?」

ダイヤパール「いいけど・・・残り1分30秒よ」

アーチェリー・R「へっ・・・十分だ・・・」

ロックマン「ぐおおおお」

アーチェリー・R「ターゲット!」

するとアーチエリー・R（レミ）の目から赤い線が出てきた
ロックマン「？」
アーチエリー・R「つらぬけ！センサーショット「レベル3」！」
アーチエリー・R（レミ）は矢を放った
ギューウウウウウウウウ！

ドン！

ロックマン「……」
アーチエリー・R「へっ……やった」
するとロックマンの姿がもどっていく……
ダイヤパール「時間よ……」
アーチエリー・R「……へへっ早いな……10分は……」
そして変身を解いた
ロックマン「んっ……あれ……僕……」
弓垂「何……（まさか……俺がまけただと……）」
ロックマン「やった！」
ダイヤパール「あの子達の勝ちね……それと……」
弓垂「？」
ダイヤパール「弓垂……よく頑張ったわね……」
弓垂「……ふんっ！」
ダイヤパール「それじゃ……やるわよ」
ロックマン「えっ……」
ダイヤパール「あなたの記憶を取り戻すのよ！」
ロックマン「……はい！（これでやっと……僕の記憶が戻る！）」

そのころ

「??.??.5」そろそろ……だな……
「??.??.?」あ……」
「??.??.5」いくぞ…… WワクサA X A に!

第71話 ロックマン暴走!?(後書き)

次回は、とうとうスバルの記憶がああああ戻るかも!

第72話 記憶の中で・・・(前書き)

どーもーレッドスターです

なんと次回は、特別編の発表です！

第72話 記憶の中で・・・

ロックマン「ここは・・・」

ロックマンの目の前には大きな機械があった

ウォーロック「でええええ」

ダイヤパール「実はこの機械は実験用よ」

ロックマン「実験用!？」

ウォーロック「まさか俺達をだましたのか・・・」

ダイヤパール「・・・それは違うわ」

ウォーロック「？」

ダイヤパール「この機械は確かに実験用・・・でもあなた達が来る前に少し改造したのよ」

ロックマン「えっ・・・なんで・・・」

ダイヤパール「あなた達が来る前にヨイリーばーちゃんが連絡くれたのよ」

ウォーロック「そうだったのか・・・」

ダイヤパール「まあ、でもあなた達の力を実験するけどね」

ロックマン・ウォーロック「ええー！ーっ!?!?」

ダイヤパール「じゃー始めるわよ・・・」

すると大きい機械が動きだした・・・

ダイヤパール「さあ、入りなさい」

ロックマン「・・・」

ウォーロック「いくぞスバル」

ロックマン「うん!」

ロックマンは大きい機械の中に入った

ダイヤパール「それじゃーお休みなさい」

すると・・・

ロックマン「・・・あれ？」

ウォーロック「なんか・・・眠く・・・な・・・る」

第72話 記憶の中で・・・（後書き）

次回スバルの・・・中！？

それとダイヤパールを考えてくれたのは・・・ねず・・・牛先輩
です！

ありがとう！

第73話 記憶のかけら(前書き)

どーもーレッドスターです。
特別編の発表はこのあとです

第73話 記憶のかけら

ダイヤパール「さっ！始めましょうか・・・」

するとさっきのバズーカの中から3つの玉が出てきた

コロコロ・・・

するとその玉を機械にはめ込んだ

カチツ・・・ブウウン

ダイヤパール「・・・起動！」

すると機械の中に居るロッキマンが少しずつ浮いていく

ダイヤパール「つぎは、あのこの頭に打ち込めば・・・」

ダイヤパールはスイッチを押した

ポチッ

シュン！

ロッキマンにデータを打ち込んだ

ロッキマン「・・・くっ・・・うっ・・・」

スバルの頭の中

ドラグ「ん・・・あれどこどこ？」

バード「・・・どうやらここは、星河スバルの頭の中ようです」

弓垂「うん？・・・ここは・・・あっ！！！」

すると弓垂が立ち上がった

弓垂「くう おのヤロオ・・・」

ドラグ「・・・あれ？」

バード「どうした？」

ドラグ「なんか頭の中に文字が浮かんできた」

弓垂「はあ？文字？ふはははははそんな事あるわけ・・・」

あつた！？

バード「たしかになんかの文字が見えます・・・！」

・24時間のあいだに記憶の鍵を解除すること

・けして暴れない事

・24時間までに解除できなかつたら自分が消滅する

弓垂「・・・消滅？」

ドラグ「・・・」

バード『・・・つまり時間内に記憶の鍵を解除しないと俺達が消えるってことか・・・』

ドラグ「・・・僕・・・やるよ」

弓垂「へっ・・・俺は、手伝わねえよ」

バード『手伝わないと消えるぞ！』

弓垂「そんなこと知るか！やるならテメエーらだけでやってこい！俺はやらねえ！」

バード『こいつはほんとこっぴど俺達だけでやろう・・・ドラグ』

ドラグ「うん・・・」

バードとドラグは記憶の奥に行った

弓垂「けっ・・・」

ドラグとバードは・・・

ドラグ「なんか暗くなってきた・・・」

そのときドラグの足が引つかかった

ガッ

ドサッ

ドラグ「いたー・・・ん？」

ドラグの足の下には、なんかの「かけら」があった・・・

バード『これは何かのデータですね』

ドラグ「・・・とっところ・・・」

ドラグは何かのデータを拾った・・・

ハード『ドラグ、急ごう！』
ドラグ「うん！」

第73話 記憶のかげら（後書き）

特別編2の・・・話は・・・なんとおーーーーーっ！

コラボです！違う小説の「失われし大切な絆」を書いている牛先輩
先生と共演！

夢のコラボです！（もちろん許可は取っています）
お楽しみに！

第74話 発見！記憶の鍵！（前書き）

たぶん次回は「特別編」です！

第74話 発見！記憶の鍵！

ロックマン「うう………」

ダイヤパール「30分経過……残り23時間30分……」

ロックマンの頭の中……

ドラグ「うわっ、何も見えない……」

バード「はぐれないでくださいよ」

……

バード「？、ドラグ？」

シン……

バードはあせつた

バード「言ってるそばからはぐれたあ

！？」

そのころドラグは……

ドラグ「あれ？バード？どこ！？返事してよ！」

……

ドラグ「………」

そのころ弓垂は……

弓垂「………けっ！（なんであいつらは、人のために命をかける……）」

弓垂は、地面を叩いた

ドンー！

弓垂「………うぜえ……あいつらうぜえ……たった1人のため

に命をかけるなんてどうかしてるぜ！」
そのとき弓垂の頭の中にあの言葉が浮かんだ
「あとはたのんだよ・・・弓垂・・・」
それは、タイヤパールの言葉だった
弓垂「・・・チツしかたねえな・・・」

そのころバードは・・・
バード『おいドラグー！』
返事はなかった・・・
バード『どこに行っただんだ？ドラグは・・・！』

ドラグは・・・
ドラグ「はあ・・・暗いよ・・・」
そのとき！

ピカアアアア

さつき拾ったデータが光り始めたさらに道の奥に光っている物があった

ドラグ「？、なんだろ」
近づいて見るとそれは、ドラグも持つてるデータだった
ドラグはとりあえず拾った・・・
ドラグ「（なんかデータ拾い・・・はまりそう）」

そのころバードは・・・
バード『こっ、これは・・・』
バードの目の前には大きな「鍵」だった
バード『で・・・でかい・・・』

第74話 発見！記憶の鍵！（後書き）

次回はたぶん「特別編2」！お楽しみに！

特別編2 第一と第二の世界(前書き)

レッドスター「どーもーレッドスターです今日は、なんと！ゲスト牛先輩先生が来ています！」

牛先輩「あつどーも．．．．．」

レッドスター「．．．．．(テンションひくう〜)」

牛先輩「何でいるのかは前々話を読んでください(レッドスター先生の小説)」

クロウ「やーやーどーもどーも牛先輩のキャラのクロウで〜〜す」

レッドスター「おおっクロウだ！(本物初めて見た)」

ドラグ「わぁ なんかバカそう」

バード『(初めて会って何言ってるんだ？ドラグは．．．)』

クロウ「君も君でガキっぽいね」

ドラグ&クロウ「こいつとは．．．仲良くなれそうな気がする．．．」

牛先輩「おい！おまえら俺は！？何友情芽生えてんだ！？」

ドラグ「ねえクロウさんどっか行こうよ！」

クロウ「OK」

そして．．．ドラグとクロウは走ってどこかに行ってしまった．．．遠くに

レッドスター「．．．これ．．．前書きだよな．．．牛先輩先生？」

牛先輩「たぶん」

果たして次回ドラグとクロウは、帰ってくるのかあ〜〜〜

レッドスター&牛先輩「続くの！？」

続きます

特別編2 第一と第二の世界

某所某時刻

「クククク準備は整った・・・」
謎の男の声が響いている

コダマタウン（第一の世界）

スバル「・・・なにこれ？」

スバルは、メールを見てこう言った

ウォーロック『何って、メールだろ』

スバル「そうなんだけど・・・何か変なんだ」

ウォーロック『どれ、見せてみる！』

ウォーロックは、そのメールを見た

「星河スバルへ

ロックマンの姿で展望台に来てもらう・・・」

スバル「・・・行かないほうがいいかな？」

ウォーロック『そのほうがいいな』

スバル「・・・あれ？まだ続きがある」

「来なかった場合、君の友達の命は無い

もちろん1人で来い」

スバル「友達？・・・まさか！」

ウォーロック『たぶん委員長たちの事だろ』

スバル「・・・行こう！」

ウォーロック『ああっ！』

スバル「トランスコード・シューティングスターロックマン！」

キイイン！

ロックマン「行こう、展望台へ！」

コダマタウン（第二の世界）

キーンコーンカーンコーン

「やばい遅刻だぁー！ー！」

学校に遅刻し走っているスバル

『俺は何回も起こしたぜ』

「よし、ロック、電波変換だ！」

『しかたね・・・ん？』

言葉の途中でいきなり黙るウォーロックにスバルは

「どーしたの？ロック・・・！」

「やぁスバル君」

「ツ、ツカサ君！？どうしてここに！？」

スバルが驚くのも無理はない

今スバルの目の前にいるのは

半年前転校してしまった

双葉ツカサなのだ

『おいジェミニはどうした！？』

「え？い、今はいないよ」

ウォーロックの間にツカサは焦っていた

『？』

「どうしたの？ツカサ君？」

「そ、それより僕と来てほしいんだ」

「え、でも学校が」

「来てくれるよね？」

「は、はい」

何故かツカサから恐ろしいオーラを感じ従うしかなかった

そして着いたのは展望台だった

特別編2 第一と第二の世界（後書き）

どうでしたか？俺が書いている世界は「第一の世界」です。

そして牛先輩先生が書いた世界は、「第二の世界」です・・・俺の作品と牛先輩先生の作品を両方読んでいる人は嬉しいです！

次回も「特別編2」！

特別編2 謎の男・・・シュン(前書き)

どーもー今日は、2回目です。

安心してください牛先輩はいませんので

まあ・・・クロウはいるけど・・・

とにかく2回目というわけですが・・・前回の前書きはともグダグダでした(涙)

ではどうぞ！

特別編2 謎の男・・・シュン

展望台（第一の世界）

ロッキマン「はあはあ・・・」

ウォーロック「！、スバル、あそこだ！」

ロッキマン「委員長！」

スバルの目の先に委員長達が倒れていた

ロッキマン「誰がこんなことを・・・」

ウォーロック「・・・！これは」

ロッキマン「どうしたの？ロック」

ウォーロック「何かが来る・・・それに・・・」

ロッキマン「それに？」

ウォーロック「邪悪な力を感じる」

ロッキマン「邪悪な・・・力？」

そのときウォーロックが

ウォーロック「！、スバル！逃げろ・・・」

ロッキマン「わかつ・・・え？」

ウォーロック「なっ・・・」

ロッキマンの後ろに人が立っていた

????「やあ、おはよう！」

ロッキマン「だ、誰ですか・・・」

シュン「俺の名前はシュン！よろしくーっ！」

ロッキマン「よ・・・よろしく・・・」

ウォーロック「（おかしい、さっきまで邪悪な力が感じたのに今は、
感じない・・・）」

シュン「ところで1つ教えてほしいんだけど・・・」

ロッキマン「はい」

シュン「ロッキマンで君かい？」

ロッキマン「はい」

ウォーロック『!』

ウォーロックは、焦った

ウォーロック『スバルそこからにげるーっ!』

ロックマン『え……』

シユン『そうか……君がロックマン』

ロックマン『!』

シユン『ロックマン』

ロックマンは、戦う体制にはいった

ロックマン『なんだ!』

シユン『俺は、君をもう1つの世界を案内しよう』

ロックマン『何っ?』

そのときロックマンの下に大きな穴が現れロックマンは、その穴に落ちてしまった!

ロックマン『うわあああああああ……』

展望台(第二の世界)

「て、展望台?」

スバルから出た一言にツカサは

「うん、ちよつと用があつ……て!」

突然殴られそうになってスバルは後ずさる

「な、なにをするの!? ツカサ君!」

『スバル! こいつはツカサじゃねえ!』

「えっ!?!」

「さすが世界を救ったヒーローのウィザード……
勘が冴えてるね」

その言葉と共にツカサの姿が変わり

黒いスーツの男に変わる

「それにしてもよくわかったね……周波数は
双葉ツカサとまったく同じのはずなのに……」

『ツカサがジエミニと一緒にじゃねえからだ』

「へえそれだけでわかるんだ

さすが犬っぼいだけある」

『誰が犬だ！グアアアアルルル』

「完全に犬だよ」

『だあまありやー！ー！』

もはや日本語になっていなかった

ちなみに訳すと『黙れやー！ー！』である

「・・・あなたは誰ですか？」

「ん？僕かい？僕はシユン」

『スバル！こいつなんかあぶねえ！

電波変換だ！』

「うん！

トランスコード シューティングスターロックマン！！」

スバルは強い光に包まれ

光が消えるとそこにはロックマンが立っていた

「待ってたよその姿になるのを」

パチン

シユンの指鳴らしと同時に

ロックマンの足元に大きな穴が開き

ロックマンは穴に落ちてしまう

「うわああああー！ー！ー！ー！」

特別編2 謎の男・・・シュン（後書き）

いやぁ〜終わったぁーもうすべてが終わったー

クロウ「じゃ、死ぬ？」

ええつやだ！まだ死にたくない！（まだ若いのに）

クロウ「俺の方が若いよ！」

えっ！？なんで俺の心の声があったの？

クロウ「それは・・・次回教える」

続くの！？

続くよ

特別編2 第三の世界(前書き)

どーもーレッドスターでーす

クロウ「ZZZZZZZZ」

・・・あれ？クロウ君？なんで出てきていきなり寝てるの？

クロウ「ZZZZZZZZ」

・・・まあいいか(めんどいし)

クロウ「ZZZZZZZZ」

・・・ではどござ

特別編2 第三の世界

??? (第三の世界)

ロックマン&ロックマン「うわああああ」「」

2人のロックマンは、すごい勢いで落ちた

ドサーッ!

ロックマン&ロックマン2「いてて・・・ん?」「」

ロックマン同士目をあわせた

ロックマン&ロックマン2「うわあああ僕!?」「」

ウォーロック&ウォーロック2「どうしたスバ・・・ルが2人

!? おおっ俺も2人!?!?!」

ロックマン&ロックマン2「ロックも2体・・・なんで?」「」

ウォーロック&ウォーロック2「しらねえーよ・・・真似すんな

ー! ツッ! 俺!」

ロックマン&ロックマン2「(なんか・・・おもしろい)」「」

ウォーロック「とにかくここはどこなのか調べるぞ! スバル!」

ロックマン&ロックマン「うん!」「」

ウォーロック2「ど・・・どっちがスバルであっちがスバルで??」

ウォーロック2は混乱し始めた

ロックマン2「ロックしっかり!・・・でどっちがロックなの?」

ウォーロック&ウォーロック2「俺だあああ!」

ロックマン「あ　もう、どっちがどっちなの　!?!」

しばらくして・・・

ロックマン「えーと・・・こっちのロックが君ので」

ウォーロック2「おう!」

ロックマン「で・・・こっちが僕なので・・・」

ウォーロック「物みたいに言うな!」

ロックマン2「ところで……ここはどこなのか調べようよー！」
ロックマン「そうだね！」

ウォーロック&ウォーロック2『おう！……おい俺！だから真似すんな！』』

ロックマン&ロックマン2「（やっぱりおもしろい）」

そして……ロックマン達はいろんな所を調べた、そしてロックマン達はあることを知った……それは……

ロックマン「……ここって……」

ロックマン2「僕の家……」

ウォーロック『おいおいそれになんだ？いろんな所が破壊されてやる』

ウォーロック2『おいおい……まさかここ……』

『コダマタウン……？』

ロックマン「……！母さん！」

ロックマンはドアを強く引いた

ギイイイイイ……

ロックマン2「……うそ……誰もいない……」

ウォーロック『オフクロ……！』

ウォーロック2『誰だ！』

????『ブロロロロロ……』

ロックマン「この声……ゴン太！」

しかしロックマン達が見たもの……それは……

ノイズに操られているオックス・ファイアだった

特別編2 第三の世界（後書き）

今回で特別編2は、3回目！前回よりも結構短いです・・・

クロウ「おっは〜 今は17時だよ〜」

（おは タ？）やっと起きたか居候！

クロウ「俺に影響されて的確に人を傷つける言葉が言えるようになったね」

・・・てかさ、前回の続きなんだけど何で俺の心の声を読んだんだ？

クロウ「失われし大切な絆の最初の番外編見れば分かる ヒントは作者ゾーン」

・・・（作者ゾーン？）答えは？

クロウ「作者ゾーン」

（さっきのヒントとまるつきり一緒だあああ）

クロウ「そうだね」

（こ・・・こいつ・・・また俺の心のおお・・・）

クロウ「んじゃお休み」

・・・結局こいつ何なんだ？

クロウ「ZZZZZZZZZZ」

（・・・寝るの早っ！）・・・と言っわけで次回また会いましょう

（珍しく普通に終わった・・・）

特別編2 オックス・ファイアン（前書き）

・・・あれ？クロウ？珍しくないなあ・・・（帰ったのか？・・・
そんなわけないかあ）

.....

・・・はあつまんねえ（でもなんか嬉しい）
まあどつど

特別編2 オックス・ファイア

オックス・ファイアN「ブロロロロロロー！」

ロククマン「ゴン太！」

ロククマン2「なんでノイズが・・・オックス・ファイアに・・・
ウォーロクク」わからねえ・・・ただここがコダマタウンなのは分
かった・・・しかしなぜオックス・ファイアがこんな状態なのか
わからん」

ロククマン「一体・・・どうなってるんだ・・・」

ロククマン2「もう1人の僕、あぶない！」

ロククマン「！」

オックス・ファイアNは突進してきた

オックス・ファイアN「ウオオオオオオオオオオ！」

ドカア！

ロククマンは吹き飛ばされた

ウォーロクク「スバルー！」

ロククマン「くっ・・・うっ」

ロククマン2「ええいロククバスター！」

オックス・ファイアNに直撃した

ロククマン2「よし！」

オックス・ファイアN「ブロロロロー！」

ロククマン2「なにいい効いてない!？」

ウォーロクク2「とにかく逃げる！」

ロククマン2「う・・・うん、でも」

ロククマン「くっ・・・」

ウォーロクク2「やべえ俺達が負けたらどうすればいいんだ!」

ロククマン「・・・体が・・・動かない・・・」

ウォーロクク「俺もだ・・・スバル・・・」

ロククマン「ここで・・・終わるのかな・・・」

ウォーロック『……終わってたまるかよ……こんな所で』
ロックマン『……そうだね……もう1人の僕が頑張ってるんだ……』
するとロックマンは立ち上がった
ロックマン2『うおおおロングソード!』

ズバン!

オックス・ファイアN『ブロロロローー』
オックス・ファイアNはロックマン2にタツクルした
オックス・ファイアN『ウオオオオオオオオオオオオオオ』
ロックマン2『うわああああ』
ドサツ
ロックマン2『うつ……強い』
ウォーロック2『立て!負けるぞ!』
ロックマン2『体が言うこと利かないんだ……』
オックス・ファイアNは、ロックマン2にまたタツクルしてきた……
ロックマン2『うわああああ』

ズンウウウツ!

オックス・ファイアN『!?!』
ロックマン『……』
ウォーロック『スバル……おまえ……』
ロックマンは、ノイズチェンジしていた……『クラウンノイズ』
に……

特別編2 オックス・ファイアン（後書き）

・・・マジで？

拝啓レッドスター様

「すっげー 今ドラグ（本物）ビックウェーブに乗ってるぜーイヤ
ツハー

俺が帰るのはライオーガの章の終わりらへんにでるから楽しみに待
つててねー」

・・・なぜ？

あと特別編2はしばらくお休みします・・・いやいや飽きてませ
んよただ・・・

ストックが・・・はは・・・

とにかく次回は本編を書きます、特別編2を楽しみにしてる方本当
にすみません

でも絶対にいつか書きます！そのときまでお楽しみに！

第75話 謎の文字・・・（前書き）

（本編）前回までは！

ロックマンの記憶を取り戻すためにドラグ、バード、そして弓亜が
ロックマンの頭の中に入ったが・・・弓亜は、ドラグ達の協力せず
ドラグ、バードはロックマンの頭の中の奥に進んだ、しかしドラグ
とバードはいつの間にかはぐれていたそしてバードはドラグをさが
しているとバードの目の前に現れたのは「記憶の鍵」だった！ドラグ
は「謎のデータ」を2つ見つけ、さらに弓亜も動き出した・・・

第75話 謎の文字・・・

ドラグ「わーい2つ目だ！」

するとそのデータから文字が浮かびあがってきた・・・

「ー」「グ」

ドラグ「・・・何これ？」

そのころバードは・・・

バード『で・・・でかい・・・』

そのときバードは気付いた

バード『これは・・・』

「 ロックマン」

バード『かけていてわからないが、たぶんこれが記憶の鍵を解除する方法！』

そのときバードは思い出した

バード『・・・あ、ドラグ忘れてた・・・』

バードはドラグを探しに行った・・・

ドラグは・・・

ピツカアアアア

ドラグ「わーい明るい！」

そのとき誰かの泣いている声が聞こえてきた・・・

「しくしく・・・父さん・・・グズツ」

ドラグ「・・・誰？」

「しくしく・・・父さん・・・父さん・・・」

ドラグは少しずつ近づいてみた・・・そこには・・・

ドラグ「・・・スバル・・・さん？」

そこにはまだ小さいころのスバルがいた・・・

スバル（小）「しくしく・・・父さん・・・」

すると・・・
スウー・・・

小さいスバルが消えてしまった・・・

ドラグ「消えた・・・？」

そのとき

「ウオオオ・・・」

ドラグは後ろを向いた

ドラグ「こ・・・これは・・・」

ドラグの目の前になんとアンドロメダが現れた！

アンドロメダ「ウオオオオオオオオオオオ」

ドラグ「アンドロメダって・・・スバルさんが倒したはずじゃ・・・」

「

ちようどそのころ・・・

バード「うそだろ・・・なんでここにクリムゾン・ドラゴンが・・・」

」

クリムゾン・ドラゴン「ガオオオオオオオオオオオ」

バード「くっ・・・逃げなければ・・・」

バードは逃げた・・・しかしクリムゾン・ドラゴンは追いかけてくる

クリムゾン・ドラゴン「グオオオオオオオオオオ」

バード「くそ・・・こんなときにドラグがいれば・・・」

ドラグは・・・

アンドロメダ「ウオオオオオオ」

アンドロメダはドラグに攻撃してくる

ドオオン！

ドラグ「うわー助けてーバードー」

そのとき

アーチエリー・R「インフィニティーアロー！」

アンドロメダに無数の矢がふりそそぐ

アンドロメダ ♪ゲオオオ・・・
♪
アンドロメダは、消えた・・・
ドラグ・・・弓垂・・・
♪
アーチェリー・R ♪・・・
♪

第75話 謎の文字・・・(後書き)

アンドロメダが出てきたー！？まだまだ続くロックマンの頭の中！
次回はどうなる！？

第76話 命令(前書き)

はあ・・・なんか疲れた・・・

第76話 命令

ドラグ「・・・弓垂・・・」

アーチエリー・R「・・・」

ドラグ「なんでここに・・・」

アーチエリー・R「・・・命令されたからだ・・・」

ドラグ「命令？」

アーチエリー・R「ああ・・・それとこれをやるよ」

アーチエリー・Rはデータデータをあげた

ドラグ「おお・・・データ！」

するとそのデータも光始めた

ピカアーン

そして文字が浮かびあがってきた

「タ」

ドラグ「・・・タ？」

今持っているのは、「ー」「グ」「タ」である・・・

キイーン

アーチエリー・Rは変身変身をといた・・・

弓垂「俺はお前の仲間になったわけじゃねー、これは命令されたから動いてるだけだ！」

ドラグ「弓垂・・・ありがとう！」

弓垂「・・・ふん」

そのとき

バード『ドラグー』

ドラグ「あっ・・・バー・・・」

バードの後ろにクリムゾン・ドラゴンがいた

クリムゾン・ドラゴン『ガアオオオオオオオオオオオオオオ』

弓垂「ちっ・・・なんだあんなデッサン怪物は・・・」

バード『おまえは・・・弓垂！』

ドラグ「バード！」
バード「・・・やるぞ！」
ドラグ「電波変換！」

キイイイイン

フェニックス「フェニックス！」
クリムゾン・ドラゴン「ガアオオオオオオ」
フェニックス「フェニックスブレード！」
ツバサが剣になった
フェニックス「うおおおおおおお」
するとクリムゾン・ドラゴンからロケットが出てきた
フェニックス「なっ・・・」

ドオオオオン

フェニックス「ぐっ・・・」
バード「（っ、強い・・・）」
フェニックス「・・・バード・・・」
バード「なんだ」
フェニックス「あれ・・・開放する？」
バード「・・・だめだ危険すぎる」
弓垂「「あれ」ってなんだよ・・・」
バード「・・・君には関係ありません」
弓垂「このお」
クリムゾン・ドラゴン「ガアオオオオオオ」
フェニックス「とにかく・・・どうにかしないと・・・」

第77話 謎の記憶・・・(前書き)

なんか知らないけどやる気が出てきたーっ！

第77話 謎の記憶・・・

フェニックス「・・・フェニックスブレード！」
翼が剣になった

フェニックス「フレイムソード炎の剣」

剣から炎が出てきてた

ポオウ！

フェニックス「はあああああ」

ズバン！

フェニックス「やった！（まともに当てた）」

クリムゾン・ドラゴン「ガアオオオオオオオ」

フェニックス「えっ・・・」

またロケットが出てきてフェニックスにあたった

ドオオオン

フェニックス「くっあああ・・・」

バード「ドラグ！（やはり「あれ」を使ったほうがいいのか・・・

？）」

弓垂「・・・見てらんねえーな」

フェニックス「くっ・・・体が動かないよお」

クリムゾン・ドラゴン「ガアオオオオオオオ」

フェニックス「・・・やつぱやろうよ・・・」

バード「だめだ・・・危険すぎる！」

フェニックス「でも・・・」

????「どうしたのお？」

フェニックス「えっ？」

フェニックスが見たものそれは小さな女の子だった

フェニックス「・・・誰？」

シオリ「花野シオリです」

バード「(花野シオリ……どこかで聞いたことがあるような……)
」

クリムゾン・ドラゴン「ガオオオオオオ」

フェニックス「!危ないからシオリちや……」

きずいた時にはシオリはいなくなっていた

弓垂「おい、どこ見ている!」

バード「!」

フェニックス「くっ……でも体が……」

クリムゾン・ドラゴン「オオオオオオオオ」

フェニックス「うわああああああ」

そのときまた声がした……こんどは、男の声だった……

????「やめる!」

フェニックス「!」

バード「あ、あれは……ロックマンEXE!^{エグゼ}」

ロックマンEXE「……」

そのころ現実世界……

????5「……クク……」

????5のあとを追っているライオ

ライオ「(そいえば見たことねえな……あいつのウィザード)」

????5「出て来い……ソウル!」

ソウル「クク……楽しみだぜ……」

ライオ「(あいつは……!)」

第77話 謎の記憶・・・（後書き）

ライオが見たものは・・・？そしてロックマンEXEキターー
な
んでいるかというと・・・その秘密は次回明らか！

第78話 ロックマンEXE対クリームゾン・ドラゴンー！(前書き)

レッドスターです・・・今日も暑いですね・・・

第78話 ロックマンEXE対クリムゾン・ドラゴン!

バード『(しかしなぜここにロックマンEXEが……)』
ロックマンEXE『はああロックバスター』

デユン!

クリムゾン・ドラゴンはビクともしなかった

クリムゾン・ドラゴン『ガアオオオオ』

バード『(ここはロックマンの中……記憶……!)』

バードは「ハッ」と気づいた

フェニックス「どうしたの……?」

バード『わかったぞ……ここはロックマンの「記憶」の中だ!』

フェニックス「えっ……でもロックマンは記憶を失くしてるんで

しょ?」

バード『だからここは、「ロックマンが失くした記憶の中」だ』

フェニックス「えっ……じゃー今戦ってるロックマンEXEも……

……

バード『ああ……おそらくロックマンの記憶だ』

ロックマンEXE『くっ……全然効かない……』

クリムゾン・ドラゴン『ガアオオオオオオオオ』

????『大丈夫か?ロックマン!』

ロックマンEXE『あつ熱斗君!』

熱斗『いくぜロックマン!』

ロックマンEXE『いつでもいいよ』

熱斗『いくぜ!バトルオペレーション セット』

ロックマンEXE『イン!』

熱斗『バトルチップ「Wソード」スロットイン!』

ロックマンEXEエグゼの両手がソードになった

ロックマンEXE『うおおおハッ!』

ズバッ!

クリムゾン・ドラゴン『ゲガアアアアアアオオオオオ』
するとロケットがロックマンEXEを狙う

ロックマンEXE『くっ・・・ロックバスター』

デュン デュン

しかしロケットもビクともしなかった

熱斗『あぶない！バトルチップ「バリア」！』

キーン

ドゴオオオオン！

熱斗『ロックマン！』

ロックマンEXE『ありがとう熱斗君』

クリムゾン・ドラゴン『ガアオオオオオオオオオオオオオオオ』

クリムゾン・ドラゴンはでかいロケットを出した

熱斗『うわっでっか！？』

ロックマンEXE『くるよ熱斗君』

熱斗『わかってる・・・よしバトルチップ「ハイキャノン」！』

ロックマンEXE『うおおおハイキャノン！』

ドオン！

ロックマンEXEエグゼはでかいロケットを破壊した

ロックマンEXE『もう一発、ハイキャノン！』

ドオン！

ハイキャノンは、クリムゾン・ドラゴンに命中した

クリムゾン・ドラゴン『ゲオオ・・・ガアオオオオオ』

するとクリムゾン・ドラゴンが爪でロックマンEXEを切り裂こう

としている

クリムゾン・ドラゴン『ガアオオオオオ』

熱斗『くっ・・・バトルチップ「インビジブル」！』

ズパアアアアアアン

フェニックス『あっ・・・ロックマンEXEが！』

クリムゾン・ドラゴン『ガオオオオオオオオオ』

第78話 ロックマンEXE対クリムゾン・ドラゴン！（後書き）

ロックマンEXEがああ次回ロックマンEXEの行方は・・・？

第79話 もう1体のEXE！（前書き）

どーもレッドスターです・・・なかなか終わらないクリムゾン・ドラゴンとの勝負いつ決着がつくのか・・・？

第79話 もう1体のEXE!

クリムゾン・ドラゴン『ガアオオオオオオオ』

熱斗『・・・バトルチップ「トレインアロー3」!』

すると何も無い所から弓が出てきた

シュツ、シュツ、シュツ

弓はクリムゾン・ドラゴンに刺さった

クリムゾン・ドラゴン『グアアアアア』

すると何も無い所からロツクマンEXE^{エグゼ}が現れた!

フェニックス『わあ、すごい』

バード『(たしかにすごい・・・しかし今のままじゃ確実にクリムゾン・ドラゴンには勝てない・・・)』

ロツクマンEXE『熱斗君お願い!』

熱斗『バトルチップ「サンダーボールx3」!』

ロツクマンEXE『サンダーボール』

バチイバチイバチイ

クリムゾン・ドラゴンはロケットを3つだしてサンダーボールを消した

ロツクマンEXE『強い・・・』

クリムゾン・ドラゴン『ガアアアアアアア』

またでかいロケットが現れロツクマンEXEを狙って撃った

熱斗『やべえー「バリア」がない!』

ロツクマンEXE『熱斗君!』

熱斗『ロツクマーン!』

そのとき

???『リフレクメット3』

するとロツクマンEXEの目の前に大きなガードが現れた、そして

ロケットは跳ね返ってクリムゾン・ドラゴンに跳ね返ってきた!

ドオオオオオン

熱斗「誰だ！」

熱斗が見たものそれは・・・

????「若いなあおじいちゃん！」

????「久しぶりだね熱斗君」

熱斗が見たのは熱斗に似た人とロックマンEXEエグゼだった

熱斗「・・・ロックマンが・・・2人!？」

正斗「俺は正斗！」

ロックマンEXE2「僕は熱斗君の時代の100年後のロックマンだよ」

熱斗「えーとつまり・・・未来のロックマンと未来の孫？」

正斗「おじいちゃん俺も手伝うよ！」

熱斗「お・・・おお頼むよ」

正斗「いくよロックマン！」

ロックマンEXE2「うん」

熱斗「こつちもいくぞ！」

ロックマンEXE「うん」

熱斗&正斗「バトルオペレーション セット」

ロックマンEXE&ロックマンEXE2「イン！」

第79話 もう1体のEXE！（後書き）

正斗は「特別編」に出たキャラクターです。
しかしこのあとの展開は面白くなりそう・・・

第80話 EXEコンボ!

熱斗&正斗「バトルチップ「Wソード」!」

ロックマンEXE&ロックマンEXE2「うおおおお」

2体のロックマンEXEはクリムゾン・ドラゴンの顔を切った
ズバババン!

クリムゾン・ドラゴン「ギヤヤヤヤ」

熱斗&正斗「今だ!バトルチップ「Wハイキャノン」!」

2体のロックマンEXEは、両手がハイキャノンになった

ロックマンEXE「僕は右をやるよ」

ロックマンEXE2「じゃー左をやるよ」

2体のロックマンEXEがクリムゾン・ドラゴンの目の前に来た

ロックマンEXE&ロックマンEXE2「くらえハイキャノン!」

ドドドドン!

クリムゾン・ドラゴン「グウウウウウウ……」

熱斗&正斗「とどめだあー」

ロックマンEXE&ロックマンEXE2「ロックバスター」

デュウウウーーン!!

クリムゾン・ドラゴン「ウウウウウウ……」

するとクリムゾン・ドラゴンの体が崩れていった……

フェニックス「やったあー」

バード「まさか……勝てるなんて……」

そのとき

シオリ「すごい……」

フェニックス「あつ、シオリちゃん」

シオリ「……あなたなら使えるかもしれないわ……」

フェニックス「えっ……?」

するとシオリの手から光が出てきた……

シオリ「・・・あなたは・・・いずれ・・・」
キイイイイイイイ

光が大きくなりフェニックスの体を包んだ・・・

バード「ん・・・あれ・・・なにもない・・・」

ドラグ「うん・・・あれ？変身が解けてる」

バード「！、ロックマンEXEは！？」

気づいたときには、もういなかった・・・しかし代わりにデータが
5つ落ちていた

そのデータをドラグがひろうと文字が現れた

「シ」「テ」「イ」「ユ」「ス」

バード「・・・！、分かったぞ・・・」

ドラグ「？」

バード「あの鍵の解除の方法が！」

第80話 EXEコンボ！（後書き）

とうとうデータ8個目！そして謎の少女シオリ！一体なに者なのか？さらにフェニックスに何されたのか？謎ばかりです！

第81話 残り5時間・・・(前書き)

どーもーレッドスターでーす

今回の話とはにかくデータ探しです

第81話 残り5時間・・・

そのころ（外）現実世界では・・・

ダイヤパール「・・・早くしなさい弓垂・・・のこり5時間よ」
ロックマン「・・・うつつ」

ロックマンの頭の中・・・

ドラグ「ええっ見つけたの？鍵・・・」

バード「ああ・・・ついて来い」

ドラグと弓垂は、バードのあとについていった・・・
そして・・・

バード「ここだ・・・」

ドラグ「おおおおおっ！大きいー！ーっ！」

弓垂「でかあ!？」

バード「あと見てくれここを」

ドラグ「・・・なにこれ？かけてて読めないよ」

弓垂「だが最後の文字は読める・・・」
「ロックマン」って・・・

バード「かけている所があるだろ・・・」

ドラグ「うん・・・」

バード「それが今ドラグが持っている「データ」がかけらだ!」

弓垂「しかしかけている所は10個ある・・・こいつが持っている
「データ」が8個・・・あと2つか」

バード「あと2つ探すぞ!」

ドラグ「おーっ!」

そのころ（外）現実世界は・・・

ダイヤパール「・・・そろそろやばくなっただわね・・・」
弓垂、何
してるの！早くしなさい、早くしないと・・・」
（・・・）

中では・・・

バード『・・・どこだ？』

弓垂「あー！ーっ！おいガキ！なんか探す方法はねえーのか？」
ドラグ「んー・・・あっ！そいえばデータを見つけたとき僕が持つてるデータが光ってた！」

バード『つまりドラグが持っているデータが光ればその近くにあるってことか・・・』

弓垂「よーしさっさと探すか！」

そのとき・・・

スウー

ドラグ「・・・あれ？なんか手が薄くなって・・・」

バード『・・・！、まさか・・・もう24時間がたつのか！？』

弓垂「俺はまだ死にたくねえーっ！」

バード『ドラグ！早く探すぞ！』

ドラグ「うん！」

現実世界では・・・

ロックマン「うわあああああつぐう」

ダイヤパール「・・・あと・・・2時間・・・」

第81話 残り5時間・・・(後書き)

- ・ あと・・・2時間!?!・・・あとと言いましたロックマンの頭の中と外の世界の時間のちかたは違います・・・言い忘れました・・・

第82話 残り2つ・・・(前書き)

残りのデータは2つ・・・ドラグ達は見つけれられるのか？

第82話 残り2つ・・・

ドラグ「早くしないと消えちゃう！」

ドラグの手が少しずつ薄くなっていく・・・

バード『・・・にしても「データ」が光らない・・・この近くにはないのか？』

弓垂「・・・おい！そこにわかれ道があるぞ」

バード『ほんとうだ・・・よし二手に別れよう！』

ドラグ「うん！」

弓垂「俺は左行く」

ドラグ「バードと僕は右！」

バード『ドラグ、あいつに「データ」を半分、分けてくれ』

ドラグ「分かった」

そして弓垂は4個「データ」をもらった

バード『さあ、行こう！』

ドラグ「おーっ！」

弓垂「・・・ああ」

そして二手に別れた・・・

ドラグ&バードは・・・

バード『・・・なんか気味わるいですね・・・』

ドラグ「・・・あれ？」

バード『どうした？』

ドラグ「「データ」が光ってる・・・」

ポオオオオウ

データは微妙に光っていた

ドラグ「この近くにデータがあるー！」

バード『どうやらこの奥にあるようだ・・・行こう』

そのころ弓垂は・・・

弓垂「・・・なんかいる（ような）気がする・・・」
弓垂は、後ろを勢いよく「バツ」って振り向いた

・・・オオ・・・オオオオ・・・

弓垂「・・・えっ・・・？」

弓垂が見たものは・・・白い・・・人・・・

弓垂「うそだろ・・・」

白い人「オオオオオ・・・」

弓垂「ぎゃぁーーーーっ」

そのとき、「データ」が光った！

キイイイ

弓垂「（まさか・・・）」

すると白い人が分裂する・・・
にゅ～～～

そして「あっ」と言う前に何十対のウイルスになった！

弓垂「・・・マジで？」

ドラグ&バードは・・・

バード「この奥にあるはずなんだけど・・・」

ドラグ「！、バード！」

バード「どすした！」

ドラグが見たものは白い人だった・・・

ドラグ「おばけえ〜怖い〜」

バード「いや・・・お化けじゅない・・・あれは、ウイルスだ！」

白い人「キシャーーーーー！」

バード「かまえるー！」

ドラグ「まだ体が痛いけど・・・頑張る！」

弓亜は・・・

弓亜「めんどくせえー・・・でもやるか」

ウィルスは弓亜に攻撃しようとした

弓亜「いくぜ・・・」

ドラグノ弓亜「電波変換!!」

第82話 残り2つ・・・(後書き)

・・・なんか・・・知らないけど、メツチャ、ハイテンションで書けた・・・

第83話 ウイルス！（前書き）

どーも、レッドスターです。

なんとなく昨日アイスを3つも食べました

親にはこう言われました「食いすぎ！」って……たしかに食いすぎました

第83話 ウイルス!

キイイイイイイイン!

フェニックス「・・・やるよー!」

弓垂は・・・

キイイイイイイイン!

アーチェリー・R「へっ、一瞬で終わらす!」

アーチェリー・Rは弓ユミを持ち上に上げた

アーチェリー・R「インフィニティーアロー」

上に放った矢は光だし無限の矢になった

そしてウイルスに降り注ぐ

ザザザザザザ

アーチェリー・R「チェックメイトだ・・・」

ウイルス達は次々と消えていった

アーチェリー・R「くうー終わった・・・あれ?」

アーチェリー・Rユミの足のしたに「データ」があった・・・

アーチェリー・R「よし!」

そのころフェニックスは・・・

フェニックス「うおおおおウィングブレイド「たて切り」!」

ズババン!

ウイルスは次々と消えるがまだ半分も残っている・・・
フェニックス「ううっ・・・なんでこんなに・・・」
バード「（確かにあの白い奴を切る前はウイルスの反応は1体だった・・・しかし切ったあと白い奴が分裂して今では・・・）」
フェニックス「ううっ、まだ何十体もいるよ・・・」
バード「・・・よし！ドラグ俺の指示に動け！」
フェニックス「OK！」
ウイルスがどんどん近づいてくる・・・
バード「まずは右だ！」
フェニックスは指示通り右に移動した
バード「そして横切りだ！」
フェニックス「うん、ウィングブレイド「横切り」！」

スババババババン！

一回で半分近くウイルスを倒した
フェニックス「やったあ！」
バード「ただ上を見る」
フェニックス「えっ・・・」
上から攻撃をするウイルスがいた・・・
バード「たて切りだ！」
フェニックス「ウィングブレイド「たて切り」！」

スパン！

ウイルスは消えた
フェニックス「（この高さなら・・・）いける！Wフェニックスブレード！」
翼が2つの剣になった

バード『これならできる・・・』
フェニックス『フェニックスの必殺技
・・・』

「クロスファイナル!!!」

ズドオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ!!!

ウイルスは一瞬にして全滅した・・・

第83話 ウイルス！（後書き）

！
最近オリキャラを送ってくる人が少し増えました・・・ありがとう

第84話 解除！？記憶の鍵！（前編）（前書き）

とうとうやっとスバルの記憶が戻るのか？
でも・・・本当に長かった・・・

第84話 解除！？記憶の鍵！（前編）

フェニックス「やったあ！」

バード「……！、おいドラグそこに「データ」があるぞ！」

フェニックスは変身をといた

キーン

ドラグ「ふう……どこどこ？」

ドラグは「データ」を拾った

そして「データ」が光った

すると「データ」に文字が浮かんだ

「ー」

ドラグ「……また「ー」？」

バード「とりあえず記憶の鍵の所に戻ろう」

ドラグ「うん！」

そして……記憶の鍵の前……

弓垂「！、来たか……」

バード「おい……「データ」は？」

弓垂「あるぞ……」

ドラグは「データ」を見た

「ン」だった……

バード「これで全部……10個か……」

そしてドラグ達はいままで「データ」の文字を見た

「ー」「グ」「タ」「シ」「テ」「イ」「ユ」「ス」「ー」「ン」

バード「……あとははめ込むだけだが……」

ドラグ「何かの言葉だよね？文字を並べかえてなんかの言葉にすればいいんじゃない？」

バード「そうだな……並べかえてみよう！」

弓垂「よーし、こんなの楽勝だ！俺に任せろ！」

数分後・・・

弓垂「出来た！」

バード『どれど・・・・・・・・』

ドラグ「えーと・・・・・・・・」「11シテイクスタグン」・・・・・・・・

バード『・・・・・・・・読めない・・・・・・・・』

ドラグ「・・・・・・・・(なに語?)」

弓垂「・・・・・・・・とにかくはめよう」

カチャカチャ・・・・・・・・

し~~~~~ん

バード『・・・・・・・・やはりただ言葉を作るだけじゃなく・・・・・・・・ロックマン・・・・・・・・星河スバルに関係ある言葉じゃないか?この鍵を解除するには・・・・・・・・』

ドラグ「僕・・・・・・・・やる!」

弓垂「・・・・・・・・」 答えが違っていてショックを受けていて

声が出ない弓垂

ドラグ「・・・・・・・・(ロックマンに関係ある言葉・・・・・・・・)」

ピーン

ドラグは何かを思いついた!

ドラグ「これだーっ!」

第84話 解除！？記憶の鍵！（前編）（後書き）

次回ドラグが思いついた言葉とは・・・？

第85話 解除！？記憶の鍵！（後編）（前書き）

昨日オリキャラを送ってくれた人がいました！
本当にありがとう！

第85話 解除！？記憶の鍵！（後編）

ドラグ「これだぁー！ーっ！」

「シューティングスター」

バード「・・・「シューティングスター」か・・・」

弓垂「意外にベタだな・・・」

バード「でも、もしかしたらこれで、あっているかもしれない！」

そして記憶の鍵にはめこんだ・・・

カチャカチャ・・・キイイイイイ

急に記憶の鍵が光だした！

そしてだんだん光が大きくなって・・・そして・・・

カツ！

ドラグ達は目をつぶった

ドラグ「うわぁぁ」

バード「くう・・・」

弓垂「まぶしいいい」

そして光が弱くなった・・・

ドラグ「・・・あれ？」

バード「おさまったか・・・？」

弓垂「うおお目があかねええ」

バード「！、これは・・・」

バードが見たものそれは、鍵が無くなっている代わりに大きな道が出来ていた、それにその道は明るかった・・・

バード「・・・ドラグ行ってみよう！」

ドラグ「おーっ！」

そしてドラグとバードは歩いた・・・

弓垂「ふう・・・やっと目が・・・って俺をおいて行くなーっ！」

弓垂は必死にドラグとバードの所まで走っていった

そしてドラグ達は奥にすすむと・・・

バード「なんでだ？奥に進むほど道が明るくなっていく・・・」

ドラグ「何これ？」

バード「どうした？」

ドラグは指をさした

バードは見た・・・それはたくさんの写真だった・・・

バード「これは・・・ロックマンのいままでの記憶の「写真」だ」

弓垂「どれどれ・・・なんだこれ？」

バード「なんかあったか？」

弓垂「ほれ、これ」

バード「・・・どういうことだ・・・」

その記憶の写真はまるで誰かがペンで塗りつぶしたような真っ黒な写真だった

バード「・・・おかしい・・・こんな初めてだ・・・」

弓垂「・・・うわっ体がっ！」

ドラグ達の体が少しずつ消えていく

スウウーイー

バード「早くここから出なければ・・・消える！」

ドラグ「どうやって出るの？」

バード「・・・」

ドラグ「まさか・・・」

バード「・・・」

バードは、目をそらした・・・

弓垂「ここから出る方法・・・知らなかったりして・・・」

バード「・・・そう・・・」

弓垂はしばらくシーンってなった・・・そして・・・

弓垂「まじでかあああああああ！！？」

ドラグ達の体は、半分まで消えていた・・・

第85話 解除！？記憶の鍵！（後編）（後書き）

次回、記憶の中から出れるのか？

第86話 消えちゃう!? (前書き)

今日は「3DS」を買いました

めっちゃ目がチカチカする・・・でも楽しい

第86話 消えちゃう!?

ドラグ「うわああ消えちゃうー!」

バード「だが絶対にここから出る方法はある……うーん」

弓垂「てか消えたら、死んじやうの?」

バード「……おそろく……」

弓垂はシヨックを受けた……

弓垂「くうう……こんな所で死んでたまるかああ……!」

バード「うるさい!!」

弓垂はまたシヨックを受けた……

ドラグ「……ねえ、もしかしたらここから出れる道があるかも!」

バード「そうだな……あるかもしれない、探そう!」

そしてここから出る道を探しに行った……

弓垂「くっ……なんで俺だけ……あっ!また俺をおいて行くな

!

バード「(くっ……早くしないと消える……一体どうやったら

出れるんだ!)」

ドラグ「なんだろ……体が少しずつ重くなってるような……」

バード「ああつ……俺もさつきから重くなっている……」

弓垂「はあはあ、歩くのが嫌になっていく」

体の四分の三が消えかかっている……

ドラグ「くう……僕……死んじやうのかな?」

バード「死なないさ……絶対に死んでたまるか!」

弓垂「でもさ……もうほとんど消えてるし……本当に助かるの

か?」

バード「助かる!」

弓垂「本当かよ」

ドラグ「……なんか周りが暗くなっているような……」

バード「くっ、たしかに暗くなっている……」

すると3人の体は四分の三まで完全に消えていた
 ドラグ「・・・寒いよぉ・・・暗いよ・・・」
 バード「眠い・・・意識が・・・」
 そのときバードは目をつぶってしまった・・・
 するとバードの体がどんどん消えていく・・・
 バード「ド・・・ラグ・・・」
 シュウウウウウウ・・・
 バードは消えてしまった・・・
 ドラグ「バードーンッ！」
 弓垂「・・・さっきの言葉なんだよ・・・」「助かる！」って・・・
 なんだよ・・・自分が助かってねえーじゃねえーか！
 ドラグ「・・・行こうよ・・・」
 弓垂「・・・おう・・・っ！」
 すると今度は弓垂の体がどんどん消えていく・・・
 弓垂「くっそ・・・これまでか・・・」
 ドラグ「弓垂・・・」
 弓垂「・・・おい・・・ガキ！おまえは助かれよ・・・」
 ドラグ「！」
 そして弓垂は消えていった・・・
 ドラグ「・・・1人になっちゃった・・・」
 ドラグは遅く歩いた・・・1人で・・・
 トコトコ・・・
 ドラグ「バード・・・弓垂・・・」
 ドラグは頑張っつて歩いた・・・しかし
 ドラグ「うつつ・・・重い・・・暗い・・・眠い・・・寂しい・・・」
 するとドラグの体はどんどん消えていく・・・
 シュウウウウウウウウウウウウウウ・・・
 ・・・
 ドラグ「やだぁ・・・消えちゃう・・・消えちゃうよぉお」

そんなときになぜか親の事を思い出した・・・
ドラグ「お父さん・・・お・・・母さ・・・ん」
ドラグは静かに目を閉じた・・・
そして静かに消えていった・・・

第86話 消えちゃう!? (後書き)

今回の話・・・なんか悲しくなる(書いてるこっちも)

次回・・・ロックマン、いや・・・星河スバルの記憶がとつとつ戻る!

第87話 記憶が戻った！（前書き）

とつとつスバルの記憶がもどる！・・・やっと戻る・・・

第87話 記憶が戻った!

ダイヤパール「……なんとか間に合ったみたいね……」

ロックマン「……ふあ〜」

ウォーロック「くう〜……スバル?」

ロックマン「……あれ?ロック?」

ウォーロック「おまえ……思い出したか?」

ロックマン「何いつてるのロック?」

ダイヤパール「成功ね、記憶が戻ったわ」

ロックマン「記憶?それに……誰ですか?」

ダイヤパール「私はダイヤパール……あなたは記憶をなくしてて私が記憶を取り戻したのよ」

ウォーロック「つまりスバルは記憶をなくしてたんだ」

ロックマン「うそーっ!?!」

ウォーロック「本当だ」

ロックマン「……!、ロックさつきから気になってただけどさ」

ウォーロック「なんだ?」

ロックマン「あそこに倒れている人は誰?」

ウォーロック「ドラグと……弓垂って奴だ」

ダイヤパール「……そろそろかな?」

ドラグ「……うわああああ」

バード「ぐああああああ」

弓垂「ぐううううう」

ドラグとバードと弓垂は急に苦しそうに大声をだした
ロックマン「ど……どうなってるの〜っ!?!」

ドラグ「ううっ……ん?」

バード「……え?」

弓垂「……お?」

ドラグとバードと弓亜は立ち上がった

ダイヤパール「・・・おかえり」

バード「・・・どうなっているんだ？」

弓亜「生きてる・・・俺生きてる！」

ドラグ「わーい、よかった！」

バード「あの・・・博士なんで生きていますか俺達？」

ダイヤパール「あたりまえじゃない・・・ちゃんとクリアしたんだから！」

バード「・・・そうか！たしかあのときこう書いてあった！」

・24時間までに解除できなかつたら自分が消滅する

バード「つまりこれは「クリア」出来なかつたら消滅することです・・・

・クリアできたら消滅しないで外に出れることだったのか！」

ダイヤパール「そう・・・よくわかったわね」

そのときダイヤパールに一つの電話が来た

P i P i P i

ダイヤパールはハンターV Gを取った

ダイヤパール「もしもし？」

するとしばらくしてダイヤパールの目の色が変わった

ダイヤパール「あなたは・・・」

第87話 記憶が戻った！（後書き）

次回・・・話が急展開します！

第88話 ホワイト・ソウル！（前書き）

とぅとぅとぅとぅとぅとぅの正体がわかるのか！？

第88話 ホワイト・ソウル!

ダイヤパール「あなたは……ヨイリーちゃん!?」

ヨイリー「大変よ! 正体不明の電波体がWAXAワクサに襲ってきたのよ」
するとバードが話した

バード「今はどうなっているのですか?」

ヨイリー「今、ある電波体が戦っているわ……」

ロククマン「……オックス・ファイアですか?」

ヨイリー「いいえ違うわ……ダーク・ナイトよ!」

ロククマン「……えっ!?!」

ウォーロクク「おいおい……冗談だろ?」

ヨイリー「冗談じゃないわ……お願い……もどっ……ジジ……」

・プツン!」

電話は、「プツン」って途切れた

ウォーロクク「やべえぞ……こりゃ」

ロククマン「早くいか……」

ダイヤパール「いいえ、あなたはここに残ってもらおうわ!」

ロククマン「ええっ!?!」

ダイヤパール「弓亜とドラグは、WAXAワクサに向かいなさい!」

弓亜「なんで俺が……」

ダイヤパール「行きなさい!?!」

弓亜「はあああ!」

バード「いくぞドラグ!」

ドラグ「おっ!」

そしてドラグ、バード、弓亜はWAXAワクサに向かった……

ロククマン「……あの」

ダイヤパール「さっ! 実験するわよ」

ロククマン「ええっ!?! (いきなり?)」

ウォーロクク「おい……なんで実験するんだ……俺達を」

ダイヤパールは、「ニヤリ」と笑った
ダイヤパール「それはね……」

そしてWAXA^{ワクサ}では……

???「……裏切るのか？ダーク・ナイトよ……」

ダーク・ナイトは体がボロボロだった……

ダーク・ナイト「はあはあ……貴様だったのか……」

???「?」

ダーク・ナイト「俺の家族を殺したのは、貴様だったのかあああああ
あ！……」

するとダーク・ナイトは???に接近した

ダーク・ナイト「俺はおまえを……倒す！覚悟しろホワイト・ソ
ウル！」

ホワイト・ソウル「……ククク……」

第88話 ホワイト・ソウル！（後書き）

まさかの展開！次回はその2人の勝負、果たしてどちらが勝つのか！？

第89話 ダーク・ナイトVSホワイト・ソウル！（前書き）

どうもレッドスターです。

最近オリキャラを送ってきてくれる人が多いです。

俺はとっても嬉しいです・・・（涙）

第89話 ダーク・ナイトVSホワイト・ソウル!

時はさかのぼり……1時間前……

WAXAでは……
ワックス

ミソラ「大丈夫かな?スバル君……」

ゴン太「きつと平気だった!」

キザマロ「そうですねよ、ウォーロックもいるんですし……」

ミソラ「……うん……」

そのとき……

ドオオオオン!

ゴン太「ななななななんだ?」

暁「大変だ、謎の電波人間がWAXAをに襲ってきた!」
ワックス

ミソラ「えっ!?!」

ゴン太「またかよ……」

キザマロ「同感です……」

ミソラ「……(スバル君がいない今……私が……)私行きま
す!」

キザマロ「ええっ!?!危険ですよ」

ミソラ「でも行く!」

ハープ『こうなったら止まらないわよ、ミソラは』

ミソラ「いくよハープ!」

ハープ『はいはい』

ミソラ「電波変換!」

キィィィン!

ハープ・ノート「敵は……外ね!」

キザマロ「……行っちゃった……」

ゴン太「……俺も行くぜ!」

キザマロ「ゴン太君まで!?!」

ゴン太「電波変換!」

キーン!

オックス・ファイア「ウオオオ行くぜーっ!」

そしてオックス・ファイアも行ってしまった・・・

キザマロ「・・・なんか悲しいです・・・」

そしてハープ・ノートは・・・

ハープ・ノート「・・・あっ!居た!」

そしてハープ・ノートは、敵にちかづいたそのとき

???「・・・なんでお前が・・・」

ハープ・ノート「!」

ハープ・ノートが見たものは、一人は初めてみるがもう一人は、あ
のときの敵・・・ダーク・ナイトだった

ハープ・ノート「(なんであいつが!?)」

オックス・ファイア「どうした?ハープ・・・ってあいつは!」

ダーク・ナイト「なんで黙っている・・・ホワイト・ソウル」

ホワイト・ソウル「・・・ククク・・・」

ダーク・ナイト「なにがおかしい?」

ホワイト・ソウル「なんで邪魔をする・・・ダーク・ナイト」

ダーク・ナイト「・・・俺は一つ聞きたいだけだ・・・なんで俺の

親を殺したウィザードをお前が持っている!」

ホワイト・ソウル「さあーな」

ダーク・ナイト「・・・まさかあのとき、わざと俺の親をやったの
か?」

ホワイト・ソウル「・・・だったら?」

ダーク・ナイト「倒す!」

ホワイト・ソウル「ククク・・・アーハハハハお前が私を倒すだ
と?おかしくて笑いがとまらねえーアーハハハハ!」

ダーク・ナイト「黙れーっ!ダークブレイドーっ!」

ホワイト・ソウル「!」

ズドオオオオン

ダーク・ナイト「はあはあ・・・」

ホワイト・ソウル「お前の力・・・そんなものか？」
ダーク・ナイト「何っ!？」

確かにまともな当たらずなのに相手はビクともしていなかった。

ホワイト・ソウル「次は・・・こっちからだ・・・」

するとホワイト・ソウルの姿がきえた・・・

ダーク・ナイト「!」

ダーク・ナイトは、周りを見た

ダーク・ナイト「くっ・・・見えない・・・」

すると・・・

ホワイト・ソウル「こっちだ・・・」

ホワイト・ソウルはいつの間にかダーク・ナイトの後ろに居た・・・

ダーク・ナイト「しまっ・・・」

ホワイト・ソウル「・・・裏切り者には罰を・・・くらえ・・・

ゴーストアイ!

ダーク・ナイト「ぐう・・・(体が・・・うごかねえ・・・)」

ホワイト・ソウル「さあ・・・罰を受けよ・・・ソウルバスター!

ドギユウウウウン!

ダーク・ナイト「ぐあああああああああつ」

ドサツ・・・

ホワイト・ソウル「クククもう裏切るなよ・・・ダーク・ナイトよ」

ダーク・ナイト「くっ・・・はあはあ」

ホワイト・ソウル「また・・・裏切るのか?ダーク・ナイトよ・・・

」

ダーク・ナイトは体がボロボロだった・・・

ダーク・ナイト「はあはあ・・・貴様だったのかよ・・・」

ホワイト・ソウル「そうだ」

ダーク・ナイト「俺の家族を殺したのは、貴様だったのかああああ

あ!.....!」

するとダーク・ナイトはホワイト・ソウルに接近した

ダーク・ナイト「俺はおまえを．．．倒す！覚悟しろホワイト・ソウル！」

ホワイト・ソウル「．．．ククク．．．まだやるのか？無駄なことを．．．」

ダーク・ナイト「そうだ．．．俺は貴様を倒すまで倒れない！貴様を倒して親のかたきをつつんだああ！」

ホワイト・ソウル「出来るならやってみるよダーク・ナイトよ．．．」

ハーブ・ノート「何？この激しい戦い．．．あの二人は仲間じゃないの？」

オックス・ファイア「ここは引き返そうミソラちゃん」

ハーブ・ノート「．．．」

そしてハーブ・ノートとオックス・ファイアは引き返した．．．

そして．．．ロックマン達は．．．

ロックマン「．．．こんな所でやるの？」

ダイヤパール「そうよ．．．」

ロックマンの目の前には、意外に普通な部屋だった．．．

ロックマン「そいえばさつきから、おとなしいねロック？」

ウォーロック『．．．．．』

ダイヤパール「さあ始めるわよ．．．実験を！」

ロックマン「．．．はい」

第89話 ダーク・ナイトVSホワイト・ソウル！（後書き）

今回めっちゃ話長い・・・

次回ロックマン・・・改造計画？（仮）

第90話 恐ろしい実験？（前書き）

今回の話は・・・ウォーロックが・・・ウォーロックが・・・恐
ろしいことだ・・・

第90話 恐ろしい実験？

ダイヤパール「じゃ、早速・・・変身を解きなさい」

ロックマン「あっ・・・はい」

ロックマンは変身を解いた

キーン！

ダイヤパール「それじゃー・・・その電波体！」

ウォーロック「・・・俺？」

ダイヤパール「あなたからやるわ・・・フフ・・・」

ウォーロック「ヒイイイ~~~~」

そして・・・

スバル「・・・大丈夫かな？ロック・・・」

そのとき、となりの部屋から・・・

「ギアアアアアアアアアアア」

スバル「ひい」

「もうやめて・・・ウギアアアアアア~~~~」

「おとなしくしないともつと痛い目にするよ」

「もう・・・だ・・・めだ・・・」

スバル「・・・（一体どんな実験だろ？）」

「さっ、これで・・・最後よ・・・フフ」

そして・・・隣の部屋から奇妙な音が・・・

ギョギョギョー~~~~！パリーン！ガガガドーン！

そして扉が開いた・・・

ダイヤパール「ふう・・・終わったわ」

スバル「・・・あの、ロックは？」

ダイヤパール「それなら今・・・」

ウォーロック「ハッハッハッ、スバル君」

スバル「・・・はあ？」

スバルはダイヤパールを見た

スバル「あの……ロツクに何を……」

ダイヤパール「色々」

ウォーロツク『ハツハツハツ、いや〜実にはいい気分だ!』

スバル「(一体……「色々」とは、何だろ?)」

ウォーロツク『ハツハツハツ』

ダイヤパール「じゃ……次はスバル……」

スバル「……僕は何をするんですか?」

ダイヤパール「あなたには、「薬」をのんでもらうわ」

スバル「薬?」

ウォーロツク『よかったね、スバル君』

スバル「……どこが?」

そしてスバルは隣の部屋に恐る恐る入っていった

第90話 恐ろしい実験？（後書き）

ウォーロックー戻ってきてよーっ！
・・・次回・・・ウォーロックは元に戻るのか？

第91話 謎の薬・・・？（前書き）

どうもレッドスターです、それにしても、もうそろそろ夏休みが終
わってしまいます・・・はあ、あと2ヶ月休みたい・・・

第91話 謎の薬・・・？

スバルは隣の部屋に入った・・・

スバル「・・・ここは」

そこには、無数の機械と薬があつた

ダイヤパール「さつそくこの「薬」をのんでもらうわ・・・」

スバル「えっ・・・」

スバルは「薬」を渡された

スバル「（普通だ・・・）」

ダイヤパール「早くのみなさい」

スバル「は、はい」

スバルは「薬」を飲んだ

ゴックン

スバル「・・・」

ダイヤパール「・・・さつ、戻るわよ」

スバル「えっ、それだけ？」

ダイヤパール「そうよ」

そして元の部屋に戻ると・・・

ウォーロック「やあ、スバル君どうでしたか？」

スバル「（まだ戻ってない・・・）」

ダイヤパール「それじゃ、さつさと向かいなさい」

スバル「向かう？」

ダイヤパール「WAXAワックスによ」

スバル「行ってもいいんですか？」

ダイヤパール「さつさと行きなさい！」

スバル「はい！」

ウォーロック「さあ、行きましょうスバル君」

スバル「う、うん・・・（いつになったら戻るんだろ？）」

第91話 謎の薬・・・？（後書き）

ダーク・ナイトが・・・次回ダーク・ナイトは負けるのか？

第92話 ダーク・ナイトとホワイト・ソウル・・・決着（前書き）

果たしてどっちが勝ったのか？

第92話 ダーク・ナイトとホワイト・ソウル・・・決着

ドオオオオオオン・・・

ハーブ・ノート「何！？この大きい音？」

ドラグ達は・・・

バード『この音は・・・^{ワクサ}WAXAからだ』

ドラグ「なんの音だろ？」

弓唄「さあ？」

^{ワクサ}WAXA・・・

ダーク・ナイト「……………」

ホワイト・ソウル「無様だな・・・ダーク・ナイト」

ダーク・ナイト「……………」

ホワイト・ソウル「さあそろそろやるか……………」

ガシッ

ホワイト・ソウル「！」

ホワイト・ソウルの足を捕まえたダーク・ナイト

ダーク・ナイト「ま……………」

ホワイト・ソウル「まさかまだやるのか？」

ダーク・ナイト「まだ……………終わってねえ……………よ……………俺は……………」

まだ……………」

ホワイト・ソウル「ふん……………めざわりなやつめ」

ダーク・ナイトは少しずつ立ち上がった

ダーク・ナイト「こんな……………所で……………まけて……………られる

かよ……………」

ホワイト・ソウル「ちつ……………なんなら次で最後だ……………お前を
消しやる！」

ホワイト・ソウルはソウルバスターを撃とうとしている・・・
ダーク・ナイト「俺は・・・俺は・・・」

そのとき！
キーン！

ライオ「！」

ブラック・ナイト「ライオは逃げる」

ライオ「ブラック・ナイト・・・何・・・言ってやがる・・・俺
はまだやれる・・・」

ブラック・ナイト「・・・ウソだな」

ライオ「！」

ブラック・ナイト「今のお前は、しゃべるのも限界だろ」

ライオ「・・・」

ブラック・ナイト「・・・ライオ・・・」

ライオ「！」

ブラック・ナイト「強くなったな」

ホワイト・ソウル「ソウルバスターー！」

ドギユウウウウウウン！

ライオ「ブラック・ナイトオーーーーーーッ！」

ドオオオオオオン！

第92話 ダーク・ナイトとホワイト・ソウル・・・決着（後書き）

ブラック・ナイトの最後・・・

第93話 過去の日々・・・(前書き)

今回の話は、ライオとブラック・ナイトの日々の話・・・

第93話 過去の日々・・・

ライオ「ブラック・ナイトオーーーーーッ！」

ドオオオオオオン

ホワイト・ソウル「ククク粉々になって消えたか」

ライオ「・・・ゆるさねえ・・・」

ホワイト・ソウル「何だ？おまえも同じようになりたいか？」

ライオ「絶対にゆるせねえー！」

ホワイト・ソウル「はっ、今のお前になにができる？ただの弱い「人間」にー！」

ライオ「弱い・・・でもブラック・ナイトは言ってくれた・・・

・「強くなったな」って！言ってくれたんだ！」

ホワイト・ソウル「はっ、でも今のお前に出来る？」

ライオ「俺はブラック・ナイトの仇を討つ！たとえこの身が切り裂

かれようと俺はお前を倒してやる！」

ホワイト・ソウル「人間ごときがああこれで終わりだー！」

ホワイト・ソウルはライオを殴った

ドカア！

ライオ「ぐうう・・・」

ドサッ

ライオ「（まだまだ・・・くそっ動け、体・・・動け足・・・うっ」

・・・）」

ポロッ

ライオ「！（これは・・・水？・・・泣いてるのか、俺・・・）」

ライオの目には、涙がこぼれていた

ライオ「（ブラック・ナイト・・・）」

なぜかライオは昔のことを思いだしていた

それはブラック・ナイトと出会ったときだった・・・

ライオ「うつつ・・・お母さん・・・お父さん・・・」

ブラック・ナイト「・・・くやしいか・・・」

ライオ「うつつん」

ブラック・ナイト「だったら力を与えてやる・・・しかし条件がある・・・」

ライオ「？」

ブラック・ナイト「ウォーロックをデリートするんだ」

ライオ「・・・」

そう、そのころから始まった・・・ブラック・ナイトとの冒険が・・・

ブラック・ナイトはいつも危険な道を選んで、海を渡る時は船じゃなく筏を作って海を渡った

でも・・・いつもブラック・ナイトは助けてくれた・・・だから強くなれた・・・

苦しいときも、つらいときも、泣いてるときも・・・

ライオ「（ブラック・ナイト・・・俺はどうしたら・・・）」

ホワイト・ソウル「ライオ・・・泣いてるのか？けっ・・・なんならブラック・ナイトと同じ所につれてってやるよ・・・」

ソウル「まで殺すな・・・俺がこいつの魂をすっ」

ホワイト・ソウル「そうだな・・・やれソウル」

ソウル「それじゃ、いただきまーす」

ソウルはライオの目を見た・・・するとライオの魂が出てきた・・・そしてソウルはライオの魂を丸飲みした・・・

ゴクン

ソウル「うまいな魂は・・・」

そのとき！

ズバン！

ホワイト・ソウル「なんだ？」

フェニックス「ただいまさんじょーう！」

アーチェリー・R^{リム}「……（なんか変なのがいる）」

バード「あれは……あのときの……」

アーチェリー・R^{リム}「あれ？なんか人倒れてる」

バード「……（なんだこの感じあいつ生きてるかんじがしない）」

ホワイト・ソウル「チツ、またザコか……相手してやるか」

第93話 過去の日々・・・(後書き)

ライオが・・・なんか残酷だあー

第94話 VSホワイト・ソウル！（前書き）

今日・・・4回目！？どんだけ暇なんだ俺？

第94話 VSホワイト・ソウル!

ホワイト・ソウル「チツ、またザコか・・・相手してやるか」

バード「!、ドラグあそこに倒れているやつ息してないぞ」

フェニックス「えっ?なんで・・・」

ソウル「俺があいつの魂をたべた」

バード「!(あのウイザード・・・何か変だ、なんにも感じない)」

アーチェリー・R「魂^{ソウル}って・・・食べるの!?!」

バード「いや食えない・・・普通はな」

フェニックス「えっ、どうゆうこと?」

バード「俺もそこまでは分からない」

ソウル「ケケケ、あいつらの魂も食っ」

ホワイト・ソウル「じゃ、あいつらをやるか」

バード「来る!」

フェニックス「うおおウイングブレイド」たて切り!」

ズバアン!

しかしホワイト・ソウルはいなかった

フェニックス「あれ?どこにいるの?」

アーチェリー・R「後^{トモ}ろだ!」

フェニックス「えっ・・・」

フェニックスは後ろを向いたそのとき

ホワイト・ソウル「遅い・・・」

ホワイト・ソウルはソウルバスターを撃った

ドギユウウウウウウウ!

フェニックス「うわあああああ」

ドサッーッ

フェニックス「ぐっう・・・」

アーチェリー・R「この・・・スピアショット!」

シュッ

スカッ

はずれてしまった・・・

アーチエリー・R「いない・・・いや姿を隠しているのか・・・でも」

弓矢を上に向けた

アーチエリー・R「俺にはかんげえね！インフィニティーアロー」
矢を空に撃ちそして光った

カッ

すると空から無数の矢が降り注ぐ

ドドドドドドドドドドドドドドドド

ズバッ

ホワイト・ソウル「くっ・・・（チツかすったか・・・）」
すると

アーチエリー・R「みつけた」

ホワイト・ソウル「くっ・・・」

アーチエリー・R「（残り4分か・・・）終われ！センサーシヨッ

ト「レベル3」！

アーチエリー・Rは、^{アタリ}矢を放った

ギユウウウウウウウン

ホワイト・ソウル「やっ、やめるおーーーーー」

しかし・・・

ホワイト・ソウル「なんちゃって」

ホワイト・ソウルは消えた・・・

アーチエリー・R「！」

ホワイト・ソウル「終わるのはお前だ」

アーチエリー・R「しまった・・・」

ホワイト・ソウル「終わりな・・・」

ドギョウウウウウウ

フェニックス・ぐつ・・・弓垂・・・
「

第94話 VSホワイト・ソウル！（後書き）

ホワイト・ソウル強すぎる！次回もどうなる？

第95話 フェニックス覚醒！？（前書き）

どうもレッドスターです。

今回の話はなんとフェニックスが覚醒！？

第95話 フェニックス覚醒!?

アーチエリー・Rテレニ「ガハッ．．．!」
ドサッ

ホワイト・ソウル「クククあつけないな．．．もつと俺を楽しませ
てくれよ、ザコ」

ホワイト・ソウルはアーチエリー・Rの頭に足をのつけた
アーチエリー・R「ぐううう．．．」

フェニックス「．．．弓垂．．．」

ホワイト・ソウル「．．．おや、まだ気絶してないな．．．おま
え」

バード「来るぞあいつがこっちに」

フェニックス「でも．．．動かないよ．．．体が」

バード「(どうする．．．)」

ホワイト・ソウル「クククまずはこいつのウィザードからやるか」

バード「(ここから出なければ．．．)」

ホワイト・ソウル「出てこないと．．．」

ドカッ

フェニックス「うわっ」

ホワイト・ソウル「こいつがどうなってもいいのか？」

バード「くっ．．．」

バードはでできた

ホワイト・ソウル「いいこだ．．．そしてさっそく消える」

ホワイト・ソウルは、ソウルバスターを撃とうとしていた

バード「(これまでなのか．．．どうか助かる方法を．．．)」

ホワイト・ソウル「助かる」なんて思ってねえよな、ククク安心
しろ．．．助かんねえからな．．．」

フェニックス「バード．．．逃げて．．．」

ホワイト・ソウル「消える．．．ブラック・ナイトのようにな．．．」

ドギユウウウウン

フェニックス「バード……バード……バード……」
バード「俺は終わるのか……」
フェニックス「（バード！）」

ドックン ドックン ドックン ドックン！

フェニックス「！」

ドオオオオオオオオオオ

ホワイト・ソウル「ククク、ウィザードを消した……！」
フェニックス？「……」

ホワイト・ソウル「まだ動けたのか……！（あの姿は）
バード」ドラグ……まさか「あれ」を……」

フェニックスの姿は変化していた、それは大きな翼にそして身にま
とう……「黄金の光」……その姿は……

ホワイト・ソウル「ド……ドラグーン……！」

第95話 フェニックス覚醒！？（後書き）

フェニックスが言っていた「あれ」はドラグーンの事だった・・・
次回激しいバトルが始まる・・・

第96話 黄金のツバサ・フェニックスドラグーン！(前書き)

フェニックスがとつとつドラグーンに！

第96話 黄金のツバサ・フェニックスドラグーン！

ホワイト・ソウル「ド……ドラグーン……！」

フェニックス・Dドラグーン「僕はお前を……許さない！」

ホワイト・ソウル「（なんだこの感じは……体がうまくうごかねえ……まさか……）」

私は恐れているのか？」

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ

フェニックス・Dドラグーン「僕はお前を倒す！」

シューン

ドゴツ

ホワイト・ソウル「カハツ」

フェニックス・Dドラグーンは、一瞬にして消え、一瞬にしてホワイト・ソウルを殴っていた

ドラグーン（バード）「（やはり凄い……ドラグがこの力を使いこなすのは、だがどこまでもつのか……）」

ホワイト・ソウル「くつやるな……（なんだこいつ……化け物か？）」

フェニックス・Dドラグーン「お前……バードに「消える」って言ったよね？」

ホワイト・ソウル「それがどうした？」

フェニックス・Dドラグーン「謝れ……バードに謝れ！」

ホワイト・ソウル「けっ、誰が謝るかよバード」

フェニックス・Dドラグーン「そうか……じゃー「消える」！」

ホワイト・ソウル「！」

フェニックス・Dドラグーン「フレイムウイング！」

すると翼が炎の鳥になりホワイト・ソウルに撃った
ビュウン

ホワイト・ソウル「ぐっ（反撃する暇もな……）」

ッ……」
ホワイト・ソウルは、火の海に溺れていった……

第96話 黄金のツバサ・フェニックスドラグーン！（後書き）

恐るべしフェニックス・D!^{ドラグーン}
しかし次回フェニックス・Dに異変が^{ドラグーン}・・・？

第97話 フェニックスの限界・・・（前書き）

どうもレッドスターです・・・今日はいつもより早起きました。
いつもは11時とかに起きるのに・・・なんでだ？

第97話 フェニックスの限界・・・

ボオウ・・・

ホワイト・ソウル「・・・・・・・・・・」

キイン

変身が解けた・・・・・・・・

ソウル「くっ・・・・・・・・（なんとしてもこの魂は・・・・）」

フェニックス・D「待て」

ソウル「チツ・・・・・・・・」

フェニックス・D「お前も許さない・・・人の魂を取ってなにが楽

しい？」

ソウル「ケケケ・・・・・・・・楽しい？ああ楽しさ、とくにおいしいしな」

フェニックス・D「そうか・・・・・・・・なら消えろ、僕はお前みたいな奴

を見るとイライラする・・・・・・・・さつさとそいつも連れてここからでて

いけ！」

ソウル「ケケケそうか・・・・・・・・でも俺はもう人間の力は借りない」

ドラゲーン「ドラグ・・・・・・・・そろそろ・・・・・・・・」

フェニックス・D「黙ってて」

ドラゲーン「・・・・・・・・」

ソウル「もう人間はいらない・・・・・・・・使い捨てなのさケケケ」

フェニックス・D「使い捨て？」

ソウル「ああつ、そうさ人間はもう用済み、もう人間みたいな「ク

ズ」はもういらなんだよ」

ピクッ

フェニックス・D「クズ・・・・・・・・だと・・・・・・・・お前、人間はなんだとお

もっている、人間はお前の物じゃない・・・・・・・・お前のおもちやじゃな

いだ、クズでもないんだ、クズと思っっている奴は本物のクズだ！」

ソウル「うるさいんだよガキは！中身は人間のくせに生意気いって

んじゃ・・・・・・・・」

フェニックス・Dドラグーン「お前だってウィザードのくせに生意気言つなよ．．．いや．．．お前みたいなやつウィザードでもない」
ソウル「それで結構だ俺はウィザードじゃねえよ俺は．．．おつと、ここから先は秘密だったな．．．」
フェニックス・Dドラグーン「今回は見逃す．．．さつさと行け」
ソウル「いい気になりやがって．．．でも次は．．．お前の魂もいただくよケケケ」
スウー

ソウルは行ってしまった．．．

ドラグーン「ドラグ、早くしないと．．．」

フェニックス・Dドラグーン「うん．．．っ!」

ドックン．．．

フェニックス・Dドラグーン「ぐウウウウウウー痛い．．．」

ドラグーン「(しまった)ドラグ早く変身をとけ!」

フェニックス・Dドラグーン「ああ頭が．．．痛いよ．．．ぐっう」

フェニックス・Dドラグーンの頭にすごい激痛が走った

ドラグーン「くっ．．．(俺の声が届かない．．．どじする．．．

」

第97話 フェニックスの限界・・・（後書き）

なんか凄い展開が続いてるな・・・次回、フェニックス・Dはどうなる！？

第98話 受け入れ・・・(前書き)

今日は・・・いい日だ・・・

第98話 受け入れ・・・

フェニックス・Dドラグーン「ううううううっー」

フェニックス・Dドラグーンは頭を抑えている

弓垂「・・・ん？いててて・・・たしか白いやつに踏まれて・・・！」

ドラグーン『おい！何ねている早くこっちに来い！』

弓垂「おっ・・・おおっ（あれバードか？なんかめっちゃ姿変わってるよ、俺が寝ているあいだにながあった？）」

そして弓垂はフェニックス・Dドラグーンに近づいた・・・

弓垂「なんだよ・・・これ・・・」

フェニックス・Dドラグーン「ガアアウウ・・・ああっ」

弓垂「（俺の体が・・・震えてる・・・）」
ガタガタ

弓垂「なあ・・・バード・・・これは・・・」

ドラグーン『今はドラグーンだ・・・今のドラグは、苦しんでいる・・・』

フェニックス・Dドラグーン「うわああああああああ」

（受け入れる・・・）

フェニックス・Dドラグーン「うっ・・・ぐああ」

（俺を受け入れる・・・）

フェニックス・Dドラグーン「ああああああ（やだ・・・受け入れたくない）
あああああああっ」

（受け入れれば楽になる・・・）

フェニックス・Dドラグーン「うううううううううう」

「さあ……受け入れる俺を……！」

フェニックス・Dドラグーン「がっ……ぼ……くは……うけ……入れな
ーーーーーーーーーーーーーーーーい！」

するとフェニックス・Dドラグーンの周りに炎の渦が現れた
ポオビユユユユ

弓垂「ええええええええええっ!?どうなって……！」
シューウウウウ

ドラグーン「はあはあ……くっ俺もそろそろ限界だ……」
弓垂「ど、どうなってんだよ」

ドラグーン「はあはあ、ドラグは、今俺の力を使っている……し
かしその力が強大でいくらドラグがその力を使いこなしてもそれは
たったの数分しか使えない……もしその力を使いこなせないと口
ツクマンのように暴走する……簡単に言うと俺の力がドラグの体
を支配してしまう……」

弓垂「？」
ドラグーン「はあ……もっ簡単に言うと……ドラグの体がド
ラグーンに飲み込まれるってことだ……はあはあ」

弓垂「！」
フェニックス・Dドラグーン「うわあああやめてーーーうわあーーっ」
ドラグーン「はあはあ……ドラグ受け入れるな……」

フェニックス・Dドラグーン「ああああああ……ククク……」

弓垂「！」
ドラグーン「ド……ラグ……」
しゅううううしゅん!

ドラグーンは消えた

フェニックス・D^{ドラグーン}ククク・・・クハハハ・・・
「垂「ドラグ？」」

第98話 受け入れ・・・(後書き)

まさか・・・次回は・・・やばすぎる展開+ロックマン登場！
とうとうロックマンの久々バトル！見逃すなっ！

第99話 フェニックス・D暴走!?(前書き)

どうもレッドスターです・・・今回の話はフェニックス・Dドラグーンが暴走
!?

果たしてこの先の展開とは・・・?

第99話 フェニックス・D暴走!?

フェニックス・D「ククク・・・クハハハ・・・」

弓垂「ドラグ?」

フェニックス・D「・・・人間の反応がする・・・」

フェニックス・D「弓垂を見た・・・」

フェニックス・D「貴様か!」

するとフェニックス・Dは、弓垂のほうに歩いてきた

弓垂「ハハハ・・・冗談だろ?」

フェニックス・D「久しぶりに外に出れたんだ・・・人間を倒す」

弓垂「おいおい・・・マジで・・・おいドラ」

フェニックス・D「消えて無くなれ」

弓垂「ぎやあああああああ!」

そのとき

「ロックバスター!」

デュン!

フェニックス・D「!」

弓垂「・・・あれ?助かった・・・ってロックマン!?!」

弓垂の目の前にはロックマンが居た

ロックマン「大丈夫?」

弓垂「お・・・おお」

ウォーロック「ハッハッハッ助かってよかったですね」

弓垂「(あれ・・・ウォーロックなのか?一体なにがあったんだ?)」

「

フェニックス・D「お前は・・・!」

ロックマン「!」

フェニックス・D「そうか・・・お前も俺と同じか」

ロックマン「どういうこと?」

フェニックス・D「そう同じ・・・化け物どうしなのさ!」

ウォーロック『スバル君……あの人なんかおかしいですね……』

ロックマン『うん……』　今のウォーロックに慣れた

フェニックス・D『^{ドラグーン}クククさあなれよお前も化け物に！』

弓垂『ドラグ……』

ロックマン『えっ……ドラグ君ってさっきの？』

ウォーロック『もう……なんで、あんなになっちゃったでしょうね』

弓垂『えーと……たしかドラグーンの力にのみこまれて暴走したんだ』

ロックマン『じゃ、今のドラグ君は……』

弓垂『ドラグーン……そのものだ……』

ロックマン『……僕ドラグ君を助けるよ……』

弓垂『お前……本当に出来るのか？』

ロックマン『まかせて……僕はドラグ君を助ける！』

第99話 フェニックス・D暴走！？（後書き）

今回ロックマンの戦いませんでした・・・戦ったと言っても「ロックスバスター！」だけです・・・次回はバトルばかりです（たぶん）
お楽しみに！

第100話 治った！（前書き）

なんと今回でこの小説100話이었습니다！

読んでくれる皆さんのおかげです！

まあ、なんか最近さらに小説を書くのが楽しくなっちゃって・・・
こんな作者だけどこれからもよろしくお願いします！

小説はまだまだ続く

第100話 治った!

フェニックス・D「こいよ・・・」

ロックマン「行くよ、ロック!」

ウォーロック「はい分かりましたスバル君」

ロックマン「バトルカード「マッドバルカン3」!」

そしてフェニックス・Dにむけて撃った

ガガガガガガガガガガガ!

しかしフェニックス・Dはビクともしていなかった・・・

フェニックス・D「そんなていどか?ロックマン!」

ロックマン「くっ(効かない!?)」

フェニックス・D「なんならこっちからやってやるよ!」
すると

ロックマン「!(どこ・・・まさか!)」

ロックマンは後ろを向いた

フェニックス・D「おせえんだよ・・・」

ドゴツ

ロックマン「カハツ・・・」

フェニックス・D「まだまだーっ!」

ドゴオオオン

ロックマン「ぐふっ・・・がああ」

フェニックス・D「とどめだ!」

ウォーロック「ああっどうしよう・・・このままじゃスバル君が・・・
ぐっ・・・」

ブウウウン

ウォーロック「うおおおおおおおーっ!」

フェニックス・D「うおおおおお」

ピタッ

フェニックス・D「!」

ウォーロック『いてて頭がいてえな・・・』

ロックマン『ぐっ、ロック元に・・・戻ったんだ』

ウォーロック『スバル・・・どうしたんだその傷・・・』

ロックマン『早く・・・ドラグ君を助けないと』

ウォーロック『!・・・まさかこいつがドラグか?』

フェニックス・D『ドラグーンクククそうだ・・・ドラグだよ』

ロックマン『今・・・ドラグ君はドラグーンの力にのみこまれてるんだ』

ウォーロック『そうか・・・ならなるか・・・』

ロックマン『えっ!?!』

ウォーロック『あっちが「ドラグーン」ならこっちは「ライオーガ

」になるんだ!』

ロックマン『でも・・・僕は・・・』

ウォーロック『今度はうまく制御が出来る気がするんだ』

ロックマン『・・・分かったやってみよう!』

フェニックス・D『ドラグーン!』

第100話 治った！（後書き）

次回は「番外編」！100話スペシャル！お楽しみに！

番外編 100話記念の番外編 (前書き)

どうも！いつもおなじみのレッドスターです

今回は100話記念の番外編です！

いや〜最近の話がシリアスすぎてちょっと「笑い」がなく本当につらいです・・・

しかし今回の番外編は「笑い」あり！「涙？」あり？の番外編！
それでは番外編をどうぞ

番外編 100話記念の番外編

エピソード1「ドラグの休日」・・・の巻

それはまだスバルにあう前の話・・・

暁「よお！ドラグ」

ドラグ「あか兄！」

バード「ドラグ・・・これは？」

ドラグ「今日はあか兄が僕の家泊まるんだ！」

バード「（初耳だ）」

ドラグ「ねえあか兄！何する？」

暁「チェス」

そして2人はチェスをやることになった

トン

暁「・・・」

ドラグ「キングいただき」

暁「（ドラグって・・・こんなに強かったのか？）」

バード「（フフフびびってるな？暁・・・チェスを教えたのはこの

俺だ！）」

ドラグ「やったー勝ったー」

暁「負けた・・・」

ドラグ「じゃー、「例」の物ちょうだい」

暁「わかった・・・」

暁はドラグに「うまい棒」10本あげたのであった・・・

ドラグ「サクサク・・・うまい」

バード「うまい棒っておいしいのか・・・わからんな」

そしてあつという前に夜になった

暁「さつさと寝るよ」

ドラグ「はい」

そしてドラグは寝た・・・そうウサギの人形を抱きしめながら・・・
暁「(ドラグってもう小学3年だよな?)」
バード「(いつみてもあの人形・・・気にいらねえ・・・)」
そして・・・

暁「またなドラグ」

ドラグ「グッバイあか兄」

暁「(どこで知ったんだ?」「グッバイ」は)」

バード「(フハハハびびったな暁それも俺が教えたのさフハハハ)」
『

エピソード1終わり

エピソード2「弓垂とダイヤパール」・・・の巻

それは実験台にされた後のはなし・・・

弓垂「・・・」

ダイヤパール「・・・成功よ・・・」

弓垂「・・・」

ダイヤパール「この私を無視するき?」

弓垂「・・・」

ダイヤパール「そんなに私としゃべりたくないの!?!」

すると弓垂は首を横に振った

ダイヤパール「じゃ、何?」

弓垂は自分ののどを指でさした

ダイヤパール「まさか・・・声がでないの?」

弓垂「・・・」 「そう」って言っている

ダイヤパール「・・・」

弓垂「……………」

ダイヤパール「……………」

弓垂「……………」

2人の沈黙が今……始まる！

ダイヤパール「……………」

弓垂「……………」

ダイヤパール「……………」

弓垂「……………」(いつまで続くんた？この沈黙……………」

そしてあつという間に5時間たった……

もちろんまだ沈黙は続いている

ダイヤパール「……………」

弓垂「……………」

ダイヤパール「……………」

そしてとうとう沈黙を破るものがいた……それは—————
っ!?

ヨイリー「何してるの?」

ダイヤパール「ビクッ」

弓垂「……………」(ビクッ)

ダイヤパール「あ……………」!

弓垂「誰?」

ダイヤパール「……………」!」

なんということでしょう今度はダイヤパールがしゃべれなくなって
弓垂が声を出せるようになりました

ダイヤパール「……………」(声が……………」

弓垂「やったぜー」声が……声が—————っ!」

ドゴッ

弓垂「ぎゃふん」

ダイヤパールが突然弓垂をかけた

ダイヤパール「……………」「……………」「……………」「……………」「……………」

前」っと言っていた

弓垂「ごめんなしゃい・・・ガクッ」
そして弓垂は2日間声を出さなかったという・・・

おわり

番外編 100話記念の番外編 (後書き)

いやいや久々に書きたいことがかけて楽しかったです
次回からはまた「本編」です・・・次回は・・・ロックマンが!?

第101話 覚醒(前書き)

今回の話はロックマンが・・・覚醒!?
さあどうなる

第101話 覚醒

ロッキーマン「はあああー・・・」
ウォーロック「ウォオオオ・・・」
フェニックス・D「くるか・・・ライオーガ」
キュイイイイイイイイイイイイイイイ
ロッキーマン「はあああああああああー！」
ウォーロック「ウォオオオオオオオ力がみなぎるーくるぞスバル！」
ロッキーマン「わかつてる・・・！！！」
そのとき光がWAXAのすべてを包んだ

カア！！！！

フェニックス・D「・・・！、この感じ・・・やっと出てきたか・・・ライオーガ！」
ロッキーマン・R「・・・成功した・・・」
ライオーガ「ああつ・・・しかしそんなに長くはもたねえ・・・やるぞ！」
ロッキーマン・R「僕は絶対にドラグ君を助ける」
フェニックス・D「無駄だ！」
そして2人は激しくぶつかりあふ

ドゴオン ドギユン ガシツ ドカン スバアン

ロッキーマン・R「はあはあ・・・！」
フェニックス・D「くらえ！雨天火！」
ロッキーマン・Rの上から炎が降り注ぐ
フェニックス・D「ライオーガよ燃えろ！」
ポオオン

そして今「ライオーガ」と「ドラグーン」の戦いはいったんおさまった……しかし今……
地球……いや世界……いや宇宙の消滅の歯車が今回り始めたのであった……

第101話 覚醒（後書き）

どうも・・・はぁ疲れた・・・次回からは少しずつ「笑い」の方
を取りたいと思っています（まぁ出来たらの話ですが・・・）

第102話 ライオの涙（前書き）

どうもレッドスターです。

今日いい事がありました・・・

第102話 ライオの涙

スバル「いてて……」

ウォーロック『やはりライオーガの力はずらいな』

弓垂「……」 ライオーガとドラグーンの戦いにビ
ビツて気絶

スバル「……！、あれは……」

ウォーロック『あいつは……ライオ！』

スバル「なんでここに……」

弓垂「……はっ！ここは、今どうなってるの？」

スバル「……ロック」

ウォーロック『……こいつ……ないてやがる』

スバル「つれていこうWAXAワックスに……」

そして……

ミソラ「はあ……」

ゴン太「なんか最近変なことばつかだよ……」

キザマロ「まるでこの世界の終わりみたい……」

委員長「キザマロ！変なこといわないでちょうだい！」

キザマロ「……はいいい……」

すると

「みんなー」

ゴン太「この声は……スバル！」

皆は声のする方に向いた

スバル「ただいま」

ミソラ「スバル君……記憶は？」

スバル「戻ったよ」

ミソラ「よかった……」

ゴン太「！……そいつ……ライオか？」

スバル「うんそうだよ」

ウォーロック『それとドラグもな』

委員長「スバル君……」

スバル「何……」

委員長「なんでロックマン様の姿じゃないの？（怒）」

スバル「ご……ごめんなさい」

委員長「でも、よかった」

スバル「委員長……」

ウォーロック『そいえばスバル……誰か忘れてないか？』

スバル「え？」

外では……

弓垂「完全に俺の事忘れてるよ……（涙）」

第102話 ライオの涙（後書き）

次回のロックマンは・・・笑いあり？

第103話 WAXA崩壊！？（前書き）

最近なぜか腰が痛い・・・（俺まだ歳じゃないのに）

第103話 WAXA崩壊!?

ゴン太「ライオ達起きねえな」

スバル「ロック」

ウォーロック「なんだ？」

スバル「WAXA大丈夫？」

グラグラ

ウォーロック「・・・大丈夫だろ」

グラグラ

スバル「（いや、もうゆれてるじてんで大丈夫じゃないと思う）」

ミソラ「ねえ、スバル君」

スバル「何？」

ミソラ「スバル君は大丈夫なの？その傷」

スバル「うん、全然平気・・・ッ！」

スバルは傷を抑えた

ミソラ「全然平気じゃないじゃない」

スバル「ははは・・・」

ウォーロック「（・・・まさか、ドラグが「ドラグーン」とは）」

ミソラ「さあ、傷口を見せて！私が治療してあげる」

スバル「ありがとう」

ハープ「ポロン ロック」

ウォーロック「げっハープ」

ハープ「私がロックの痛い所を直してあげるわフッフ」

ウォーロック「ち、近づくな！このっ・・・」

そして・・・

ミソラ「はい、終わり」

スバル「ありがとう」

ウォーロック「ぜえぜえもうハープは・・・」

ハープ「ここよ」

ウォーロツク『くっ、追いかけんよ』

ハープ『さあおいでロツク・・・やさしく痛いところを癒してあげるわフフフ・・・』

ウォーロツク『くそっ、こうなったら（うおおおビーストスイング）』

ズバア

ハープ『フフ、やる気のような私も負けないわよお』

そして2体のウィザードの戦いが今始まった・・・

ハープ『ポロン私の技を食らいなさい！（本月初登場よ）』
そしてハープは引き始めた

~~~~~

ハープ『技名は「楽しい休日」よ』

ウォーロツク『だあああああどこが楽しい休日だ！ただの悲しい休日だろ！』

ハープ『いいじゃない』

ウォーロツク『（めんどくせ）かああもう終わらす！うおおおおお  
おお』

ハープ『！』

ウォーロツク『うおおおおおおおフルパワービーストスイング  
グウウウウウ！』

ズバアアアン

ハープ『くっ・・・あら？』

ウォーロツク『あれ？』

グラグラ・・・ゴゴッ

すると建物がどんどん崩壊していく・・・

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ

ドシャアアアン

ウォーロツク『（やっべ）』

そしてWAXA崩壊したのであった・・・

中にいた人は皆なんとか無事だった・・・

弓垂は・・・

弓垂「まだ忘れてる・・・！、そうかWAXAワクサにいけば・・・」

WAXAワクサは崩壊していた・・・

弓垂「・・・」 何かあったのか知らないがなんか悲しい

顔をした弓垂であった





第104話 久しぶりの家（前書き）

どうもレッドスターです・・・なんかすみません3日間も書けなくて・・・

とうとう俺のストックもなくなり3日間休みましたたぶんしばらくは休まないとおもいます

## 第104話 久しぶりの家

とある場所

ソウル『はあはあ・・・ついた』

ソウルの目の前には黒い屋敷があった・・・

そしてソウルはその屋敷に入った

ソウル『来たぜ俺が』

???『まっていたわよ・・・ソウル』

ソウル『遅れてすみません』

???『・・・にしてもまさかあなたが負けるとはね』

ソウル『やはりあの力を壊すより利用したほうがいいと思います』

???『しかしあの力を私たちが利用してもあの力を制御するのは

難しいわ』

ソウル『・・・それでは「例」の物を持ってきました』

???『やつと「1000人」の魂を手に入れたのね』

ソウル『いいえあと「1人」足りません』

???『あと1人・・・ね』

そのころWAXAワックスがあつた場所では・・・

ビュウウウウ

スバル『・・・夜になつちやたね』

ミソラ『寝る所もないのよね』

ヨイリー『・・・』

ウォーロツク『なあ・・・スバル』

スバル『何?』

ウォーロツク『おふくろの家にもどんねえか?』

スバル『その手があつた!』

委員長『でもどうすんの?』

スバル『何が?』

委員長「ヨイリー博士とか今家に戻れないし」

スバル「えっ……どうして戻れないの」

キザマロ「それは僕が説明します……最近<sup>ワクサ</sup>WAXAでは激しいバトルが続いてしまい<sup>ワクサ</sup>WAXAだけでは無く<sup>ワクサ</sup>WAXAの外まで被害が受けています、そのせいで帰れるのはコダマタウンだけと……」

ミソラ「じゃー私帰れないの!？」

キザマロ「はい」

スバル「困ったなあ」

ヨイリー「誰かの家に泊まるとかは？」

スバル「そうだね……しばらくコダマタウン以外のところは行けないし……」

ウォーロック『とりあえずおふくろに聞いてみようぜ』

スバル「うん」

そしてコダマタウン……

茜「皆が止まる?いいわよ」

スバル「だってさ」

委員長「私んちはだめだったわ……」

ゴン太「同じく」

キザマロ「同じく」

スバル「……」

ハーブ『ポロロン しばらくよろしくねロック』

ミソラ「スバル君の家に泊まるんだ……私」

ドラグ「スースー」

スバル「……(この先僕どうなるんだろ?)」

第104話 久しぶりの家（後書き）

まさかの展開！なんかよく家に泊まるっていうの・・・なんかラブ  
ストーリーみたいになってるんですが・・・この先大丈夫かな？

第105話 ドラゲ目覚める(前書き)

どうもレッドスターです。

なんか最近色々と忙しくて一日1話しかかけません、でも俺は頑張ります！(色々)

## 第105話 ドラゲ目覚める

茜「はいご飯よ！」

どお〜ん

そこには凄い豪華な料理が並んでいた

皆「おお〜っ」

スバル「(母さん・・・はりきってるね)」

ミソラ「おいしそう」

ヨイリー「(漬物がないわ)」

ドラゲ「わーい」

スバル「わっ！ドラゲ君いつ起きたの？」

ドラゲ「さつき」

スバル「へえ〜」

大吾「にぎやかだな」

茜「そうね」

ウォーロック「スバルさつさと食べるよ」

スバル「あっ、うん」

皆「いただきまーす」

ミソラ「もくもくおいしい」

スバル「・・・そいえばロック誰か忘れてない？」

ウォーロック「さあ？」

そのころWAXA「ワックス」があつた場所では・・・

弓垂「皆・・・どこ？」

すると

P i P P i P i

弓垂「はい、もしもし」

ダイヤパール『なにしてんの弓亜！早く帰ってきなさい！』  
弓亜「でも皆が・・・」

ダイヤパール『ヨイばあならスバルの家に泊まるって行ってたけど・  
・まさか置いてかれた？』

弓亜「・・・」 ショックを受けている

ダイヤパール『まあとりあえず帰ってきな』

プチッ！ツーツーツー

このあと弓亜は帰っていった、そう・・・涙を拭いて・・・

そのころ・・・

スバル「もう・・・食べれないゲップ」

ドラグ「ごちそうサンマ」

ヨイリー「(幸せ)」

ミソラ「ぷはぁー」

スバル「・・・寝るか」

茜「ミソラちゃん是我的部屋でねましょ」

ミソラ「はい」

スバル「ドラグ君は僕と」

ドラグ「わーい」

そして・・・この日は皆よく眠りましたとさ・・・

第105話 ドラゲ目覚める(後書き)

ドラゲが急に目覚める・・・恐るべし!ドラゲ!



第106話 騒がしい1日(前書き)

どうもレッドスターです、今日俺新しい小説を書きましたよかったら見てください

## 第106話 騒がしい1日

次の日の朝・・・

ウォーロツク『起きろスバル』

スバル「あと10分30秒ねかせて・・・」

そのとき急にスバルの体が動かなくなった

スバル「！、体が・・・動かない・・・」

ドラグ「どうしたの？」

スバル「ねえ・・・ドラグ君」

ドラグ「何？」

スバル「放してくれない？」

そうスバルの体が動かなかったのはドラグがスバルの体を抱いていたからなのだ！

そして・・・

スバル「（結局起きちゃった・・・）」

ドラグ「わーいわーい」

スバル「（いつまで続くんだろこの生活・・・とほほ）」

ミソラ「んん〜よく寝た」

そのときウォーロツクは嫌な感じがした・・・

ミソラ「あっスバル君おはよ」

スバル「うん、ふあ〜」

ウォーロツク『スバル・・・しばらくここから留守する・・・』

スバル「どうして？」

ウォーロツク『それは・・・』

ハープ『ポロン逃がさないわよロ・ツ・ク』

ウォーロツク『ぎゃーハープ・・・』

そしてウォーロツクはスバルのハンターV.Gから出てった  
もちろん追いかけるハープであった

スバル「・・・」

ドラグ「おなかへった」

茜「まつててねあと少しで出来るから」

大吾「いやーにぎやかだな」

スバル「（にぎやかすぎる）」

そして朝ごはん

スバル「（母さん・・・張り切りすぎるよ、朝までこんな量そしていつもより・・・豪華!）」

ミソラ「いただきまーす」

ドラグ「いただきマンモス!」  
もぐもぐ

スバル「そいえばヨイリー博士は?」

ミソラ「たしかなんかラジオ体操するって」

スバル「・・・」

大吾「スバル今日いつしよに展望台に行くか?」

スバル「うん行く!」

ミソラ「私も行ってもいい?」

ドラグ「僕もー」

ヨイリー「私も」

スバル「いいよ・・・ってヨイリー博士いつからいたの!？」

ヨイリー「さつきからよ」

スバル「へえー」

そして皆朝ごはんを食べ終わりました・・・

第106話 騒がしい1日(後書き)

まだ続く少し平和な日々・・・次回も続く

第107話 夜の星(前書き)

どうもレッドスターです。

今日から学校が始まりました・・・やだな・・・

## 第107話 夜の星

夜の8時・・・皆様はんを食べ終わって展望台に向かう

スバル「わぁー今日もきれい」

ウォーロツク『そうか？俺にはどれも一緒に見えるけどな』

ミソラ「・・・」

ドラグ「わーいわーい」

ヨイリー「・・・感動」

大吾「ここから見る星はやっぱりいいな、スバル」

スバル「うん」

ウォーロツク『（いつまでこの星を見られるか・・・）』

ミソラ「そいえば初めてスバル君と会ったのもここ、展望台だったよね」

スバル「そうだね」

ドラグ「あつ、流れ星！」

キラアン

次々と流れている星・・・そしてスバルは思った・・・

スバル「（僕は、いままで世界を守れた・・・でも今回は守れるのかな・・・）」

ミソラ「スバル君？」

スバル「えっ・・・何？」

ミソラ「なんか難しそうな顔してるよ？」

スバル「いや、本当に何でもないって・・・ハハ・・・」

ドラグ「あつ、また流れ星だ！願いを言わないと・・・」

スバル「（願いか・・・）」

ミソラ「せっかくだから私たちも願おうよ」

スバル「そうだね」

そして皆手と手を合わせた・・・

ドラグ「（皆楽しくいられますように）」

ヨイリー「(若返りますように)」  
ミソラ「(いつまでも皆といられますように)」  
スバル「(世界を守れますように)」  
皆それぞれの願いをこめたあとスバルの家に帰っていった・・・

そのころ・・・

弓垂「あゝあ、眠い」

ピンポーン

弓垂「！」

ダイヤパール「客？でな弓垂」

弓垂「なんで俺？まあいいか・・・」

そして扉をあけた

弓垂「はーいどちら・・・！！」

???「久しぶりだな・・・弓垂」

弓垂「おまえは・・・」

すると雨が降ってきた

ザアアアアアア

弓垂「兄貴・・・」

第107話 夜の星（後書き）

次回・・・弓垂の過去が分かる？（仮）



第108話 弓垂の兄（前書き）

どうもレッドスターです。

はぁ・・・今日ちょっといやなことがありました・・・

## 第108話 弓垂の兄

弓垂「兄貴……」

長矢「元氣みたいだな」

弓垂「何しにきた……」

長矢「ちよつとな……弟の顔が見たくてね」

弓垂「俺は見たくねえよ兄貴の顔なんかよ」

長矢「そうか……」

弓垂「さつさと帰れよ」

長矢「いいやそれは出来ない……」

弓垂「！」

長矢「俺は弟を連れ戻しに来たんだから」

弓垂「なんだと……いまさらそんな事いやがって俺はどんな気

持ちでいたか……」

長矢「やはり……か」

弓垂「分かったら帰れ……」

長矢「だつたら無理にでも連れ戻す！」

すると長矢は弓垂の腕を掴んだ

弓垂「てめええ……」

長矢「……」

ザアアアアアアアアアアアアアアア

雨はどんどん強くなつていく……

弓垂「兄貴、昔言つたこと忘れてないよな？」

長矢「！」

弓垂「お前など俺の前から消えればいいんだ」なんて言つたくせ  
によ……いまさらどの面下げて来ているんだよテムエよ！」

長矢「……帰るぞ」

バチン

弓垂は長矢から離れた

弓垂「ふざけんなよ・・・ふざけんなよ！」

ゴロゴロピカアーン

雷の音が強まっていた・・・

長矢「・・・このわからずやが・・・」

弓垂「！」

すると長矢はハンターV Gを出した

長矢「電波変換」

そして雷の音とともに変身した

キイイイイイン

弓垂「なにい」

???「さあ・・・弓垂も変身しなよ・・・」

弓垂「なにで兄貴が電波変換出来るんだ・・・」

クロダーツ「この姿はクロダーツださあ早く変身しろよ弓垂！」

弓垂「OK・・・10分間だけ付き合ってやるよ・・・電波変換！」

キイイイイン

アーチエリー・Rトミハシ「・・・」

クロダーツ「10分?へっそれだけあればじゅうぶんだ！」

雷が2人の近くに落ちた

ドオン

第108話 弓垂の兄（後書き）

な、なにいろ弓垂の兄が電波変換だとおゝ次回は兄弟バトル！

第109話 クロダーツの力(前書き)

どうもレッドスターです。

今回は兄弟バトル！かつのは弓亜が長矢か！？

## 第109話 クロダーツの力

アーチェリー・R「くらえインファイニティーアロー！」

無数の矢がクロダーツに降り注ぐ

しかしクロダーツは一步も動かなかつた

クロダーツ「へえ〜お前の力はそんな程度か・・・」

アーチェリー・R「何っ！」

クロダーツ「なら俺の力も見せてやる・・・シャドウスピーア！」

アーチェリー・Rトミミ「の周りにたくさんの針が現れた

クロダーツ「刺される！」

ザザザザザザザザザ

アーチェリー・R「ぐああああああああ」

たくさんの針はアーチェリー・Rトミミの体にささる

アーチェリー・R「ぐああ・・・ああ」

クロダーツ「・・・がっかりだよ俺の弟がこんなに弱いなんて

アーチェリー・R「だまれええ・・・」

クロダーツ「本当がっかりだ・・・」

アーチェリー・R「だまりやがれええええ」

アーチェリー・Rトミミは矢を放った

ズバア

クロダーツ「！」

クロダーツの腕に少しあたって

アーチェリー・R「兄貴・・・俺はもうお前の「おもちゃ」じゃね

えんだ！弟だあ？もうにとど「弟」って呼ぶんじゃねえよ！」

クロダーツ「まったく・・・反抗期なのかねえ」

アーチェリー・R「俺の前から消えやがれええ！」

クロダーツ「消える？本当に俺が消えてもいいのか？」

アーチェリー・R「!?」

クロダーツ「お前は俺を消せるのか？最期のつながりを・・・」

アーチェリー・R「……」

クロダーツ「そう……」「血の繋がった」最期の兄弟を！」

アーチェリー・R「……どうだっていいそんなの……俺にはもう  
必要ない」

クロダーツ「そうか……ならこれならどうだ？」

????「捕まえたよおー」

ダイヤパール「もがもが！」「放しなさい！」

アーチェリー・R「なっ……博士？」

クロダーツ「こいつは人質だ、返してほしければ俺達のところにく  
るんだな」

アーチェリー・R「……」

クロダーツ「来週だ……来週の今ここで待つ……返してほしけ  
れば来週のここにこい」

ダイヤパール「んーんー」

ポロツ

ダイヤパールのポケットからなにか落ちた

クロダーツ「またな」

????「待ったねえ」

2人は消えていった……

キイン

変身をといた弓亜……

ザアアアアアアア

弓亜はダイヤパールが落としたりップみたいなものを拾った……

弓亜「（助けてみせる……）」

そして3日後の朝……

スバルの家では……

スバル「そいえばWAXAワクサはどうなったんですか？ヨイリー博士」

ヨイリー「まだ無理そうね……」

スバル「そうですか」

ピンポン

茜「はい」

ガチャ

茜「あら、スバルーお友達よー」

スバル「はい」

ゴン太「ようスバル！」

スバル「ゴン太！それに・・・」

キザマロ「おはようございます」

委員長「ヨイリー博士達は？」

スバル「僕の部屋にいるけど・・・」

スバルの部屋では・・・

ドタバタドタバタ

ドラグ「わーいわーい」

ミソラ「・・・」

じゃあくん

ギターを弾いていた

ヨイリー博士はリビングで茶をのんでいる

委員長「にぎやかね」

スバル「でしょ？」

ドラグ「ねえスバルさん遊ぼう！」

スバル「そうだね・・・」



ある所

「……そろそろだわ……宇宙の消滅が……」

第109話 クロダーツの力（後書き）

とうとう危機が・・・？

そして今日でオリジナルキャラクタークタールの投稿が終わりにします。

オリキャラを送ってくれた人ありがとう（涙）

ちなみに送ってきてくれた人は6・7人です

第110話 夏が来た！（前書き）

どうもレッドスターです。

俺の小説では今やっと「夏」！がきました・・・（春長すぎだろ）

## 第110話 夏が来た！

次の日の朝

茜「スバルー」

スバル「何・・・？」

茜「はい」

スバルに渡されたものそれは・・・「5000ゼニー」だった  
スバル「これは？」

茜「今日と明日お祭りあるからいつてきていいわよ」  
スバル「ありがとう」

そしてスバルの部屋・・・

スバル「皆！」

ドラグ「なーにー？」

スバル「お祭り行かない？」

ミソラ「いいね行こうよ！」

ハープ「ロック行きましようよ」

ウォーロック「やだ」

スバル「今日の6時からあるからその間何する？」

ドラグ「うっしーと遊びたい」

スバル「うっしー？」

ミソラ「ゴン太君の事だよ」

スバル「（ゴン太がうっしーね・・・）」

ミソラ「せっかくだからルナちゃん達も誘おうよ！」

スバル「そうだね」

ピンポーン

ゴン太「ふぁ〜いいいぜ今日の6時な！」

ピーンポーン

委員長「お祭り？いいわよ行つてあけるわ」

ピーンポーン

キザマロ「わかりました6時ですね・・・」

スバル「よしっこれで全員だ」

ミソラ「お祭りがあ久しぶりにいくなあ」

スバル「ミソラちゃんの仕事が忙しくてお祭り行く余裕ないもんね」

ミソラ「うん、でも今日も明日も大切な人とお祭りに行ける・・・」

だから今の私幸せなんだ」

スバル「ミソラちゃん・・・」

そして6時間後・・・

スバル「・・・」

ドラゲ「・・・」

ミソラ「・・・」

キザマロ「・・・」

委員長「・・・」

ゴン太「ごつめえーん遅れた・・・」

委員長「ゴ〜ン〜タ〜（怒）」

ゴン太「わわっごめんなさい委員長!」

スバル「ハハハ」

スバルは思った「いつまでもこの平和が続いてほしい」っど・・・  
しかし平和はいつも短かった・・・

第110話 夏が来た！（後書き）

次回は祭りだせー！

まあ小説の中だけど・・・

第111話 祭りだ！（前書き）

9月になりましたね・・・しかしまだ暑いですね。

## 第111話 祭りだ！

コダマ公園

スバル「ついた！」

スバル達の目の前は祭りの屋台がズラーッと並んでいた  
ウォーロツク『しかし祭りってそんなに楽しみなものか？』

ドラグ「わぁー金魚すくいだぁ！」

ゴン太「ウォー焼きそばにたこ焼きにわたがし！」

キザマロ「ゴン太君お祭りは食べ物だけじゃありませんよ」

ゴン太「くうぞぉー」

キザマロ「聞いてない・・・」

スバル「順番に見ていこうよ」

そしてスバル達は屋台を順番に渡った

まず金魚すくい屋

ビリッ

ドラグ「あーあ・・・やぶれちゃった・・・」

スバル「次は・・・」

焼きそば屋

ゴン太「おじさーん焼きそば5個ください」

おじさん「おうよ、皆の分も入ってんだろ？」

ゴン太「1人で食う」

おじさん「きにつたぜ！+もう1個おまけするぜー！」

スバル「6個!？」

そしてゴン太は5個+1個を食べました

わたがし屋

ゴン太「わたがし3個ください」



ミソラ「私は1個で」  
ウォーロック『(ゴン太・・・食いすぎだろ)』

???「ククク・・・ここだな」

???『ヒヒヒ・・・いけウイルスども』

ウイルス達はお祭りを襲撃した

スバル「ハハハ」

ウォーロック『!、スバル、ウイルスだ!』

スバル「えっ・・・」

どおーーーーん

ミソラ「えっ、何!?!」

ハーブ『ミソラ!ウイルスがあつちこつち散らばってるわ!』

ミソラ「せつかくのお祭りなのに・・・ゆるさないわ!」

スバル「トランスコード・シューティングスターロックマン!」

.....

スバル「・・・あれ?」

ウォーロック『どうやらWAXAが崩壊してトランスコードは使えないようだな?』

スバル「ええっじゃーしょうがない」

ウォーロック『ならトランスコードじゃなければいいんじゃないか?』

スバル「わかった・・・電波変換 星河スバル オン エア!」

キイイイン

ロックマン「できた・・・あつ、姿が懐かしい!」

ウォーロック『(できた・・・)』

ロックマン「よしやるぞー!」

第111話 祭りだ！（後書き）

次回、謎の敵現る・・・

第112話 アク（前書き）

どうもレッドスターです。  
まだまだ厚いっスね

## 第112話 アク

ミソラ「電波変換！」

キイイン

ハープ・ノート「いくよ、ショックノート！」

ウイルスはどんどん消えていく

ロックマン「ロックバスター！」

デュン デュン

ウイルスはどんどん消えていくがしかし同じくどんどんウイルスの数も増えていた

ロックマン「きりがない」

ウォーロック「！、スバルなにかがこっちに近づいてくるぞ！」

ロックマン「なんだって!？」

そのとき

ドゴオ

ロックマン「かはっ・・・」

ハープ・ノート「ロックマン？」

ロックマン「誰だ？」

????「こいつか・・・獲物は」

????「ヒヒヒそうだ」

ドラグ「あっ、あいつは」

バード「ソウルだ！」

ソウル「あの時の小僧・・・あの時の恨みは忘れてない」

????「あれ？ロックマンじゃーねえの？」

ソウル「そう俺はあの小僧にやられた・・・それにあいつも獲物だ」

・・・

ロックマンは立ち上がった

ロックマン「そうか、君たちがウイルスをばらまいたな！」

????「そうさ、俺達がばらまいた」

ウォーロツク『！（こいつ・・・なんか変な感じがする・・・）』  
そのとき

????「はああああ」

ズドオオン

ロツクマン「！」

????「・・・久しぶりだね・・・」

????「・・・」

????「ソロ・・・いや今はブライか・・・」

ブライ「おまえなぜここにいる・・・アク！」

アク「なぜいるって・・・いるからに決まってるからじゃないか」

ブライ「・・・変わらないな・・・」

アク「まあね」

ロツクマン「（どうしよう・・・話について行けない）」

アク「これは何かのえんだ・・・俺はここでお前をつぶす！」

ブライ「ふん」

アク「電波変換！」

キイイイイイン

ブライ「・・・」

キラア「さあやるつか、この俺・・・キラアと・・・」

第112話 アク（後書き）

ソロとアクの関係とは・・・？

第113話 プライVSキラア（前書き）

今回の話は・・・まさか・・・

### 第113話 ブライVSキラア

キラア「さあこい！」

ブライ「ブライナツクル！」

たくさんの手がキラアに向かう

ドゴオ

キラア「ぐふっ……昔より力が強くなったな」

ブライ「……」

キラア「こつちも反撃だあ！キラアソード！」

黒いオーラが剣になった

ブライ「……ラプラス」

ラプラスはソードになった

キラア「ラプラスソードか……行くぞ！」

2人の攻撃は激しくぶつかりあった

キイン ガン ズバアン

ブライ「くっ（動きが早い！）」

キラア「（力は早いがやはりスピードではこつちが勝っているな）」

ズバアン

ブライ「がああああ」

ロックマン「ブライ！」

ウォーロック「そうか……そういう事だったのか」

ロックマン「ロック？」

ブライ「ぐっ……」

ブライは足をやられていた

キラア「ブライ……まだまだだな」

ブライ「！」

ドッ

ブライはキラアの腹を殴った

キラア「ぐっあ」



ブライは立ったしかし・・・  
ブライ「くっ・・・（足が）」  
キラア「ククク足をやられていればまともに動けまい」  
ブライ「・・・」  
キラア「なあ・・・協力しねえか？」  
ブライ「！」  
キラア「なあブライお前はほしくないか？」  
ブライ「なにをだ」  
キラア「世界さ」  
ロックマン「世界!？」  
ブライ「世界・・・だと？」  
キラア「そうだ・・・自分だけの世界・・・自分の夢がかなう世界だ！」  
ブライ「・・・夢がかなう世界・・・」  
キラア「そうだ・・・」  
ブライ「・・・くだらないな」  
キラア「何っ！」  
ロックマン「ブライ・・・」  
キラア「くだらない？この話を聞いても同じこと言えるのか」  
ブライ「ふん」  
キラア「お前の親にも会えるんだぜ？」  
ブライ「・・・！」

第113話 プライVSキラア（後書き）

なにいブライの親！？なんかさらに大変なことになってきたーっ！

第114話 ロックマンVSキラア（前書き）

どうもレッドスターです。

今回の話もやばそう・・・

## 第114話 ロックマンVSキラア

ブライ「………！」

キラア「悪い話ではないだろ？」

ブライ「(家族……)」

ロックマン「ブライ！」

ブライ「……親などくだらない……」

キラア「ククク、「親などくだらない」か……本当は会いたいくせに……」

ブライ「俺は1人で生きてゆく」

キラア「そうか、協力してくれないか、なら消える」

ズバア

ブライ「ぐっ」

カラーン

ブライはソードを落としてしまった

ブライ「はあはあ」

キラア「弱い……それでも「ムー」の生き残りか？」

ブライ「！」

キラア「じゃあな、わが友……」

デュン

キーン

キラアの剣が飛ばされた

キラア「！」

ロックマン「やめろ！」

キラア「そうだった……獲物はブライではなく、ロックマン！」

ロックマン「ロックバスター」

デュン

キラア「……」

サッ

キラアはロツクバスターをよけた

キラア「（これだったらすぐに捕獲できそうだ）」

ロツクマン「！」

キラア「くらえ」

ズバア

ロツクマン「うわああああ（早い・・・）」

ドサツ

委員長「あれは・・・ロツクマン様！」

ゴン太「ロツクマンがピンチだ・・・でも委員長を守るのが俺の役

目・・・どうしょ

キラア「では・・・捕獲・・・！」

ロツクマン「ロツクやるよ」

ウォーロツク「おう」

キイイイン

ロツクマン・Rライオーガ「変身！」

キラア「何!？」

ロツクマン・R「うおおハンマー」

ドオン

キラア「くつ・・・（スピードはこっちが勝っているけど、なんだ

あの力は！一発でもあれにあたったらダメージが大きいここは遠距

離で攻撃するしかない）」

すると剣が消えて変わりに銃になった

キラア「くらえ爆ボンバーガン十弾！」

ダンダンダンダンダンダンダンダンダンダン

ロツクマン・R「ゴールドシールド」

ブウン

キンキンキンキン

キラア「何っ！」

ロックマン・R「これで終わらす！」

ロックマン・Rはキラアライオーガに近づいた

キラア「！」

ロックマン・R「ライオーガ クラッシュ雷鬼の一撃！」

ドゴオオオオオン

キラア「ぐがああああうああああ

ソウル『（ひきあけるか・・・）』

ソウルはキラアに近づき一緒に消えていった・・・

ロックマンは電波変換をといた・・・

キイン

スバル「消えた・・・」

ウォーロック『たくつ、なんなんだ？あいつら』

スバル「（それにキラアって人・・・「ムー」とかって・・・もし

かしてキラアも「ムー」の生き残り？）

ブライ「・・・」

ブライも変身をといた

キイン

ソロ「・・・」

ソロは立ち上がったそして足をひきずりながらどこかに行こうとしていた

スバル「ソロ」

するとソロはとまってスバルに言った・・・

ソロ「よけいなまねをするな・・・」

スバル「！？」

そしてどこかに行ってしまった・・・

第114話 ロックマンVSキラア（後書き）

せっかくの楽しい祭りがあゝ・・・次回は祭りの続き？

第115話 祭り再開！（前書き）

どうもレッドスターです。

なんかこの先の展開はなんかやばくなるかも……？



## 第115話 祭り再開！

なんとかスバル達は祭りを守ったそして・・・

次の日

スバル「ぐぐぐ」

ウォーロツク「（なんか最近わからねえ事ばつかな・・・）」

スバル「・・・ふあゝ・・・おはよ・・・」

ウォーロツク「起きたかスバ・・・」

スバル「ぐ」

ウォーロツク「（寝るの早っ！それとも寝言か？）」

スバル「ぐ」

ウォーロツク「・・・」

そして10時半・・・

スバル「んっ・・・ふあゝおはよ・・・」

ウォーロツク「ああ、おはよう寝ボスバル」

スバル「寝ボスバル!？」

ミソラ「スバル君起きた？」

ドラグ「スバルさん」

スバル「おはよう」

ウォーロツク「ほらさっさと歯磨きしろ寝ボスバル!」

スバル「寝ボスバルって言うなーっ!」

そして・・・

スバル「えっ、今日も祭りあるの!」

茜「ようよ、あんまり被害は出てないからできるって」

ミソラ「行こうよスバル君!」

スバル「そうだね（昨日みたいになりませんように!）」

そしてあっという間に6時になりました



ウォーロック『(キザマロの奴なんかの呪文を言ってやがる)』  
スバル「楽しかったね」

ミソラ「うん！」

ドラグ「またいきたい！」

スバル「また来年行こうね」

ドラグ「わーい」

そしてこの日約2名以外の人は楽しく帰りました

そして・・・3日後・・・

ミソラ「電車が直ったからこれで帰れる！」

ドラグ「スバルさんの家またとまりたい」

スバル「またね・・・(騒がしい一週間だった・・・)」

そしてミソラ・ドラグ・ヨイリーは帰っていった・・・

そしてWAXAは一部だけ直ったそうだ・・・

そのころ・・・

弓垂「・・・」

長矢「弟よ・・・逃げずによくきたね・・・ほめてやるっ」

弓垂「博士はどこだ・・・博士を返せ！」

長矢「そうだな・・・」

キイイイン

長矢は変身した

クロダーツ「でも俺に勝つたらな・・・弟・・・」

弓垂「・・・」

第115話 祭り再開！（後書き）

次回また兄弟対決！

**第116話 兄弟バトル！（前書き）**

どうもレッドスターです。

兄弟バトルは本日で2回目！

弓垂は勝てるのか！？

## 第116話 兄弟バトル!

弓垂「電波変換!」

キイン

アーチェリー・R「こいよ……」

クロダーツ「では行くぜ!シャドウスピア!」

アーチェリー・Rニミットの周りにたくさんの針が現れた

アーチェリー・R「くっ……(また囲まれた……でも……)」

アーチェリー・Rは矢を空に向けた

アーチェリー・R「インファイニティーアロー!」

クロダーツ「ふんそんなので俺にあたると……!」

アーチェリー・Rの周りにあつた針が全部落とされていた

クロダーツ「(まさか狙いは針だったのか!)」

アーチェリー・R「同じ技は俺には効かない……どうする?兄貴・

……」

クロダーツ「なめるなあ!ならこれならどーだ!」

アーチェリー・R「?」

クロダーツ「針地獄を見せてやる!」

クロダーツは地面に手を付けた

すると

アーチェリー・Rの下から……

ポコッ

アーチェリー・R「なんだ……!?!」

針が出てきた

ズバッ

アーチェリー・R「(チツ、少し顔にかすつたか)」

クロダーツ「まだまだ」

ポコポコポコポコ

次々と地面から針が出てくる……



キユイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイン

アーチエリー・Rは形が変わった・・・

クロダーツ「なんだ!？」

するとマウンテンダーツは一瞬にして消えていた

クロダーツ「あ、ありえない・・・」

『変形完了!』

アーチエリー・GV「・・・・・・・・・・・・・・・・」



第116話 兄弟バトル！（後書き）

なんかすごい・・・

第117話 アーチェリー・GV(前書き)

どうも・・・レッドスターです・・・  
今日は大変でした・・・

第117話 アーチェリー・GV

『変形完了!』

アーチェリー・GV「……………」

クロダーツ「なんだ……その姿は?」

アーチェリー・GV「兄貴……俺はお前を倒す!」

クロダーツ「ふんっ、姿だけ変わっただけで……」

ズバァ

クロダーツ「!」

クロダーツがきずいた頃にはいつの間にか腕に傷がついていた……

クロダーツ「何……」

アーチェリー・GV「よそ見すんなよ……兄貴!」

クロダーツ「(なんだ?こいつさっきまでの動きじゃねえ……)」

アーチェリー・GV「埋まれ!」

クロダーツ「!」

ドゴオオン

クロダーツ「ぐうああああああ」

クロダーツはおもいつきり地面にたたきつかれた

ドサァー

クロダーツ「ぐはっ!」

アーチェリー・GV「……………兄貴……」

クロダーツ「なんだよ……」

アーチェリー・GV「なあ、兄貴……なんで今ごろ俺を連れ戻し

に来たのか教えるよ兄貴……」

クロダーツ「……知りたいか?」

アーチェリー・GV「ああっ……」

クロダーツ「今から一ヶ月後……俺は消える……だから俺は弟

とちよっとの間だけ暮らしたかった……たしかに今頃お前を連れ

戻すのはへんだが、俺は後悔した・・・」

アーチェリー・GV「・・・」

クロダーツ「お前にあんな酷いことを言ってしまったことを・・・」  
アーチェリー・GV「・・・だったら博士を返してくれ・・・そうしたら考えてやるよ」

クロダーツ「!・・・それは無理だ」

アーチェリー・GV「なんでだ!」

クロダーツ「お前の博士は・・・もうボスの所に居る!」

アーチェリー・GV「なんだよそのボスって!それになんでボスの所に博士がいる!」

クロダーツ「ボスは・・・博士を恨んでいるからだ」

アーチェリー・GV「・・・じゃー嘘なのか?また暮らしたいって・・・」

クロダーツ「そうじゃな・・・」

アーチェリー・GV「やっぱり嫌いだ!兄貴は!」

クロダーツ「嘘じゃない・・・」

ズバア

クロダーツ「ぐはっ・・・」

シユウウン

クロダーツはどこかに消えてしまった!

アーチェリー・GV「ググッ・・・」

キイン

変身を解いた弓垂

弓垂「・・・もう、わけわかんねえよ・・・」

そのころ・・・

「準備はととのった……30日後、この世界……」  
ソウル「ボス楽しみですね……」  
「フフフ……」

第117話 アイチェリー・GV（後書き）

次回はスバルの久しぶりに1人で居られる時間の話！・・・かも？

第118話 久しぶりの1人の休日(前書き)

どうもレッドスターです。

今日は気楽に書きたいと思います・・・

第118話 久しぶりの1人の休日

コダマタウンにセミの鳴き声が響き渡る・・・

ミンミンミンミン

スバルの家では・・・

スバル「あ・・・暑い・・・」

ウォーロツク「んじゃ俺は、行ってくる」

スバル「どこに？」

ウォーロツク「涼しい所」

スバル「僕もつれてって・・・あれ？」

気づいた時にはもうウォーロツクはいなかった・・・

スバル「早っ！」

茜「スバルー！」

スバル「何？母さん・・・」

茜「ちよつと出かけてくるけどなんか買ってきてほしいのがある？」

スバル「氷」

茜「氷なら冷蔵庫にあるからね！」

スバル「は~~~~い」

そして茜は外に出かけていった

スバル「・・・」

少しづつセミの鳴き声が大きくなってきていた

ミンミンミンミン~~~~ン！

スバル「（今年のセミは張り切っているな・・・）」

しばらくして・・・

スバル「・・・」

セミ「~~~~」

スバル「（何でだろ・・・暇だからか僕セミとらめっ）」

してるよ・・・」

セミ「~~~~ン」



スバル「(勝った!)」

セミは負けて空へと飛び立っていった、そう・・・バサバサと・・・

スバル「・・・暇だ・・・」

スバルは思った・・・

スバル「(騒がしいのもあんまり好きじゃないけど、でも1人で暇すぎてもなんか落ち着かないな・・・)」

スバルはさらに思った・・・

スバル「(なんたるこの感じ、この光景、昔見たことあるような・・・たしか父さんが行方不明になった時の夏に・・・たしかこの感じがしたような・・・)」

スバルは思い出していた・・・

父さんが行方不明になった最初の夏・・・

茜「スバル・・・泣かないの」

スバル「ぐずっ、だって父さんが・・・父さんが・・・ぐずっ」

茜「もう泣かないで・・・きつと生きてるわよ宇宙のどこかできつと・・・」

茜はスバルを抱いた・・・

ギユウウ

スバル「母さん・・・」

夜7時・・・

スバル「・・・ふあゝ・・・あれ?夢?」  
すると

ガチャ

茜「スバルー?ちょっと手伝って!」

スバル「はい」

そして・・・

シュン

スバル「？」

スバルはハンターV.Gを見た

ウォーロック『帰ってきたぜスバル』

スバル「ロック！」

ウォーロック『スバル、おふくろが呼んでるぞ』

茜「早く〜」

スバル「そうだった！」

ガチャ

大吾「帰ってきたぞー」

スバル「おかえり！」

大吾「ただいま」

スバル「（今の僕は幸せだ、だって家族みんなでこの家にいてロックもいてそして・・・皆でおなじテーブルでご飯食べれるんだから！）」

ウォーロック『どうした？スバル』

スバル「なんでもないよ」

ウォーロック『そうか』

スバル「（この幸せが続いてほしいな・・・ずっと・・・）」

スバルは暇だったけどなんとなく楽しかった1日でした・・・

第118話 久しぶりの1人の休日(後書き)

次回も見てください

第119話 30日後・・・(前書き)

どうもレッドスターです。

本当にもう暇なのです！(今ね)

第119話 30日後・・・

あれから30日後・・・

WAXAはだ**いぶ**直つてきた所でした

しかしまだ直つてない所もありました・・・

ヨイリー「ふう、出来たわ」

暁「なんだこれ？」

ヨイリー「秘密よ」

暁「はあ・・・」

コダマタウンでは・・・

とつくに夏休みになっていた・・・

スバル「ねえロック」

ウォーロック「なんだ？」

スバル「最近ウイルスとか出てきてないよね・・・」

ウォーロック「そうだな、最近平和すぎて**退屈だ**」

スバル「そうだね・・・」

しかしある所では・・・

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ

????「ホホホ、力がみなぎってくるわ」

ダイヤパール「あなた・・・なにをしているの・・・その力は危険」

????「うるさい、私はあなたのせいでこんな事になってしまった

のよ？私は許さないわあなたを・・・そしてこの世界もよ！」

ダイヤパール「・・・」

ソウル「あと27時間後ですね・・・」

「???」「そう27時間後この世界の半分を破壊するわ」

ダイヤパール「やめなさい！」

「???」「何言っているのよこの力はあなたがくれたんじゃない・・・」

「

ダイヤパール「くっ・・・」

カチカチカチ

ダイヤパールは「???」に気づかれないようにメールをうつた

ピピッ

ダイヤパール「（メール送信完了・・・あとはまつだけよ）」

<sup>ワクサ</sup>  
WAXAでは・・・

ブルル

ヨイリー「あら？メールかしら」

ヨイリーはメールを見た

ヨイリー「これは・・・」

第119話 30日後・・・(後書き)

次回の展開は・・・？

第120話 メール(前書き)

どうもレッドスターです。

最近サブタイトルが思いつきません・・・(どうしようかな・・・?)



## 第120話 メール

P i P i P i

スバル「電話だ」

ピッ

ヨイリー「スバルちゃん」

スバル「ヨイリー博士、どうしたんですか？」

ヨイリー「話はWAXAワクサでするわ、早く来てね」

スバル「あつ、はい・・・」

プッン！

ウォーロック「なんかあわててたな」

スバル「行こう」

WAXAワクサ

スバル「おおつ、なんか前のWAXAワクサより大きい！」

ウォーロック「でもまだ未完成なんだよな・・・これでじゅうぶんじゃね？」

スバル「（たしかに・・・）とりあえず中に入ろうよ」

WAXAワクサの中

スバル「（なんか部屋がたくさんある・・・ホテルみたい）」

ヨイリー「スバルちゃん、こっちよ！」

スバル「はい！」

スバルは部屋に入った

スバル「！、皆もここに」

ミソラ「スバル君！」

ゴン太「スバル！」

ドラグ「スバルさん！」

スバル「ヨイリー博士、話ってなんですか？」

ヨイリー「これを皆に見てほしいの」

スバル「これは・・・メール」

「ヨイばあちゃんへ

急だけど助けて！今捕まってるの、場所は・・・タカラノシティよ」

スバル「タカラノシティ・・・まさかダイヤパール博士が捕まってるなんて・・・」

ヨイリー「お願い！あの子を助けて！」

スバル「・・・分かりました・・・」

ドラグ「あの・・・スバルさん」

スバル「何？」

ドラグ「急ですけど僕と・・・ブラザーになってください！」

スバル「（本当に急だ・・・）いいよ」

スバルはドラグとブラザーになった

ドラグ「やったー」

スバル「それでヨイリー博士、いつ助けに行くんですか？」

ヨイリー「今かしら・・・」

ミソラ「なら今向かいますよー！」

スバル「そうだね・・・なるべく早く助けないとね」

ドラグ「そいえば弓垂はどうするー？」

スバル「そうだね・・・」

バード『やっぱり弓垂も必要だと思えます』

スバル「なら弓垂もさそって早く助けに行こうー！」

ドラグ「おーっ！」

第120話 メール（後書き）

次回とうとうダイヤパールを助けるためにタカラノシティに向かう！

## 第121話 タカラノシティ

弓垂「・・・博士・・・」

P i P i P i

弓垂「!、誰だ・・・?」  
ピッ

ドラグ『弓垂ーっ!』

弓垂「うわぁ、ドラグか・・・」

ドラグ『ねえ弓垂一緒にタカラノシティ行こうよ!』

弓垂「はは、すまねえ今はそんな気分じゃないんだ・・・」

ドラグ『そうなの?せっかくダイヤパール博士を助けに行くのに・・・』

弓垂「まじでかああああ」

ドラグ『マジ』

弓垂「わかった、俺も行く!」

ドラグ『じゃータカラノシティでまってるから来てね』  
プッソ

弓垂「(博士がタカラノシティに・・・)」

そしてスバル達はタカラノシティに向かった・・・

タカラノシティ

スバル「・・・なんかでかいマンションがズラァーって並んでる・・・」

ウォーロック『なんつー所だ・・・』

ドラグ「でかい」

ミソラ「いい所」

ゴン太「あーっ牛井屋だ！」

キザマロ「(やっぱりですか・・・はあ)」

スバル「でもこの町のどこかに居るんだよね・・・ロックなんか感じない」

ウオーロック『いや、なにも・・・』

スバル「そうか・・・皆で分かれて探すしかないか・・・」

ドラグ「僕は弓垂を待つ」

スバル「わかった」

ミソラ「私はあっちに行く」

委員長「私も」

ゴン太「俺はキザマロとこっちに行くぜ」

キザマロ「はい」

スバル「僕はこのへんを探すよ」

ミソラ「なにかのてがかりを見つけたらメールか電話するね」

スバル「うん！」

???「きたね・・・ロックマン！」

第121話 タカラノシティ（後書き）

次回またまた新たな敵？現る

第122話 謎の人形（前書き）

どうもレッドスターです。

今日も1日頑張ります・・・

## 第122話 謎の人形

ミソラと委員長は・・・

ミソラ「なんかここ怪しいな？」

委員長「いいえこっちの方が怪しいわ」

ミソラ「なんで？」

委員長「だってほら・・・」

そこに看板があった

「アジトは」

ミソラ「（・・・怪しい・・・いろんな意味で・・・）」

委員長「私はこっちに行くわ」

ミソラ「ちよつと待って！」

委員長はもう行ってしまった・・・

ミソラ「ハア・・・」

委員長は・・・

委員長「絶対に探して見つけてそしてロックマン様に・・・フッフ  
トン

委員長は何かにあたった

委員長「何これ・・・人形？」

するとその人形は・・・

グニョグニョ

委員長「キャー！ー！」

ミソラは・・・

ミソラ「ルナちゃんの声だ！何があったんだろ・・・」  
すると戻って来た委員長

ミソラ「どうしたの？何かあったの？」

委員長「・・・」



「ミソラ」?

「????」「1人目」

その頃ゴン太とキザマロは・・・

キザマロ「ゴン太君怪しいですねここ・・・」

.....

キザマロ「ゴン太君?」

後ろを振り向いたキザマロだったがそこにはゴン太ではなく人形があつた

キザマロはその人形を持った

キザマロ「なんですかねこの人形は?きみわるいです」と人形が動き始めた

グニョグニョ

キザマロ「ヒイーーーー!」

その頃ゴン太は・・・

ゴン太「怪しい・・・」

ゴン太の目の前には牛井屋があつた・・・すると・・・

ゴン太「!、あつキザマロ!」

キザマロ「.....」

ゴン太「?」

「????」「2人目」



第122話 謎の人形（後書き）

一体こいつ何なんだ？人形とか・・・次回はロックマンが・・・？

第123話 もう1人のスバル！（前書き）

今回の話は・・・スバルが・・・？

## 第123話 もう1人のスバル!

スバル「このへんには怪しいのいな・・・?」

ウォーロック「ちゃんと探せよ」

スバル「探してるよ!」

???「みつけた、ロックマン!」

ウォーロック「!」

スバル「どうしたの?ロック?」

ウォーロック「何かけはいがした・・・」

スバル「!」

そのとき

ウォーロック「スバル上だあ!」

スバル「わぁーーーーー!」

ポン

空からワラ人形が落ちてきた

スバル「に・・・人形・・・」

ドサァー

ウォーロック「スバルーっ!」

???「ストライク!」

ウォーロック「誰だ!」

スバル「ぐぁーーーー!」

ウォーロック「スバル!?」

ウォーロックはスバルのほうを見たそしてウォーロックが見たものは・・・2人のスバルであった・・・

スバル「ロック・・・ロック・・・」

スバル? 「……………」

もう一人のスバルは、スバルの首をしめていた  
ギユウウウウ

スバル「ぐっ……ああ」

ウォーロック「スバルが……なんで?」

??? 「ははは、いいぞいいぞ」

ウォーロック「!?」

その声の先には謎の電波人間がいた……

ウォーロック「お前は……」

ライヤードール「オレ? オレはライヤードール!」

ウォーロック「ライヤードール……」

ライヤードール「そしてあのもう一人のスバルだっけ? もう一人の

スバルはオレの「ワラニンギョウ」さ!」

スバル「ううっ……」

偽スバル「……………ニヤッ」

ウォーロック「お前……なんで俺達に!」

ライヤードール「えっ? だってある電波体って君だろ?」

ウォーロック「さあな」

ライヤードール「その電波体を始末しろって依頼されたしそれにお

金だっただくさんもらえるしね」

ウォーロック「始末か……」

スバル「ぐっ……ロック……」

ウォーロック「まってる! ビーストスイング!」

しかしあっさりと偽スバルによけられた

スバル「ぷはあ!」

ウォーロック「大丈夫か!」

スバル「うん」

ウォーロック「やるぞ!」

スバル「トランスコード シューティングスターロックマン!」

キイイイイイイ

ロッキーマン」・・・ウェーブバトル ライド オン！」

第123話 もう1人のスバル！（後書き）

今回も出てきたオリキャラは、送ってくれた人のキャラです。  
ありがとうMK・SRさん！



第124話 ライヤードール(前書き)

どうもレッドスターです。

今回の話はロックマンが・・・？

## 第124話 ライヤードール

ライヤードール「きてもいいよでも・・・オレは強いよ?」

ロックマン「ロックバスター!」

デユン デユン

ライヤードール「おっとと・・・あぶねっ」

ロックバスターは全部よけられた

ロックマン「まだまだバトルカード」「ロングソード!」

ズバァン

ライヤードール「うぎゃ

ドサッ

ウォーロック「やったか!?!」

ライヤードール「うわぁ〜危なかった」

ロックマン「!」

ライヤードール「なんとかこの人形で防ぎきった」

ロックマン「なっ・・・」

ライヤードール「やっぱりロックマンは強いや・・・でも・・・」

ドカァ

ロックマン「うわっ」

ドサッ

ウォーロック「スバル!?!」

ロックマン「後ろから誰かに・・・」

ウォーロック「うしろ?」

ロックマンの後ろにはもう1人のロックマンがいた

ウォーロック「まさか・・・」

ライヤードール「そうそのまさかだよ、そのロックマンはワラニン

ギョウさ・・・」

偽ロックマン「・・・」

偽ロックマンはロックバスターの体制にはいった

ロックマン「ロック……」

デユン

ロックマン「うぐっ……」

ライヤードール「このワラニンギョウはロックマンとまったく一緒、  
力も姿も……でもワラニンギョウのほうは、いつも全力で戦って  
くるよ……だから本物のロックマンも本気でやしないと負けるか  
もね」

デユン

ロックマン「ぐああああ」

ウォーロック「この偽ロックマンめ……ビーストスイング！」

ズバア

パシッ

ウォーロック「何……」

偽ロックマンはウォーロックの腕を掴んでいた

偽ロックマン「……」

ウォーロック「このっ……ウオオリヤヤヤヤヤ」

ウォーロックは腕に力をいれた

ググッ

ウォーロック「ウオオオオオオオオオ」

すると偽ロックマンが……

デユン

ウォーロック「！」

偽ロックマンのロックバスターがウォーロックに直撃した

ロックマン「ロック！」

ウォーロック「ぐはっ」

ドサッ

ウォーロックは倒れた

ライヤードール「もともと狙いはその電波体だし……これで依頼  
クリアだね……」

ロックマン「……ロックーーーーーっ！」

第124話 ライヤードール（後書き）

次回の展開とは……？

第125話 ピンチからの逆転(前書き)

果たしてウォーロックの運命は・・・？

## 第125話 ピンチからの逆転

ロックマン「……ロックーーーーーっ！」

ドオオオオオオオオオオオ

ロックマン「!?」

ライヤードール「まさか……」

ロックマンは音のしたほうを見た

オックス・ファイア「まてえーーーーブロロ！」

偽オックス・ファイア「……」

ロックマン「オックス・ファイアが……2人!?」

オックス・ファイア「!、あれは……ロックマン！」

ライヤードール「オレ……運悪いな……まあいい早くこの電波体を……」

ドオオオン

ロックマン「今度はあっちから聞こえた……!」

そこには……

ハープ・ノート「もう意味わかんないよ!ショックノート！」

偽ハープ・ノート「……」

偽ハープ・ノートも同じ技を繰り返してきた

ドオオン

ライヤードール「……本当にオレ運悪いな今日……」

ロックマン「ロックバスター！」

デユン

ライヤードール「あっ、しまっ……」

ドオン

ライヤードール「たあーーーーい」

ロックマンのロックバスターはライヤードールに直撃した

ロックマン「まだまだーっ!バトルカード「マッドバルカン3」!」

ガガガガガガガガガン!

ライヤードール「うぎやあああああああ」

すると偽ロックマンの様子がおかしくなっていた

偽ロックマン「……ジジ……」

ウォーロック「はあはあ……ぐっ……」

ロックマン「ロック！」

ウォーロック「俺の事は気にすんなそれより早くあいつを……」

ロックマン「ロック……わかった！」

ライヤードール「……依頼失敗か……」

ロックマン「……えっ？」

すると偽もの達が皆消えた

ロックマン「どうして……？」

ライヤードール「オレの負けは決まったも当然……」

ロックマン「……」

ライヤードール「わかるかったな……お詫びにこれを……」

ウォーロック「なんだ？この箱」

ライヤードール「せめてこれぐらいはさせてくれ……じゃあな……」

・

するとライヤードールはどこかえと行ってしまった

ロックマン「……ライヤードールって結構いい人だね」

ウォーロック「そうか？それよりこの箱をあけてみるぞ」

ロックマン「うん」

パカア

すると中から……

ビヨーン

ロックマン「うわあっ!？」

ウォーロック「なんだ？ビックリ箱か？……ん、なんか書いてあるぞ」

るぞ

するとウォーロックはよんでみた

「バカバカバカバカバカバカバカ」

ウォーロック「……ブチッ」

ロックマン「ロックなんて書いて・・・」  
ウォーロック「スバルウーアー次こそ絶対に倒すぞおおお！」  
ロックマン「ええっ!?どうしたのそんなやる気になって!?!」  
その日ウォーロックは誓った・・・そうライヤードールを絶対に倒すことを・・・



第125話 ピンチからの逆転(後書き)

次回とうとうダイヤパールありがたが……

第126話 ダイヤパールのいる場所！（前書き）

とつとつ今回ダイヤパールの場所が・・・

## 第126話 ダイヤパールのいる場所！

ある所

ダイヤパール「……………」

???「あと少し……………あと少しで……………」

ダイヤパール「……………」

ダイヤパールはまたメールを書いていた……………」

ダイヤパール「(あとは送って待つだけ……………」

ピッ

ダイヤパールはメールを送った

???「何しているの？博士？」

ダイヤパール「！」

???はハンターV Gを奪った

バア

???「ふん……………メールか、余計な真似を……………」

ダイヤパール「(私はどうなってもいい……………でもこの世界は……………」

……………」

そして……………」

P i P i P i

スバル「あつ、メールだ……………」

ウォーロック「どうしたスバル……………これは！」

ミソラ「どうしたの？」

ゴン太「なあ〜スバル、委員長とキザマロが見つからない」

スバル「……………そうか……………でもそのかわりダイヤパール博士の居

場所が分かった！」

ゴン太「本当か!？」

そのメールの内容は・・・

「私の居場所は・・・ホテルの地下よ・・・」

ミソラ「ホテル？・・・でもホテルならあそこにもあっちにも・・・

」

スバル「・・・探そうホテル全部！」

ゴン太「おう！」

ミソラ「うん！」

そしてスバル達は委員長とキザマロを探しながらホテルに向かった。  
・

スバル「いないなあ、委員長とキザマロ」

ミソラ「スバル君ホテルに着いたよ」

スバル「うん・・・デカツ！」

スバル達の目の前には約40階もあるホテルあった・・・

ウォーロック『世の中いるんなもんがあるな』

スバル「まずはこここの地下を探そう」

そして30分後・・・

スバル「ぜえぜえ」

ミソラ「はあはあ」

ゴン太「・・・」

ゴン太は倒れて横になっていた・・・

スバル「こ・・・このホテル、はあいなかった・・・ぜえぜえ」

ミソラ「このホテルの地下すごく深かったのであった・・・

ウォーロック『スバル、やすんでる暇なんてないぞ！』

スバル「・・・次行こう・・・」

第126話 ダイヤパールのいる場所！（後書き）

次回ホテルの地下を探しまわる！

第127話 怪しいホテル（前書き）

今回ダイヤパールが居るホテル見つかるか？

## 第127話 怪しいホテル

スバル達委員長とキザマ口を探しながらダイヤパールが捕まっているホテルも探していた・・・

スバル「次はここだ」

少しでかいホテルだった・・・

ゴン太「今回は結構簡単だな」

ミソラ「じゃ、行こっ！」

そしてスバル達はホテルの地下に入った・・・

そしてわずか2分・・・

スバル「・・・・・・・・・・」

ミソラ「・・・・・・・・」

ゴン太「地下なかつたな・・・」

スバル「まあ地下のあるホテルも無いホテルもあるって」

そして探してから2時間がたっていた・・・

ウォーロツク「スバル・・・」

スバル「何？」

ウォーロツク「あそこにあるボロいたてもんがあるが・・・」

スバル「ボロいホテルだ・・・！」

ミソラ「スバル君？」

スバル「皆、あそこのホテルに行こっ」

ゴン太「でもよおおそこにいんのか？」

スバル「探さないとわからない」

ミソラ「・・・私も行く！」

ゴン太「えっ！？・・・俺も行く・・・」

そしてボロいホテルに入っていた・・・

スバル「・・・人全然居ないね」

ミソラ「なんか怖い・・・」

ゴン太「あつ！あそこに地下の階段が！」

スバル「本当だ・・・いってみよう」

ウォーロツク「・・・！！！」

スバル「よし、行こう」

ウォーロツク「待てっおりるな！」

しかし遅かった・・・スバル達は地下に行く・・・

バチィ　　バババババ！

キイイイイイイイーーーー

光がスバル達を包む

シュウウウウウン

.....

スバル達はもうこのホテルから居なくなっていた・・・そっぞっぞに  
も・・・



第127話 怪しいホテル（後書き）

スバル達の姿が消えた！？  
次回スバル達の行方は・・・

第128話 謎の星(前書き)

どうもレッドスターです・・・  
今回はあいつらが・・・？

## 第128話 謎の星

そのころ・・・

委員長「もう！ここどこなの！？」

キザマロ「どうやらこの部屋に閉じ込められてるみたいですね」

委員長「わかってるわよそんなこと！はあくロックマン様へ助けて  
」

そのころ肝心のスバルは・・・

スバル「うーん」

ウォーロック『スバル！起きろ！』

スバル「・・・ロック？」

ウォーロック『どうやら俺達へんな所に来てしまったそつだ・・・』

スバル「・・・ここは・・・！」

ミソラ「うーん・・・どうしたのスバル君」

ゴン太「グオ〜」

スバル「ここは・・・宇宙のどこかの星だ！」

ミソラ「・・・へ？」

ウォーロック『しかし息もできるあんなボロいホテルからどつやつ  
たらこんな宇宙に行ける？』

スバル「・・・確かに・・・夢だよね夢・・・」

ウォーロック『夢かどうかは確かめる方法ならあるぜ？』

スバル「え？」

ウォーロック『ほつぺたをつねる』

スバル「えっ！？」

ウォーロック『スバル・・・ほつぺをつねさせる・・・』

スバル「いやだよ！」

ミソラ「スバル君・・・ファイト！」

スバル「ええっ！？ミソラちゃんまで！？」

そして

ギユウ~~~~~

スバル「イタイイタイ!」

ウォーロック「・・・」

ミソラ「・・・夢じゃなさそうね」

スバル「ほくのぼつべが~~~~」 うまく喋れない

ゴン太「ぐ~~~~」

???「あいつら来たか・・・」

ウォーロック「スバル!」

ハープ「ミソラ!」

オックス「ゴン太!」

ゴン太「ぐ~~~~」

オックス「起きろおおー」

スバル「なんか来たの?」

ウォーロック「あつ・・・それにこの感じ・・・前にもあった」

スバル「前にも?」

???「フラワーボム!」

スバル「(この攻撃は・・・)」

すると地面から花が咲きそして花から爆弾が落ちてきた

スバル「くつ・・・電波変換」

キイン

ミソラ「電波変換!」

キイン

ドオオオオオオン

爆弾が爆発した

ロックマン「よしっなんとか・・・」

???「ウエーブジェット!」

ドドドドドドド

ロックマン「!、うわあああ」

どおおおん

ハーブ・ノート「ロツクマン!?」

???「ヒヒヒマジックビーム!」

ビィーーーーーッ!

ハーブ・ノートにあたった

ドン!

ハーブ・ノート「キヤアアーーーーー」

ドサッ

ハーブ・ノート「体が動かない・・・」

???「よお久しぶりだな・・・ロツクマン」

ロツクマン「お前達は・・・僕が倒した・・・DM星人!」

ブルー・ジェット「クク・・・」

フラワー・ピンク「・・・」

グリーン・マジック「ヒヒヒ・・・」

第128話 謎の星（後書き）

なんとロックマンが倒したDM星人が！？

次回、ロックマン達はDM星人をもう一度倒すことができるのか！  
！！？

第129話 DM星

ゴン太「・・・あれ？俺なにしてんだ？」

ブルー・ジェット「ククク・・・今度こそ倒すぜ！」

ロックマン「来い！」

ゴン太「・・・どうなってるんだ？」

オックス「ゴン太！俺等もやるぞ！」

ゴン太「・・・お、おう・・・電波変換！」

キイイイン

オックス・ファイア「ブロロ、やるぞー！」

ロックマン「ロックバスター！」

デユン

しかしかわされた

ブルー・ジェット「ククク、こっちだロックマン！」

ロックマン「バトルカード「ソード」×2！」

ロックマンの両手がソードになった

ロックマン「うおーーー！」

ズババン！

ブルー・ジェット「ぐう・・・またまだあ！」

ハープ・ノート「ショックノート」

ギユイイン

フラワー・ピンク「利かないわ！フラワーボム！」

フラワー・ピンクはハープ・ノートの攻撃をフラワーボムだけで防いだ

ハープ・ノート「防がれた・・・でもまだよ！」

オックス・ファイア「ウオオオー！タツクル！」

グリーン・マジック「そんなの効きませんよマジックシールド！」

オックス・ファイアはそのシールドにおもいつきり突進したしかし・

ボヨォン

オックス・ファイア「ウガッ！」

ドサッ

グリーン・マジック「このシールドはどんな攻撃でも跳ね返す事が出来る・・・それが電波体だとしても！」

オックス・ファイア「・・・」

ロックマン「ブルー・ジェット！1つ聞きたい事がある！」

ブルー・ジェット「いいだろ・・・なんだ？」

ロックマン「ここはどこ？」

ブルー・ジェット「ここはわれらDM星人の星・・・DM星だ！」

ロックマン「ここがDM星・・・」

ブルー・ジェット「この星はあわれな姿になってしまった・・・そうそのウォーロックの中にいる「ライオーガ」とほかにいる「ドラグーン」のせいでこんなあわれな姿になったんだ！」

ウォーロック「・・・ッ」

ブルー・ジェット「そしてもうあんな過ちをおかさないように俺はウォーロックを排除しなければならぬ！」

ロックマン「だったら何でロックを作ったの!？」

ブルー・ジェット「・・・俺達に勝ったら教えてやるよ・・・来い

！」

ロックマン「やるしかないっ！ウェーブバトル ライド オン！」



第129話 DM星(後書き)

次回激しいバトルが続く!

第130話 ロックマンVSブルー・ジェット(前書き)

今回はロックマン対ブルー・ジェット!

## 第130話 ロックマンVSブルー・ジェット

ロックマン「バトルカード「マッドバルカン3」×2！」

ロックマンの両手がマッドバルカンになった

ロックマン「はあああああ」

ガガガガガガガガガガガ

ブルー・ジェット「うおっあぶねえな！」

ガガガガガガガガガガガ

ドンドンドン

ブルー・ジェット「ぐうう、3発あたっちまった・・・」

ロックマン「ブルー・ジェット・・・前よりスピードが上がってる」

ウォーロック「よっほどあの時負けたのが悔しかったんだな」

ブルー・ジェット「行くぞ！ウェーブジェット！」

ドドドドド

ロックマン「スーパーバリア！」

ドオオン

ブルー・ジェットはロックマンに突っ込んだが防がれた

ブルー・ジェット「くそお！」

ロックマン「うおおおロックバスター」

ブルー・ジェット「！」

さっ！

デュン！

ブルー・ジェットは凄いスピードでロックバスターをよけた

ブルー・ジェット「俺はウォーロックを排除する！ウェーブジェッ

ト！」

ドドドドドド

ロックマン「まだバリアをはってるから無駄だよ！」

ブルー・ジェット「それはどうかな？」

するとロックマンに突っ込むと思ったたらブルー・ジェットの方がロ

ツクマンをよけた

ロックマン「えっ……」

ウォーロック『油断するな……』

ロックマン「うん……！、これは！」

するとロックマンの周りに水の円が出来ていた

ブルー・ジェット「ロックマン！おまえはこの円から逃げられない！そう防ぐことも！」

ロックマン「やってみないとわからない！ロックバスター！」

デュン

ポチャン！

ロックマン「！」

ブルー・ジェット「無駄無駄！」

ウォーロック『スバルあの円を飛び越えろ！』

ロックマン「うん！」

するとこの円の中から出ようとした

ブルー・ジェット「俺はこれを待っていた……くらえ！俺の最強の技を！」

ロックマン「あとちよっと！」

ブルー・ジェット「ウェーブサークル！」

すると円の形の水がどんどん大きくなってきた

ロックマン「水が増えた!？」

ブルー・ジェット「終わりだあ！」

すると円の水が波のように襲ってきた

ドパーーーーーン！

ロックマン「スーパーバリアでもこんなに……うわぁーーーーっ！」

ロックマンのスーパーバリアが破られた！

そしてロックマンは波に飲み込まれた……

第130話 ロックマンVSブルー・ジェット(後書き)

じかいロックマンは無事なのか・・・？

第131話 ロックマンVSブルー・ジェットその2(前書き)

ロックマン対ブルー・ジェットのバトルは続く・・・  
そしてロックマンは無事なのか・・・？

第131話 ロックマンVSブルー・ジェットその2

ザッパーン

水が散らばった・・・

ブルー・ジェット「ククク・・・ウアーハハハハハ！やったぞ、

ロックマンを倒したぜ！ハハハハ！」

ロックマン「ぐっ・・・」

ウォーロック「ス・・・スバル・・・大丈夫か？」

ロックマン「だ、大丈夫・・・ぐうあ・・・」

ブルー・ジェット「まだ意識があったのか・・・とどめを刺してやるよ・・・」

ロックマン「！」

ブルー・ジェット「ウェーブジェット！」

ドドドドドドド

ロックマン「くっ・・・うおおおおおおお」

キイイイイ

ロックマンは黄金の光を放った

ブルー・ジェット「な、何だ？」

ロックマン「うおおおおおおお」

キイイイイイイ

ブルー・ジェット「うわあ」

黄金の光がブルー・ジェットを包んだ

ブルー・ジェット「・・・？、これは・・・まさか・・・」

ロックマン・R「ライオガロックマン・R！」

ブルー・ジェット「ラ・・・ライオガ・・・お前、使いこなせる

ようになつたのか・・・」

ライオガ「スバルさつさとやるぞ！」

ロックマン・R「うん・・・すぐに終わらせる！」

ブルー・ジェット「ふんっ！ビビらねーぞ！くらえウェーブジェッ

トー！」

トトトトトトトトトトトト

ロックマン・R「！」

ドオオオオオオン

ブルー・ジェット「へっ、まともにあててやっ……たぜ……何っ!?」

ロックマン・Rは傷<sup>ライオীগ</sup>1つもついていなかった

ブルー・ジェット「うそだろ……俺の攻撃が……効いていないだと!?」

ロックマン・R「終わりだ！」

ブルー・ジェット「くっ……」

シユウ

ブルー・ジェット「（ここは逃げるしか……）」

ババババ

ロックマン・Rの手から電気<sup>ライオীগ</sup>の玉が出来た

ブルー・ジェット「へっ、そんな玉俺のスピードにはかなわないぜ！」

ロックマン・R「うおおおおお」

すると電気の球を地面に落とした

ブルー・ジェット「ハッロックマンの奴頭イカレてんのか？」

バチイイイイイイ

バババババ

ブルー・ジェット「!、ぐあああしびれる……なんでだあああああ」

ロックマン・R「水だよ」

ブルー・ジェット「水……だと……」

バチイン

ドサッ

ブルー・ジェットは倒れた

するとブルー・ジェットは気づいた



ブルー・ジェット「！、そうか・・・水で電気が渡り俺の足の下の水まで渡ったのか・・・」

キィイイン

ロックマン・Rは元の姿に戻った

ロックマン「ぐっ・・・僕も倒れそう・・・」

ブルー・ジェット「・・・俺の負けだ・・・ロックマンもう俺は動けねえ・・・」

ロックマン「ブルー・ジェット・・・」

するとロックマンはフラフラになりながらもブルー・ジェットの所に来た・・・

ロックマン「はあはあ・・・おしえてくれるよね？」

ブルー・ジェット「・・・ああっ」

そしてハープ・ノートは・・・

ハープ・ノート「あの時の仮が返す時が来た見たいね・・・」

フラワー・ピンク「・・・」

第131話 ロックマンVSブルー・ジェットその2(後書き)

次回はハーブ・ノートの戦い!

第132話 ハープ・ノートvsフラワー・ピンク(前書き)

今回はハープ・ノート対フラワー・ピンクの闘い!

## 第132話 ハープ・ノートVSフラワー・ピンク

ハープ・ノート「あの時の仮が返す時が来た見たいね・・・」

フラワー・ピンク「・・・」

ハープ・ノート「行くよ！シヨックノート！」

ギュイイイン

フラワー・ピンク「フラワーボム！」

ポオオン

ハープ・ノートの攻撃は防がれた

ハープ・ノート「まだまだ！マシガンストリング！」

フラワー・ピンク「効かないわよそんな攻撃・・・」

するとフラワー・ピンクの下から木が出てきたそしてフラワー・ピンクはその木に乗った

ハープ・ノートの攻撃はまた外れた

ハープ・ノート「当たらない・・・」

ハープ「あきらめないで！絶対に相手にはすきがあるはずよ！」

ハープ・ノート「そうよね・・・そのすきを見つける！」

フラワー・ピンク「くらいなさい！フラワーボム！」

ハープ・ノート「キャア」

ポオオン

ハープ「ミソラ！」

ハープ・ノート「はあはあ・・・まだ諦めない！シヨックノート！」

ギュイイイン

フラワー・ピンク「！」

ドオン

ハープ・ノート「えっ・・・当たった・・・」

するとフラワー・ピンクが出した木が消えそして木から落ちた・・・  
ドサッ

フラワー・ピンク「ぐっ・・・」

ハープ・ノート「もう一度ショックノート！」  
ギューイイイン  
フラワー・ピンク「……フラワーボム！」  
ボオン  
フラワー・ピンクは防いだ  
ハープ・ノート「防がれた……でもどうしてさっき私の攻撃が当たったんだろ……？」  
ハープ「……」  
ハープ・ノート「でも考えてる暇はないわね……」  
フラワー・ピンク「あなた……弱いわね……」  
ハープ・ノート「！」  
フラワー・ピンク「フフあなたすきだらけなのよ……」  
ハープ・ノート「弱い……」  
フラワー・ピンク「くらいなさいフラワーボム！」  
ボムがハープ・ノートに向かって落ちてきた  
ハープ「ミソラ！」  
ハープ・ノート「！」  
ボオオオオオン  
ハープ・ノート「キヤアアアアア」  
ハープ・ノートはまともに攻撃に当たってしまった  
ドサツ  
フラワー・ピンク「あの時と同じようにしてあげるわ……ツリー  
スパア！」  
ハープ・ノート「（私だって……）私だって……負けない！シ  
ョックノート（連続）！」  
ギューギューイイイイイン  
フラワー・ピンク「しまっ……」  
ドオオオン  
ハープ「！」  
ハープ・ノート「はあはあ……」

ハーブ『わかったわ・・・あいつの倒す方法が！』  
ハーブ・ノート「ハーブ？」

第132話 ハープ・ノートvsフラワー・ピンク(後書き)

次回・・・ハープのつけたフラワー・ピンクの倒す方法とは・・・？

### 第133話 ハープ・ノートVSフラワー・ピンクその2

ハープ・ノート「倒す方法？」

ハープ『そう・・・ずっとあいつを見てたらある事に気づいたの』

ハープ・ノート「それって？」

ハープ『あいつはその場所からあんまり動いてないの』

ハープ・ノート「！、確かに！」

ハープ『そして私は思うの技は何個でも出せるけど技を出してる時はその場所から動けないかもしれないわ』

ハープ・ノート「それじゃーそれを確かめてみるわ！」

フラワー・ピンク「はあはあ・・・やるじゃない・・・」

ハープ・ノート「シヨックノート」

ギューイイイン

フラワー・ピンク「フラワーボム！」

ハープ・ノート「！」

ハープ・ノートの攻撃は防がれた

フラワー・ピンク「フッフそんな攻撃か・・・あれ？あいつは・・・」

ハープ・ノート「こつちよ！」

フラワー・ピンクの後ろから声がした

フラワー・ピンク「！」

ハープ・ノート「シヨックノート！」

ギューイイイン

フラワー・ピンク「くっ・・・」

するとまたフラワー・ピンクの下から木が現れその木に乗った

ハープ・ノート「シヨックノート（連続）！」

ギューギューギューギューイイイイイイイイイイイ

フラワー・ピンク「フラワーボム！」

ポオオオオオオン



その攻撃も防がれた・・・

フラワー・ピンク「そんな攻撃なんて効かない・・・」

そこにはハープ・ノートの姿がなかった・・・

フラワー・ピンク「どこ!?」

ハープ・ノート「ここよ」

フラワー・ピンク「!」

ハープ・ノートはフラワー・ピンクの後ろに居た

ハープ・ノート「この攻撃で終わらすよ!フルパワーショックノ  
ト!」

ギューイイイイイイイイン!

ドオオオオン

フラワー・ピンク「キヤアアアアアア!」

ドサッ

フラワー・ピンクは倒れた

ハープ・ノート「はあはあはあ・・・勝った・・・」

ハープ「大丈夫?ミソラ?」

ハープ・ノート「大丈夫・・・」

フラワー・ピンク「どうやら・・・私の方が・・・弱かったみたい  
ね・・・」

ハープ・ノート「・・・いいえ、あなたも強かったわ」

フラワー・ピンク「・・・」

そしてオックス・ファイアは・・・

オックス・ファイア「ブロロロ負けないぞー!」

グリーン・マジック「ヒヒヒ・・・」

第133話 ハープ・ノートVSフラー・ピンクその2(後書き)

次回はオックス・ファイアの戦い!

第134話 オックス・ファイアVSグリーン・マジック(前書き)

とつとつオックス・ファイア対グリーン・マジックのバトル!



ス！」

ポオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ

グリーン・マジック「なあ……うわぁーーーーー」

ドオオン

オックス・ファイアは立ち上がった

グリーン・マジックはオックス・ファイアの攻撃をうけてしまった・

・

グリーン・マジック「ヒヒヒ……やりますね……少しなめていましたよ……」

オックス・ファイア「ウオーーーーーアンガーパンチ！」

グリーン・マジック「！」

オックス・ファイアはグリーン・マジックに右腕を振り下ろした！

グリーン・マジック「マジックシールド！」

ドオオオオン

グリーン・マジック「なっ……なんという力……」

オックス・ファイア「まだまだーーーーブロロロロ！」

ピシッ

グリーン・マジック「!？」

マジックシールドにヒビがはいった

オックス「ゴン太そのまま押しつぶせ！」

オックス・ファイア「ウオーーーーーッ！」

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ

第134話 オックス・ファイアVSグリーン・マジック(後書き)

次回オックス・ファイアはグリーン・マジックを倒す事が出来るのか！？

第135話 オックス・ファイアVSグリーン・マジックその2(前書き)

昨日書けませんでした・・・

理由は凄く疲れていまして書くことと思ってもなんか眠くなって寝て

しまいました(笑)

さて、今回の話は果たしてオックス・ファイアが勝つのか？

それともグリーン・マジックが勝つのか!？

第135話 オックス・ファイアVSグリーン・マジックその2

グリーン・マジック「ぐぐっ……」

オックス・ファイア「ウオー……」

グリーン・マジック「（こいつ……少しずつ力が強くなってますね……）」

オックス・ファイア「負けるかぁ……っ！」

ズドン！

オックス・ファイアの力がまた上がった

ビシシッ

少しずつマジックシールドにヒビが広がっていく

グリーン・マジック「ぐおおお（マジックシールドが……）」

オックス・ファイア「（ヒビが大きくなった！）ウオー……っ！もう一発アンガーパンチ！」

グリーン・マジック「やめろ……っ！」

ズドオオオオオオオオオオ！

パライイイイイイン

グリーン・マジック「うぎやあああああああ」

オックス・ファイアの攻撃はマジックシールドを破りそのままグリーン・マジックに攻撃した

ドサッ

オックス・ファイア「勝った……勝ったぞぁ……ウオー……っ！」

グリーン・マジック「ヒヒヒ……まさかこの私がロックマン以外にやられるとは……」

オックス・ファイア「グリーン・マジック……」



そしてそのころ・・・  
ウォーロック「まさか俺が・・・」  
ロックマン「そのためにロックを狙ってたのか・・・」  
ブルー・ジェット「われらDM星人にとって「ライオーガ」と「ドラグーン」は・・・失敗作なんだ」  
ロックマン「・・・」

しかしある所では・・・

???「あと20時間後に世界は私のものに・・・」

ソウル「ボス・・・あの3人がやられました・・・」

???「そんなのいいわ・・・」

ソウル「えっ・・・」

???「だって・・・もうあいつら要らないし」

ソウル「そうですか・・・」

???「それで・・・あの女はどう?」

ソウル「寝ています」

???「そう・・・ではそろそろ私も動くところかしら?」

ソウル「いいえ次は・・・俺が・・・」

???「そう・・・たのんだわよソウル・・・」

ソウル「はい・・・」

(久しぶりの)おまけ

スバル「・・・おまけやるのって久しぶりだねロック」

ウォーロツク『そうだな・・・もう5・60話やってねえもんな』  
スバル『でも・・・ネタとか思いつかなかつたり書けなかつたりし  
てるもんね・・・最近』

ウォーロツク『でもよ5・60話もおまげやれなかつたんだぜ？』

スバル『しょうがないよ・・・作者も最近忙しいし・・・』

ウォーロツク『そうか・・・』

スバル『にしても5・60話かぁ・・・長いね・・・』

ウォーロツク『そうだな・・・にしても作者は今回出ないのか？』

スバル『さぁ？おまげを考えて忙しいんじゃない？』

ウォーロツク『ならいいけど・・・』

第135話 オックス・ファイアVSグリーン・マジックその2(後書き)

久しぶりに書いて見ました・・・次はいつ「おまけ」出来るか分かりません・・・

あと次回はDM星の悲しき過去の話・・・そうDM星のすべてが明らかされる！

第136話 DM星の過去・・・(前書き)

今回はほぼDM星の過去の話です・・・

## 第136話 DM星の過去・・・

ほんの少し時間をさかのぼりロックマンがブルー・ジェットに勝ったあと・・・

ロックマン「はあはあ・・・おしえてくれるよね？」

ブルー・ジェット「・・・ああっ」

そしてDM星の過去の話が始まった・・・

ブルー・ジェット「それは・・・約6年前の話だ・・・」

### 6年前

そのころのDM星はとても平和でした・・・

しかし平和は突然終わりをつけた・・・

DM星人「大変だーっ、FM星人が攻めてきたぞーっ！」

そう・・・突然FM星人が襲ってきたのです

FM星人「クククここにあるのか・・・最強の兵器が・・・」

DM星人「なにしに来た！」

FM星人「何って・・・戦争だよ・・・」

DM星人「何・・・」

そうそのころから始まった・・・電波戦争が・・・

そしてDM星の王「ホウリー」は宣言した・・・

ホウリー「この星は我らDM星人の宝である！そして絶対にあの「鍵」を渡してはならぬ！だから我らはその戦争を終わらす新たな「兵器」を作る！そしてその兵器の名は・・・「ライオーガ」「ドラグーン」だ！」

オオオオオオオオオオオオオオ

DM星人の皆は大きな声で叫んだのであった・・・

そして始まった

電波戦争が・・・

そしてそこにはA M星人の姿もあつた・・・

??? 『この戦争は終わらす・・・』

??? 『ふんっ燃えてきた・・・』

??? 『燃えてる暇などない・・・』

そうその3体は・・・A M星の三体・・・「ペガサス」「レオ」「ドラゴン」である・・・

ホウリー 『まさかあの三体が来るとは・・・』

D M星人 『FM王！FM星の奴らも来ました！』

ホウリー 『そうか・・・やはり「鍵」狙いか・・・皆につげ・・・戦争開始だあ！』

D M星人 『はい！』

F M星人 『あの「鍵」さえあれば・・・我らF M星は・・・』  
そのとき

ドオオン

F M星人 『な、何だ！？』

D M星人 『絶対に「鍵」は渡さない！』

F M星人 『だつたら来いよ・・・』

D M星人 『いいや俺じゃない・・・やるのは・・・』

??? 『グウアアアアアアアアアアアアウ』

??? 『キシヤアアアアアアアアアアアアアア』

F M星人 『なんだこいつは・・・』

D M星人 『こいつらは「ライオーガ」と「ドラグーン」我らD M星の・・・秘密兵器だ！』

F M 星人「なんだって・・・!？」

第136話 DM星の過去・・・（後書き）

次回「DM星」対「FM星」対「AM星」の電波戦争！





F M星人「いけえーウイルスどもー」

F M星人はウイルスをばら撒いた

A M星人「くそつなんてウイルスの数だ！」

F M星人「さあ終われA M星人よ！」

ペガサス「終わるのはそつちだ！」

F M星人「！」

すると氷の粒が上から降ってきた

F M星人「うわあー！ー」

ドオン

ペガサス「やはりF M星の奴らも力をつけてきたな・・・」

そしてD M星は・・・

ホウリー「やはり・・・」「ライオーガ」「ドラグーン」だけでは

戦争は終わらないか・・・」

D M星人「やはり「切り札」をだしたほうが・・・」

ホウリー「・・・しかたがない・・・」「切り札」の準備を！」

D M星人「はい！」

D M星の切り札・・・それは・・・

アンドロメダ・・・

第137話 電波戦争（後書き）

なぜDM星人がアンドロメダを！？  
その事実が次回！

## 第138話 アンドロメダ（前書き）

どうも！レッドスターです！

今回はなんとアンドロメダが出てくるんですよ……

そして何故DM星人がもっているのかも謎……

そしてその謎が今回判明するのだぁぁーっ！

（今回作者はテンションめっちゃ高いです）

## 第138話 アンドロメダ

ドラゴン『!?!』

レオ『どうしたドラゴン?!』

ドラゴン『この感じ・・・まさか・・・』

レオ『?!』

そのころDM星では・・・

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ

ホウリー『めざめよアンドロメダ!』

キイイイイイイイイイ

アンドロメダ『ウオオオオオオオオ・・・』

ホウリー『やはり凄いな・・・われらDM星人が作った切り札・・・』

アンドロメダ!!』

ペガサス『!(なんだ・・・この感じは・・・まさかDM星人の奴・・・)』

・・・)』

FM星人『あれは・・・アンドロメダだ!』

アンドロメダ『ウオオオオオオオオオオ』

ホウリー『さあやれえアンドロメダ!この戦争を終わらせるのだあ

ー!』

アンドロメダ『ウオオオオオオオオ』

するとアンドロメダの形が変化した

キイイイイイイ

アンドロメダ『グオオオオオオオオ』

ドラゴン『くつ・・・DM星人め・・・』

ホウリー『やれえーアンドロメダ!ネビュラブレイカーだ!』

アンドロメダ『グオオオオオ』

キイイイイイン

アンドロメダは力をチャージした・・・  
そして

ホウリー『発射だ!』

アンドロメダ『グオオオオオ』

ドギユウウー—————

アンドロメダは緑色のビームを発射した

ペガサス『くつ・・・非難するぞ』

F M星人『ぎやあ—————』

ホウリー『これで戦争を・・・ん?』

なんとビームの先にライオーガとドラグリーンがいた

ホウリー『どくんじゃー!ライオーガ!ドラグリーン!』

しかしまにあわなかった・・・

ドオオオオオオオオオ

ビームはライオーガとドラグリーンに当たってしまったのだた・・・

ペガサス『・・・』

F M星人『やったあーあの2体がいなく・・・なっ・・・て・・・  
ないだど~~~~~』

ライオーガ『・・・』

ドラグリーン『・・・』

ホウリー『よかった・・・さあライオーガ、ドラグリーン戻ってくる  
のだ・・・えっ?』

ドオン ドオン

なんとライオーガとドラグリーンは暴走しライオーガとドラグリーンが  
闘っていた

ホウリー『やめるのだ!仲間同士で荒そうな!』

ライオーガ『グウオオオオオオオオオオオオウツ！』

雷をドラグーンに落とした

ドオオオン

ドラグーン『ピシヤアアア』

ドラゴン『これは面倒な事になったな・・・』

ペガサス『DM星人の奴はとんでもない「怪物」を作ってしまったな・・・』

レオ『どうする？あの2体をほつとくとわれらの星まで破壊されてしまう』

ドラゴン『・・・これじゃー戦争は出来ない・・・今は自分達の星だけをを守る事にしよう！』

FM星人『・・・（今がチャンスか・・・）』

第138話 アンドロメダ(後書き)

次回ライオーガVSドラゴン!次回・・・どうなるのか!?



第139話 ライオーガVSドラゲーン(前書き)

今回はなんとライオーガ対ドラゲーンの戦い!

## 第139話 ライオーガVSドラグーン

ライオーガ『グウオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ  
バチバチイ

ライオーガの体から電気が流れている

ドラグーン『ピシャアアアアアアアアアアアアアアアア  
ア

ボオウボオウ

ドラグーンの体から炎の渦が出来ていた

FM星人『今のうちにあれを……』

そしてFM星人の1体はどこかに行ってしまった

そしてライオーガとドラグーンは激しくぶつかり合っていた  
ドオオオン

ライオーガ『グウウウウアアアアアアアアアアアア』

ライオーガはまたドラグーンに雷を落とそうとした

しかし今度はドラグーンは炎の渦で雷を吹き飛ばした

ビュウウオオオオオオオ

ドラグーン『ピシャアアアアアアアアアアアアアアアア』

そのころDM星では……

ホウリー『……私のせいだ……私があんな恐ろしい物を作り出  
した……』

DM星人『ホウリー様！自分を責めないでください！』

ホウリー『……こうなったら私がああの2体を止める……』

DM星人『ホウリー様！危険ですよ！』

ホウリー『とめるなこれは私が生み出してしまった事なのだ……

それにあの2体を止めなかつたらいずれこの星……いやこの銀河  
のすべてが破壊するかもしれん』



そして外では・・・

ホウリー『うおおおおおおおお』

ホウリーから凄いい光が解き放っていた・・・そしてその光はライオ  
ーガとドラグーンを包んでいた

ライオーガ『グオオオ・・・』

ドラグーン『ピイイ・・・』

ホウリー『うあああ（くそっ・・・あの2体の力を抑えるには力が  
たりん・・・だったら・・・DM星にある力を使うしかない・・・）

』

そしてホウリーはDM星の力を使った

それと同時にDM星の力は減っていき少しずつ減びていった・・・

DM星人『なんだどんどんDM星が減びている！』

ホウリー『（すまない・・・DM星の皆・・・私は・・・ダメな王  
だ・・・皆・・・許しておくれ・・・）私はすべての力を使いあ  
の2体の力を封じ込める！うおおおおおおおお』

』

ゴゴゴゴゴゴゴゴ

ライオーガ『ウウ・・・』

ドラグーン『イイ・・・』

そしてライオーガとドラグーンは少しずつ姿を変え・・・そして小  
さくなりどこかに行ってしまった・・・

ホウリー『はあはあ・・・力を使い切ってしまった・・・』

ペガサス『おのDM王・・・あの2体を封じ込めたな・・・』

レオ『しかしあいつも・・・』

ドラゴン『そうだな・・・』

DM星人『ホウリー様！』

ホウリー『・・・私はもうだめだ・・・』

DM星人『なに言っているんですか！』

ホウリー「頼む．．．DM星をまた．．．つくりなおしてくれ．．．」  
そう言つて目を閉じた

DM星人「ホウリー様！ホウリー様！目を開けてください！ホウリー様！」

そしてホウリーは少しずつ消えていった．．．

DM星人「．．．俺は．．．俺は．．．ライオーガとドラグーンを消す！」

そしてそのあとは．．．AM星とFM星の戦いがあった．．．AM星にはライオーガの力をもつた電波体が居た．．．しかしそのあとライオーガの力をもつた電波体はFM星に居ると言われた．．．

そしてブルー・ジェットの話が終わった．．．

ウォーロック「まさか俺が．．．」

ロックマン「そのためにロックを狙つてたのか．．．」

ブルー・ジェット「われらDM星人にとって「ライオーガ」と「ドラグーン」は．．．失敗作なんだ」

ロックマン「．．．」

ウォーロック「．．．すまなかつた．．．」

ロックマン「ロック．．．」

ブルー・ジェット「しかし今なら平気かもしれない」

ロックマン「えっ？」

ブルー・ジェット「ウォーロックはもうライオーガの力を使いこなせる．．．」

ウォーロック「おまえ．．．」

ブルー・ジェット「それと教えようお前達が探している奴の場所を．．．」

ロックマン「それは．．．」

ブルー・ジェット「この星の中にワープゾーンがあるそしてお前達

がいたホテルに戻るそしてまたホテルの地下に行くが・・・きつと俺達の仲間がお前達を狙う・・・しかしそれを抜ければお前達の探し物があるはずさ・・・」

ロックマン「ありがとう!」

ウォーロック「行くぞスバル!」

ロックマン「うん!」

すると・・・

ハープ・ノート「はあはあ・・・終わったよ」

オックス・ファイア「こつちも倒したぜ!」

ロックマン「じゃー行こう!」

ハープ・ノート「うん!」

オックス・ファイア「おう!」

そしてロックマン達は向かった・・・ダイヤパールのいる所を目指して・・・

第139話 ライオーガVSドラゲーン(後書き)

今回長いな・・・そしてDM星の過去もわかり・・・  
そして次回ロックマンはダイヤパールのもとにいけるのか!?

## 第140話 ワープゾーン

ロックマン達はDM星の中に入って行った・・・

ロックマン「暗い・・・」

ハープ・ノート「明かりとか電気ないの？」

オックス・ファイア「あるぜ！」

オックス・ファイアは近くにあった木の棒に火をつけた  
すると周りが少し明るくなった

ロックマン「ありがとうオックス・ファイア！」

オックス・ファイア「なんのなんのこんなの簡単だぜ！」

ハープ・ノート「あ！ロックマンあれ！」

ロックマン「んっ・・・あっ！あれだブルー・ジェットが言っていたワープゾーン！」

ウォーロック「よし、さっさと元の場所に戻るか！」

ロックマン「うん」

そしてロックマン達はワープゾーンの上に立った

すると・・・

「ワープシマス、ワープシマス」

ロックマン「よし・・・これで・・・ん？」

「ワープスルマデ、10ビヨウマエ・・・」

そのときロックマン達が少しずつ浮いていた  
フワフワ

ロックマン「うわあ浮いてる！」

「5」 「4」

ハープ・ノート「無重力ね・・・」

「3」 「2」

オックス・ファイア「ウォー！無重力初めてだぜえー」

「1」 「0」

「ソレデハワープシマス」





第141話 地下（前書き）

どうもレッドスターです。

今回も頑張って書きたいと思います

## 第141話 地下

ロックマン達は地下に行く階段を見つけた

ハープ・ノート「確かさつきこの階段を下りようとしたときにワープしちゃったんだよね……」

ロックマン「平気だよ……たぶん」

オックス・ファイア「よっしゃー行こうぜ！」

ロックマン「うん！」

そしてロックマン達は地下に行つた……

ロックマン「……平気みたいだ……」

ハープ・ノート「そうだね」

オックス・ファイア「なんだこれえー」

ロックマン「どうしたのオックス・ファイア！」

するとロックマンは後ろを見るとそこには……

ロックマン「長い……一本道だ……」

ウォーロック「おいおい……奥がみえねえぞ」

ロックマン「どうやらこの道を行かないといけないらしいね」

オックス・ファイア「はあ……なんかなあ……」

ハープ・ノート「行こう！もしかしたらルナちゃんとキザマロ君もいるかも！」

ロックマン「うん、じゃあ行こう！」

オックス・ファイア「あつ、待つてよ！」

そしてロックマン達はこの道をひたすら歩いた……

ロックマン「まだ奥が見えない……」

ハープ『にしても今の状態で敵が現れたらちよつとやばくない？』

ハープ・ノート「たしかに……私さつきのバトルで力ほとんど使い切っちゃった」

オックス・ファイア「俺も」

ロックマン「僕ももう少ししか力が……だからこのまま敵が現れ

ないでそして残ってる力で博士を助けるんだ……」

ウォーロック『しかしあのブルー・ジェット言ってたぜ……敵が俺らを狙いに来るって』

ロックマン「だからその前に博士を助ければいんだけど……」

????「クク……来たか……」

ウォーロック『!』

ロックマン「どうしたのロック?」

ウォーロック『やはりそううまくいくもんじゃないな……』

ロックマン「えっ……?」

????「ゴーストアイ!」

カチン

ロックマン「ぐう……体が……固まって……動けない……」

ハーブ・ノート「なに……これ?」

オックス・ファイア「ブロロ……」

ロックマン「誰だ……ぐう」

ホワイト・ソウル「俺は……ホワイト・ソウルさ!」

ロックマン「ホワイト……ソウル……」

オックス・ファイア「あーっ……あいつダーク・ナイトと戦って

たやつ……」

ハーブ・ノート「やばい……」

ホワイト・ソウル「ククク……」

第141話 地下（後書き）

いきなりの登場ホワイト・ソウル！  
早速ピンチになったロックマン達次回どうなる！？

第142話 大ピンチ！？（前書き）

今回は・・・まさかのホワイト・ソウル登場！

そしてロックマン達の体力はもう少ない・・・このピンチをどうのりこえるのか？

## 第142話 大ピンチ!?

ホワイト・ソウル「クク……この先は行かせないぜ」

ロックマン「ぐうう……」

ウォーロック「こいつ……やべえ……」

ハーブ「このままじゃミソラ達がやられちゃう……」

オックス「俺は……なんもできねえのか……ブロロ……」

ホワイト・ソウル「そいえば……あの青いのが……ライオーガか……」

ロックマン「ぐっ……」

ホワイト・ソウル「まずは……ライオーガからやるか……」

そしてホワイト・ソウルは、少しずつロックマンの所に近づいた

コト コト コト

ウォーロック「やはり俺が外に出てないとかしないとな……」

そしてウォーロックは、外に出ようとしたその時

バチィ

ウォーロック「ぐあっ……なんだ?外に出れない……」

ホワイト・ソウル「無駄だよ俺の技「ゴーストアイ」は相手の動きを止めるだけでは無く……相手のハンターV.Gの中にいるウィザードはその中から出れなくなる技だ……」

ウォーロック「ぐっ……おまえは一体何なんだ!」

ホワイト・ソウル「……悪魔さ……」

ウォーロック「悪魔……?」

ロックマン「ぐうあ……(動けええ……)」

ホワイト・ソウル「動かなくていいよ……」

ロックマン「(?)」

ホワイト・ソウル「だって……ここで終わるのだから」  
ロックマン「!?」  
ホワイト・ソウル「くらえ……ソウルバスター!」

ドギユウウン

ロックマン「……………」  
ハープ・ノート「ぐうああ……………」  
オックス・ファイア「ブロー————」

ドギユウ—————ン

ホワイト・ソウル「終わったか……………」  
???「久しぶりだね……ホワイト・ソウル」  
???「大丈夫か?ロックマン!」

ホワイト・ソウル「!……まさか」

ロックマン「フェニックス!アーチェリー・R!<sup>リミット</sup>」

フェニックス「へへん!」

アーチェリー・R「まさかこんな事になってるなんてな……………」

ホワイト・ソウル「チツ……………」

フェニックス「……ロックマン先に行って!ホワイト・ソウルは  
僕が倒す!」

ロックマン「フェニックス……分かった!皆行こう!」

ハープ・ノート「うん!」

オックス・ファイア「おう!」

アーチェリー・R「おうよ!」

そして皆は先に行った



第142話 大ピンチ！？（後書き）

次回フェニックス対ホワイト・ソウルの対決！  
果たしてどうなる？

第143話 フェニックスVSホワイト・ソウル！（前書き）

今日・・・早起しました・・・しかし眠い・・・です。

### 第143話 フェニックスVSホワイト・ソウル!

ホワイト・ソウル「ククク・・・あの時の恨み・・・はらす!」

フェニックス「今度こそ倒す!」

バード「待つてくれドラグ!」

フェニックス「何?バード・・・」

バード「おかしい・・・電波変換している人間は違うのに何故前と同じ姿をしているんだ?」

フェニックス「えっ・・・同じ人じゃないの?」

バード「お前・・・忘れたのか?前の奴は今病院で入院してるんだ!」

フェニックス「そうなんだ・・・でもたしかにおかしい・・・」

ホワイト・ソウル「知りたいか?俺の正体・・・」

バード「正体?」

ホワイト・ソウル「そうだ・・・俺はただの電波体ではない!」

バード「どういう事だ!ただの電波体じゃないって!」

ホワイト・ソウル「俺は・・・悪魔だ!」

フェニックス「悪魔?」

バード「悪魔だと?変な事を・・・」

ホワイト・ソウル「なら・・・俺に勝つたらすべてを教えてやる!」

バード「しょうがない・・・やるぞ!ドラグ!」

フェニックス「うん、分かった!」

ホワイト・ソウル「それでは・・・始めよう!」

ロクマン達は・・・

ロクマン「大丈夫かな?フェニックス・・・」

ウォーロク「平気だろ・・・あいつにはドラグーンの力がある!」

ロクマン「そうだね・・・」

アーチエリー・R「にしても、いつまで続くんだこの道!」

オックス・ファイア「本当だぜ・・・」

ハーブ・ノート「まだゴールが見えない・・・」  
ロックマン「でも頑張らないとね！」  
ウォーロック「そうだな」

そして・・・フェニックスは・・・

フェニックス「ウイングブレイド」たて切り」！」

ホワイト・ソウル「きかねえよ！シャドウミスト！」  
するとフェニックスの周りが暗くなった

フェニックス「！」

バード「ゆだんするな！」

フェニックス「うん・・・」

しかし周りが見えない・・・

フェニックス「どこ・・・？」

「ソウルバスター」

フェニックス「！！」

ドギユウウー——ン

ドゴオオオー——ン

ホワイト・ソウル「ククク・・・まだまだ・・・」

第143話 フェニックスVSホワイト・ソウル！（後書き）

次回フェニックスの運命は・・・

第144話 フェニックスVSホワイト・ソウルその2(前書き)

最近涼しくなってきた・・・しかし寒すぎても嫌だな・・・

第144話 フェニックスVSホワイト・ソウルその2

ホワイト・ソウル「ククク・・・まだまだ・・・」

フェニックス「ぐふっ・・・（やっぱり強いや・・・）」

バード「大丈夫か？」

フェニックス「まだ・・・やれるよ！」

ホワイト・ソウル「クククそうこなくちゃ！またくえ、ソウルバスター！」

フェニックス「周りが・・・見えないよ・・・」

バード「そうだ、こんな霧、翼で吹き飛ばすんだ！」

フェニックス「うん！」

バサア ビユウウウ

そして霧が晴れた瞬間

ドオオオオオン

フェニックス「うわああああ」

なんとかホワイト・ソウルの攻撃をギリギリよけたフェニックス・

フェニックス「霧がなくなればこっちのもんたもんね！」

ホワイト・ソウル「ほう・・・ならばゴーストアイ！」

フェニックス「ぐっ・・・」

ホワイト・ソウル「ククク・・・さあ地獄を見せてあげよう」

バード「ドラグ！」

フェニックス「こんなの・・・ぐう・・・」

ホワイト・ソウル「ソウルセイバー！」

フェニックス「！」

スバア ズバアン

フェニックス「ぐああ」

ホワイト・ソウル「ククク・・・そろそろ終わらすか」  
フェニックス「ぐううう・・・」

ホワイト・ソウル「終わりだソウル・バスター！」  
フェニックス「うをおーーーーー」  
ドクン

ピカアーーーーン

ホワイト・ソウル「この光は・・・そうか・・・」

フェニックス・D「<sup>ドラグーン</sup>・・・僕は・・・まだ負けるわけにはいかな  
い！」

ホワイト・ソウル「あの姿・・・ドラグーンか、ちょうどいいやつ  
てやる！」

フェニックス・D「くらえフレイムウイング！」

ボオオオオオオウ

炎は鳥のように飛びホワイト・ソウルに向かっている

ホワイト・ソウル「この力・・・俺が倒す！」

ドオオオオン

フェニックス・D「よしっ！」

ホワイト・ソウル「ぐうああああ・・・やはり強い・・・」

フェニックス・D「メテオファイアー！」

炎のがホワイト・ソウルに降り注ぐ

ボオン ボオン

ホワイト・ソウル「ぐっ・・・やるな・・・しかし！ソウルバスタ  
ー！」

ドギユウウウウウン

フェニックス・D「片手でじゅうぶんだ」

右手でソウルバスターを受け止めた

ホワイト・ソウル「・・・ククク・・・ハハハハ・・・」

フェニックス・D「？、何がおかしい・・・」

ホワイト・ソウル「やはり開放するか・・・」

フェニックス「開放？」



ホワイト・ソウル「そう・・・悪魔の力をな！」  
フェニックス・D「悪魔の力？」

第144話 フェニックスVSホワイト・ソウルその2（後書き）

次回「悪魔」の力開放！  
果たして悪魔の力とは？

## 第145話 ホワイト・ソウルの世界

ホワイト・ソウル「これを使う事になるとはな．．．ククク」

ドラグーン『ドラグ！』

フェニックス・D「うん．．．分かってる！」

ホワイト・ソウル「地獄に落ちろ！デスゲート！」

フェニックス・Dドラグーンの下から大きな穴ができた！

フェニックス・D「そんなの飛べばおち．．．！」

そのとき大きな穴から黒いものが出てきた

ゴゴゴゴゴゴゴ

フェニックス・D「な、なんだ？」

ドラグーン『これは．．．ドラグ！逃げしろ、捕まったら．．．終わる！』

フェニックス・D「えっ．．．」

ガッ

フェニックス・D「うわああ」

フェニックス・Dドラグーンが黒いものに捕まってしまった

ホワイト・ソウル「さあ落ちろ！地獄にな！」

ズルルル

フェニックス・D「うわああああああああああ」

フェニックス・Dドラグーンは穴に飲み込まれてしまった

ホワイト・ソウル「ククク．．．俺も．．．」

シュン！

そして．．．

ピュルルルルル

フェニックス・D「うわああ落ちるー！ーっ！」

ドラグーン『．．．ドラグ．．．飛べ！』

フェニックス・D「．．．あれ？黒いのがなくなってる．．．よし



フェニックス・D「！」

ドラグーン「！」

デスソウル「これが俺の地獄の姿・・・デスソウル！」

ドラグーン「何だ・・・あの姿は、まるで・・・悪魔！」

デスソウル「キキキ・・・」

第145話 ホワイト・ソウルの世界（後書き）

次回・・・とうとう対決！

第146話 デスソウルのカ！（前書き）

今回2回目！

## 第146話 デスソウルの力！

ピリピリ

フェニックス・Dドラグーン「なんか、ピリピリくる……」

ドラグーン「これが悪魔か……」

デスソウル「こいよ……フェニックス・D！」

フェニックス・D「……分かった……くらえメテオファイア！」  
デスソウルの上から炎が降り注ぐ

ボオウボオウ

ドオオオン

フェニックス・D「やったあ！」

デスソウル「キキキ……やるねえ……」

フェニックス・D「!?」

ドラグーン「嘘だろ……あいつ傷一つついていない……」

デスソウル「やはり地獄はいい！すばらしい所だ！」

フェニックス・D「僕はまだ負けてない！必殺！トライ・Dドラグーン・ファ

イア！」

デスソウル「この技か……」

デスソウルは三角形の線の中に居た……

そして線から炎が出てきた、そして、その炎が三体の火の鳥になつた  
たそしてデスソウルのほうに向かった

ボオオオ

デスソウル「……」

フェニックス・D「終わりだぁー！ーっ！」

ボオオオオオオオオオオオオオオオオオオ

デスソウルは火の海に包まれた

フェニックス・D「今度こそ……」





第146話 デスソウルのカ！（後書き）

次回「あいつ」が登場！

第147話 黒き電波体

??? 『久しぶりだな．．．ソウル!!』

デスソウル 『ぐっ．．．お前は．．．』

フェニックス・D 『<sup>ドラグーン</sup>君は．．．』

デスソウル 『ブラック・ナイト!』

ドラグーン 『たしかライオのウィザード．．．』

ブラック・ナイト 『俺はお前を許さない!』

デスソウル 『ふん．．．お前地獄に落ちたのか．．．いい気味だ』

ブラック・ナイト 『安心しろ．．．お前にも本当の地獄を見せてやる!!』

デスソウル 『ああ見せてくれ』

フェニックス・D 『僕もやる!』

ブラック・ナイト 『(こいつ．．．ドラグーン!) いいだろ』

デスソウル 『こい!』

フェニックス・D 『うおおーフレイムウイング!』

ポオオウ

デスソウル 『．．．効かないなあ』

ブラック・ナイト 『後ろだ!』

デスソウル 『!』

ズバア

デスソウル 『ぐああ』

ブラック・ナイト 『へっ．．．』

デスソウル 『き、貴様っ!』

フェニックス・D 『うおおーメテオファイア!』

ポオウポオウ

デスソウル 『何っ．．．』

ドオオオン

デスソウル 『ぐああ』

ブラック・ナイト『へっ2体1じゃ勝てないのか？お前』

デスソウル『なめるな！』

ブラック・ナイト『！』

デスソウル『デスセイバー！』

ズバアアン

ブラック・ナイト『ぐうあああああ』

ドサッ

フェニックス・D『ブラック・ナイト！』

ブラック・ナイト『お前は目の前の敵を倒すんだ！絶対にあいつにも弱点があるはずだ！』

ドラグーン『ドラグ、その弱点を見つけよう！』

フェニックス・D『弱点……！』

デスソウル『どうしたんだ？ヒビって動けねえのか？』

ドラグーン『ドラグ、見つけたのか？』

フェニックス・D『みつけた……弱点』

ドラグーン『弱点はなんだ？』

フェニックス・D『さっきブラック・ナイトが攻撃した時の事を思い出したら見つけたんだ！弱点は後ろから攻撃される事！』

ドラグーン『（ベタだな）』

第147話 黒き電波体（後書き）

次回、弱点を見つけたフェニックス・D・・・次回勝てるのか？

## 第148話 ブラック・ナイト

フェニックス・D「<sup>ドラグーン</sup>よし、後ろからやるぞ！」

ドラグーン「そのためには、相手のすきを見つけないければな……」

フェニックス・D「すきか……」

デスソウル「来ないならこっちから行くぜ！」  
シューン

フェニックス・D「！」

ドゴオン

デスソウルはフェニックス・Dの腹を殴った<sup>ドラグーン</sup>

フェニックス・D「ぐはっ……ぐっ……」

デスソウル「まだまだ！デスセイバー！」

ズバアン

フェニックス・D「ぐううう」

ドラグーン「(デスソウル……こいつまさか……)」

フェニックス・D「い、痛い……よお」

デスソウル「キキキ……1人じゃ何も出来ないのか？」

フェニックス・D「うつつ……まだまだあ……」

デスソウル「キキキ俺を楽しませろよ……ガキイ」

フェニックス・D「！」

ドゴツ ズバアン ドカア

フェニックス・D「ぐうあああああ」

ドラグーン「(いくらドラグーンの手でもこれでは、負けてしまう・

・早くすきを見つけないとな)」

フェニックス・D「ぐはっ」

デスソウル「キキキもうおしまいか？」

フェニックス・D「まだだ……まだ僕は……負けない！」

デスソウル「そうか……ならもつといたぶってやる！」

ドゴオオン

フェニックス・D「うわああああ」

ドラグーン「(これまでなのか・・・せめてすきを生み出せば・・・)  
」

ブラック・ナイト「・・・5秒だ・・・」

ドラグーン「！」

ブラック・ナイト「俺が5秒のすきを作る・・・あとはあいつしだ  
いだ・・・」

ドラグーン「・・・(5秒か・・・ドラグなら出来るかも)  
そして・・・」

ドラグーン「たのむブラック・ナイト！」

ブラック・ナイト「ああつ」

デスソウル「終わりだぁー」

ブラック・ナイト「(今だ)うぉおー」

ズバアン

デスソウル「ぐおおおお」

ドラグーン「今だドラグ！」

「3」

フェニックス・D「ぐっ・・・すべての力を・・・うぉおおおお  
おお」

「2」

フェニックス・D「うぉおおおトライ・D・ドラグーンファイア！」

「1」

ドラグーン「この勝負・・・勝ちだ！」





第148話 ブラック・ナイト（後書き）

とうとう勝ったフェニックス！

次回は・・・？

## 第149話 操られた兄

アーチェリー・R「!!?」

そこにはなんと、クロダーツがいた!

クロダーツ「……………」

アーチェリー・R「兄貴……………」

ウォーロック「兄貴!!?」

ロックマン「あれが…………アーチェリー・Rのお兄さんか……………」

アーチェリー・R「おい兄貴!そこをどけえ!」

クロダーツ「……………」

アーチェリー・R「おい聞いてんのか!」

ロックマン「ねえなんか様子変だよ?」

クロダーツ「タオス…………タオス…………シンニユウシャ、タオス」

アーチェリー・R「!…………兄貴……………」

そのころ

???「フッフ…………さあやりなさいクロダーツ…………あなたは私  
のかわいい…………人形、だから倒しなさい…………本気で弟を!」

クロダーツ「タオス…………オマエタチ…………タオス」

アーチェリー・R「目を覚ませえ兄貴!」

ウォーロック「あいつまじで俺達を倒しに来るぜ……………」

ロックマン「…………やろうアーチェ……………」

アーチェリー・R「いいや…………俺だけでやる!」

ロックマン「でもダイヤパール博士を……………」

アーチェリー・R「なあロックマン1つお願いがある!」

ロックマン「?」

アーチェリー・R「博士を…………助けてくれ!」

ロックマン「アーチェリー・R……でも……」

ウォーロック「行くぞスバル」

ロックマン「ロック……」

クロダーツ「ウォォー……タオス……」

ドン！

アーチェリー・R「くっ……どうやらこいつ俺を狙ってるようだ・

・早くいけえロックマン俺はお前を信じてるぜ地球を救ったヒー

ロー！」

クロダーツ「ウォォー……」

ガキイン

アーチェリー・R「ぐっ……」

ロックマン「……分かった！」

そしてロックマン達は先に進んだ

アーチェリー・R「行ったか……さあ始めようか……兄貴」

クロダーツ「ウォォー……」

第149話 操られた兄（後書き）

次回・・・本気の兄弟バトルが始まる！

第150話 アーチエリー・R対クロダーツ！

ロックマン「平気かな・・・」

ウォーロック『平気だろあいつなら』

ロックマン「ようだよね」

そのころ・・・

アーチェリー・R「ニミインファイニティーアロー！」

無限の矢がクロダーツに降り注ぐ

クロダーツ「・・・キカナイヨけ」

クロダーツはすべての矢をかわした

アーチェリー・R「何っ・・・（これは厄介だ・・・どうしたら兄貴を正気に戻せんか・・・）」

クロダーツ「クラエ、シャドウスピア！」

アーチェリー・Rの周りにたくさんの針が現れた！

アーチェリー・R「この技は・・・逃げるのがやっかいだ・・・」

クロダーツ「ササレロ」

ザザザザザザザザザ

アーチェリー・R「ぐああああああああ」

ドサツ

クロダーツ「オワリ・・・オマエ・・・」

アーチェリー・R「おい・・・兄貴・・・たしか前会ったとき言っていたよな・・・また俺と暮らしたいって・・・だったら兄貴！正気にもどれえー！っ！」

クロダーツ「・・・タオス」

アーチェリー・R「くっ（やはり戻らない・・・どうすれば・・・）」

┌

ある所

???「無駄よ・・・私を倒さない限りクロダーツはずっと私の・・・操り人形・・・フフフ」

ドゴオン

アーチェリー・R「ぐはっ、はあはあ・・・（兄貴の奴・・・少しずつ俺の動きについてきてる・・・やばい・・・）」

クロダーツ「シャドウスピーア！」

アーチェリー・R「（またか・・・だが）インフィニティーアロー！」

アーチェリー・Rは矢ですべての針を落とした

キーン キーン キーン

アーチェリー・R「はあはあ、やったぜ」

クロダーツ「コシヤクナ・・・」

アーチェリー・R「へっ・・・目覚ませよ兄貴」

クロダーツ「・・・」

第151話 言葉

クロダーツ「……………」

アーチェリー・R「トモ……………」

クロダーツ「……タオス！」

アーチェリー・R「兄貴……………」

クロダーツ「フルシャドウスパア！」

アーチェリー・R「何っ……そんなの俺……………」

ズバツ

アーチェリー・R「えっ……………」

ザザザザザザザザ

アーチェリー・R「ぐああああああああ（これは……前のシ

ヤドウスピアじゃない、早すぎて針が……見えない）」

クロダーツ「……………」

アーチェリー・R「ぐうあ……………」

アーチェリー・Rはひざをついた

トン

アーチェリー・R「（痛い……体中が……しびれて……………」

クロダーツ「コノハリニハ……ドクガヌツテアル……アンシン

シロ、イツシユウカンハウゴケナイガ、イノチニハナニモナイ……

「アーチェリー・R「はあはあ……（だんだんしびれが強まってい

る……………」

クロダーツ「コレデコイツハ、ウゴケナイ……サキニイツタヤツ

ヲオイカケルカ……………」

アーチェリー・R「はあはあ……（俺は無力だ……あの時、博

士を守れなかった……兄貴も助けられなかった……俺は……

俺は……皆のやくにたてなかった……俺は……弱い……

！）」

「

クロダーツ「イクカ……」

「諦めるのかい？」

アーチェリー・R「！（博士……）」

それは……弓亜がアーチェリー・Rの力を手に入れて一週間後の事だった……

弓亜「うをおおー！ー！ー」

ダイヤパール「……」

弓亜「電波変換！」

キイーン

アーチェリー・R「はあはあ……！」

ズズズキ

アーチェリー・R「ぐああ……苦しい……」

キーン

電波変換を解除してしまった……

弓亜「はあはあはあ……」

ダイヤパール「なんで電波変換を解除したんだい」

弓亜「くっ苦しかったんだよ」

ダイヤパール「それを克服しないといつまでたっても出来ないわよ」

弓亜「くっ……やってられるかよ！こんなの！」

ダイヤパール「……」

そして弓亜はどっか行こうとした……

そのとき！

ダイヤパール「諦めるのかい？」

弓亜「……」

ダイヤパール「あんたが電波変換したいって言ってきたのに……

諦めるのかい？」

弓亜「……」



ダイヤパール「それじゃああなたの夢・・・諦めることになるわよ？それでもいいのかい？」

弓垂「・・・」

ダイヤパール「諦めると・・・男がくさるよ」

弓垂「・・・やってやる・・・」

ダイヤパール「！」

弓垂「やってやるよ！そして・・・博士をビックリさせてやる！」

ダイヤパール「・・・ビックリさせてみな・・・！」

弓垂「へっ・・・やってやる！」

アーチエリー・Rはこの時の事を思い出していた・・・

アーチエリー・R「はあはあ・・・待て・・・」

クロダーツ「！」

アーチエリー・Rは立ち上がろうとした

アーチエリー・R「はあはあ俺はあ・・・諦めねえ・・・」

クロダーツ「・・・バカナ・・・」

アーチエリー・R「俺は・・・兄貴を正気に戻して、はあはあ・・・

俺は夢を・・・諦めない！」

アーチエリー・Rはもうフラフラだが立ち上がっていた！

アーチエリー・R「チップ・・・セット！」

カチッ

『変形チップ入力成功！無限時間GMに変形！』  
インフィニティタイム

キィーイーイーーン

アーチエリー・R「（俺は・・・全力で兄貴を救う！）」

第151話 言葉（後書き）

次回クロダーツを救えるのか!?

第152話 救えるか！？ (前書き)

果たしてクロダーツを正気に戻して救えるのか！？

## 第152話 救えるか!?

『変形完了!』

クロダーツ「!?!」

アーチェリー・GV「・・・兄貴・・・俺は絶対に!」

クロダーツ「・・・オドロイタ・・・ドクヲサシタノニウゴケルト  
ハ・・・」

アーチェリー・GV「はあはあ（やはり毒のせいですう長くもたない・・・だから毒が全身にまわる前に救う・・・）」

クロダーツ「スグニオワラス、フルシヤドウスピア!」

アーチェリー・GV「（来た!）スロータイム!」  
カツ・・・チン

すると針がゆつくりとアーチェリー・GVに向かっていった・・・  
アーチェリー・GV「（今のうちにここから移動しないと）」

そしてアーチェリー・GVはその場から移動した・・・そして  
クロダーツ「!・・・ハズレタ・・・」

アーチェリー・GV「（スロータイムは・・・5秒間だけ発動できるのか・・・）」

クロダーツ「マダマダ!」

アーチェリー・GV「ハイタイム!」

ビュン!

今度はアーチェリー・GVが早くなった

クロダーツ「ナンダ・・・キュウニアイツハヤクナッタ!」

アーチェリー・GV「（これで目を覚ませ!兄貴!）くられ、スぺ  
ーソケット!」

すると黒い穴が現れそしてその中からロケットが出てきた!

クロダーツ「ナンダト・・・」

ロケットはクロダーツに向かって来た！

そして・・・

ドオオオン

クロダーツ「グアアアアア」

ドサツ

クロダーツは倒れた

アーチェリー・GV「はあはあ・・・（思えば俺・・・兄貴が嫌いだった・・・でもなんでか今は救いたいって思ってた・・・なんで俺は兄貴を救いたいって思ったんだろ・・・あんなに・・・嫌いだつたのに・・・）」

ズキーン

アーチェリー・GV「ぐう・・・（毒が全身にまわったか・・・俺も・・・倒れるか・・・）」

ドサツ

アーチェリー・GVは倒れた・・・

そして思った・・・

アーチェリー・GV「（兄貴・・・正気に戻ってくれ・・・でないと俺の夢が・・・）」

そしてアーチェリー・GVは気を失った・・・

そして

????「・・・まさかクロダーツが敗れるとは・・・だがまあいい・・・もう準備はととのった・・・あとは時間だけ・・・フフフフフ・・・」

第152話 救えるか!？ (後書き)

次回!ロックマン達はゴールにつけるのか!？

第153話 ゴール直前！（前書き）

今回はロックマンはとうとうゴールに着いたと思ったら・・・





オックス・ファイア「誰だーっ!」

ボムボック「僕々?僕はあゝボムボックだよ」

ウォーロック「ボムボック?」

ボムボック「……(こいつら……クロダーツから……つうか出来たのかあゝ)」

ロックマン「そこを通せ!」

ボムボック「やゝだゝねえゝゝだ」

ウォーロック「(こいつ……ム力つく!)」

ボムボック「ねえゝ君達の方ゝ見せてもらうよあゝ?」

ロックマン「(やんないと……ダイヤパール博士を助けられない!)」  
ロックバスター!」

ボムボック「そんなの効かないよあゝ、ボムの盾!」

ドン! シュウー

ロックマン「防がれた!」

ハーブ・ノート「シヨックノート!」

オックス・ファイア「ファイアプレス!」

ギューイーン  
ボオオオオオオオ

ボムボック「だゝかゝらゝ効かないよあゝ、ボムの盾」

2人の技が防がれてしまった

ハーブ・ノート「強い……」

オックス・ファイア「なかなかやるな……」

ロックマン「よしっ皆やるう!」

ハーブ・ノート「待って」

ロックマン「えっ?」

ハーブ・ノート「スバル君……いいえロックマン!私たちがあいつの動きを止めている間に先に行つて!」

ロックマン「でも……」

オックス・ファイア「俺達を信じてくれ!だって俺達はロックマンの「ブラザー」だ!」

ハーブ・ノート「そうよ!私たちなら大丈夫だから……だから口

ツクマンは博士を助けてあげて！アーチェリー・Rも言<sup>リミ</sup>つてたでし  
よ？」

ロックマン「……」

ロックマンはアーチェリー・Rの言葉を思い出した

「早くいけえロックマン俺はお前を信じてるぜ地球を救った  
ヒーロー！」

ロックマン「……分かった！」

ハープ・ノート「ロックマン！」

ロックマン「お願い……5秒でいいからボムボックを止めて！」

オックス・ファイア「おうよ！」

ハープ・ノート「うん！任せて！」

ロックマン「（あと……少し！）」

第153話 ゴール直前！（後書き）

次回とうとう・・・ダイヤパールを助けることが出来るのか!？

第154話 チャンスを待つ・・・(前書き)

今回はダイヤパールを助けられるのか？

第154話 チャンスを待つ・・・

ハープ・ノート「シヨックノート！」

オックス・ファイア「ウオオー！ツ！ファイアプレス！」

ボムボック「話〓聞いてたあ〓？聞かないって〓言っただよ〓〓」  
そしてまたも防がれてしまった

ロックマン「・・・（僕は2人を信じて・・・チャンスを待つだけ！）」

ボムボック「！（あいつ〓全然戦いに〓参加してないよあ〓？なん  
でだろ〓？）」

オックス・ファイア「オックスタツクル！」

トトトトトトトト

オックス・ファイアは勢いよくボムボックにタツクルしようとした。  
・・・しかし・・・

ボムボック「すごいなあ〓でも〓ボムトラップ！」

ボムボックはオックス・ファイアの下に仕掛けた

そして・・・

ボオオオオオン

オックス・ファイアは引つかかった

オックス・ファイア「うわああああ」

ロックマン「オックス・ファイア！」

ボムボック「僕を〓なめないほうが〓いいよ〓」

オックス・ファイア「まだまだーブロロロ！」

オックス・ファイアは立ち上がった

ハープ・ノート「私だつて！パルスソング！」

ポワワ〓ン

ボムボック「（音波か〓でも〓）超爆弾！」

するとでかいボムが現れた

そしてそのボムを音波に投げた

ポイー

ボゴオオオオオオオン!

ハープ・ノート「きゃあああああ  
ドサッ

ロツクマン「くっ……」

爆発の後からの煙がロツクマンを包む

ブオ……

ロツクマン「あっ……前が見えない……! (そうだ……)」  
ボムボツク「ど〜こ〜?」

そして煙が晴れた……

オックス・ファイア「ブロロロ」

ロツクマン「ねえオックス・ファイア」

オックス・ファイア「?」

ハープ・ノート「シヨツクノート!」

ギューイーン

ボムボツク「効かないって〜何回も〜言ったじゃ〜ん」

そして防がれてしまった

ハープ・ノート「どうしよう……」

オックス・ファイア「ハープ・ノート! またパルスソングをやっ  
てくれ!」

ハープ・ノート「……分かった!」

ロツクマン「これなら……抜ける!」

第154話 チャンスを待つ・・・(後書き)

次回ロックマンの作戦とは？

## 第155話 突破成功!?

ハーブ・ノート「パルスソング!」

ポワワ〜ン

ボムボツク「ま〜た〜か〜・・・でも〜超爆弾!」

そしてハーブ・ノートの技が防がれてしまった!

ポオオオオオオオン

爆発により煙が出てきた

ロツクマン「よしっ! オックス・ファイア!」

オックス・ファイア「おう! ファイアプレス!」

ポオオオオオオオ

ボムボツク「ま〜さ〜か〜この煙を〜利用して〜僕を〜倒すつもり

〜?でも〜そううまく〜いかないよお〜」

オックス・ファイア「・・・」

ロツクマン「・・・」

ボムボツク「ボムの盾〜!」

ポオオオオオ

ボムボツク「えっ・・・」

炎はボムボツクを交わしボムボツクを抜いた・・・

ロツクマン「(煙で見えにくいけど炎のおかげで光っている所に走れば・・・)」

そしてロツクマンは走った炎のある場所に・・・

タタタタタ

オックス・ファイア「ロツクマン! 早くしないと火が消えるぞ!」

ロツクマン「間に合え・・・!」

そして・・・煙が消えた・・・

ボムボツク「(なんだっただる〜さっきの〜炎〜なんだろ〜?)」

オックス・ファイア「作戦・・・成功!」

ハーブ・ノート「やったあ!」



ボムボツク「あれ、青いヤツ、いないよお？」

オックス・ファイア「後ろ見てみるよ」

ボムボツク「！」

ロツクマンはいつの間にかボムボツクの後ろに居た・・・

ロツクマン「あそこに行けば・・・ダイヤパール博士がいる・・・絶対に助ける！」

ボムボツク「1人、逃がしちゃった、どうしよう・・・まあ、いいか」

オックス「いいんだな・・・」

ハープ「いいんだ・・・」

ボムボツク「2人、だけでも倒す」

ハープ・ノート「頑張つて・・・ロツクマン！」

オックス・ファイア「負けるなよ、ロツクマン！」

そして・・・

ロツクマンは扉を開いて部屋に入った  
ガチャ

ロツクマン「なんだろ・・・なんか暗くて気味悪いなあ・・・」

ウォーロツク「油断すんなよスバル・・・なんか凄く嫌な予感がする・・・」

????「フッフ・・・きたわねライオーガ！・・・いいえロツクマン！！」

ロツクマン「誰だ！」

アクエ「・・・私はアクエ・・・にしても早かったわね・・・まだ2時間もあるわ・・・」

ロツクマン「2時間？」

アクエ「そう・・・宇宙消滅のね・・・」

ウォーロツク「はあ？そんな事できるわけ・・・」

アクエ「出来るのよ・・・私なら・・・ね・・・」

ロツクマン「・・・」



第155話 突破成功！？（後書き）

次回・・・とうとうボスのアクエとの対決！そしてダイヤパールは・  
・

## 第156話 アクエの力

ウォーロツク『なんでテメエなら出来るんだ!』

アクエ「・・・私はね・・・失敗作なの・・・」

ロツクマン「失敗作?」

アクエ「そう・・・実験のね・・・」

ロツクマン「実験・・・まさか・・・」

アクエ「そのまさかよ・・・私はダイヤパールに実験台にされて失敗したのよ・・・でも失敗したおかげで

私は宇宙消滅できる力を手にいれた・・・」

ウォーロツク『しかしただ実験に失敗しただけでそんな力手にいれられないはずだ!』

アクエ「・・・そのとおりよ・・・失敗しただけでそんなすばらしい力など手に入れられない・・・でも「こいつ」が私に力を与えてくれた・・・」

ウォーロツク『こいつって・・・?』

アクエ「・・・DM星人の・・・「ハクガメ」がね・・・」

ウォーロツク『ハクガメ?』

アクエ「・・・出てきな!」

シュン

ハクガメ『おい・・・まだ時間じゃねーじゃねーか!』

アクエ「だから時間を稼ぐのよ・・・」

ハクガメ『だったらさっさとやるぞ』

アクエ「でも・・・まだ「裏」は出さないよ」

ハクガメ『へいへい』

アクエ「では・・・電波変換!」

キイイイイイイイ

ウォーロツク『!』

ロツクマン「・・・」

「????」それでは……この部屋の明かりをつけましょう……」  
パッ

部屋が明るくなった

ロックマン「あ、明るく……!」

ウォーロック『なんだよ……この部屋……』

ロックマン「……これは……」

ウォーロック『このけはい……これは魂だな……』

部屋のあちこちには魂が保管されていた

ロックマン「なんて数なんだ……」

「????」おどろいた?

ロックマン「!」

ウォーロック『ほう……それが電波変換か……（なんか知らんが……あいつの電波変換……違和感を感じる……）』

ミスガメ・ハクア「私のこの姿……ミスガメ・ハクア……どうだいすばらしいだろ?」

ロックマン「ミスガメ……ハクア……」

ウォーロック『スバルやるぞ!』

ロックマン「うん……」

ミスガメ・ハクア「フフフ……」

ロックマン「ウェーブバトル ライド オン!」

第156話 アクエの力（後書き）

とうとう始まったロックマンVSミズガメ・ハクア！  
ロックマンは勝つ事が出来るのか！？

## 第157話 ミズガメ・ハクア

ロックマン「ウェーブバトル ライド オン！」

ミズガメ・ハクア「私の力を見せてあげるわ」

ロックマン「ロックバスター！」

デユン

ミズガメ・ハクア「遅い！」

ビュン

ミズガメ・ハクアは凄いスピードでロックマンの攻撃をよけた

ミズガメ・ハクア「まだまだよ！」

ロックマン「目に見えない・・・」

ウォーロック「なんてやつだ、目に見えない速い！」

「こつちよ」

後ろから声が聞こえた・・・

ロックマン「！」

ドゴオン

ロックマン「くっ・・・」

ミズガメ・ハクア「フッフ・・・あんがい弱いよね・・・」

ロックマン「・・・」

ウォーロック「（相手が速すぎて攻撃もまともに出来ない・・・どうする・・・）」

「・・・」

ミズガメ・ハクア「フッフ、これなら早くおわりそうね・・・」

ロックマン「・・・ロックバスター！」

デユン！

ミズガメ・ハクア「・・・」

ビュウン！

ロックマン「また交わされた！」

ウォーロック「どうにかしてあの速さに対抗で出来る事を考えねえ

とな・・・どうする？スバル？」

ロックマン「でもさっき僕が受けた攻撃・・・全然効いてなかった・・・」

ウォーロック「つまり相手は速いが攻撃は弱い・・・しかしいくら力が弱いといっても何回も攻撃を受けていたらこっちがやられてしまう・・・」

ロックマン「でも相手が速いからこっちの攻撃は相手に効かない・・・ねえどうすればいいの？」

ウォーロック「相手が一瞬だけでも止まる時は・・・攻撃する時だ！」

ビュン

「フッフ・・・」

ウォーロック「後ろだ！スバル！」

ロックマン「！」

「反応が遅いわよ！」

ドガッ

ロックマン「ぐっ・・・でも今がチャンスだ・・・ロック・・・」

ドゴッ

ロックマン「!？」

ミズガメ・ハクア「いくら私がすきを見せても反応が遅いのよあんな・・・それにあなたが攻撃する時、私があんたより速く攻撃すれば・・・あなたは攻撃できない・・・フッフ」

ロックマン「くっ・・・（どうすれば・・・いいんだ・・・）」



第157話 ミズガメ・ハクア（後書き）

ミズガメ・ハクア・・・今までの敵よりも凄く速い敵！！  
次回ロツクマンは勝てる方法を見つけられるのか？

第158話 一瞬の一撃！

ミズガメ・ハクア「あなたは・・・私を倒せない・・・フッフ」

ウォーロック「スバル！」

ロックマン「もう一度やってみる」

ビュン

「フッフフさあ私のスピードを見切れるかな？」

ロックマン「・・・」（今度はバトルカードで・・・）

ウォーロック「くるぞ！」

ロックマン「バトルカード「スーパーバリア」！」

ドン！

ロックマン「!!?」

ミズガメ・ハクア「残念ね・・・」

ウォーロック「ハドルカードが・・・間に合わなかったと・・・」

ロックマン「ゴホッ・・・」

ミズガメ・ハクア「フッフ・・・まだまだ・・・」

ロックマン「くっ・・・ロックバスター！」

デュン

ミズガメ・ハクア「！」

シューン

ロックマン「外れた・・・」

ウォーロック「やはりどうにかして、一発でも攻撃を当てられれば・

・・・」

ロックマン「!、そうだ・・・」

ウォーロック「スバル・・・？」

ロックマン「だったら・・・ライオーガの力を使おう！」

ウォーロック「しかし・・・平気か？体の傷・・・」

ロックマン「うん平気だよ」

ウォーロック「ならやってみる」

ロックマン「うん！」

「何のんきに話しているのよ！」

ロックマン「うおおおおおおおおおおお」

キイイイイイイ

ミズガメ・ハクア「！（あの黄金の光・・・まさか・・・）」

ロックマン「うおおおおおおお」

ウォーロック「ウオオオオオオ」

キイン キイン キイイイイイイイイ

ミズガメ・ハクア「くっ・・・なんて光・・・」

バチッ バチイイ

ロックマン・R「ライオーガロックマンライオーガ！」

ミズガメ・ハクア「これが・・・ライオーガ！」

ライオーガ「スバルやるぞ！」

ロックマン・R「うん、うおおハンマー！」

ロックマン・Rは、黄金のハンマーを出したそして・・・

ドオオン

ハンマーで地面を叩いた

ロックマン・R「地雷・・・！」

ゴゴゴゴゴゴ

ミズガメ・ハクア「！（まさか・・・）」

ビュン

ミズガメ・ハクアは高速でその場から逃げた、そして・・・

ゴゴゴゴゴゴ

さっきまでミズガメ・ハクアがいた場所の地面から雷が出てきた

バババババババ

「フッフ危なかったわ・・・そしてそのままライオーガを叩く！」

ミズガメ・ハクアはロックマン・Rに向かった

ロックマン・R「！」

ライオーガ『くるぞ!』

ロツクマン・R「わかつてる!」

「遅い!」

ロツクマン・R「・・・・・・・・」

ドン!!!!

ミズガメ・ハクア「!(硬い!)」

ロツクマン・R「はああああ」

ライオーガ『スバル!あれだ!』

ロツクマン・R「うん!RKプログラム発動!」

ミズガメ・ハクア「くっ・・・でも・・・」

ガシッ

ロツクマン・R「逃がさない!」

ロツクマン・Rはミズガメ・ハクアの腕を掴んだ

ミズガメ・ハクア「しまっ」

ロツクマン・R「ロツクキャノン!」

ドギユウウウウウウウウウウ!!!

ミズガメ・ハクア「キャー!」

ドオオオオオオオオオオオオオ

第158話 一瞬の一撃！（後書き）

とうとう倒した？

次回！まだまだ・・・？

## 第159話 本当の力・・・

オオオオオオ・・・

ロックマン・Rライオーガ「はあはあ・・・やった・・・」

ミズガメ・ハクア「・・・やる・・・じゃない・・・」

ロックマン・R「!」

ミズガメ・ハクア「・・・私じゃ勝てないわ・・・」

ライオーガ「だったらさつさとダイヤパール博士を返せ!」

ミズガメ・ハクア「フフフ・・・まだ・・・戦いは・・・終わってないわ・・・!」

ライオーガ「どういう事だ!」

ミズガメ・ハクア「まだ・・・早いけど・・・勝つためなら・・・いいえ終わらすならこれしかないわ!ハクガメ!」

ハクガメ「OK!」

ミズガメ・ハクア「さあすべての魂を吸収しなさい!」

ハクガメ「はあああああああああ」

ゴゴゴゴゴゴゴゴ

ミズガメ・ハクア「私は失敗作・・・でも失敗作だからこそ出来る事がある!」

ゴゴゴゴゴゴゴゴ

ライオーガ「くっ・・・凄い力だ・・・それに妙だ・・・」

ロックマン・R「何が起こるんだ・・・」

ゴゴゴゴゴゴゴゴ

ミズガメ・ハクア「さあみるがいい・・・私の・・・俺の力を!」

キーーーーー



ボムボツク「（この〜爆発〜まさかあ〜・・・始まったのかな〜に  
しては〜早いなあ〜？）」

オックス・ファイア「（大丈夫・・・ロツクマンならきつと・・・）

「



第159話 本当の力・・・(後書き)

次回、ロックマン・Rは・・・？

## 第160話 ギャラクシー

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ

ギャラクシー「ククク吹き飛んで消えてしまったか・・・」  
ガラッ

ギャラクシー「!」

ガララ

ロックマン・R「ライオガはあはあはあはあ・・・ぐっ」

ドサッ

ライオガ「スバル・・・（いくら防御力が高くてもダメージが大  
きい・・・）」

ギャラクシー「ほう・・・やるではないか・・・」

ロックマン・R「負けるわけには・・・いかない!」

ギャラクシー「これを耐えた事をほめてやろう・・・しかしこれま  
でだ・・・」

ロックマン・R「はあはあ・・・ロックバスター!」

デュン

ドオン!

ロックマン・R「やった・・・えっ?」

ギャラクシー「・・・そんだけか?」

ロックマン・R「まだだ! RKプログラム発動! ロックキャノン!」

ドギユウウーーーーーー

ギャラクシー「!」

ドオオオオオオオオオオオ

ロックマン・R「はあはあ・・・」

ライオーガ『あいつまともに食らったな』

ギヤラクシー「へへへ・・・今のは少し効いたぜ・・・」

ロックマン・R「!?!」

ライオーガ『嘘だろ・・・あいつ・・・』

ギヤラクシー「でも・・・たいした事ねえな・・・ライオーガも」

ギヤラクシーは平気そうな顔をしていた・・・

ライオーガ『（あいつ・・・化物か？）』

ギヤラクシー「ククク・・・来いよ・・・ロックマン!」

ロックマン・R「はあはあ・・・くっ・・・」

キーン

ギヤラクシー「ん?」

ロックマン「えっ・・・?」

ライオーガの力が解けてしまった

ウォーロック『（これまでか・・・）』

ロックマン「はあはあ・・・（どうすれば・・・勝てるんだ・・・）

」

第160話 ギャラクシー（後書き）

ロツクマン大大大ピーンチ！  
次回ロツクマンの運命は・・・？

## 第161話 ロックマンVSギャラクシー

ギャラクシー「どうした？ライオーガの力はもう終わりかあ？」

ロックマン「はあはあ・・・どうしよう・・・」

ウォーロック「これはやべえ・・・勝てる確率低いな・・・」

ロックマン「ライオーガの力を使うには体力がもう・・・」

ウォーロック「だったら・・・あいつと戦いながら体力を回復させるしかないな・・・」

ロックマン「・・・やってみよう」

ギャラクシー「へっ・・・なんだか暇だなあ・・・もう終わらして世界を破壊するか」

ロックマン「バトルカード「マッドバルカン3」！」

ガガガガガガガガガン！！

ギャラクシー「効かないよ・・・」

ドンドンドンドン

ギャラクシーはロックマンの攻撃をつけているがギャラクシーは全然効いていない・・・

ロックマン「くっ・・・ロックバスター！」

デュン！

ドオン！

ギャラクシー「だから・・・効かねえて言ってるだろ！」

ロックマン「はあはあ（やっぱり全然効いてない・・・倒すには・・・

・ライオーガの力しかない・・・）」

ギャラクシー「やはりつまんない・・・もう終わらす！」

ロックマン「（来る！）」

ギャラクシー「ギャラクシーキャノン！」



第161話 ロックマンVSギャラクシー（後書き）

いったいこの声はだれなのか？  
次回をお楽しみに！

## 第162話 アシッド・エース&ブライ

ロックマン「はあはあ．．．この声まさか!」

ギヤラクシー「?．．．なんだ、あいつら．．．」

ロックマン「アシッド・エース、それに．．．ブライ!」

アシッド・エース「よう、久しぶりだなロックマン!」

ブライ「．．．」

ロックマン「2人とも．．．どうしてここに．．．」

アシッド・エース「ヨイリー博士から聞いたんだロックマンがこの町にいるってな!」

ブライ「．．．俺がお前を倒す!だからこんな所でお前が負けるのが困るだけだ．．．」

ロックマン「．．．ありがとう」

ギヤラクシー「ハッ、ザコが何人増えたって俺には関係ねえ、ただ壊すだけだ!」

アシッド・エース「俺達を甘く見ないほうがいいぜ?」

ブライ「．．．」

ギヤラクシー「．．．だったら、さっさとかかって来い!」

ウォーロック「スバル今のうちに」

ロックマン「うん．．．」

ロックマンは体をやすめた．．．

アシッド・エース「ロックマンが少しでも体力を回復させるにはしばらくかかるな．．．でも．．．俺は負けない!」

ギヤラクシー「来い!俺を楽しませてみる!」

そしてそのころ．．．

ハープ・ノート「はあはあ」

オックス・ファイア「くっ．．．全然攻撃があたんねえ．．．」



ハープ・ノートとオックス・ファイアはボロボロだった・・・  
ボムボツク「もう〜終わり〜?」

ハープ・ノート「はあはあ・・・っ!」  
フラツ

オックス・ファイア「ハープ・ノート!?」  
ドサツ

ハープ・ノートは倒れてしまった

ハープ・ノート「はあはあもう・・・力が・・・」

ボムボツク「あゝ1人〜倒れた〜!」

オックス・ファイア「(俺もそろそろ限界だ・・・くっ・・・)」

オックス・ファイアはフラフラだった・・・

ボムボツク「君も〜倒れるのお〜?」

オックス・ファイア「(俺は・・・どうして・・・こんなに・・・

・・・委員長・・・キザマロ・・・スバル・・・ミソラちゃん・・・

)」

フラツ・・・

ドサツ!

とうとうオックス・ファイアも倒れてしまった・・・

オックス・ファイア「(だめだ・・・もう・・・力が無い・・・結

局、俺は・・・)」

ハープ・ノート「はあはあ・・・くっ・・・あっ・・・」

オックス・ファイア「!(ハープ・ノート!?)」

ハープ・ノートは少しづつ立ち上がった・・・

ハープ・ノート「はあはあ・・・」

ハープ「ミソラ!もう無理よ、これ以上戦ったら・・・」

ハープ・ノート「私・・・倒れていられない・・・」

ハープ「・・・ミソラ?」

ハープ・ノート「はあはあ・・・だって・・・ロツクマンだって戦

ってるのに・・・私が倒れたら・・・なんか嫌だもん!」

オックス・ファイア「・・・(そうだ・・・俺も・・・)」

ゲグッ

オックス・ファイア「俺、諦めかけていた・・・でもロックマン  
はどんな危険な事でも立ち向かっていた・・・今度は・・・俺も！」

「  
そしてオックス・ファイアも立ち上がった

ボムボック「しつこいな〜でももう〜終わりに〜するよ〜」





ハーブ・ノート「はあはあ（ゴン太君・・・かっこよかったよ）」  
キーン

ミソラ「あっ・・・私も解けちゃった・・・」

ゴン太「・・・（俺・・・強くなったかな？・・・ロックマン後は頼んだぜ！）」

ミソラ「（ロックマン・・・頑張っで・・・）」

そして2人は倒れてしまった・・・

第163話 諦めない心(後書き)

次回・・・ロックマン達は？

## 第164話 回復！

ギャラクシー「こんな程度だったか・・・」

アシッド・エース「ぐっ・・・なんてヤツだ・・・」

ブライ「なんて防御だ・・・」

ギャラクシー「君達は強かった・・・でも・・・俺はそれ以上に強い！」

アシッド・エース「はあはあ・・・まだかロックマン！」

ロックマン「ごめんなさい・・・まだ・・・」

アシッド・エース「・・・そうか・・・でもなるべく急ぐんだ！」

ロックマン「はい！」

アシッド・エース「（しかし・・・俺はもう・・・限界に近い・・・どうする・・・）」

ブライ「・・・まだだ」

タツ

ブライは走ってギャラクシーせ向かった

ブライ「ブライナツクル！」

ギャラクシー「まだやるのか・・・だったら先にお前の方から終わらす！」

ブライ「はあああああ」

ブライはパンチを連続にした

ギャラクシー「効かないよ」

ブライ「!?!」

ドゴオン

ギャラクシーのパンチが腹に直撃した！

ブライ「・・・ツ・・・」

ブライは殴り飛ばされた！

そしておもいつきり地面に落とされた

ドオオン

ブライ「くっ……」  
アシッド・エース「ブライ！」  
ギャラクシー「ククク……少し楽しかったぜ、でも消えな」  
ロックマン「(大変だ、ブライが……)」  
ウォーロック「スバル……」  
ロックマン「……うん……」  
ギャラクシー「ギャラクシーキャノン！」

ドギユウウウウウウウウウウウ

ブライ「くっ……」  
ブライは起き上がるうとしたが……  
ブライ「!(立てない……)」  
アシッド・エース「ブライ!(くそっ間に合わない……)」  
ギャラクシー「消えてなくなれーっ!」  
ブライ「くっ……ッ!」

ドオオオオオオオオオオオ!

ギャラクシー「ハハハハハハ……!」  
アシッド・エース「あれは……」  
ブライ「……」  
ロックマン・R「ライオーガふう間に合った……」  
ブライ「……」  
ロックマン・R「大丈夫?」  
ブライ「……」  
アシッド・エース「へっ……素直じゃないな」  
ギャラクシー「……またライオーガか……面白い……」  
ウォーロック「スバル!」  
ロックマン・R「何とか回復も間に合ったし……勝負だギャラク



シー！」

ギャラクシー「いいだろやっつてやる！」

ロックマン・R「ウエーブバトル ライド オン！」

第164話 回復！（後書き）

とうとうロックマン復活！ロックマンはギャラクシーに勝てるのか？  
それとも・・・負けるのか？



ロックマン・R「うわあああああああ」

ドゴオオオオオオオオオ

ライオーガ「スバル！」

アシッド・エース「ロックマンでも無理なのか・・・？」

ギヤラクシー「ククク終わった！」

ガラツ

ロックマン・R「僕は・・・まだ・・・終わってない！」

ギヤラクシー「・・・クククまだ楽しめそうだな・・・」

ロックマン・R「僕は・・・絶対にダイヤモンド博士を助けるまで

は・・・負けないっ！」

ギヤラクシー「！・・・何故お前は、そんなに博士あいつを助けたがる！」

ロックマン・R「・・・助けたいから！それとどうしてそんなに博

士を・・・そして失敗あいつって・・・」

ギヤラクシー「・・・博士あいつは・・・俺の自由を奪あいつったんだ！そう俺

は・・・

「二重人格になっただんた・・・」

第165話 キャノンVSキャノン(後書き)

二重人格うう!?

それって・・・どうして?

次回ギャラクシーの過去の話!・・・かも

## 第166話 ギャラクシーの過去

ロックマン・Rライオーガに・・・二重人格？」

ライオーガ「二重人格ってたしか前にもあったな・・・それと同じか」

ギャラクシー「教えてやるう・・・博士あいつがやった罪を・・・」

それは・・・弓亜がダイヤパールの所にくる前・・・

ダイヤパールは2人を実験台にした・・・

1人は女性・・・アクエだった

そしてもう1人は男性・・・白木おし

しかし・・・実験中に事件が起きた・・・

ジジッ・・・ジッ

ダイヤパール「な、何っ!？」

白木「どうしたんですか?博士・・・」

ダイヤパール「とつぜんウイルスが・・・!」

ジジッ ジジジッ

ダイヤパール「2人とも今すぐ逃げて!」

アクエ「でも・・・」

ダイヤパール「早く!」

白木「分かりました!アクエ!」

アクエ「・・・うん」

そしてその場から逃げようとした2人だった・・・しかし間に合わなかった・・・

ダイヤパール「!」

アクエ「!」

白木「!？」

キイイイイイイイ

凄い光がアクエと白木を包む

そして・・・

光が消えた・・・すると・・・

ダイヤパール「2人とも大丈夫？」

しかし・・・そこには1人・・・アクエしか居なかった

ダイヤパール「あれ・・・？白木は？」

アクエ「えっ・・・知らない・・・」

そしてそれからしばらくして・・・2人は1人になってしまい・・・  
二重人格になつてしまった・・・

ロツクマン・R「失敗は・・・そのことなんだ・・・じゃー今は・・・  
白木さん？」

ギヤラクシー「そうだ・・・でも俺はそのせいで自由を奪われそし  
て外に出れる時は電波変換してる時だけ・・・」

ライオーガ「しかしそれは事件だつたんだろ？」

ギヤラクシー「・・・いいや事件でこんな事になるわけが無い・・・  
ダイヤパールは完璧な研究者だった、だから失敗する可能性なんて  
0に等しかった・・・それなのに失敗して・・・絶対にわざとだつ  
たんだ！」

「それは違うわ！」

ギヤラクシー「!？」

ロツクマン・R「あっ・・・ダイヤパール博士！」

ダイヤパール「・・・」

ギヤラクシー「なんでここに・・・」

## 第167話 失敗しない人なんて居ない!

ロックマン・R<sup>ライオガ</sup>「ダイヤパール博士・・・無事だったんですね!」

ダイヤパール「ええっ・・・そうよ、それとギヤラクシー・・・いや白木!」

ギヤラクシー「なんだ?」

ダイヤパール「あなたは間違っているわ!」

ギヤラクシー「俺のどこが間違っているんだ!」

ダイヤパール「・・・失敗しない人なんて居ない!」

ギヤラクシー「ふんっそんな事言っであの時の失敗はわざとだったんだろ!」

ダイヤパール「私はそんな事しないわ!」

ギヤラクシー「だったらなんで、あの時失敗したあ!」

ダイヤパール「それは・・・」

ギヤラクシー「ほら、やっぱりわざとなんだろ!」

ダイヤパール「違う!」

ギヤラクシー「・・・ちようどいいライオガとあんたを今ここで消す!」

ロックマン・R「ダイヤパール博士危ない!」

ダイヤパール「・・・あなた・・・まだのようね」

ロックマン・R「・・・え?」

ライオガ「どういう事だ?」

ダイヤパール「あなたはまだ「ライオガ」の力を使いこなしていない・・・」

ロックマン・R「で、でもちゃんとこの力コントロールしてるし・・・」

ダイヤパール「それはただ力をもらってるだけ・・・使いこなしているわけではない、それにただもらっているだけで、力はたった2・30%しかもらってるだけ・・・そんなんでコントロールしてるわ



けではないわ」

ロッキマン・R「じゃあどうやって使いこなせるんですか？」

ダイヤパール「それはあなたにしたいよ！」

ロッキマン・R「！（僕にしたい・・・）」

ギャラクシー「ライオガとともに消える！博士！」

キイイイイン

ギャラクシー「ギャラクシーキャノン！」

ドギユウウウウウウウウ

ロッキマン・R「ロックキャノン！」

ドオオオオオオオオオオ

グウオオオオオ

2人の攻撃は激しくぶつかりあった

ロッキマン・R「（やっぱり・・・強い・・・）」

ギャラクシー「ハハハ弱い！そのまま博士も消す！」

ロッキマン・R「（今負けたらダイヤパール博士も巻き込まれる・・・）」

・どうすれば・・・どうすれば・・・」

ドッキン ドッキン

ロッキマン・R「（僕は・・・負けたくない守りたいダイヤパール博士を！）」

ドッキン！

キイイイイイイイン

ロッキマン・Rから黄金の光が放った

ロッキマン・R「うをおおおおおおお」

ドオウ

ギヤラクシー「何っ力が・・・上がったと!？」

ロックマン・R「うをおおおおおお」

ギヤラクシー「俺が・・・おされているだ!？」

ロックマン・R「いけええええええええええ!！」

ドオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオツ!

!!

ギヤラクシー「ぐああああああああ」

ドオオオオオオオ!

ロックマン・Rはギヤラクシーの攻撃をやぶった!

第167話 失敗しない人なんて居ない！（後書き）

なんととうとうギャラクシーに攻撃をくらわせた！  
次回ギャラクシーは・・・？

第168話 10分の5の力

シユウウウウウ・・・

ロックマン・R「<sup>ライオガ</sup>やった！当たった・・・僕の攻撃が・・・」

ライオガ「（今のスバルの力・・・上がった・・・凄い力を感じた、まさかこれが<sup>ライオガ</sup>「俺」の本当の力・・・？）」

ガララツ・・・

ギヤラクシー「いてえ・・・まさか力でおまえに負けるとは・・・許せねえ・・・」

ダイヤパール「（凄い・・・なんて力だったの？でもこれはまだ、半分本当の力しか使っていない、もしこの力が100%になったら・・・終わるわよ・・・この世界・・・）」

ギヤラクシー「許せねえーーーーーっ！」  
ダツ

ギヤラクシーは走ってロックマン・Rに向かってる

ロックマン・R「！！！」

ギヤラクシー「ギヤラクシーキャノン！」

ロックマン・Rの目の前で撃とうとしていた

ロックマン・R「させない！」

ロックマン・Rはハンマーを出した

ギヤラクシー「なっ・・・」

ドンッ！

ロックマン・Rはギヤラクシーの技をとめた

ギヤラクシー「腕があ・・・ぐう・・・」

ロックマン・R「これでギヤラクシーキャノンは撃てないね・・・」

ギヤラクシー「くそっ・・・このガキイ」

ダイヤパール「白木・・・もうやめなさい！あなたは、ロックマンに勝てないわ！」

ギヤラクシー「・・・俺は・・・俺は・・・このままじゃ終わらん

！」

ロックマン・R「！」

ギヤラクシー「すべての魂よ！俺の中から出るお！」

ズウウウウウウウ

グググググ

ギヤラクシーはミスガメ・ハクアに戻った

ミスガメ・ハクア「はあはあ．．．白木．．．「あれ」をやる気ね．

．．．」

「そうだ．．．俺は「あれ」をやって博士．．．そしてライオーガ  
すべてこの町を沈める！」

ミスガメ・ハクア「．．．分かったわ．．．やるわ！」

ロックマン・R「あれ？戻ったよ前の姿に」

ミスガメ・ハクア「はあああああああああ」

するとたくさん魂が1つに固まっていた

「はまだだ！もつと魂を1つにしる！」

ミスガメ・ハクア「はあああああああああ」

グググググ

すると魂は1つの塊となりすごいでかくなった！

アシッド・エース「なんだ．．．あのでかさは！」

ライオーガ「あれは．．．やべえぞスバル！」

ロックマン・R「うん．．．分かってる．．．それになんかあの塊  
が黒くなってる」

ズズズズズ

ミスガメ・ハクア「くうう．．．もうだめ、これが限界の大きさよ  
！」

「じゅうぶんだ．．．アクエ！思いつきり地面にたたけえ！」

ミスガメ・ハクア「分かった！」

そして地面に投げた．．．すると

ズウウウウウウウ

グラグラ

アシッド・エース「うわっ……これは地面が揺れてる……」  
すると地面は沼みたいになってすこしずつアシッド・エースは沈んでゆく

ズズズ

アシッド・エース「くっ……なんなんだ！」

ライオーガ『おい！俺達も沈んでるぞ！』

ロックマン・R「本当だ！どうしよう」

そのころタカラノシティ全体は……

「うわっなんだ地面が揺れている！」

「うわああ沈むううう」

「助けてー！ー！ー」

町の全体が混乱状態になっていた

そして……

ライヤードール「あらら……こりゃ大変だ……まっ俺には関係ないけど……」

そしてライヤードールはどっかに行ってしまった

そして少しずつタカラノシティは沈んでいた……

第168話 10分の5の力(後書き)

まさかの大技をくりたせしたミズガメ・ハクア(ギャラクシー)！  
次回ロツクマン・Rの戦いはどうなるー！っ！？

## 第169話 覚悟

ズウウウウウウウウウン

ロックマン・R「<sup>ライオーガ</sup>うわっ．．．沈む．．．」

ライオーガ『しかもそう簡単に出れないな．．．』  
ズバアン

ロックマン・R「うわっ」  
ドサツ

ロックマン・R「イテテ．．．何するの．．．」

ブライ「はあはあ．．．俺はかりを作りたくない．．．」

ロックマン・R「かり．．．？あっ！あの時助けた．．．」

ブライ「早く行け！沈むぞ！」

ロックマン・R「ブライ．．．分かった！」

ロックマン・R「はがれきの上に乗った

ミズガメ・ハクア「はあはあはあ．．．あなたも．．．博士も．．．

おしまいよびつくり」

ロックマン・R「まだ終わらない！そしてこんな事やめるんだ！」

ミズガメ・ハクア「フフフ．．．止めたかったら魂を消すしかない

わ」

ロックマン・R「えっ．．．」

ミズガメ・ハクア「そう．．．人間の魂を．．．フフフ」

ロックマン・R「．．．どうしよう．．．」

ライオーガ『止めるには魂を消すか．．．しかしその魂は人間の魂・

．．．どうするか．．．』

ミズガメ・ハクア「フフフお前には覚悟がないな．．．覚悟がない

ヤツに何かを守る事など出来ない．．．」

ロックマン・R「覚悟．．．？」



ダイヤパール「ロックマン！早く決めないと町が！」

ズウウウウウウウウ

ロックマン・R「僕の・・・覚悟・・・」

ライオガ「スバル！」

ロックマン・R「僕の・・・覚悟は・・・」

ミズガメ・ハクア「？」

ロックマン・R「世界を守る事！そして・・・」

諦めない事！！」

ダイヤパール「よく言ったわ！さあ行きなさい！この町と人々を守るのよ！」

ロックマン・R「はい！」

そしてロックマン・Rは覚悟を決めた・・・強い覚悟を・・・

第169話 覚悟（後書き）

覚悟を決めたスバル！果たして町を救うのか？それとも魂を救うのか？

それとも・・・

## 第170話 黄金の輝き

ロックマン・R「<sup>ライオーガ</sup>とりあえずどうにかして魂を助けるしかないね」  
ライオーガ「しかし魂はどこに？」

ロックマン・R「・・・もしかしたら・・・言ってみよう！」

ライオーガ「どこにだ？」

ロックマン・R「いいから早く！」

ライオーガ「あ、ああ」

そのころ・・・

アシッド・エース「大丈夫か！ブライ！」

ブライ「・・・」

アシッド・エース「平気みたいだな・・・」

ズズズ

2人は少しずつ沈んでいる

ミズガメ・ハクア「はあはあ・・・やはりこの技を使うと体力を結構使うわ・・・はあはあでももうこの町も終わりよ・・・」

ダイヤパール「いいえ終わんないわ！この町は！だって・・・この町にロックマンがいるからよ！」

ミズガメ・ハクア「・・・博士・・・無駄ですよ・・・この技はこの町すべてを沈めるまで発動するのよ？それに私にはこの技は私にも止められない・・・だからライオーガに止められるわけがない」  
ダイヤパール「・・・違うわ・・・ロックマンだからこそ止められない！それにロックマンはこの世界を何回も守ったわ！この町も終わらない！この世界も終わらない！そして・・・宇宙だって終わらない！だってロックマンは・・・」

ロックマン・R「!、見つけた!」

ロックマン・Rは町の外に出ている

ライオীগ『にしてもまさか町まるごと囲んでるなんてな・・・』

ロックマン・R「・・・僕は・・・町も魂も助けるんだ!」

キイイイイ

ダイヤモンド「黄金の輝きをもっているんだから!」

キイイイイイイイイイイイ

ロックマン・R「この町を守る!」

キイイイイイイイイイイイ

ロックマン・R「うをおおおおおおおおおお

黄金の光は魂・・・そして町全体を包んだ

そして魂はばら撒けていった

さらに少しずつ町は元通りになっていった

ミズガメ・ハクア「嘘・・・なんでもとに戻っていくの?」

ダイヤモンド「言ったでしょ・・・」  
「ロックマンだからこそ止められる!」って・・・」

ミズガメ・ハクア「く、く、くそおおお

キイイイ

ミズガメ・ハクアはギャラクシーになった

ギャラクシー「この……くそやるおお！もうゆるさねえー！ー」

アシッド・エース「くっ……ブライをほっとくわけにもいかないし……」

ギャラクシー「まずは博士おまえを叩きのめしてやる！」

ダイヤパール「……」

ロックマン・R「させないよ」

ギャラクシー「……ライオーガ……よくもお……」

ライオーガ『スバル！もう終わらそうぜ、この戦い！』

ロックマン・R「うん！ギャラクシー！僕はお前を許さない！この町……人々を危険にさらして……僕は全力で倒す！皆の分まで！」

ギャラクシー「……面白い……」

第170話 黄金の輝き（後書き）

次回とうとう決着つくのか？

さらに次回！新章の名前発表！

お楽しみに

第171話 守りたい物の力(前書き)

今回はとうとう新章の名を発表します！  
発表は話のあとでします。

## 第171話 守りたい物の力

ロックマン・R「行くぞ！<sup>ライオガ</sup>ロックバスター！」  
デユン

ギヤラクシー「きかねえーよ……」  
ドオン！

ギヤラクシー「ぐああ……（ありえねえ……さっきまでのあいつの力じゃねえー……）」

ロックマン・R「うをおおおゴールデンハンマー！」

ロックマン・Rはハンマーで地面を叩いた

ドオオン！

ギヤラクシー「！（地面から何かが来る！）」

ギヤラクシーはその場から移動した

そしてさっきギヤラクシーが居た場所から雷が出てきた

バチイイイ

ロックマン・R「……」

ギヤラクシー「ククク残念だったなあライオガ！」

ロックマン・R「……ニヤ」

ドドドドドド

ギヤラクシーの下から音が聞こえてきた

ギヤラクシー「！（まさか……）」

そして地面から雷がまた出てきた

バチイイイイ

ギヤラクシーは雷を受けてしまった

ギヤラクシー「ぐああああああああ」

ロックマン・R「まだまだ！」

ダイヤパール「（これが10分の5の力……すごい……すごい……すごい……）」

ギヤラクシー「ぐあああああああつくそお、なんなんだこの力の



差はああさつきまでは、俺の方が力は高かったはずなのにいい」  
ロックマン・R「教えてあげるよ．．．僕には守りたい物がある．．  
・この町、町の人々、そしてこの世界、宇宙全部を守りたいんだ！  
・キミにはある？守りたい物．．．」  
バチイン

雷は消えた．．．そしてギヤラクシーは雷から開放された．．．  
ギヤラクシー「はあはあ守りたい物．．．そんなの俺にはねえ！俺  
はすべてを破壊してすべてを消す！」

ロックマン・R「．．．．．．」

ギヤラクシー「俺はそれだけだ！」

ロックマン・R「違う！人はだれでも守りたい物はあるさ！」

ギヤラクシー「うるせえー！ギヤラクシーキャノン」

ドギユウウウウウウウン

ドオオオン

ロックマン・Rはまともに受けた

ギヤラクシー「ハハハハ、ライオーガもこれで終わりだあー！  
っ！」

ザッザッザッ

ギヤラクシー「！？」

ロックマン・R「くっ．．．負けない！」

ロックマン・Rはハンマーを持った

ロックマン・R「キミは．．．間違ってる！ライオーガ クラッシュ雷鬼の一撃！」

ギヤラクシー「くそおおおおお」

ドゴオオオオオオオオオオオオオオオオ

ギヤラクシー「ぐああああああああああ（俺の．．．守りたい  
物．．．）」

ドゴオン

ギヤラクシーはぶっ飛ばされた  
ギヤラクシー「（俺が・・・守りたい物かあ・・・俺は・・・）」

ドサツ！

そして1時間後・・・

スバル「はあはあぜえぜえ・・・体じゅうが痛い・・・」  
ウオーロック「大丈夫か？」

スバル「だめかも・・・」

アシッド・エース「スバル！こいつで最期だ！ついでにコイツもつれてきた」

スバル「あつ・・・弓垂！」

弓垂「・・・」

長矢「・・・」

スバル「それに・・・弓垂のお兄さん？」

アシッド・エース「・・・終わっただな・・・」

スバル「うん・・・」

そしてスバル達は病院に入院した

ゴン太とミソラとスバルはすぐに退院した。

そして弓垂とドラグ・・・そして長矢は一週間の入院でした。

そして・・・アクエは二週間の入院でした。

ついでに魂は、すべて元の場所に戻っていった・・・

こうしてギャラクシーとの戦いは幕を閉じたのであった・・・

## 第171話 守りたい物の力（後書き）

今回はとうとうライオーガの章はクライマックスです！（本編の）

そして新章の名は・・・「ドラグーンの章」です！

（たぶんほとんどの人は想像したとおりだと思います）  
ついでに次回はおまけもあります。

第172話 伝えたい言葉(前書き)

とうとう(本編)での「ライオーガの章」は最期です！  
しかも今回はおまけもあります！  
お楽しみに！

## 第172話 伝えたい言葉

ここはコダマタウンの隣の町にある病院である・・・  
205号室

ドラグとライオがいる病室である

ドラグ「・・・ねえライオ・・・」

ライオ「・・・」

ドラグ「ねえてばっ！」

ライオ「・・・なんだよチビ！」

ドラグ「あのね・・・ブラック・ナイトからさあ伝えてって言われただけど・・・」

ライオ「！、ブラック・ナイトから・・・？」

ドラグ「うん・・・言うよ？」「ライオ元気か？俺は地獄に落ちてしまった、けどな俺はあのときホツとしたライオは強くなったしな・・・けど強くなったのは「力」ではない・・・「心」だ！お前はもう俺が居なくても大丈夫だ・・・それと最期に伝えたい事がある・・・  
・・・ありがとう」・・・以上だよ」

ライオは泣いていた

ドラグ「・・・ライオ・・・」

ライオ「うつつ・・・うわああああああん」

ライオは涙を流し大声で泣いていた・・・

そして307号室では・・・

弓垂「・・・」

長矢「・・・」弓垂「・・・すまない・・・」

弓亜「なんだよ．．．急に．．．」

長矢「俺は操られていたみたいだな．．．そしてお前も傷つけてしまったようだな．．．」

弓亜「．．．気にすんなよそんな事．．．兄貴は悪くない．．．それにもう終わった事だ．．．」

長矢「．．．弓亜．．．」

弓亜「．．．それとさあ．．．」

長矢「なんだ？」

弓亜「．．．今は無理だけど．．．またさあ．．．いつ．．．一緒に住もうぜ．．．兄弟一緒に．．．」

長矢「（弓亜．．．）ああっ！そうだな！」

弓亜と長矢はもとの兄弟関係に戻った．．．

そして最期．．．501号室

アクエ「．．．．．」

ダイヤパール「アクエ．．．こつち向きなさい．．．」

アクエ「私の事はほつといて！博士．．．」

ダイヤパール「．．．ごめんなさい．．．私の実験のせいで二重人格になつたんだよね．．．」

アクエ「．．．謝つてすむような事じゃないわよ．．．」

ダイヤパール「．．．私．．．今研究してるのよ．．．あなた達は元に戻すことの研究を．．．」

アクエ「．．．どうせまた．．．失敗するんでしょ？無駄よそんな研究．．．」

ダイヤパール「．．．ならもし失敗したら．．．私死ぬわ．．．」  
アクエ「！」

ダイヤパール「お腹を切つて．．．死んでみせるわ！けれど．．．」

私を信じて・・・お願い・・・」

ダイヤパールは涙を流しながら言った・・・

アクエ「・・・」

「なあ・・・アクエ・・・」

アクエ「・・・何よ」

「俺・・・考えたんだ・・・自分の守りたい物・・・」

アクエ「守りたい物・・・？」

「ああっ・・・俺の守りたい物・・・それは・・・お前だ！」

アクエ「！」

「・・・だから俺は博士をもう一回信じようって思っている、そして元に戻ったら・・・アクエ・・・」

アクエ「・・・分かったわ・・・信じる・・・けど失敗しないでよね、博士」

ダイヤパール「・・・ええっ・・・分かったわ」

そして・・・そのころスバル達は・・・

スバル「イテテ・・・まだ痛い所あるなあ・・・」

ゴン太「俺は大丈夫だぜえー」

ミソラ「私も！」

スバル「すごいなあ2人とも・・・」

ウォーロック「スバルはもうちよつと体きたえないとな！」

スバル「はあああ・・・そうかなあ」

ゴン太「よし！もうあの戦いは終わったところだし牛丼たべに行こうぜ！」

委員長「私達の事わすれてませんか？」

キザマロ「そうですね！」

スバル「ハハハ・・・ごめん」

ウォーロック「行こうぜスバル！」

スバル「うん！」



そして平和に戻ったこの世界・・・しかし・・・

「????」・・・やるなロックマン・・・まさか今回のも破られるとは・・・だがあと少しで完成する・・・本当の恐怖が・・・」

「ライオーガの章」 完

おまけ

「そいえば委員長とキザマロはタカラノシティでどこで捕まっていたの??」

委員長「んっ・・・どこどこかしら」

キザマロ「ふあゝ・・・あれ?委員長なんでここに?」

委員長「知らないわよ!」

そしてしばらくして・・・

ズウウウウン

委員長「きゃあああ沈みますわー!」

キザマロ「・・・」とつくに首まで沈んでいた

そして・・・

委員長「ぜえぜえいったい何が起きているのよ・・・」

キザマロ「あっ・・・窓の向こうにロックマンが居ます!」

委員長「えっ!」

キザマロ「なんか金ぴかにひかっ・・・」

ドカッ

キザマロ「ぎゃふん！」

委員長「キャ~~~~~ロックマン様~~~~金のロックマン様も  
かっこいい~~~~キャ~~~~」

そしてそのあと助けられたけど・・・

なんと委員長が捕まってたところは・・・

お化け屋でした

その事に気づかない委員長とキザマロって・・・なんかある意味す  
ごい・・・

おまけ終わり

第172話 伝えたい言葉（後書き）

次回は久しぶりの番外編！  
お楽しみに！

番外編 本編でのライオーガの章終わったぞスペシャル(前書き)

今回は番外編!

番外編 本編でのライオールの章終わったぞスペシャル

作者「どーもーっ！レッドスターです」

スバル「わっ作者だ！」

ウォーロック「作者は何しに来たんだ？」

作者「えっ？普通に番外編だけど？」

スバル「（作者が番外編に出るのって・・・まあ作者は何でもありか・・・）」

ウォーロック「ところで今回は何するんだ？」

作者「それはね

・・・何しよう・・・」

スバル&ウォーロック「（おいおい・・・）」

作者「まっ気楽にやるうよ」

スバル「でもせっかくの番外編だし・・・何かしたいよね」

作者「気にしなーい気にしなーい」

ウォーロック「帰れ！（怒）」

スバル「・・・じゃあさキャラ紹介すれば？」

作者「お〜いいね！やっぱりあの暴れん坊のウィザードバカとは違うねえ」

ウォーロック「誰が暴れん坊のウィザードバカだって・・・？」

スバル「それではとりあえずキャラクター紹介をします！」

ウォーロック「ビーストスイングー！」

作者「ぎゃあああああああ」

（キャラ紹介） 主人公とその愉快的仲間達

「星河スバル」

コダマ小学校の6-A組にいる少年星河スバル（主人公）

この少年はウィザードの「ウォーロック」と合体し青きヒーロー「ロックマン」に変身するのだ！  
そして3・4回もこの世界を救った少年でもある・・・  
性格は絆を大切にしている真面目でやさしい人である

「ウォーロック」

ウォーロックは「スバル」のウィザードである

バトルがすきでよく1人でウイルスと戦っている噂とか・・・？

そして「スバル」と合体し青きヒーローとなさせる

さらにウォーロックは衝撃の事実を聞いた・・・それは・・・

ウォーロックは「DM星人」が作り上げた兵器「ライオーガ」である

「ロックマン」

ロックマンは「スバル」と「ウォーロック」が合体した姿である

ロックマンは3・4回世界を救い世界のヒーローとなっていた

そしてロックマンの主な技はロックバスターとかです

「白金ルナ（委員長）」

この少女は大金持ちの人である

さらに「スバル」達の委員長でもあり

性格は・・・えらそうな性格・・・

しかし好きな物は「ロックマン」様である

ウィザードはモードである

「最小院キザマロ」

委員長についてくるチビである

クラスでも背ではトップ！（一番背が小さい）

そして頭もいいけどいいところはそこしかない  
しかも泳げない

ウィザードはペディア

「牛島ゴン太」

牛井大好きでかい少年である

委員長によくついていく少年です

そして相棒のウィザード「オックス」と合体しオックス・ファイア  
となる

「オックス」

とにかく熱い！燃える！力は強い！でも頭が・・・

「オックス・ファイア」

「ゴン太」と「オックス」が合体した姿

力は強い！

でもやっぱり頭が・・・

「響ミソラ」

人気アイドル響ミソラである

ウィザードの「ハーブ」もいる

「スバル」の最初のブラザーだ！

「ハーブ」

「ミソラ」のウィザードである

よくウォーロックとけんか？する

「ハーブ・ノート」

「ミソラ」と「ハーブ」の合体した姿である

音符で攻撃するぞ！

しかし力とかはあんまり強くない・・・

今回はここまで！



**番外編 本編でのライオーガの章終わったぞスペシャル(後書き)**

次回も番外編!

キャラ紹介の続きをします!

お楽しみに!

**番外編 キャラ紹介の続きだあ！（前書き）**

今回は前回のキャラ紹介の続きだぜえ

## 番外編 キャラ紹介の続きだあ！

「暁シドウ」

暁は今サテラポリス遊撃隊隊長

けれど暁は昔ディーラーの幹部だった

それとウィザードの「アシッド」

暁は「アシッド」と合体することで

「アシッド・エース」になれる

ついでに暁の好物はたった10円のうまい棒！

「アシッド」

暁のウィザードだ！

人間の電波変換するために作られたウィザードだ！

ウォーロックとは・・・まあボチボチである

「アシッド・エース」

「暁」と「アシッド」が合体した姿である

「ヨイリー博士」

かつてデータになった「委員長」を助けた天才のおばあさんである

しかもよく名前を呼ぶ時「ちゃん」づけである

「ソロ」

ムーの生き残りである

今はWAXAの手伝いをほんのちょっとしてるようだ・・・（戦いの）

「ラプラス」

・・・ラプラスは無口で謎ばかりのウィザードだ

ブライの武器になる

「ブライ」

孤高の戦士だ！

〈オリジナルキャラ紹介〉

「ドラグ」

とにかく言葉使いは子供だが天才  
そして怒ると怖い

ウィザードは「バード」

「バード」

DM星人に作られたウィザード

兵器であるそして正体は「ドラグーン」

「フェニックス」

ドラグとバードが合体した姿

羽とかを剣にできる

「弓亜」

初登場の時と今とはまったくキャラが違っています・・・  
弓亜はウィザードなしで電波変換できる

「アーチェリー・R」  
アキミ

弓亜の電波変換した姿

弓で攻撃する

しかし10分間しか変身できない

「ライオ」

前はウォーロックを始末しようとしていた少年  
スバルと同じ教室である  
そしてウィザードの「ブラック・ナイト」を失い  
今は電波変換は不可能である

「ダイヤパール」  
牛先輩さんが送ってくれたキャラクターです  
ダイヤパールの性格はえらそう  
委員長2号だ！

「ライヤードール」  
Mk・SR さんが送ってくれたキャラクターです  
ライヤードールはワラニンギョウを使い相手をだます  
変身してる奴は不明・・・誰なんだ？

「黄金のヨロイ・ロックマン・ライオーガ」  
黄金の体のヨロイ・・・  
黄金のハンマー・・・  
防御が高い！  
しかしまだ力を完全に使いこなしていない・・・

「黄金のツバサ・フェニックス・ドラグーン」  
黄金の羽のツバサ・・・  
黄金の剣・・・  
スピードが高い！

「アーチェリー・GV」  
無限に変身できるが体に負担がかかる  
力を2倍になる

「花野シオリ」

スバルの記憶の中にいたなぞの少女

「ドラグーンの章」ではこの少女が鍵になるかも……？

キャラ紹介 終了

スバル「ふう〜終わった〜」

ウォーロック「こつちも終わったぜ！」

作者「ぎ……ギブ……ガクツ」

スバル「……（作者……カツコ悪い……）」

ウォーロック「そいえばさつき作者をいたぶってたら作者がこんな事言つてたぞ」

スバル「何？」

ウォーロック「次回も番外編だ！」って」

スバル「ええー！ー次回もやるのぉー！ー！？」

ウォーロック「そうみたいだな」

作者「次回も番外編だぁー！ーっ！」

スバル「復活早ッ」

ウォーロック「ピーススイングー！ーっ！」

ズバツ

作者「ぎゃふん」

スバル「……では次回また会おうね……ハハハ……」

作者「ウォーロックさま……もうお許しをおお〜〜」

ウォーロック「（はまりそう）」

**番外編 キャラ紹介の続きだぁ！（後書き）**

・・・と言うわけで次回も番外編です。  
お楽しみに！

番外編 ドラゲーンの章が近いぞ編

ここはコダマタウンである

そしてスバル達は平和な日々を送っていた

そんなある日

スバル達は展望台に向かう途中だったが・・・

スバル「平和だね・・・」

ウォーロツク「平和だな・・・」

????「平和ですね！」

スバル&ウォーロツク「はい？」

水木「おっと私はロツクマンをインタビューしに来た水木みづきです」

スバル「僕に・・・」

ウォーロツク「いんたびゅー？」

水木「それではさっそくインタビューをしたいと思います！」

ウォーロツク「スバル、いんたびゅーって？」

スバル「いいかたが違うけど・・・インタビューはねとにかく・・・

えーと・・・人が質問するのを答えればいいんじゃないかな？ハ

ハハ・・・（僕もあんまり知らないけど）」

水木「それではまず最初の質問はタカラノシテイの事なのですが・・・

・タカラノシテイを救ったのはあなたですか？」

スバル「えっ？ま・・・まあそうです・・・」

水木「それではまだ質問は続きますよ」それでは次は、タカラノシ

テイを救った時に普段は青なのに金色になっていたのは本当ですか

？」

スバル「まあ・・・はい」

水木「でもなんで金色になっていたのですか？」

スバル「いや・・・それは・・・その・・・いつもとは違う事が

したかったから・・・かな？」

水木「それでは次の質問です！話は変わりますが・・・好きな人は





ドゥン

スバル「イテテ・・・」

水木「キュ〜」

水木は気絶した

ウォーロツク「やったぜ・・・ガクッ」

オツクス「これでやつと牛井が食べれるぜー！ーっ！」

そしてこの日のインタビューは一週間後に流れただが最後の質問は流れなかった・・・まあそりゃあんな事件が起きたからね・・・

**番外編 ドラゲーンの章が近いぞ編（後書き）**

次回とうとう本編に突入！？

次回「ドラゲーンの章」！

お楽しみに

## ドラゲーン プロローグ(前書き)

今回は「ドラゲーンの章」のプロローグ！  
お楽しみください・・・

## ドラゲーン プロローグ

ここは謎の空間そして謎の空間から大きい爆発音が響き渡る

ドゴオオオオオオオオオオオ

ドギユユユユユユユユユ

そして戦っているのは・・・

ロックマン・R「<sup>ライオーガ</sup>うおおおおおおおおお

フェニックス・D「<sup>ドラゲーン</sup>キシャーリーーッ！」

ドゴオオオオ

2人は激しくぶつかり合う

ロックマン・R「くっ・・・目を覚ますんだ！ドラゲ君！」

フェニックス・D「キシャアアアアアアアアアア」

ロックマン・R「ドラゲ君・・・どうして・・・」

ライオーガ「やはり完全に暴走してやがる・・・」

フェニックス・D「キシャーリーー」

ロックマン・R「！」

フェニックス・Dはロックマン・Rを襲い掛かった

ロックマン・R「（このままじゃ・・・僕が・・・やられる）」

フェニックス・Dは炎の剣でロックマン・Rをきろうとしていた

ロックマン・R「（やるしかない・・・）ロックバスター！」

フェニックス・D「キシャーリーー」



## ドラゲーン プロローグ（後書き）

次回からは、普通に戻ります！

第173話 平和な日々(前書き)

さて「ドラグーンの章」！  
始まりました！

「ドラグーンの章」もよろしく！



## 第173話 平和な日々

ここはコダマタウンこの町に星河スバルという少年がいる・・・  
星河スバルはコダマ小学校6年生である  
そして今コダマ小学校では楽しい楽しい夏休みなのである

星河家では・・・

『お昼のニュースです。』

それでは最初のニュースです！

さいきんとある町ではノラウィザードが増えています・・・  
それではレジェントマスター・シンさんノラウィザードの事を教えてください  
『』

『OK！ノラウィザードとは一言で言えば捨てられたウィザードの事です』

『でもなんでウィザードを捨てるんでしょうか？』

『はいそれは、最近新しいウィザード「バトル」ができるウィザードが最近発売されてからノラウィザードが増えていますね』

『でも前のウィザードも戦えますよね？』

『そうなんですが前のウィザードはバトルのために作られたためではありません、でも今回の新ウィザードは最近強ウィルスが増えてきていますからそのために作られました』

『あとほかにも教えてほしい事があります・・・ノラウィザードが最近事件を起こしていますそのウィザードは暴走していますが・・・なんで暴走しますのでしょうか？』

『それはウィザードにも普通の人間のように意志をもっているのですなので悲しい時は悲しい楽しい時は楽しいしかし暴走するのはノラウィザードの10体分の1体だけが暴走しますそして暴走する原因は突然捨てられることその事によってウィザードは暴走してしまうことがあるのです』

『そうなんですか』

『テレビの前の皆はウィザードを大切にね！それでは！イツツ、レ  
ジエント！』

『ありがとうございます』

スバル「ノラウィザードかあ・・・」

ウォーロック『世の中ぶっそうになったなあ』

スバル「にしても今日から夏休みだね・・・のんびりでき・・・」

茜「スバルー？買い物行ってきたー」

スバル「・・・はい」

そして数時間後・・・

ガチャ

スバル「行ってきたよ・・・」

茜「ありがとう、あとさっきドラグ君がここに来たわよ」

スバル「えっ・・・ドラグ君が？」

茜「ええっ確か・・・コダマ小学校の前で待ってるって」

スバル「分かった！」

そしてスバルはコダマ小学校に来た

ゴン太「おっスバルが来た！」

委員長「遅いわよ！」

キザマロ「委員長を待たせるとは・・・まだまだですねスバル君・・・

」

ドラグ「スバルさん！」

スバルは皆の所についた

スバル「皆・・・なんで？」

ドラグ「皆でWAXAに行こうよ！」

スバル「えっ、うん分かった」

そのころWAXAでは・・・

暁「また事件ですか？」

ヨイリー「そうみたいねえ」

暁「（今回もノラウィザードの暴走・・・多すぎる・・・）」

ライオ「暁さんどうしたんです？」

暁「ライオか・・・またあの事件だ」

ライオ「またか・・・」

暁「とりあえず行ってきます」

ライオ「・・・（俺も電波変換できれば・・・）」

そのころ

スバル「そいえば久しぶりだねWAXA行くの」

ウォーロック「そうだな・・・」

委員長「そろそろつくわ」

ドラグ「赤兄にあえる・・・」

バード「やっぱりそのためにかあ・・・」

スバル「ライオ君とか元気かなあ？」

???1「ロツクマン・・・平和ボケしてんなあ」

???2「クスクスそれと「ドラグーン」の子もいるわ」

???3「はあ・・・めんどくさい・・・見張るのめんどくさい・・・」

???1「とにかく俺は「ライオーガ」だ！」

???2「じゃあ私も「ライオーガ」で」

???3「えええええ僕だけ「ドラグーン」！？・・・めんどくさいなあ・・・宇宙に行つて1人ののんびり・・・ぶつぶつぶつぶつぶつぶ・・・」

???2「ぶつぶつ言わないの！」

???3「でもさあめんどくさいしさあ」

???1「とにかく俺達はやんなくちゃなんねえー「ライオーガ」と「ドラグーン」の力を100%にしないと・・・」

???2「それとあのDM星人のボスギヤラクシーだったけ？ミズガメ・ハクアだったけ？・・・まあどつちでもいいわ・・・そのボスの部下がまた動き始めたつて噂聞いたわ」

???1「ちようどいい・・・ロツクマンはそいつらと戦い「ライオーガ」の力を100%になれば好都合だから・・・」

スバル「・・・！」

ウォーロツク「スバル？」

スバル「なんか誰かに見られてた気が・・・きのうせいかな？」

ウォーロック『さあな』  
スバル「.....」

第173話 平和な日々（後書き）

謎の3人組み・・・

敵？見方？どっちだ？

今後の展開によろしく！

## 第174話 ノラウイザード

スバル達はWAXAワクサについた

ゴン太「やつとついたぜー」

キザマロ「久しぶりですね」

ドラグ「赤兄に会えるー！」

委員長「あら？スバル君どうしたの？平気？」

スバル「いや・・・平気大丈夫だよ・・・」

ドラグ「よし中に入って赤兄に会うぞー」

バード「・・・」

そしてWAXAの中に入ったがしかし・・・

ドラグ「えー！ーっ、赤兄いないの？」

ヨイリー「さつき事件で行ったわ」

スバル「事件って？」

ヨイリー「ノラウイザードが暴走して町を破壊してるのよ」

スバル「ノラウイザード・・・」

ウォーロツク「さつきテレビでやってたな」

スバル「ロツク行こう！ヨイリー博士！その事件の場所って？」

ヨイリー「マキノタウンよ」

スバル「マキノタウン・・・」

キザマロ「それって・・・たしか幻のバームクーヘンが売ってる場

所・・・」

ゴン太「バームクーヘン・・・幻の・・・」

ゴン太の目から炎が出た

そして

ゴン太「スバル！行くぞー！ー！ーっ！」

スバル「うん！」

キザマロ「僕は委員長とここでまっています」

委員長「早く帰ってきなさい！」  
スバル「わかつてるって」  
そしてスバルとゴン太そしてドラグはマキノタウンに向かった

そのころマキノタウンでは・・・

アシッド・エース「本当にめんどくさいな・・・ノラウィザードは  
！」

ノラウィザード『ガガガガーーーッ！』

アシッド・エース「よし終わらすか！」

アシッド『シドウ！もう一体います！』

アシッド・エース「何っ聞いてないぞ！」

???『どいつもこいつも・・・』

ノラウィザード『ガガガガーーーッ』

ノラウィザードはアシッド・エースを襲った

そしてそのまま攻撃をした

ドカッ

アシッド・エース「くっ・・・（ウィザードのなにこんなに力が  
強いなんて・・・）」

???『お前もか・・・お前も・・・』

アシッド・エースの後ろから声がした

アシッド・エース「何っ後ろ！？（気配がしなかった・・・）」

???『お前も・・・俺達をいじめるのか！』

アシッド・エース「！」

アシッド・エースは突然動かなくなった

アシッド『どうしましたシドウ！？』

アシッド・エース「（なんだ・・・この寒い感じは・・・？）」

???『お前も「あの男と一緒になのか」！』

グオオオオ

アシッド・エース「（力が・・・入らない・・・）」



そしてアシッド・エースはついに変身が解けてしまった  
キイン

暁「はあ・・・はあ・・・」

アシッド「(おかしい・・・シドウがやられるなんて)」

「???」・・・なんで・・・なんで・・・俺達ばかりがこんな  
目に・・・」

そして謎のノラウイザードはどっか行ってしまったが、ノラウイザ  
ードはまだ暴走していた

暁「(いったい・・・あのノラウイザードは何物なんだ・・・)」

するとノラウイザードが少しずつ暁に近づいていた・・・

アシッド「(絶体絶命ですね・・・)」

第174話 ノラウィザード(後書き)

次回、暁の運命とは!?

## 第175話 間に合ったロックマン!

アシッド『起きてください、シドウ』

暁『すまん……無理そう』

アシッド『この状態では、いくらノラウィザードでもやられてしま  
う……』

ノラウィザード『ガガガガーッ!』

暁『くっ……』

デユン!

ノラウィザードは攻撃を受けた!

ノラウィザード『グガア……』

アシッド『……これは?』

ロックマン『暁さん!』

暁『ロックマン!?!』

ウォーロック『だらしねーなあんなウィザードごときに』

暁『ハハハ……』

ロックマン『暁さんあれがノラウィザード?』

暁『そうだ……はあはあ』

アシッド『シドウ説明はやりませう』

暁『頼んだ……』

アシッド『ロックマン達にやってほしいノラウィザードを倒してほ  
しい……しかしデリートしてはだめだ、ノラウィザードの機能を  
停止してほしいそれだけです』

ウォーロック『停止か……やるか』

ロックマン『うん!』

????1「……まずは見せてもらおうか……実力を……」  
????2「楽しみ」  
????3「僕もか……めんどくさいな……」

ロックマンは……

ロックマン「停止か……でもどうやって？」

アシッド「ノラウィザードの頭を狙ってください、でも加減をしてください」

ロックマン「難しい……でもやないと！」

ノラウィザード「ガガガガ……ッ！」

ロックマン「(ウィザードの頭……) ロックバスター！」

デューン！

ドオン

ノラウィザード「ガ……ガガ……ガ……ガ……」

プシュー

ノラウィザードは止まった

ロックマン「……(難しい……)」

アシッド「ギリギリでしたね……あと少し力を強めたら完全にあのノラウィザードはデリートしてたでしょう……」

ロックマン「……(曉さんって……いつもこんな難しい事してたんだ……すごい)」

「????1「やはりまだ力のコントロールをマスターしてないな」  
「????2「あのままじゃ「ライオーガ」の力もまだコントロールで  
きなさそうね」  
「????3「ZZZZZZ……」  
「????1「ロックマン……まだ弱いな……」  
「????2「そうね……クスクス」

「ロックマン」!

「ウォーロック」どうしたスバル?」

「ロックマン」まただ……誰かに見られてるような気がした……」

「ウォーロック」またか?もしかしてお前のファンかもな」

「ロックマン」えっ!?そんなの無いって!」

「ウォーロック」ハハハハッ!」

「アシッド」……とりあえずWAXAワクサに戻りましょう」

すると……

「ドラグ」あつ赤兄!」

「ゴン太」スバルこんな所に居たのか……モグモグ……スバルも  
くうか?バームクーヘン?」

「ロックマンは変身をといた

キーン

「スバル」いや……まあ貰うよ……」

「ドラグ」大丈夫?」

「暁」ああ……平気だよ……はあはあ」

「ゴン太」じゃっさっさと帰ろうぜ!キザマロと委員長が待ってるか  
らさ!」

「スバル」モグモグ、うん」

スバル達はWAXAに帰った暁はしばらくベットで休んだのであつた・・・

あとアシッドは謎のノラウィザードの事を皆に話したのであつたそしてスバル達はその日もう時間が遅かったので家に帰っていった

その夜

スバルの部屋では・・・

スバル「暁さんを倒したノラウィザードって何者なんだろう？」

ウォーロック「さあな、もしかして俺みたいに宇宙人だったりしてな」

スバル「・・・うーん・・・」

ウォーロック「（無視された!?!）」

スバル「（とりあえず明日もWAXAに行ってみようかな・・・）」  
するとスバルの部屋のドアから声がした・・・茜の声だ・・・

茜「スバルー！早く寝ちやいなさい！」

スバル「はい！」

ウォーロック「俺も寝るか」

スバル「お休みロック」

ウォーロック「ああっ」

スバル「・・・」

第175話 間に合ったロックマン！（後書き）

次回もお楽しみに！

**番外編 ハロウィン祭り！（前書き）**

早いな・・・番外編やるの・・・それと今回はハロウィン番外編！

（なんかやりたかったからね・・・）

では見てください



## 番外編 ハロウィン祭り！

10月31日その日はハロウインの日……（ついでに本編では夏です！番外編ではあんまり季節の事を気にしないでください）ハロウインといえば……カボチャの被り物をかぶり怖そうなカッコをしたりそして「トリック オア トリート」とか言ったりしますね……そしてコダマタウンに2年に一回……小さな大会があつた！

それは

ハロウイン大会！！

ペディア『始めました！ハロウイン大会！今回の競技は3個！それでは参加する人達はこの人達です！』

スバル・委員長・ミソラ・ゴン太・キザマロ・ドラグ・弓壺

ペディア『このメンバーで行きます！もちろん優勝しましたら賞品があります皆さん頑張ってください！』

レジェントマスター・シン「皆かんばってね！イツツ、レジェント……！！！」

ペディア『まずは第1の競技は……カボチャ割りです！』

スバル「このカボチャ……割るの？」

ウォーロック『俺に任せろ！』

ペディア『あとウィザードは参加できませんのでご注意ください』

ウォーロック『……』

スバル「……僕頑張るよ」

ミソラ「私の力を見せるわよ！」

ゴン太「割るのなら簡単簡単！」

キザマロ「勝てる気しないです……」

ドラグ「・・・フフフ・・・」

弓垂「俺に出来ない事なんてない！」

ペディア「では・・・カボチャ割り・・・はじめてください！」

そして皆の目の前にカボチャが現れた

スバル「・・・えい！」

スバルはカボチャを叩いた・・・が

スバル「・・・いたい・・・」

ゴン太「簡単だぜえ」

ミソラ「」

ドラグ「ドラグパーンチ」

弓垂「・・・こりや無理だな・・・」

委員長とキザマロはもう略します・・・

ペディア「それでは結果をいいます・・・」

・スバル2個

・ゴン太11個

・ミソラ3個

・ドラグ2個

・委員長1個

・キザマロ0個

・弓垂0個

ペディア「以上です」

スバル「（ミソラちゃんに負けた・・・）」

キザマロ「ゴン太君すごい！」

ペディア「では次はカボチャのかぶり物作りです！始めてください」

スバル「ここをくりぬいて・・・ああっ割れる！」

ゴン太「・・・」

グシャ

ゴン太「……………」

委員長「これなら平気……………」  
ピシッ

委員長「……………じゃないわね」

キザマロ「……………出来た！」

スバル「早い！」

ミソラ「私も」

スバル「すごい……………」

ドラグ「僕もー」

弓垂「……………これも無理だな」

弓垂は一回も手をつけていなかった

そして……………

ペディア「はい終了です」

スバル「出来た……………」

ペディア「では最期の競技です！」

スバル「……………とうとう最期だ……………」

ペディア「次は……………カボチャ大食い対決！」

ミソラ「やった」

ゴン太「……………」

ペディア「では始めてください！」

スバル「（これはゴン太の勝ち……………ん？）」

ゴン太は一口もしていなかった

ゴン太「……………」

ミソラ「おいしい」

弓垂「くそっ多い……………しかし食べないと男がくさるぜえ！」

ドラグ「モグモグモグ」

キザマロ「もう……………だめです……………」

委員長「……………あきました……………」

そして最期の競技が終わった……………

ペディア『それでは・・・優勝した人を発表したいと思いますが・・・  
まずは2〜5位の発表します!』

2位は・・・ミソラ

ミソラ「おいしい・・・」

3位は・・・ドラグ

ドラグ「わーい」

4位は・・・スバル

スバル「トホホ・・・」

5位は・・・委員長

委員長「嘘っ・・・私が5位?」

6位は・・・キザマロ

キザマロ「よかった・・・ビリじゃないです・・・」

ペディア「それでは1位とビリの発表です!」

まずは・・・ビリは・・・

弓垂

弓垂「オレがビリーっ!?・・・嘘だ・・・俺はみとめない  
いい」

そして1位・・・

ゴン太・・・

ゴン太「やったぜえーっ」

ペディア『それでは優勝賞品をどうぞ!』

ゴン太「やったぜ!」

ペディア『カボチャ1年分!』

ゴン太「・・・へ?」

その日ゴン太は何も食べなかった・・・そしてその理由をオックス

に聞いてみるとゴン太は・・・

カボチャが嫌いなそうだ・・・

番外編 ハロウィン祭り！（後書き）

あと俺もカボチャ嫌いです・・・とくに味が・・・うつつ想像するだけで・・・

第176話 協力する(前書き)

なんか最近番外編多いつスね・・・

## 第176話 協力する

次の日スバルはドラグ達を連れてWAXAワックスに来た・・・  
スバル「暁さん大丈夫？」

暁「いや・・・無理だまだ動けないしな」

スバル「暁さんが治るまで僕がやりますノラウィザードを」

ドラグ「僕もー」

ゴン太「俺も！」

ライオ「あの・・・俺も行きたいんだけど・・・」

暁「ライオはだめだ・・・たしかにウィザードなら止められるが・・・暴走したウィザードを電波変換しないで止めようとすると・・・危険だ」

ライオ「・・・」

ヨイリー「スバルちゃん大変よ！」

スバル「え？」

ヨイリー「ノラウィザードが現れたわ！」

スバル「分かりました・・・場所は？」

ヨイリー「タカラノシティよ」

スバル「分かりました！ドラグ、ゴン太行こう！」

ヨイリー「でもノラウィザードの数が・・・三体よ」

ゴン太「やってやるぜー」

ドラグ「赤兄の分も頑張る！」

暁「頑張れよ」

そしてスバル達はタカラノシティに向かった

ドオンドオオン

激しく何かにぶつかり合っていた

スバル「これは・・・」



ゴン太「建物が壊れてるぜ」  
ドラグ「町を壊すなんて許さない！」  
するとスバル達の後ろから何かが近づいていた・・・  
ウォーロック「・・・スバル後ろから何かが来る！」  
スバル「えっ？」  
スバルは後ろを向いた  
そこにはノラウィザードがいた  
ノラウィザード「ガガガガーンッ！」  
スバル「わっ」  
ノラウィザードはスバルを襲おうとした  
ウォーロック「うおーりゃー」  
ガッ  
ウォーロックはノラウィザードを止めた  
ウォーロック「スバル少し離れてろ！」  
スバル「うん」  
ウォーロック「ドリヤアアア」  
ウォーロックはノラウィザードをなげ飛ばした  
ウォーロック「スバル電波変換だ！」  
スバル「うん！トランスコード シューティングスター ロックマン！」  
キイイイイイン  
ロックマン「・・・やるぞ！」  
ゴン太「俺とドラグはもう2体探してくる！」  
ロックマン「分かった！」  
ノラウィザード「ガガガガ・・・ガガーンッ！」  
ウォーロック「何か言っているのか？」  
ロックマン「・・・でもやらないと・・・（ウィザードの頭を狙う・・・でもデリートしてはいけない・・・もつと力をおさえて、そして確実に停止させる・・・難しいなあっぱり）」  
ノラウィザード「ガガガーンッ！」

ロックマン「ロックバスター」

デューン！

ドオン

ノラウィザード『グアア・・・ガ・・・』

プシューー

ノラウィザードは停止した

ロックマン「成功した・・・」

ウォーロック『よし、2人をおうぞ』

ロックマン「うん！」

ロックマンは2人をおつて走った

そのころ2人は・・・

ゴン太「・・・分かれ道・・・俺は右だ」

ドラグ「じゃあ僕は左に行くね」

ゴン太「じゃあまたここで」

ドラグ「うん！」

そして分かれた・・・

第176話 協力する（後書き）

次回2人にノラウィザードが！？  
果たして運命は・・・？

## 第177話 オックス・ファイアVSノラウィザード

ゴン太とドラグは分かれそしてゴン太の方は・・・

ゴン太「いないな」・・・」

オックス「ブロロ・・・あれは！」

ゴン太「ノラウィザード！それに・・・」

男の子「このー俺の「バトルウィザード」の力をみせてやるー」

ノラウィザード「ガガーーーーー」

男の子「バトルメモリー」セット」

するとバトルウィザードの力が上がった

男の子「行けーっ！」

ドカツドン

ゴン太「あれがバトルウィザードかあ・・・」

バトルウィザードはノラウィザードと戦っている

オックス「あのバトルウィザード・・・負けるな！」

ゴン太「マジで？」

するとバトルウィザードはおされている・・・

男の子「くそつくそつなんでだよー」

女の子「あたり前よ、ここはバトルステージじゃないんだから！」

すると

ドゴン！

バトルウィザードが倒された

男の子「うわああ俺のバトルウィザードがああああ」

するとノラウィザードは男の子を襲った

ゴン太「危ない！電波変換！」

キィィン

男の子「うわああああ」

ドン！

男の子「・・・あれ？」

男の子の目の前に現れたのはオックス・ファイアだった  
オックス・ファイア「早く逃げるんだ！」

男の子「ううっ・・・コクリ」

男の子はうなずいて逃げていった

ノラウィザード「ガガガガーーーーッ！」

オックス・ファイア「確か停止するんだよな！よし頭の部分を・・・」

オックス「デリートすんじゃねーぞ！」

オックス・ファイア「分かってるぜ！」

するとノラウィザードは近づいてきた

オックス・ファイア「来い！」

ノラウィザードは攻撃した

ドカツ ドン

オックス・ファイア「結構つえーな・・・」

オックス「油断すんじゃねーぞ！」

オックス・ファイア「分かってるって！」

そのころ

ロックマン「2人はどこに行ったんだろ・・・？」

ウォーロック「さあな（心配だな・・・ゴン太の方は・・・デリートしなければいいが・・・）」

すると

男の子「うわああああああん」

ロックマン「どうしたの？」

男の子「俺のバトルウィザードが負けたー」

ウォーロック「それって・・・」

ロックマン「誰にやられたの？」

男の子「ノラ・・・ウィザード・・・」

ロックマン「・・・」（男の子が来た方向に行けばきつと2人の内1

人に合えるかも)」

そしてロックマンは男の子が来た方向に行った  
すると女の子が来た・・・

女の子「ちよつと大丈夫？」

男の子「うん・・・」

女の子「そいえばさっきの人って・・・タカラノシティを救ったヒ  
ーローロックマンよね？」

男の子「・・・マジで？」

そのころオックス・ファイアは・・・

オックス・ファイア「くそっすばしっこいな」

ノラウイザード「ガガガーーーーッ！」

オックス「あいつを抑えられれば・・・」

オックス・ファイア「・・・！（あれは・・・）」

オックス・ファイアの後ろにロープがあった

するとノラウイザードが襲ってきた

ノラウイザード「ガガガーーーーッ！」

オックス・ファイアはロープをとりそしてオックス・ファイアはノ  
ラウイザードにつっこんだ

そしてぶつかった

ドオン

オックス・ファイア「（今だ！）」

オックス・ファイアはロープでノラウイザードをしばった  
ギユ

ノラウイザードはオックス・ファイアに捕まった

オックス・ファイア「へへへどうだ！」

オックス「まさかゴン太がこんなに頭がいいとは・・・ありえな  
い」

オックス・ファイア「停止させるぜー！アンガーパンチ！（弱）

ドカン！

ノラウィザード『ガガ・・・ガ・・・』

プシューー

ノラウィザードは停止した

オックス・ファイア「やったぜー！ー！っ！」

すると

ロックマン「おーい」

オックス・ファイア「おおっロックマン！やったぜ！」

ロックマン「すごいよー！」

ウォーロック『まさか・・・ありえね・・・』

そしてオックス・ファイアはノラウィザードを無事停止に成功した

第177話 オックス・ファイアVSノラウィザード(後書き)

次回ドラグの方は・・・？



## 第178話 フェニックスVSノラウイザード

オックス・ファイアは見事にノラウイザードを停止に成功した  
そのころドラグは・・・

ドラグ「いないな〜どこに居るんだろ？」

バード「確かに気配も感じない・・・そして物音もしない・・・  
ドラグ「もしかしてここにいなかったりしてー」

バード「とりあえずほかの所も探そう」

???「・・・また人間だ・・・」

ノラウイザード「ガガガ・・・」

???「行け」

ノラウイザード「ガガガーーッ！」

バード「！来るぞ」

ドラグ「わかったー電波変換！」

キイイイイン

フェニックス「やるぞー」

するとノラウイザードがフェニックスの目の前に現れた

ノラウイザード「ガガガーーッ！」

フェニックス「よし停止するぞー」

バード「覚えてるか？」

フェニックス「もちろん！行くぞー」

フェニックスはノラウイザードに突っ込んだ

バード「おい！いきなり突っ込むなんて・・・」

フェニックス「うおおおウイングブレイド「横切り」(弱)！  
スカッ

フェニックス「あれ？」

フェニックスの攻撃は外れた

バード「おいおい・・・はずすなよ」

フェニックス「ごめん・・・でもなんかウィザードを切るのってなんか・・・」

バード「だからって相手は暴走したノラウィザードだ！ためらうな！」

フェニックス「・・・わかった！」

しかしノラウィザードはどこかに行ってしまった・・・

フェニックス「・・・逃げられた・・・」

バード「追え！ドラグ！」

フェニックス「うん！」

フェニックスはノラウィザードを追った

タッタッタ

フェニックスはノラウィザードを追ったが途中で見失ってしまった  
フェニックス「・・・いない・・・」

バード「はあ・・・なんかすごく心配になってきた・・・」

フェニックス「見失ったけど僕は諦めないぞーっ 赤兄のためにー  
ーっ！」

フェニックスの目を燃えていた

バード「！（この気配・・・）ドラグ上だ！」

フェニックス「上？」

フェニックスは上を向いた

すると上からノラウィザードが降ってきた

ノラウィザード「ガガガーンッ！」

フェニックス「わわわっ・・・でも負けない！」

するとフェニックスは剣を持ち・・・

フェニックス「ウィングブレイド」たて切り」（弱）！

ズバァァン

フェニックスはギリギリノラウィザードをデリートしなかった

ノラウィザード『ガ……』

プシュー

ノラウィザードは停止した

フェニックス「わーいわーいやったー」

バード『ふう……こつちがハラハラした……』

こうしてフェニックスはギリギリノラウィザードを停止に成功した

???『ゆるさない……絶対に……』

第178話 フェニックスVSノラウィザード(後書き)

ロククマンとオックス・ファイアとフェニックスは見事にミッショ  
ン成功!<sup>クリア</sup>

しかし次回スバルの家に謎の少年が!?

次回をお楽しみに!

## 第179話 ミッション成功!

ロックマンとオックス・ファイアとフェニックスは見事にノラウイザードの停止に成功してそして

3人とも待ち合わせの所に集合したのであった・・・

ロックマン「ふう〜」

オックス・ファイア「結構疲れたぜ」

フェニックス「僕も少し疲れたー」

ロックマン「にしてもやつたねノラウイザード停止に成功して!」

オックス・ファイア「おうよ!」

フェニックス「ねえそろそろWAXAに戻ろうよ!」

ロックマン「そうだね」

????「・・・あいつら・・・許さない」

そしてWAXAワクサに戻った

暁「そうか成功したか」

スバル「暁さんあのあと停止したノラウイザードはどうなるんですか?」

暁「停止したノラウイザードは我々達が回収してそしてウイザードの作られている所に持っていくんだ・・・そしてノラウイザードは改造され今のバトルウイザードとなるんだ」

スバル「へえー」

ウォーロック「リサイクルってやつか」

スバル「そいえばバトルウイザードは暴走するんですか?」

暁「いいや暴走する確率はほぼない・・・しかし暴走するとなると・・・今のノラウイザードよりも強く・・・そして爆発する」

スバル「ええ！？爆発！？」

暁「実際バトルウィザードは「バトルステージ」の所でバトルをしてもいいがバトルウィザードに差し込む「バトルメモリー」はバトルを出来るようにするデータだ・・・しかし暴走すると「バトルメモリー」なしでバトルウィザードは力が強くなり町は完全に混乱状態になるだろう、まあ暴走しないようにとりあえず出来てるから暴走する確率が低いだろ」

スバル「でも爆発は？」

暁「まあ爆発するのは俺のよそうだがその確率は低くも高くもない・・・そうバトルウィザードの中には「強化メモリー」が入っているそのメモリーが暴走したら・・・」

スバル「どれぐらいの（爆発）大きさですか？」

暁「たぶんこのWAXAがぶっ飛ぶくらいかな」

スバル「・・・」

そしてスバルは家えと帰った

スバル「ただいま」

茜「おかえりスバル、懐かしい友達が来てるわよ」

スバル「？」

スバルはリビングに行ったすると・・・

「???」「よおー！ー！う！スバル！ひっさしぶりだなあー！」

スバル「・・・誰？」

「???」「・・・ありや？」

すると???は叫んだ

「???」「スバルウー！ー俺の事忘れちゃったのかよおおおおお  
お！」

スバル「えっ？何？僕何かした？（泣いてる・・・）」

「???」「くっ・・・スバルがこんなに成長したって言うのにまさか  
脳みそまで成長してしまい俺の事を忘れてしまったのか・・・くう

うろう」

スバル「……（本当にだれなの？）」  
すると

ガチャ

大吾「ただいまー」

茜「おかえり」

大吾「……おっお前は……」

???「……あなたは……」

すると???は走って大吾に突っ込んだ

???「大吾 ……」

スバル「あつちよつとキミ……」

???「の師匠！」

スバル「……師匠？」

大吾「おおつ大きくなつたなまさかこんな所であえるとはな元気があいつは？」

???「大吾師匠こそ何年間か行方不明だつて聞きましたよ！」

大吾「心配かけたな！」

スバル「……父さん……あの人誰？」

大吾「えっ……誰つて……あつ！そうかあの頃まだスバルが小さかったからな覚えてないのも無理はないか……まっ一言で言う  
と俺の親友の子供だ！」

刃「じゃつ改めて……俺は「地底刃」だ！」

スバル「よ、よろしく……」

スバルは感じていた「嫌な予感がする」と……いろんな意味で……

第179話 ミッション成功！（後書き）

次回！何故、刃がスバルの家に来たの？  
お楽しみに！



## 第180話 スバルが小さかった頃の約束？

僕は星河スバル・・・今僕の家ではちよつとした事件が起きていたそれは・・・

刃「うおおお！スツゲー！ーッ！でつかい望遠鏡だなー！」  
スバル「ちよつと、あんまりさわんな」

バキッ

スバル「・・・えっ？」

刃「・・・ありやりや・・・壊れちまったな」

スバル「お小遣いためて買った最新の望遠鏡が・・・」

ウォーロツク「スバル・・・まだ終わってないぞ」

スバル「？」

ガツシャーーン

ドーン

スバルの部屋が少しずつめちゃくちゃになっていた・・・

刃「いや〜楽しいなこころ〜」

スバル「僕はもう絶望の世界に入り込んでるよ・・・」

スバルは落ち込んだ・・・暗いオーラを出しながら

しかし刃は暴れ続けていた

そしてスバルは思った「急いでなんとかしないと僕の部屋が崩壊するな・・・」と

でもまだ刃は暴れまくっていた

そして数分後スバルは絶望世界から帰ってきた

しかしスバルの目の前にはとても恐ろしい光景だった

スバル「な、なんで・・・？」

スバルの部屋はもう完全に台風の通った後のようになっていた

ウォーロツク「すごいな・・・まさかこんなになるとは・・・」

刃「おつ、起きたかスバル！」

スバル「・・・刃君・・・キミって人は・・・」

刃「・・・なあスバル」

スバル「何っ！（怒）」

刃「覚えてるか？まだ俺達が小さかった頃の約束を・・・」

スバル「・・・約束？」

刃「そうだ・・・まだ俺が5歳の頃だった・・・」

刃が5歳の頃

刃「ギャハハハハ」

大吾「やあ刃・・・久しぶり」

刃「・・・誰？」

登「ハハハ刃この人はな俺の親友だ！」

刃「とーちゃんの親友・・・」「知り合い 友達 とーちゃんの親友

僕の師匠」師匠！」

大吾「・・・はい？」

登「ハハハそうかそうか大吾を気につたか！」

刃「うん！」

登「所で大吾たしか何年か前子供が産まれたって？茜さんは元気か？」

大吾「ああ、元気だよ、さあ家に上がって」

そして・・・

その頃スバルは1歳

刃「・・・」

スバル「あーあー・・・だぶっ・・・あああい！」

刃「・・・スバル・・・かわいすぎる・・・」

スバル「あい？」

刃「気につたぜ！僕達一緒に世界を支配しようぜ！」

スバル「おーーーーー」

刃「約束だ・・・」

スバル「……あい……」

スバル「ええええええええ世界を支配するううー！？」

刃「スバルは昔はあんなにかわいかったのに……」

スバル「にしてもよくそんな昔の事覚えてるね（僕なんか1歳だったんだよ？）」

刃「フッフ俺は記憶力がたかあーいから全然覚えてるぜえー！たとえばスバルが棒に当たって大泣きしてたり俺のポーズを真似してたりそれから……」

スバル「もういいです」

ウオーロツク「変わった奴だな……」

刃「さあ行くぞスバル！世界を」

スバル「いやいやまってよ僕はそんなことしな……」

刃「……まさか約束を破るのかスバル？」

スバル「えーとそれってほら小さい頃の約束でしょ？だから今は……」

刃「ゆ・る・せ・ん」

スバル「……へ？」

刃「ゆるせんぞあー！たとえ小さい頃の約束だろうが約束を守るのが男つてもんだろおおおお」

スバル「いや世界を支配するよりマシだとおもうけど？」

刃「スバルうううううバトルじゃああああ」

スバル「……聞いてない……」  
そして

コダマタウンにあるバトルステージに来た

刃「いざバトル！スバル！」

スバル「……なんで？」

第180話 スバルが小さかった頃の約束？（後書き）

次回・・・ウィザードバトル！  
お楽しみに！



キュイン

ロックドック『ワァーーン！力がみなぎってくるぜ〜』

ウォーロック『俺に勝てると思うなよ犬！』

『バトルを始める前にルール説明します

バトルカードは制限されています使っているのは「ソード」「キヤノン」「ボム」だけです

あとウィザードが戦闘不能になった時は強制的にバトル終了します  
これで説明を終わりにします

それではバトルが始まるま5秒前・・・』

ウォーロック『・・・』 『4』

ロックドック『・・・』 『3』

スバル『・・・』 『2』

刃『・・・』 『1』

『0・・・バトル開始！』

プゥーーーーーーン

刃『やるぜえ！バトルカード「ボム」×3！』

ロックドック『ワァーーン！ボムボムボム！』

ウォーロックの上からボムが降ってきた

スバル『（ロックもバトルカード使えるかな？）バトルカード「ソード」！』

ウォーロック『！』

キュイン

ウォーロックの腕がソードになった

ウォーロック『な、俺の腕がああソードに！』

スバル『ロック上！』

ウォーロック『へっこんなの楽勝だぜえオリヤアァァー！』  
ズバァァン

ウォーロツクはソードでボム×3を切った

ボオオン　ボオン　ボオオオン

スバル「やったあ」

刃「へっ俺達をなめるなよおスバル！」

ビュン

ウォーロツク「！」

ロツクドツクはウォーロツクの後ろに移動していた

ロツクドツク「ワアン！切り避ける！」

刃「バトルカード「ソード」×2！」

キイイイン

ロツクドツク「ワアオーーーン！必殺！クロスドックブレード！」

ズザアアアン

ウォーロツク「ぐああああああ」

スバル「ロツク！？」

刃「どうだスバル！これが俺の実力だあ！」

ロツクドツク「何っ・・・」

刃「？どーした、ロツクドツク？」

ロツクドツク「こいつ・・・立ってやがる」

刃「なにiiiiiiiiiiii！」

ウォーロツク「はあはああぶねえ・・・なんとかのまだ戦えるぜ」

ロツクドツク「今までこの技をくらって立っている奴は、お前が

初めてだ・・・」

ウォーロツク「この俺をなめるなよお犬！」

スバル「ロツク・・・勝とうよ！絶対に！」

ウォーロツク「当たり前だ、こんな奴に負けたら俺のプライドが傷

つく！」

スバル「やろう！ロツク！」

ウォーロツク「おう！」

刃「スバル・・・（スバルの奴こんなに強くなりやがって・・・楽

しくなってきたぜ！）」

そしてウィザードの戦いは続く・・・



第181話 刃のウィザード！（後書き）

次回ウォーロックが勝つのか？ロックドックが勝つのか？  
どっちだぁー！！！！？

第182話 負けない！

ロックドック『おもしろえーっ来い！』

ウォーロック『言われなくても行ってやる！』

スバル『ロック！』

ウォーロック『スバルは俺の動きと相手の動きを見ながら俺のサポ  
ートをしてくれ！』

スバル『うん！分かった！』

刃『いつけえーっロックドック！』

ロックドック『ワァーっ！任せとけ！』

ウォーロック『（スバル・・・ちゃんと見るんだ俺とあいつの動き  
を・・・）』

スバル『相手とロックの動き・・・』

ロックドック『食らえ！』

刃『バトルカード「ボム」！』

ウォーロックの上からボムが降ってきた

ウォーロック『またか！』

スバル『！（そうか・・・これだ！）ロック！今度は僕達の番だ！』

ウォーロック『（スバルの奴もう・・・）』

スバル『バトルカード「ボム」「ソード」！』

ウォーロック『！・・・そういう事か・・・』

ポイント

ウォーロックは相手のボムをボムで破壊した

ウォーロック『そしてソードで！』

ソードを後ろに振った

ビュ！

ズバァン

ロックドック『ぐっ・・・何故だ・・・』

刃『何っ！？』

スバル「刃君、残念だったね」

刃「何故だ！何でロックドックが・・・」

スバル「それはね思い出したんだロックドックの攻撃方法がワンパターンだって！」

刃「！」

スバル「さつきも同じことしたでしょ、それで僕考えたんだ、またさつきと一緒にならソードを後ろに振れば後ろに移動したロックドックにあたるって！」

刃「・・・なるほど・・・」

ウォーロック「この調子だったら俺が勝つかもな！」

ロックドック「ワアン！そんな事あるわけねえーだろ！」

ウォーロック「そうか？でもこれでおあいこだ！」

刃「・・・スバルは強いな・・・でも俺もまけてらんねえー！！」

スバル「僕だって！」

刃「バトルカード「ソード」！」

スバル「バトルカード「ソード」！」

ロックドックとウォーロックの腕がソードになった

ウォーロック「ウオオオオリアアアア！」

ロックドック「ワオオオオオオオン！」

ガキン！

ウォーロックのソードとロックドックのソードが激しくぶつかり合う！

キン！ ガキン スバアン

ウォーロック「ドリア！」

ロックドック「ワアアン！」

スバル「（これじゃ・・・決着がつかない・・・だったら）バトルカード「キャノン」！」

刃「俺だってバトルカード「キャノン」！」

ウォーロックとロックドックは違う腕がキャノンになった

ウォーロツク『終わりだ!』

ロツクドツク『お前がな!』

ドオオオン

2体はキャノン撃った・・・

そしてキャノン同士がぶつかりあって煙がでた  
ブアアア

ウォーロツクとロツクドツクは煙に包まれた

そして

ウォーロツク『うおおおおお』

ロツクドツク『ワオオオオオン』

ズバアアアアア

2体はフルパワーでぶつかり合った・・・

ウォーロツク『・・・・・・・・』

ロツクドツク『・・・・・・・・ぐっ・・・・・・・・』

ウォーロツク『・・・・・・・・ぐはっ・・・・・・・・』

ドサツ　　ドサツ

2体は同時に倒れた

『バトルは引き分けです』

スバル『引き分け・・・』

刃『俺が・・・引き分け・・・』

そして・・・

刃『またなスバル!』

スバル『うん(まあしばらく会いたくないけど)』

刃「なあスバル」

スバル「何？」

刃「今度こそ負けねえ！次こそ絶対に勝つ！！」

スバル「僕こそ負けないよ！」

そしてスバルと刃は握手をした・・・

大吾「またな」

刃「はい！大吾師匠！」

そして刃は帰って行った

しかしまだ悲劇は終わっていないかった・・・

スバルは自分の部屋に戻った・・・

スバル「もう疲れたからね・・・」

部屋はめちゃくちゃだった

スバル「・・・（もう会いたくない・・・）

そんな日でした・・・

第182話 負けない！（後書き）

次回はとにかく忙しい？

## 第183話 忙しい一日

今日はとくにノラウィザードが出現する気配はなかった

だからスバルはこの日どこも行かず家で休もうとした……

……が、

そんな日にまさかあんな事が起こるなんてスバルは全然思っていなかったのだ

その事は……

まず母親の茜の一言で始まった

茜「スバルー一つお願いしていい？」

スバル「何……？」

茜「買い物行ってきました？」

スバル「え……」

茜「ほら！星の本買ってもいいから！」

スバル「行ってきます！」

そう……これがだめだったんだ、あの時「星の本」につられてなければあんな事にならなかった

そして……

とあるデパート

スバル「えーとこんにやくと大根とこんにぶ……今日おでん？」

そして買い物が終わった……すると

ゴン太「おいスバルー！」

スバル「あつ、ゴン太」

委員長「あら偶然ね」

スバル「委員長も！なんでここに？」

ゴン太「もぐもぐ」

ゴン太は何かを食べていた

スバル「あれ？何かがないようなー・・・あっ！キザマロは！？」  
委員長「キザマロは今日風邪だからキザマロのためにここで何かを  
買うために来たのよ」

スバル「あー・・・そうなんだ」

委員長「まあブラザーだから当然よ！」

ゴン太「モグモグ」

委員長「あら？ゴン太その食べ物はどうしたのよ」

ゴン太「買った」

委員長「何円」

ゴン太「500円」

委員長「・・・・・・そう」

ゴゴゴゴゴゴ

委員長から残酷なオーラがいや殺気が感じられた

そして・・・

委員長「まったく、どうするのよ！これじゃーお見舞いの物買えな  
いじゃない！」

ゴン太「ごめんなさい・・・」

スバル「・・・（なんで僕まで叱られるのかな？）」

委員長「そうだわ！」

委員長はスバルに聞いた

委員長「ねえ、今何円もってる？」

スバル「えーと500・・・はっ！（やばいこのままじゃ・・・

とられる！）」

委員長「そのお金貸して・・・」

スバル「（やつぱり）ほ・・・僕は帰らないと・・・」

委員長「あら？この委員長である私のいう事が聞けないって言うの  
？」

スバルは薄々気づいた・・・委員長には僕が持っていないオーラを  
もっている・・・そのオーラは・・・

殺気である



こうしてスバルは「星の本」を犠牲にして500円を渡してしまった  
そしてこのあとスバルは委員長に無理やりキザマロの所につれてい  
かされ

さらに500円はもどってこなく

スバルは損をした・・・

あとキザマロは元気になった

でもその日・・・

スバル「星の本が・・・ううっ・・・」

ウォーロック「・・・（負けるなスバル！）

スバルは忙しくてそして嫌な思い出ができたとき・・・

第183話 忙しい一日(後書き)

次回とつとつ物語が動き始める！

## 第184話 謎のノラウィザード！

「????」なんで……オレは……オレは……  
その時だった

「????」の近くから音が聞こえた  
デユン！

「????」！（この音は……）

ロックマン「これでノラウィザードの停止が終わったー」

ウォーロック「だいぶなれてきたな」

ロックマン「うん」

キーン

ロックマンは変身をといた

スバル「さてと、WAXAワクサに戻ろう！」

「????」なんでなんであいつらは……俺達を攻撃する……！」

スバル「？」

ウォーロック「どーしたスバル」

スバル「いや……なんか声が聞こえたような……」

ウォーロック「……気配がないから平気だろ」

スバル「そうだね……」

そしてスバルはWAXAについた

「ふう……なんとか体を自由に動けるようになったな」

スバル「よかった……」

「次からは俺もノラウィザードの停止しに行ける……」

スバル「晓さん次もノラウィザードの停止に行ってもいいですか？」

「もちろんだ」

ヨイリー「スバルちゃんもう時間が遅いから帰ってもいいわよ」  
スバル「わかりました」

そしてスバルは家に帰った・・・  
暁「・・・（次こそあの謎のノラウイザードを・・・）」

そして次の日

スバルはWAXAに呼ばれた

スバル「ノラウイザードですか？」

暁「・・・そうだ・・・だが数を見てみる」

スバル「数・・・！、これは・・・」

暁「ノラウイザードは・・・20体居る！」

スバル「なんでこんな事に・・・」

暁「わからない・・・だがこの中に絶対に奴が居る・・・」

スバル「奴・・・？」

暁「スバル！俺達2人じゃたりない他のやつをよぶんだ！」

スバル「はい！」

そしてスバルは人を呼びに行った

暁「（いつたい、何が起きているんだ・・・）」

そして

ゴン太「来たぜ！」

ドラグ「赤兄！元気？」

スバル「つれてきたよ」

暁「（変わらないメンバーか・・・）じゃあ行くか」

スバル「はい！」

ゴン太「おう！」

ドラグ「わーい」

4人はカラクリタウンに行った・・・が  
ライオ「・・・」

そしてカラクリタウン

スバル「……人が全然いない……」

暁「よし皆1人5体ノラウイザードを停止するんだ」

ゴン太「わかつたぜ！」

暁「よし、やるぞ！」

「……来た……」

第184話 謎のノラウイザード！(後書き)

次回、暁達はどうなるのか・・・？

## 第185話 20体のノラウイザード

スバル「じゃあ分かれて探そうか」

暁「そのほうがいい」

そして4人はバラバラになりノラウイザードを探した

ゴン太は・・・

ゴン太「いないなあ」

オックス「きよつけるよろ、相手は20体居るんだからな・・・」

ゴン太「その内の5体を倒すのか・・・」

ガタツ ガタツ

どこからか物音が聞こえた

ゴン太「!!」

ガタツガタツガタツ

物音が近づいてきた・・・

オックス「ゴン太!」

ゴン太「電波変換!」

キイイイン

オックス・ファイア「ウオオoooooooooo!」

その時

ノラウイザード1「ガガガoooooooooo!」

ノラウイザード1は、オックス・ファイアの後ろから現れた

オックス・ファイア「そっちか!」

ガッ!

オックス・ファイア「グハッ・・・くっなんだ・・・」

ノラウイザード2「ガガガoooooooooo!」

なんともう一体のノラウイザードが現れた

オックス・ファイア「もう一体居ただと・・・」

ノラウイザード1「ガガガガガoooooooooo!」

ノラウィザード2『ガガガガ』

オックス・ファイア「1対2じゃこつちがふりだぜえ」

オックス『!、。。。いや1対3だ。。。』

オックス・ファイア「!」

するとさらにオックス・ファイアの後ろから新たにノラウィザードが現れた

ノラウィザード3『ガガーーーーッ』

ドカッ

オックス・ファイア「ぐああっ。。。」

ドサッ

オックス・ファイアは倒れた。。。

オックス・ファイア「(くそっ。。。これじゃーノラウィザードを倒せねえ。。。)」

そのころスバルは。。。

スバル「なんかすごく静かだ。。。」

ウォーロック『しかし5体倒すのか。。。平気か?』

スバル「絶対に5体を倒す!」

ウォーロック『。。。だな、スバル準備いいか?』

スバル「いいよ!トランスコード シューティングスターロックマン!」

キイイイイイイン

ロックマン「。。。」

するとロックマンの目の前にノラウィザード5体現れた

ロックマン「いきなり5体だ。。。」

ウォーロック『これはきついな。。。』

ロックマン「でもやないと。。。ウェーブバトル ライド オン!」





**第185話 20体のノラウィザード(後書き)**

次回、ロックマンは5体を停止できるのか!?

第186話 1対5の戦い！（前書き）

いや〜前回の話で200部行きました

だが・・・まだまだ次は目指せ300部〜！

・・・まあ300部まで続いてたらけどね・・・

第186話 1対5の戦い！

ドカッ ドン ドン ドゴン！

ロックマン「うっ．．．さすがにこの数を一度に相手するとさすがにやばい」

ノラウイザード1「ガガガーーーーッ！」

ロックマン「ロックバスター！」

デュン！

スカッ

ロックマンは攻撃をはずしてしまった

ウォーロック「おい！なにしてる」

ロックマン「ごめん．．．」

ウォーロック「まあ、スバルのやつ集中できていない．．．」

ノラウイザード2「ガガーーーーッ！」

ノラウイザード2はロックマンに攻撃をした

ロックマン「何っ．．．」

ドゴン

ロックマン「くはっ．．．（体が追いつかない．．．最初にねえばいいのはどれだろう）」

ウォーロック「スバル！上から来るぞ！」

ロックマン「！」

ノラウイザード3「ガガガガーーーーッ！」

ロックマン「（どうしよう．．．さっきから攻撃受け続けているから体が動かない．．．）」

ドゴオオオオン

そのころドラグは．．．

ドラグ「ふぶん」

バード『ご機嫌だな』

ドラグ「だって赤兄のやくにたてるんだもん！このミッションに成功したら・・・赤兄にほめられるもん！」

バード『（それか・・・）』

ドラグ「よーしてでこーいノラウイザード！」

ノラウイザード1『ガガ？』

ドラグ「・・・本当に出てきた・・・」

バード『・・・ハッ！ドラグ電波変換だ！』

ドラグ「うん！電波変換！」

キイイイイイイイイイ

フェニックス「よし負けないぞー！」

ノラウイザード1『ガガガーーッ！』

フェニックス「うおおおウイングブレイド「横切り」！」

ズバアア

しかしノラウイザード1はギリギリかわした

フェニックス「（強い！）」

バード『（・・・やはり強くなっているノラウイザード・・・）』

その時

ドゴオン

フェニックス「ぐふっ！」

フェニックスの後ろからもう一体のノラウイザードが現れた

ノラウイザード2『ガガガーーッ！』

バード『ドラグ！？』

タッ

フェニックスは倒れずに立った

フェニックス「はあはあ、強いね・・・キミ達・・・」

ノラウイザード1『ガガガ』

ノラウイザード2『ガガガ』

そのころ暁は・・・

暁「・・・見つけたぞ・・・」

???「・・・お前か・・・お前達はなんで俺達をいじめる」

暁「なんのことだ・・・いじめているのはお前達ノライイザードだ  
ろ！」

???「俺達はいじめているのではない・・・訴えてるのだ！」

暁「訴えているだと・・・？」

???「いじめているのは人間・・・お前らだあああああ！」

ビュオオオオオオオオオ

暁「くっ・・・（なんて風だ・・・飛ばされてしまっ・・・）」

そしてこの事を聞いていた・・・ライオ

ライオ「・・・」

第186話 1対5の戦い！（後書き）

次回、何故ライオがここに・・・？

## 第187話 ノラウィザード達の思い

ライオ「あれが暁さんが言ってた・・・謎のノラウィザードか・・・」

「???」人間にとって俺達はただの「おもちゃ」みたいなものだった・・・だがそれならまだ許せた・・・でも最近俺達古いウィザードを捨てて新しい物に変える、そんだったら俺達は何のために作られた、何のためにここにいる！何のために・・・こんなに苦しんだ！！」

ビュオオオオオオオオオオウ

風がさらに強くなった

暁「（やはりこいつただのウィザードじゃないな・・・）」  
「???」そして俺は思った・・・だったら俺達は人間のいう事など聞かない・・・俺達は俺達のために生きて、人間達を復習するんだ！！」

暁「そんなの間違っている！ウィザードは俺達人間をたすけ・・・」  
「???」だったらなんで俺達ウィザードは捨てられる！人間達は間違っていないって言うのか！！」

暁「・・・たしかに人間は間違っていないってわけではない、でも・・・だからって人間に復習するって関係ない人もいるんだぞ！」

「???」そんなの知るか！最初に裏切ったのは人間達だろ！俺達ウィザードは・・・ノラウィザードは・・・人間達という事など聞かない、ノラウィザード達は皆人間を恨み憎みそして復習するために暴走している！人間達は俺達ノラウィザードが倒す！」

ビュオオオオオオオオオオウ



風がどんどん強くなっていきカラクリタウンがめちゃくちゃになつていく

曉「(そろそろ限界だ……)電波変換！」

キイイイイイン

アシッド・エース「……(さっきの話を聞いているかぎり……アイツがノラウィザードを暴走させてるようだな……)」

????「……行けえ！ノラウィザード達！」

するとアシッド・エースの目の前に4体のノラウィザードが現れた！  
アシッド・エース「そんだけか？俺はあの3人よりノラウィザードの停止は慣れている」

????「安心しなよ俺もやるから……」

アシッド・エース「のぞむところだ……」

アシッド「しかしシドウ前の事覚えてますか！」

アシッド・エース「へっ！覚えているさだからそのためのリベンジだ！」

????「もうにどとあの事を繰り返すことはさせないんだ……」

アシッド・エース「(あの事……？アイツ何かわけありか……)」

「

????「やれ……ノラウィザード！」

ノラウィザード1「ガガガーンツ！」

アシッド・エース「オメガレーザー！(弱)」

アシッド・エースの肩からレーザーが発射された

ビィー……

ノラウィザード1の頭に当たり停止した

ノラウィザード1「ガ……ガガ……ガ……」

プシューッ！

アシッド・エース「楽勝だ！さあどんどん来い！」

ノラウィザード2と3が襲ってきた

ノラウィザード2・3「ガガガガガーンツ……」

アシッド・エース「ウイングブレード！(弱)」



第187話 ノラウィザード達の思い（後書き）

また前と同じ事に!?

次回、このピンチをどう壊すのか!?

第188話 フェニックスのピンチからの逆転！（前書き）

いやーちょっと違う事やってて書く時間が遅くなってしまいました・・・

## 第188話 フェニックスのピンチからの逆転！

アシッド・エース「ぐっ……」

???「ノラウィザードよ……とどめを刺せ！」

ノラウィザード4「ガガガガガー……ッ！」

ノラウィザード4はアシッド・エースに近づいてきた……

アシッド・エース「くそっ体さえ動けばこんなやつ……」

ライオ「（暁さんがピンチだ、助けなきゃでも俺にはそんな力が無い……どうしよう）」

ライオは動けなかった……

ライオ「（ブラック・ナイトさえ居れば暁さんを助けられたのに……）」

そのころフェニックスは……

フェニックス「高速ウィングブレイド「横切り」！（弱）」

ビュン

スバアン！ スババン！

一体目は攻撃に成功した

ノラウィザード1「ガ……ガガ……」

ブシュー

一体目は停止に成功した

しかし二体目は……

スカッ

フェニックス「（はずした！それにノラウィザードって、強いんだね……）」

ノラウィザード2「ガガガー……ッ！」

バード「ドラグ来るぞ！油断するな！」

フェニックス「!?」

ノラウイザード2『ガガーーーガ!』

ドン!

フェニックス「ぐううう」

バード『ドラグ!』

フェニックス「はあはあ．．．まだまだあはあはあ．．．」

ドクン　ドクン

バード『この感じは．．．まさか!』

フェニックス「僕は．．．赤兄にほめられるために負けない!」

なんとフェニックスから黄金の光があふれていた

バード『（まあここでなるのはあんまり良くないが．．．今はしよ

うがない）ドラグよく聞くんだ今お前が使える力10分の6だ!

つまりその力を6分の1しか使わない!分かったな?』

フェニックス「わかった!うおおおおおお．．．」

キイイイイイイイイイイ

ものすごい黄金の光がフェニックスを包む

シューウウウ

フェニックス・D『ドラグーン．．．絶対に負けない!』

ノラウイザード2『ガガガーーー』

フェニックス・D『（6分の1の力．．．）!』

ズバン!

ノラウイザード2『ガガ．．．』

プシューー

なんと一瞬でノラウイザード2を停止した

フェニックス・D『．．．まだ居るな』

するとさらに三体のノラウイザードが現れた

ノラウイザード3『ガガガーーー』

ノラウイザード4『ガーーーッ』

ノラウイザード5『ガガガガガ』

フェニックス・D「・・・パツと終わらす！」  
ビュン

フェニックス・Dはすごい速さでノラウィザード三対を攻撃した  
ズバァン ズバツ ジャキ

そして三体同時に停止したのであった・・・

プシューーーーーー

フェニックスは変身をといた

キーン

ドラグ「はあはあやった・・・うっ」

ドサツ

ドラグは無事ミッション成功した

第188話 フェニックスのピンチからの逆転！(後書き)

次回もノラウィザード停止できるのか!?



## 第189話 助っ人！

オックス・ファイアは・・・

オックス・ファイア「ウォーリーアンガーパンチ！」

スカッ！

攻撃をはずしてしまった・・・

オックス・ファイア「くそっ、どうしてあたらない・・・」

オックス「ゴン太、相手をよくみるんだ！相手はたかがウィザード

お前なら倒せる！」

オックス・ファイア「はあはあ・・・ウォーリーアンガーパンチ！」

スカッ！

またしてもかわされてしまった！

ノラウィザード2「ガガガーーーッ！」

オックス「ゴン太！」

オックス・ファイア「なっ・・・」

ドカアアン

オックス・ファイア「ウワアアアアアッ・・・」

ドサッ！

オックス・ファイアはノラウィザードの攻撃をもろにくらってしまった  
った

オックス・ファイア「はあはあ（俺には無理だったのかなあ・・・

こんな事じゃ委員長も守られない俺は弱い・・・）」

オックス「何している！ゴン太、早く立て！」

オックス・ファイア「・・・」

オックス「ゴン太！！！」

オックス・ファイアは黙ってしまった

そしてどんだんノラウィザードは近づいてくる

ノラウィザード1「ガガガガ」

オックス「（くっ、ゴン太が急におかしくなってそしてノラウィザ

ードが近づいてくるこれはピンチだ……」

するともう一体のノラウィザードも近づいていた

ノラウィザード2『ガガガ』

オックス『くっ……（やはりここは俺が……）』

「インフィニティーアロー！」

ザザザザザザッ！

なんと空から矢がふつてそしてノラウィザード2体にあたり2体とも停止した

オックス『！これは……』

「ひさびさの登場だぜえ！」

すると現れたのは電波変換した弓壺だった、今はアーチエリー・Rトミミの姿

アーチエリー・R「よお！久しぶり！」

オックス・ファイア「あ……ああっそうだな」

アーチエリー・R「？……疲れてるみたいだな、よしっ！あとは俺にまかせる！」

オックス・ファイア「……ああっ」

アーチエリー・R「……そこに居るんだろ？出て来いよノラウィザード！」

ノラウィザード3『ガガガガー……』

アーチエリー・R「よし……あとの2体もさっさと出て来いよ！」

……

アーチエリー・R「……なるほど出てこないのかまあいいかま  
ずは目の前の敵を……しとめる……！」

ノラウイザード3『ガガガガガァー！』  
アーチェリー・R『スピアショット！』

その時アーチェリー・Rの後ろからもう一体のノラウイザードが現れた

ノラウイザード4『ガガガァー！』

アーチェリー・R『…残念だけど君（ノラウイザード4）はもう俺のえじきだ！』

その時ノラウイザード4の上から矢が降ってきた

そしてノラウイザード4は攻撃を受けた

ノラウイザード4『ガ…ガ…ガ』

プシューー

ノラウイザード4は停止した

アーチェリー・R『俺の新技カウントショット！そしてスピアショット！（弱）』

ずばあん

ノラウイザード3『ガ…ガ…ガ』

プシューー

さらにもう一体のノラウイザードも停止に成功した

アーチェリー・R『ふうーこれも練習の成果か！…だが、あと一体だ！』

オックス『（あいついつの間にかこんな強くなっていたんだ）』

そしてノラウイザードが出てきた

ノラウイザード5『ガガガガァー！』

アーチェリー・R『…これでミッション』

ノラウイザード5『ガガガァー！』

するとアーチェリー・Rは矢を撃った

ビュ！

ドン！

ノラウイザード5『ガ…ガガ…ガ…ガ』

プシューー

アーチェリー・R「  
完了！」<sup>クリア</sup>

オックス「(……やるな)」<sup>□</sup>

そしてオックス・ファイアの所はアーチェリー・Rの助っ人により  
無事ミッション成功した

第189話 助っ人！（後書き）

次回、ロックマンはノラウィザード5体倒すこと出来るのか・・・？

第190話 ロックマン対ノラウイザード×5

ロックマンの方では・・・

ノラウイザード1『ガガガーーーーッ!』

ドゴッ

ロックマン『ぐはっ!うぐっ・・・』

ノラウイザード2『ガガガ!』

ドゴン!

ロックマン『うわああ』

ロックマンはダメージが大きすぎて動けなかった

そしてそれを見ている謎の3人組

???1「こんな程度なのかロックマンの力は・・・」

???2「ちよつとあれはやばくない?クスクス」

???3「はあ寝たい・・・」

???1「まだあの程度じゃノラウイザード5体なんて無理だな、  
だが「ライオーガ」の力を使えばあんなおもちやみたいな奴らを一  
瞬で停止できるけどな・・・」

ロックマン『・・・』

ウォーロック『スバル!大丈夫か、スバル!』

ロックマン『・・・ん・・・ぐう・・・平気・・・』

ウォーロック『・・・しかたねえ、スバルライオーガの姿になる  
んだ!』

ロックマン『で・・・も、よれだと・・・ノラウイザードを・・・  
・破壊しちゃうかも・・・しれないし・・・』

ウォーロック『・・・(たしかにそうだ、ライオーガの力を使える  
とはいえ、まだ完全にライオーガの力を使いこなしていない下手し  
たらノラウイザード5体全部破壊しかねない・・・これはちよつと

やばいな・・・だが）スバルお前は恐れているな、ライオーガの力を・・・ノラウイザードを破壊しちゃうかもしれない事・・・だが今は悩んでる暇はない！なるんだ・・・ライオーガの姿に！！」  
ロククマン「・・・（そうだ・・・僕は恐れていたのかもしれない・・・ノラウイザードもちゃんと自分の意思をもっている・・・それを破壊するかもしれない、それを恐れていた・・・でもそれを恐れていたらいつまでたつても変わらない、だから僕は・・・）」

キイイイイイイイイ

ロククマン・R「<sup>ライオーガ</sup>恐れない！」

????「フツ・・・なつたか「ライオーガ」に・・・さあ見せてもらおうかその実力を・・・」

ロククマン・R「うおおバトルカード「ソード」！」

ロククマン・Rはノラウイザード1に突っ込んでいった

ノラウイザード1は攻撃した

ノラウイザード1「ガガガガッ！」

ドン！

ノラウイザード1「ガ？」

ロククマン・Rはビクとしなかった

ロククマン・R「まずは一体目！」

ズバン！

ノラウイザード1「ガ・・・ガ・・・」

プシューー

まず一体目の停止に成功した

ロククマン・R「まだ4体居る！」

ノラウイザード2・3「ガガガガガッ！」

ロククマン・R「バトルカード「ソード」！」

ロックマン・Rの両手にソードがついた、そしてそのまま・・・  
ズバアアアア

そのままノラウィザード2体を切った

2体は無事に停止した

ロックマン・R「（この感じ・・・なんだか前より体が軽くなった  
みたいに感じる・・・）」

ノラウィザード4・5『グガガガーーーーッ』

2体同時にロックマン・Rに攻撃した

ガキーーーーン

しかし

ロックマン・R「効かないよ・・・これで終わりだ！」

ズバアアアア

プシューーーーー

2体同時に停止した

ロックマン・R「やっぱりこのライオーガの力すごいけど・・・  
なんか僕最近誰かに見られてる気がする・・・」

???1「・・・さすがだ、つといたいが、だがまだまだだな、  
あれではまだ「あいつ」には勝てないな・・・まあいいだろ今日は  
観察終わりだ・・・帰るか・・・（ロックマン君はいずれ・・・）」

そしてロックマン・Rは変身を解いた

スバル「はあはあ・・・もう僕動けない・・・」

ウォーロック「スバルはもう休め（暁の方なら平気だろ・・・）」

そして無事スバルのミッションは成功した・・・



第190話 ロックマン対ノラウィザード×5(後書き)

次回はアシッド・エースの運命とは・・・？

## 第191話 ライオの決意！（前書き）

とりあえず前回まであらずじを説明しようかな・・・

そういうわけで、前回までは！

「フェニックスは「ドラグーン」の力を使いノラウィザード5体無事停止した

そしてオックス・ファイアはアーチェリー・Rリミットが助っ人としてノラウィザード5体無事停止に成功した

そしてロックマンは「ライオーガ」の力を使いいつきに5体のノラウィザードを停止した！次はアシッド・エースの番だが今アシッド・エースはピンチ・・・果たしてこのピンチをどう潜り抜けるのか！  
？」

がいまままでのあらずじかな？

それでは今回もお楽しみください

## 第191話 ライオの決意!

アシッド・エースは今動けない状態であった・・・  
そしてその様子を見ているライオは・・・  
ライオ「早く、早く、早く助けないと・・・でも・・・」

ガッ ガッ ガッ

ノラウイザード4「ガガガガガ」

ノラウイザード4は攻撃を続けていた

アシッド・エース「ぐっ、ぐっ・・・ぐあっ」

???「さっきまでの勢いはどうしたんだ?人間!」

アシッド「シドウ、もう限界です!」

アシッド・エース「いいやまだだ・・・ぐっ」

ガッ ガッ ガッ

???「そろそろとどめをさすんだ!」

ノラウイザード4「ガガーーーーーッ!」

ライオ「・・・ブラック・ナイト・・・」

その瞬間ライオはあの言葉を思い出した

「強くなったな」

それはブラック・ナイトの言葉であった

ライオ「(そうだ・・・俺はブラック・ナイトに最期の最期に認められたんだ・・・俺は・・・)」

???「やれえー!」

ライオ「やめろお!」

アシッド・エース「!?(ライオ?何でここに?)」

「?????」・・・まだいたのか・・・まあもうちょっとだけ遊んでみるか、やれえ！ノラウィザード！」

ノラウィザード4「ガガガー……ッ！」

ノラウィザード4はライオに近づいてくる

ライオ「来るなら来い！」

アシッド・エース「なに・・・やっている、ライオは・・・さつさと逃げる！電波変換していない、お前が暴走しているノラウィザードの・・・攻撃をもらにくらったら・・・ケガどころじゃない・・・死ぬかもしれないんだぞ！」

ライオ「俺は逃げない・・・暁さんを守ってみせる・・・あの時助けてくれたお礼をしたいんだ！」

アシッド・エース「ライオ・・・それでもにげ・・・!!」

ドゴツ

ライオ「ぐあああああああああああああ」

ドサアアアアア

ズドーン

建物にぶつかりそのまま建物の中で倒れてしまった

アシッド・エース「ライオオオオオオ!!」

「????」バカなやつだ自分から自滅しにくるとはな・・・まあこれで人間を1人しとめた・・・」

ゴトツ

「????」!?まさか・・・」

ライオ「俺は・・・鍛えが違っただよ・・・まだブラック・ナイトのパンチの方が痛かったぜ」

アシッド・エース「よかった・・・ライオさつさと逃げるんだ」

ライオ「・・・いやだ！それにノラウィザード1体ぐらい倒せます・・・」

「????」ちようしにのるなあ！やれ、ノラウィザード」

またしてもノラウィザードはライオに突っ込んでいった

ノラウィザード4はパンチの構えをしてそのまま

ノラウィザード4『ガガガーーーーッ』

ドーーーーン

ライオにパンチをした

ライオ「ぐうおおおおおつ……へへっ」

なんとライオはノラウィザードのパンチを受け止めた

????「なっ……うそだろ……ノラウィザードのパンチを……受け止めたと!?!」

するとライオの手には少しでかい砥石があった

ライオ「ふうー……さすが一番値段が高い砥石だねえ……でもこれだけじゃない!くらえ!」

アシッド・エース「(そいえばあの店はカラクリタウンの中でも有名な刃物店だったなまあ一番歴史が長い店って事か……)」

ライオ「くらえ!」

ズボツ

ライオはもう片方の手でもっていた包丁でノラウィザード4を刺したそして……

ノラウィザード4『ガ……ガ……ガ……』

ブシューー

ライオ「これで残りはお前だ!」

????『(あいつ……電波変換しないでノラウィザード1体停止しやがった……面白い)よく倒したそれでは面白い話を教えてやる……』

ライオ「へっお前も倒してやるよ」

ウィンドウ『俺の名はウィンドウ……そして俺はただのウィザードでは……ない!』

アシッド・エース「!」

ライオ「!」

第191話 ライオの決意！（後書き）

次回ウィンドウの正体が！？

## 第192話 ウィンドウの過去

アシッド・エース「（やはりそうだったか・・・ただのウィザードじゃこんな事できないしな）」

ライオ「ただのウィザードじゃなかったらいつたいなんなんだお前は！」

ウィンドウ「俺は昔人間に飼われていた・・・その人間は俺を大切にしてくれた・・・あの事件が起こる前はな！」

ライオ「あの事件？それはどんな事件だったんだ？」

ウィンドウ「いいだろ教えてやるよそのあとにお前を人間を倒す！・・・あれは1年前だった・・・」

（1年前）

その時はウィザードが発売された頃だった・・・

男の子1「よっしゃーウィザードゲットー！」

男の子2「おい俊太しゅんた！お前は手に入れたか？ウィザード！」

俊太「それが・・・買ってこないんだ・・・」

男の子3「じゃーお前は俺達の仲間に入れないな！ウィザードもつてない奴は仲間じゃない！さっさと帰れ！」

「ハハハハハハハハハハ」

俊太「・・・」

俊太は落ち込みそして細い道を歩いていた  
その時だった

『うつつ・・・ぐう・・・』

俊太「！、誰？」

俊太は声のするほうに走ったすると・・・  
そこには1体のウィザードが倒れていた

俊太「君は誰？ウィザード？」

ウィンドウ「俺は・・・ウィンドウ・・・ぐっ・・・」

俊太「大丈夫？そうだ・・・僕の家に来て！」

そしてウィンドウは俊太の家に来た・・・

ウィンドウ「お前は・・・なんで助けたんだこの俺を・・・」

俊太「当たり前だよ困ってる時は助け合うものだよ」

ウィンドウ「そういうものなのか？」

俊太「うん！」

ウィンドウ「・・・そうだな、1つお礼がしたい・・・何がいい？」

俊太「いいの！じゃあ・・・僕のウィザードになって！」

ウィンドウ「ウィザード？・・・ああっいいいぜ！なってる！」

ウィンドウは俊太のウィザードとなった・・・

そして月日が少し流れ事件が起きた・・・

俊太はいつもどおりウィンドウと遊んでいた

その時だった

男の子1「おい！俊太、お前いつウィザード買ったんだ？」

俊太「！・・・」

ウィンドウ「（なんか様子がおかしいなあ俊太・・・）」

男の子2「それにしてもなんだ？このカッコいいウィザードは、俊

太のくせに生意気なんだよ！」

男の子1「ほら！そのウィザードかせよ！」

俊太「いやだ・・・」

男の子3「なら無理やり奪ってやる！」

ドン！

俊太「うわっ」

ウィンドウ「俊太！」

パシッ

男の子1はウィンドウを捕まえた

俊太「はなせっ！ウィンドウをはなせえ！」

男の子3「うるせえんだよ俊太のくせに！」



ドン！ドン！

俊太「いっ……うっっ……ぐうう……」  
ウインドウ『俊太……やめる……やめる……』

「困ってる時は助け合うものだよ」

「そういうものなのか？」

「うん！」

ドン！ ドカツ！

俊太「ぐっ……痛い」

ウインドウ『やめるよ……やめるおーーーッ』

ビュオオオオオオオオオオオオオオオオオオウ

風が強くなっていった

男の子「うわああああ急に風があああああ」

俊太「……」

すると男の子達が逃げていった

ウインドウ『……！、俊太！』

俊太「ひい……来ないで……」

ウインドウ『！？』

俊太「化物……この化物！」

タツ

俊太は逃げていった

ウインドウ『……俊太……信じてたのに……ウヲオオオオオオオオオオオオ！』

ウインドウは叫んだ……

ライオ「・・・そんなことか・・・」

ウィンドウ「裏切ったのは人間が先だ・・・だから俺はもう信じない人間をお！」

ライオ「それはお前が力を使ったからだろ？」

ウィンドウ「だがあの時教えてもらった「困ってる時は助け合うもの」だって言っていた・・・だが俺は助けた・・・しかし裏切られた・・・人間ってのは口だけなんだよ！」

ライオ「・・・たしかに口だけかもしんねえ・・・だが人間の中には口だけじゃない奴も居る！」

ウィンドウ「俺はそんなのしんじねえ・・・お前を倒す！」

ライオ「・・・」

第192話 ウィンドウの過去（後書き）

次回・・・ライオ？対ウィンドウ！

## 第193話 ウィンドウの正体

ライオ「・・・倒せるもんならこの俺を倒してみろ！ただし条件がある俺が勝つたら1つ願いをかなえる！」

ウィンドウ『なまいきな！まあいいその条件をつけよう・・・だがお前が負けたら・・・二度と俺達ウィザードのじゃまをすんなよ』

ライオ「・・・いいぜ」

アシッド・エース「あのバカ・・・」

ウィンドウ『では始めるとするか！』

ビュオオオオオオオオオオオオオオオオ

風が強くなっていた・・・

ライオ「ッ・・・（風がまた強く・・・まあいい）そんだけかよ・・・」

ウィンドウ『強がりやがって・・・ならこれならどうだ！』

ビュウウウウウウウウウウウウオオオオオオオオオオオオ

オオウ

風がさらに強くなっていった

ライオ「くっ・・・うおおおおお！」

ライオは強い風の中一歩一歩とウィンドウに近づいていた・・・

ザッ ザッ ザッ

ウィンドウ『なんだこいつ・・・この風の中では普通に人でも吹き飛ばせるぐらいなのに何故こいつは・・・』

ザッ ザッ ザッ ザッ

ライオ「うおおおくらえ！」

ライオは手に持っていた砥石でウィンドウを殴ろうとした

ウィンドウ『そんなもので俺を倒せねえよ!』

ウィンドウはライオにアタックした

ドゴツ

ライオ『ぐあああああう』

ザザザーーーーーーッ!

ドサツ

ライオ『ぐう……うつつ……』

ウィンドウ『終わったな……!』

ググツ……

ライオ『ぐうう……はあはあ……まだ終わらねえよ!』

ウィンドウ『そいえばまだ俺はただのウィザードではないって言っ

たよな……教えてやるよ』

ライオ『!』

ウィンドウ『俺は……DM星人だ!』

ライオ『!!(DM星人……ブラック・ナイトと一緒に……)』

ウィンドウ『にしてもしぶといなあお前、人間のくせに……次で

とどめだ!』

ライオ『……』

ドカア

ライオ『ぐつ……』

フラツ

ライオは何か立っていたそして

ライオ『おまえさあ……裏切られただけでこんな事してんのか?』

ウィンドウ『?』

ライオ『俺はな……裏切られた事はない、でも裏切られただけで

そんな事するなんて間違っていると思う……』

ウィンドウ『俺の事何を知っている……お前は……』

ライオ『裏切られた事はしらねえよでもな裏切られてそれで人間を

倒すなんてなもし俺だったらできねえよ』

ウィンドウ『なんでだ!』

ライオ「失うって事を知っているからだ！」

ウィンドウ『失う事を知っている・・・？』

アシッド・エース「(ブラック・ナイトの事か・・・)」

ライオ「俺は結構前に1体のウィザードを失った・・・だから俺はそれを知っているからこそ何かに当たったりしない・・・お前はただ裏切られてムカついてるから人間を倒してあのころの事を忘れようとしているだけじゃないのか？」

ウィンドウ『・・・(こいついままでの人間の中で何かが違うよう  
な・・・)』

ライオ「!(すぎが出来た!今がチャンスだ!)」

ザッザッザッ

ウィンドウ『!』

ライオ「すぎありいーいーくらえ!砥石パンチ！」

ドゴッ

ウィンドウ『ぐううーいーっはっ』

ドサッ

ライオ「・・・お前人間をなめていたよなあ・・・でもよお人間だ  
って本気になればウィザードにだって勝てる！」

すると風が弱まった・・・

ウィンドウ『(くそっ風に力をいれてたからもう力がない・・・)』

ライオ「俺の勝ちだな・・・」

第193話 ウィンドウの正体（後書き）

次回、ライオの願いとは？

## 第194話 ライオの願い

ライオ「俺の勝ちだな・・・」  
ウインドウ「・・・」（俺が人間に負けるとは・・・）  
ライオ「じゃあ、俺の願いを聞け！」  
ウインドウ「なんだよ・・・」

その頃・・・

スバル「少し休んだからだいぶ体力が回復したよ」  
ウォーロック「無理すんなよ」

スバル「分かつてる・・・！」

ウォーロック「どうした？」

スバル「ドラグ君だ！」

スバルは少し早歩きでドラグのもとに歩いた

ドラグ「んっ・・・あれ？スバルさんだ・・・」

スバル「よかった・・・無事だったんだね」

ドラグ「うん！・・・ッ！」

ドラグは傷を抑えた

スバル「早くWAXAワクサに戻らないとでもその前にゴン太と暁さんを見つけないと・・・」

その時

弓垂「おいスバルー、ドラグー！」

スバル「あれ！？弓垂！どうしてここに・・・」

弓垂「いやーちよつと助っ人にねえ・・・あとゴン太をつれてきたぜ（重かった・・・）」

スバル「ゴン太！大丈夫？」

ゴン太「・・・ああっ・・・まあ・・・」



スバル「？（なんか様子がおかしい・・・）」  
ウォーロック「となると・・・残るは暁のやつだけか・・・」

そのころ

ウインドウ「お前今なんて言った・・・」

ライオ「だから・・・俺のウィザードになれ！」

ウインドウ「なんで俺が人間のウィザードなんかになんか・・・」

ライオ「おつと拒否るのはだめだぜ？俺は勝つたんだ何でもいう事聞くんたる？」

ウインドウ「ツ・・・チツ分かったよ・・・（また俺・・・

人間に飼われんのかよ・・・）」

ライオ「・・・」

アシッド・エース「無茶するなあライオの奴・・・まあ俺も人の事言えないが・・・」

こうしてライオはウインドウを自分のウィザードにした

ライオ「あつ・・・暁さん俺ちよつとトイレ言ってくるんでウインドウを見張っててください」

アシッド・エース「ああつ分かった・・・」

ライオは暁が見えない所に行った・・・

そして・・・

ライオ「ぐはつ・・・ああ・・・（俺も体の限界かな・・・でもあともう少しのしんぼうだ・・・）はあはあ・・・」

ライオは暁の所に戻ると・・・

スバル「あれっ！？ライオ！」

ライオ「！・・・スバルか」

スバル「なんでここに？」

ライオ「今はどうでもいいだろ！早く暁さんをWAXAに！」

スバル「そうだね」

そして無事20体のノラウィザードを停止してその中の1体ウィンドウを仲間にしたのであった……

そしてWAXAについたスバル達は……

ヨイリー「また動けなくなったの？」

暁「めんぼくない……」

スバル「にしても無事に終わってよかったね」

ドラグ「うん！」

暁「それにしてもよく頑張ったなドラグ」

ドラグ「えへへほめられたー」

スバル「？あれ……」

ライオ「どうしたスバル？」

スバル「ゴン太が居ない……」

ライオ「大丈夫だろすぐ戻ってくるって」

スバル「……」

第194話 ライオの願い（後書き）

次回ゴン太は？

第195話 ゴン太の悩み・・・(前書き)

昨日書けませんでした・・・  
今回はゴン太が荒れる・・・かも

第195話 ゴン太の悩み・・・

(俺は・・・弱い・・・)

ゴン太はWAXAのトレーニングルームに居た・・・

ゴン太「・・・」

ゴン太はトレーニングルームのはじっこで落ち込んでいた・・・  
オックス「ゴン太・・・どうしたんだ落ち込んでよいつものように  
「腹減ったー」とかいわねーのか？」

ゴン太「オックス・・・俺は弱いかな？」

オックス「弱いつて・・・バカを言うなよ！俺達は強いに決まってる  
じゃねーか！急にどうしたんだよゴン太・・・おかしいぞ？」  
ゴン太「強いかな・・・俺も前までそう思っていたけど・・・本当に  
そうなのかな？ノラウイザードだって5体のうち1体も倒せなかつ  
た・・・」

オックス「それやーしょうがねえーよ」

ゴン太「でも・・・スバル達はほとんど1人で倒したんだぜ？それ  
なのに俺は1人でノラウイザード1体も倒せなくて・・・  
俺って・・・必要ないのかな？」

オックス「バカ野郎！！そんなこと言うな！必要ないとか・・・弱  
いとか！」  
すると

スバル「ゴン太！」

ゴン太「……！、スバル……なんのようだ？」

スバル「怪我してるところない？」

ゴン太「平気だ……それをいいに来ただけか？」

スバル「そうだけど……？」

ゴン太「……頼む今は1人にしてくれ……」

スバル「？、なんか悩み事でもあるの？僕に聞かせてよ……」

ゴン太「……いいから1人に……」

スバル「いいからいいから僕に……」

ゴン太「1人にさせてくれよ！！！」

スバル「！？」

ゴン太「……ごめん……でも今は本当に1人になりた

いんだ……」

スバル「……」

スバルはトレーニングルームから出て行った……

ゴン太「……俺は……最悪な奴だ……」

そして……

ドラグ「あっ、スバルさん！ゴン太さんよ様子は？」

スバル「……」

ドラグ「スバルさん？」

スバル「ハッ……なんでもないって……ゴン太は平気って言っ

てたし……」

ウォーロック「（スバルの奴、ゴン太のさっきの一言気にしてるな

……）」

ドラグ「そっかー」

暁「……」

ヨイリー「もう夜の6時だから今日は帰ったほうがいいわ」

ドラグ「わかったー」  
弓垂「よし帰るかー！」  
スバル「・・・うん」

そして家に帰ったスバルは・・・  
スバル「僕・・・悪いことしちゃったかな・・・明日謝ろう・・・」

ゴン太は・・・  
ゴン太「・・・電波変換・・・」

キイイーーーーー！

第195話 ゴン太の悩み・・・(後書き)

次回ゴン太は・・・？



第196話 強くなりたい！

次の日・・・

スバルはゴン太の家の前に居た  
ピーンポーン

スバル「・・・留守かな？」

ウォーロツク『おんまり気にしないほうがいいんじゃないか？』

スバル「でも昨日事しつこくしちゃったから謝らないと・・・」

ウォーロツク『・・・（やっぱり人間つてのは分からんな・・・）』

その時

委員長「あら？スバル君じゃない」

スバル「委員長、ゴン太見なかった？」

委員長「えっ・・・いいえ見てませんわよ？」

スバル「そうか・・・ありがとう！」

委員長「あつ、ちよつと・・・」

そしてそのままどつかに行ってしまったスバル

委員長「・・・行っちゃった・・・一体ゴン太に何の用だったのか

しら？」

そしてスバルはそのままキザマロの家に行った

ピーンポーン

キザマロ「はい・・・ってスバル君じゃないですかあ！」

スバル「ねえキザマロ！ゴン太見なかった？」

キザマロ「ゴン太君ですか？いいえ昨日から見ませんよ」

スバル「・・・分かった！ありがとう」

キザマロ「？」

そのころゴン太は・・・

ゴン太「はあはあはあ・・・こんなんじゃだめだ・・・」

オツクス『ゴン太！もうやめろ！このままじゃ危険だぞ！』

ゴン太の体はボロボロであった

ゴン太「・・・まだまだ・・・俺は強くなりたいんだ・・・電波変換！」

キイーーーーーン

オツクス・ファイア「ウオオーーーー」

そのころスバルはWAXAワクサに来ていた

暁「えっ？ゴン太か？見てないけど・・・サクサク」

スバル「そうですか・・・」

暁「おいスバル・・・ゴン太がどうしたんだ？」

スバル「それが・・・」

数分後・・・

暁「そうか・・・行方不明か・・・」

スバル「はい」

暁「俺は探せないがライオが俺の代わりに一緒に探しに行かせる」

そしてライオが来た

ライオ「よう！スバル・・・」

スバル「ライオよろしくね！」

ライオ「おう！あともちろんウィンドウも・・・」

ウィンドウ『えー！っ何で俺が人間を探さないといけないんだよ

！？』

ライオ「これは命令だ！」

ウィンドウ『・・・へいへい・・・』

そしてゴン太探しが始まった・・・

? ? ? 1 「 . . . そろそろ 「あいつら」 も動き始めるな . . .  
? ? ? 2 「クスクスこれからが本番ね 「ライオーガ」 . . .  
? ? ? 3 「ZZZZZZZZZZ」

第196話 強くなりたい！（後書き）

とつとつ動き出す「あいつら」とは・・・？

そして次回ゴン太探し！無事ゴン太を見つけられるのか？

## 第197話 ゴン太を探せ!

スバルとライオはコダマタウンのいろんな所を探していた  
ピンポーン

スバル「・・・やっぱりまだ家にも帰ってないなあ」

ライオ「もしかしたらよお、コダマタウンにはいないんじゃないか?」

スバル「・・・そうだね・・・じゃあほかの町にも行ってみよう!」  
そしてスバル達はほかの町に行った

そのころゴン太は・・・

ドサツ

オックス「ファイア」はあはあ・・・くそっ! どうして強くなれないんだ! (このままじゃ、委員長、キザマロを守れない・・・)」

オックス「もうやめろ! お前の体が使え物にならなくなるぞ! いいのか!?」

オックス「ファイア」まだだ・・・俺は強くなるまで特訓するんだ・・・」

オックス「・・・強くなりたい気持ちは分かるけどよお・・・体が使え物にならなくなったら意味ねえ! だろ!」

オックス「ファイア」その時はその時だ・・・俺はそれまでの人間だったんだ・・・」

オックス「・・・」

その時だった

キーン!

ゴン太「!、オックス! なんで変身が解けたんだ!?」

オックス「ゴン太・・・今のお前には変身する価値なんてない!」

ゴン太「どういう事なんだ!」

オックス「ゴン太! よく考えるんだな!」

ゴン太「オックス! まっ・・・て・・・」

オックスはその場から居なくなつた  
ゴン太「……………オックス……………」

その頃スバル達は……………

スバル「ここはいいないか……………」

ライオ「そうだな」

スバル達はマジックデパートでゴン太を探していた……………

スバル「そろそろ違う町に……………」

グウ~~~~

スバルのお腹が鳴つた

ライオ「スバル……………腹減つてるのか？」

スバル「う、うん……………もうそろそろ昼だから少しお腹がすいたよ……………」

……………」

ライオ「じゃあここで飯にすつか！」

スバル「そうだね」

ウォーロック「……………ん？」

スバル「どうしたのロック？」

ウォーロック「いや……………なんかオックスの電波が一瞬感じたよう……………」

な……………まあきのうせいかな」

スバル「そうなの？」

ライオ「おーいさつさと飯食いに行こうぜ！」

スバル「うん……………」

オックスはマジックデパートに居た

オックス「……………（ゴン太……………）」

そのころWAXAは……………」

暁「はあ・・・体動けないと不便だな・・・にしても・・・（ゴン太・・・今お前はどこにいる・・・）」

アシッド「シドウ、「あの人」を呼んだらどうでしょう？」

暁「あいつか・・・確かにあいつなら一瞬でゴン太の居場所を当てるが・・・俺あいつ苦手なんだよなあ、なんかずれてるっていうか・・・バカっていうか・・・」

アシッド「しかし、今はゴン太を探すのには「あの人」しかないと思います」

暁「・・・分かった・・・呼ぼう！」

そして・・・数分後・・・

第197話 ゴン太を探せ！（後書き）

次回「あの人」が現れる！

暁が苦手な人って・・・一体・・・？



## 第198話 あの人？

スバルとライオは、WAXAワクサに帰っていた・・・

スバル「暁さん、なんですか？」

暁「・・・あいつが来る・・・」

スバル「・・・あいつ？」

ウォーロツク「もしかして・・・敵か!?」

暁「いや・・・違う俺の知り合いなだけだな・・・」

ライオ「暁さんの知り合いですか・・・」

ウインドウ「あの人間の仲間が来るのか・・・にしてもあの人間からどんよりしたオーラが見えるが・・・なんだあの人って？」  
その時だった！

???「うおおおい暁くうううん！きたよおおお！」

暁「とうとう来てしまったー！ーっ」

スバル「誰なんですか？あの人？」

暁「あいつが俺の知り合い・・・キャッチ・性酢さがすの・・・」

性酢「察知性酢さがすっス！久しぶりだね、暁君」

暁「やつぱり帰ってくれ・・・」

ライオ「（暁さんが追い込まれている！一体何者なんだ!?!）」

性酢「ひっどーい！僕達はあの夜の日「僕達は一生親友だ!」っ

て誓った仲でしょー！っ!?!」

暁「誓っていないし俺達はそこまでの仲ではない・・・」

アシッド「それより連絡したとおりゴン太を探してください」

性酢「OK その前に・・・はい!」

性酢は暁に何かを渡した

暁「なんだこれ？えーと何々・・・」「人を探すにはそれなりに値段があります。人間を探すには値段は3000円です。」・・・

暁から黒いオーラがはつきりと出ていた

性酢「まあまあ僕達は親友だから半額にズカッン」

暁の華麗なるアツパで性酢はぶっ飛ばされた

暁「だから何故金を取る！そして俺達は親友でもなんでもねえーだるこのバカチンが！」

ライオ「（暁さんのキャラが崩壊していく・・・性酢<sup>こいつ</sup>本当に何者なんだ！？）」

数分後・・・

性酢は目を覚ました

性酢「ハッ！ここはどこ？僕は性酢！君は暁君！」

暁「ボケなくていいから頼むぞゴン太探すの・・・」

性酢「OK！その前に1500円を頂戴いたします！」

暁「・・・（話が進まないからなしょうがないか）はい1500円だ！（うまい棒代が・・・）」

性酢「・・・確かに、では！えーとゴン太だっけ？」

暁「ゴン太だ！」

性酢「はいはいゴン太だね？OK！では・・・行けえ！レーザーサ―チ！」

レーザーサ―チ「へい親分！およびかい？」

性酢「そうだ、そして探してほしいのは・・・コダマタウンに住むコダマ小学校の6年生、そしてクラスは6-Aでウイザードは「オックス」FM星人・・・条件はそろったそして最期に、名前は「牛島ゴン太」！」

レーザーサ―チ「OK！俺に任せろ！」

性酢「じゃあ外に出ようか！」

そして皆（暁以外）は外に出た

性酢「よし・・・いいぞ、レーザーサ―チ！」

レーザーサ―チ「OK！レーザー発射！」

ブウウウウン　ピュン　バアアアン

空に打ち上げられたレーザーはバラバラになって散らばった

スバル「あのー・・・性酢さん」

性酢「なんだい？スバルっち！」

スバル「（スバルっち？）気になっていたんですけど、どこでゴン太の情報を・・・？」

性酢「あー・・・ひ・み・つ」

スバル「は、はあ・・・？」

その時！

ピーーーーー

レーザーサーチ『親分！ゴン太って奴の居場所を察知したぜ！』

性酢「そうか・・・場所は？」

レーザーサーチ『えーと・・・クキノタウンの空き地だ！』

スバル「そこにゴン太が・・・」

ライオ「たくつ！ゴン太め・・・見つけたらチョップしてやる！」

性酢「んじゃー僕帰るね！」

スバル「えっ！？一緒に見つけてくれるんじゃ・・・」

性酢「僕はただ居場所を探すだけでゴン太を探すんじゃないもん！」

ライオ「いいからお前も、手伝え！」

性酢「えっ？君誰？」

ライオ「・・・」

スバル「（ライオ、かわいそう・・・さっきまでもずっと居たのに・・・）」

性酢「じゃーねえーーーーっ！暁君によろしくとさようならって言っついてねースバルっちーそして知らない人っちーーーーっ！」

スバル「・・・行こうかライオ、ゴン太探しに・・・」

ライオ「・・・コクリ」

そしてスバルとライオはゴン太の居る所へと向かう！

第198話 あの人？（後書き）

今回出た新キャラ「察知性酢」！

ボケキャラだな・・・完全に・・・

次回はついにゴン太に！？

## 第199話 ゴン太発見！

くクキノタウンく

ゴン太「俺は・・・本当に必要なのか・・・？」

スバルとライオは・・・

スバル「ついた！たしかこの空き地だよね？」

ライオ「にしてもよくこの辺に空き地があるよなー、この時代・・・

スバル「・・・確かに・・・」

ライオ「おっ！あそこに看板が！もしかしたら空き地の場所が書いてあるかもな！」

スバルとライオは看板を見た・・・が、

「東空き地×3」「西空き地」「北空き地×2」「南空き地×2」

スバル「・・・どこだろ？」

ライオ「てか空き地多いすぎるだろ！（計8か所だぞ！）」

スバル「まあ・・・順番にみていこうよ」

ライオ「しょうがねえな・・・」

その頃オックスは・・・

マジックデパートに居た！

オックス『ゴン太の奴・・・俺がせっかく心配してやったのに！』

.....

オックス「でも……つまんないなあ……」

???「みーつけた……オックス……」

オックス「お前は……？」

???「フフフ……」

そのころゴン太は……

ゴン太「……」

スバル「見つけた！」

ゴン太「！……スバル……」

ライオ「たくやつと見つけた……」

ビシッ！

ゴン太「いってー……何すんだよライオ！」

ライオ「うっせーんだよ！お前は何ブラザーに心配させてんだよ！

そしてさっきのは俺達を心配させたおしよきチヨップだ！」

スバル「ゴン太……心配したんだよ？」

ゴン太「……なあスバル、ライオ……俺ってWAXAとかに

必要あるのかな？」

スバル「！」

ライオ「お前……何言ってるんだ？」

ゴン太「だって……俺は弱いし皆の迷惑をかけて……俺って……」

……必要ないのかな？」

スバル「……そんなこと言わないでよ……ゴン太！」

ライオ「そうだ、必要ない奴なんていない、必要ない奴がここに居

たらおかしいだろ？だからお前は……必要あるんだ！」

スバル「そうだよ……ゴン太君は選ばれたんじゃないか……暁

さん達や……オックスに！」

ゴン太「なあ……スバルう……ライオお……俺は強くなれる

のかあ？」

スバル「ライオ」「なれる……！」

ゴン太「うっ……うお……」

スバル「ゴン太……」

ライオ「これで一件落着と……」

その時！

オックス「ゴン太！」

ゴン太「オックス……！」

スバル「なんでオックスが？」

オックス「ある男が教えてくれたんだ……」  
「ゴン太は反省して  
る」

ライオ「ある男って……？」

オックス「たしか……」

「キャッチ・性酔って言ったな……」

マジックデパートでは……

性酔「へっ……仲良くやれよゴン太、オックス……」

そして……

スバル達はWAXAに戻っていった……

暁「戻ってきたかゴン太！」

ゴン太「あの……暁さん1つお願いが……」

暁「なんだ？」

ゴン太「……俺を……弟子にしてください！」

暁「……マジで？」

第199話 ゴン太発見！（後書き）

なんと！ゴン太は暁の弟子になりたいって！？  
次回どうなる・・・？



## 第200話 特訓！（前書き）

とうとう第200話いきました！

これで目標達成しました・・・それで次の目標は・・・

「目指せ！300話」です！

そしてこれからもこの小説を読んでくれたら嬉しいです！

これからもよろしく願います！

## 第200話 特訓！

次の日・・・

暁はやっと動けるようになった

暁「よし始めるぞ！」

ゴン太「おう・・・じゃなく、はい！」

ゴン太は暁の弟子になっていた

それはというと時間はさかのぼり

～昨日～

ゴン太「・・・・・・・・俺を・・・・弟子にしてください！」

暁「・・・・・・・・マジで？」

ゴン太「お願いします！」

暁「・・・・・・・・よし分かった！ただし1つ条件を言う！」

ゴン太「条件・・・」

暁「見てのとおり俺は動けないから10000円やる！」

ゴン太「10000円？」

暁「そうだ、その金でうまい棒を買ってこい！もちろん10000円分だ！」

ゴン太「・・・・・・・・分かりました？」

そしてしばらくたって・・・

ゴン太「買って来ました！」

暁「よし！よくやった！それじゃあ明日から訓練をする！」

ゴン太「えっ・・・今日じゃなくて？」

暁「そうだ、さっきも言ったがみてのとおり俺は動けないからな」

ゴン太「分かりました！」



オックス・ファイアは苦戦していた

アシッド・エース「やはり、オックス・ファイアの弱点は……」

「  
オックス・ファイア「アンガーパンチ！」

ドゴオオオン

アシッド・エース「そんな攻撃じゃ俺には当たらない！」

オックス・ファイア「くそっ……」

オックス・ファイアとアシッド・エースの特訓は続く……

## 第200話 特訓！（後書き）

それではここでオリキャラ募集中！ 第2弾！  
送り方は前回と変わりませんがもう一度説明したいと思います。  
送り方は簡単！

・キャラクターの名前

・性別

・性格

・電波変換するかしらないか

・その他

それと1つ前回と変わった所があります。

1人何回でも送ってもいいって事です

もちろん前回送ってくれた人も送ってOKです！

そして募集中の期間は今年の11月から12月31日までとします。

それではおまちしております！

## 第201話 オックス・ファイア!

オックス・ファイアはいまだにアシッド・エースから一本も取れていなかった

オックス・ファイア「(これが暁さんの力・・・でも)負けない! ウォーーーーーッ!」

オックス・ファイアは突進してきた

アシッド・エース「こんな攻撃じゃ俺の体に傷1つもつけられないぞ!」

オックス・ファイア「ブロロロ・・・ウォーーーーファイアブレス!」

ブオオオオオオウ

しかしやはり当たらなかった

オックス・ファイア「はあはあ・・・まだまだ、ぐっ!」

アシッド・エース「(力の使いすぎだな)今回はこれまでだ続きは明日だ!」

アシッド・エースは変身を解いた

キイン

オックス・ファイア「待つてくれ!俺はまだ・・・」

暁「ゴン太!無理するのは体の毒だ!強くなりたい気持ちは分かる・・・だが無理しても強くなれるとは限らない、今は明日の特訓のため

に体を休めるんだ!分かったな?」

キイン

オックス・ファイアも変身を解いた

ゴン太「・・・分かりました・・・」

そしてゴン太は休憩室に向かった

暁「・・・・・・・・」

そして休憩室

スバル「ゴン太、特訓どうだった？」

ライオ「まあ暁さんはこのWAXAワックスの中では最強だからな！結構きびしんだろっよ？」

ゴン太「・・・それが・・・」

数分後・・・

スバル「そうかあ・・・まあ最初だからしょうがないよ！」

ライオ「でもよおゴン太、弱音だけは言うなよ？弱音をはいたらそれまでって事だからな！」

ゴン太「おう！」

ウインドウ「（はあ・・・人間はなんのために強くなりたいのかねえ？）<sup>㊦</sup>」

ライオ「おい、ウインドウなんか言ったか？」

ウインドウ「なんでもねえよ！（こいつ何故俺の心の声を・・・？）<sup>㊦</sup>」

スバル「ゴン太！明日も頑張れ！僕は・・・この部屋から応援するよ（だって今はトレーニングルームに入るなって言われたからね・・・）」

ライオ「おい！いい事考えた！」

スバル「何？」

ライオ「これから飯くいに行こうぜ！（暁さんも誘っせ！）」

ゴン太「でも俺は・・・」

ライオ「もちろん牛丼屋！」

ゴン太「何時いく？」

スバル「ライオ」（どんだけ牛丼すきななの！？）」

ライオ「まあ・・・今からだから、その前に！暁さんを誘っせ！」

そして偶然にもスバル達の前に居た

ライオ「暁さん！牛丼屋行きませんか！」

暁「わるいな、今からちよつとした仕事があるんだ・・・また今度誘ってくれ」

ライオ「分かりました」

そして3人は牛丼屋に行きました

ゴン太はいつもより少なめで4杯（大盛り）しか食べませんでした・

・

そして今後について話し合っていた

スバル「ゴン太が無事特訓クリアしたら、どんだけ強くなるんだろ？」

ライオ「さあなきつとロックマンよりも強くなってたりして」

ゴン太「よせよお照れるじゃないか！」

「ハハハハハハハハ」

そして・・・

スバル「じゃあねゴン太！ライオ！」

ゴン太「おう！今日はサンキューな！」

ライオ「また明日！」

3人は家に帰っていった

夜の11時・・・

ゴン太「明日こそ絶対・・・ZZZZZZZZ」



「????」もうロックマンは獲物じゃなくなった……次はソロお前が獲物だ！」

第201話 オックス・ファイア！（後書き）

ソロの事を知っている人物・・・もしかして？  
次回は特訓2日目だぁ！お楽しみに

## 第202話 特訓2日目！

〈特訓2日目〉

オックス・ファイア「よしっ！やってやる！」  
アシッド・エース「準備ばできたか、じゃあスタートだ！」

その頃休憩室では……

スバル「暇だな……ゴン太は今頃どうなってるのかな？」  
ウォーロック「まあゴン太のことだ、苦戦してるだろ」

スバル「そうかな？……あれ？」

小さい机の上に紙がおいてあった

スバル「なんだろ？あの紙？」

ウォーロック「見てみようぜ？」

スバル「だっ、だめだよロック！そんな事しちゃ……」

しかしウォーロックはかつてに外に出て紙を見ていた

スバル「だからだめだっ！」

ウォーロック「おいスバルこれ……」

スバル「はあ……まあ僕も気になるからちよっただけ……」

スバルは自分に負けた……

そしてスバルはその紙をみた

すると……

スバル「！これは……」

トレーニングルームでは……  
オックス・ファイア「はあはあ……」

アシッド・エース「どうした？まだ10分しかたつてないぞ？」

オックス『ゴン太、おちつくんだ！』

オックス・ファイア「はあはあ（このままじゃ昨日の一緒になっちまう・・・どうすれば？）」

アシッド・エース「（しょうがない・・・）オックス・ファイア！  
今から言う事をよく聞くんのだ！」

オックス・ファイア「？」

アシッド・エース「お前は甘い！」

オックス・ファイア「！？」

アシッド・エース「まだたくさんあるがそれがお前の弱点の1つだ  
！」

オックス・ファイア「俺は本気・・・」

アシッド・エース「いいや、本気じゃないそれにお前は心の中で思  
っているはずだ・・・」「味方だから本気で戦えない」「どうせ本気  
でやっても勝てない」とかな

オックス・ファイア「！？」

アシッド・エース「それにお前は甘さを捨てない限りお前の仲間は  
守れない！」

オックス・ファイア「・・・俺は

・・・

（スバル・・・キザマロ・・・委員長・・・）

・・・  
本気だ！！！」

ポオウ！

オックス・ファイアの炎が大きくなった

アシッド・エース「フツ・・・良い炎だ！さあ来い！」

オックス『これは？ゴン太・・・成長したな』

オックス・ファイア「ウオーーーーーー（俺が皆を

・・・

アシッド・エース「今度はこっちから！」

アシッド・エースはオックス・ファイアの後ろに移動していた  
アシッド・エース「ウイングブレード！」  
ガシッ

アシッド・エース「！」

オックス・ファイアはアシッド・エースの剣を掴んで止めた

オックス・ファイア「ウオー！くええ！アンガーパンチ！（……

守るんだ！）」

ドゴオン！

アシッド・エース「ぐはっ……よくやった……オックス・フ

アイア……いや牛島ゴン太！」

キイン

オックス・ファイアは変身を解いた

ゴン太「……やった！」

**第202話 特訓2日目！（後書き）**

とうとう第一の特訓成功！

次回は第二の特訓だ！

## 第203話 第二の特訓！

ゴン太はとうとう第一の特訓にクリアした、そして次は第二の特訓に挑戦する・・・

第一の特訓をクリアして数分後・・・

ゴン太「モグモグ、あゝ・・・なんかいいな！クリアした後の飯はうまい！！」

スバル「でもよかったね、最初の特訓クリアして！（ゴン太よく食べるな・・・もうあれで5杯目・・・）」

ゴン太「よしこのまま第二の特訓もクリアするぞ〜っ！」

スバル「がんばってね！」

ゴン太「あれ？ライオはどうした？」

スバル「そいえば今日1回も見えてないなあ・・・」

暁「おいゴン太！次の特訓やるぞ！」

ゴン太「オッ・・・はい！」

そしてゴン太はトレーニングルームに向かった

スバル「僕はライオ探してみよう！（暇だし！）」

ウォーロック「そうだな（暇だし！）」

そしてスバルはライオを探しに休憩室から出た

その頃トレーニングルームでは・・・

暁「よし！始めるか！」

ゴン太「あの〜、暁さん・・・何をするんですか？」

暁「おっと、まだいつてなかったな！今回は・・・シンクロアップだ！」

ゴン太「シンクロアップ？」

暁「では、説明するぞ！シンクロアップってのはゴン太とオックスの合体するシンクロ率

アップさせる特訓だ！」

ゴン太「たしかシンクロ率って俺とオックスのシンクロ率が高ければ力も上がるっていう……」

暁「そうだ！そしてお前のシンクロ率は今100%としよう、そのシンクロ率をもっと上げる特訓、それがシンクロアップ！」

ゴン太「でもよお、本当にできるのかな？」

暁「よし……じゃあシンクロ率100%を越えた者を教えよ、まずはロックマンだ！ロックマンの平均は100%だがウォーロックの中にある「ライオーガ」の力をつかう事で100%から150%……いやそれ以上かもしれない、そしてもう1人はフェニックス、フェニックスはロックマンと違って平均は80%だが「ドラグーン」の力でシンクロ率をアップする……」

ゴン太「でも……オックスにはライオーガやドラグーンの力はないし……」

暁「いいや、オックス……いやFM星人には「すごい能力」がある……」

ゴン太「すごい能力？」

暁「そうだ……俺はヨイリー博士に頼みFM星人を詳しくしらべさせてくれたんだ……もしたらな分かったんだ……」

ゴン太「だから何だよその能力って……」

暁「……「コントロール」だ！」

ゴン太「コントロール……？」

暁「そうだ、コントロールってのは人間をあやつる……つまりゴン太が昔操られてたようにな！」

ゴン太「？」

暁「つまりこの能力を使えばシンクロ率を上げられるってわけだ！（だがこの能力を利用したシンクロ率アップは危険だがな……何も怒らなければいいが……）」

ゴン太「じゃあ早速やるぞ！オックス！」

オックス「おう！」

キィーイーーン



オックス・ファイア「ウォーリーじゃ始めるぜ！オックス！」  
オックス「おう！」

暁「おっと、そのまえに注意してく……ちゃんと自分の意思をたもてよ！」

オックス・ファイア「おう！やるぜ！」

オックス「よしっやるぜ！プロロロロロロッ！」

クラッ……

オックス・ファイア「あれ……なんだろう……意識が……  
少しずつ……薄れて……」

オックス「（このままじゃゴン太が！）起きろ！ゴン太！」

キーン！

ゴン太「！、俺は……」

暁「やはり相当難しいか……しかしこれをマスターしないとシンクアップは出来ないしな……」

第203話 第二の特訓！（後書き）

そうとう難しいゴン太のシンクロアップ！  
果たしてゴン太は見事マスターできるのか！？

## 第204話 シンクロアップ！

特訓第二段階をやり始めてから数時間がすぎた・・・

ゴン太「ゼーゼーゼー」

暁「（やはり今日中にはできそうにないか・・・）ゴン太今日の特訓は終わりだ、明日の特訓のために体を休ませておけ！」

ゴン太「は・・・はい・・・ぜえぜえ・・・」

そのころスバルは・・・

スバル「ぜえぜえ・・・そいえばWAXAワクサの建物を直した時にWAXAの中にいるんなトラップを設置したんだった、僕は覚えてたけどロツクが・・・」

ウォーロツク「すまねえ・・・スバル・・・」

スバル「まあライオならきつとどこかに居るから平気か、早く休憩室に帰って・・・休みたい！」

そしてスバルは休憩室に戻った

その頃暁は・・・

暁「さてと、仕事しないとな・・・」

すると、どこからか大きな音が聞こえた

ドオン ドオン ビュオウ！

暁「（なんだ？この音は・・・行ってみよう！）」

暁は音のするほうえ向かった、そしてその音のする所は・・・

暁「・・・トレーニングルーム2号室・・・」

すると音が聞こえなくなった！

暁「入ってみるか・・・」

ウィーン ガシャン！

扉が開いて暁なトレーニングルーム2号室に入った・・・

しかし中には誰もいなかったが・・・

暁「！、これは……」  
なんと暁の目の前にとんでもない事が……  
暁「ありえない……トレーニングルーム2号室はちよつとやちよつとじゃボロボロになんかならないのに……なんだあの傷は！」  
そう暁の目の前には壁に鋭い傷跡や刃物でできた傷跡がたくさんできていた……  
暁「一体誰が……」

その頃休憩室では……  
スバル「あつ、ライオ！」  
ライオ「よお！スバル！」  
スバル「どこ行つてたの？」  
ライオ「いや、ちよつとお買い物つーか……まあそんなあたりだ！」  
スバル「そうなんだ……」  
ライオ「おや？そいえばゴン太は？」  
スバル「まだここには戻つてきてないけど……」  
ライオ「そうか……じゃあゴン太の所に行こうぜ！」  
スバル「うん！」  
そしてスバルとライオはトレーニングルームに向かっていった……その時だった！  
ライオ「おい、誰か倒れてるぞ！」  
スバル「本当だ、あれは……！」  
ライオ「あれつてまさか……」  
スバル「……ゴン太！」

ピーポーピーポー

ゴン太はその日病院に入院した・・・

第204話 シンクロアップ！（後書き）

ゴン太とうとう倒れてしまった・・・  
次回ゴン太は無事なのか？そして特訓は・・・

第205話 悲劇の真実・・・

「それで先生、ゴン太はいつ病院から退院できますか？」

「そうだねえ・・・一週間後かねえ・・・」

「そうですか・・・」

「でも退院した後も激しい運動やなるべく精神を使わないようにしないとねえ」

「そうですか・・・」

「それと牛島君はどうかやら疲れや睡眠不足がありますね、それで退院した後一ヶ月間は安静にしてくださいね」

「分かりましたそう言っときます・・・」

「それとですねもし牛島君が無理をすると・・・」

「・・・！！」

その頃ゴン太の病室では・・・

ゴン太「はぁ・・・まさか病院に入院するとはなぁ、これじゃあ特訓できないや・・・」

スバル「まあ、しょうがないよ退院すれば特訓をすぐにやればいいじゃん」

ライオ「そーそー、だから今はしっかり休まないとまた倒れるぜ！」  
ゴン太「そうだな！」

すると・・・

ガララー

スバル「！」

委員長「おみまいよゴン太！」

ゴン太「委員長~~~~~！」

スバル「（すごいお見舞いの数だ・・・）」

キザマロ「大丈夫ですかゴン太君？」

ゴン太「大丈夫じゃないけど元気だぜ！」

スバル「それにしてもよくゴン太がこの病院でここに入院してるって分かったね」

委員長「女のかんよ！」

ライオ「（女つてすげー・・・って関心すんなよ俺・・・）それにしても曉さんが戻ってこないな」

スバル「たしかに遅いね曉さん」

委員長「あつ、そろそろだわ・・・ゴン太、しっかり食べて早く退院しなさい！それじゃあ私は行くところがあるので・・・」

キザマロ「あつ！待ってください委員長！」

ゴン太「・・・（早く退院して特訓して委員長達を守れるようにならなくちゃ・・・）」

ガララー

また誰かがこの部屋に来た・・・



ライオ「！、暁さん！」

暁「お、おう遅くなったな・・・」

ゴン太「暁さん！」

暁「なんだゴン太？」

ゴン太「退院したらまた特訓をすぐにやらせてください！」

暁「・・・その事なんだが・・・」

ゴン太「？」

暁「・・・しばらく特訓はやらない！」

ゴン太「！！？」

スバル「・・・それって・・・」

ライオ「暁さん、それってどういう事ですか？」

暁「ゴン太は、疲れや寝不足で体力の限界だ・・・だから一ヶ月間は休んでるんだ」

ゴン太「でも俺は、早くもっと強くなりたいんです！」

暁「・・・ゴン太先生が言っていた・・・」

「それとですなもし牛島君が無理をすると・・・牛島君は二度と自由を動けなくなってしまうです」

「・・・・・・・・・・・・・・・・！！」

暁「・・・こう言ってた・・・」

ゴン太「そんな・・・」

第205話 悲劇の真実・・・（後書き）

なんという事だ・・・一体これからゴン太はどうなるのか？  
次回をお楽しみに！

## 第206話 特訓が出来ない日々・・・

夜の7時・・・

スバル達は家に帰っていた・・・

その頃ゴン太は病院にいた

ゴン太「・・・・・・・・・・」

オックス「おい、ゴン太そう落ち込むなって・・・」

ゴン太「・・・・・・・・・・」

オックス「・・・・・・・・・・（ゴン太・・・）」

その頃スバルは・・・

茜「そうなの・・・大変ね、ゴン太君も」

スバル「はあ、ゴン太落ち込んでなきやいいけど・・・」

大吾「たぶん平気だろ、FM星人のオックスだっているんだろ？心配する事じゃないさ」

スバル「・・・・・・・・うん」

ワックス  
WAXAでは・・・

暁「（あのやり方ではきつかったか・・・やはりこのやり方は、やめるしかないな・・・すまなかつたゴン太）」

ライオ「暁さんご飯ツスよー」

暁「わかつた今いく！」

ライオ「・・・・・・・・・・」

そして一週間後・・・

ゴン太は退院したが激しい運動をしてはいけなかった・・・

スバル「ゴン太！退院おめでとー！」

ライオ「よろこべー！あの有名な牛丼屋の無料券ゲットしたから一緒

に行こうぜ！」

ゴン太「……………」

スバル「……………ゴン太……………」

ライオ「……………なァーにあと三週間だろ！？そんなのあつというま  
だぜ！だから……………」

ゴン太「……………」

ライオ「だから……………今は安静に……………しろよ……………な……………」

ライオは思った……………ゴン太は2人の言葉を聞いていないと……………

ゴン太「……………ごめん……………」

ゴン太は家に帰ってしまった……………

ライオ「待てつゴ……………ン太……………行っちゃまった……………」

スバル「しょうがないよ……………今はそつとしとこうよ……………」

ライオ「……………」

2人はWAXAに向かった……………

その頃WAXAでは……………

暁「……………しかたない……………」

アシッド『しかしいんですか？シドウ……………』

暁「何がだ？」

アシッド『牛島ゴン太の事です……………』

暁「……………だからそのための「旅」だろ？」

アシッド『そうでしたね……………』

そのとき

ライオ「暁さん！」

暁「ライオ！お前ゴン太のところにいたんじゃ……………」

ライオ「暁さんその荷物って……………」

スバル「……………もしかして、もう一つのシンクロアップする方法  
を取りに行くんですね？」

暁「なんでその事を……………」

スバル「少し前に休憩室で見たんです……………その紙に書いてあった

のは・・・」  
ライオ「何それ？」

それは一週間1日前・・・  
スバル「！これは・・・」

そこには沢山の特訓方法が書いてあった・・・

スバル「すごい・・・」

ウォーロツク「こんなに描いてあるとな・・・あれ？スバル一番下の方を見ても」

スバル「えーとなになに・・・」「シンクロアップの方法は今の所2つのやり方がある、1つはFM星人の能力「コントロール」を使いシンクロ率を上げる方法、しかし危険すぎる方法だ、そして2つ目は。アメロツパにある「炎の結晶」があるそれをゴン太にあげればシンクロ率は上がるが、その「炎の結晶」はどうも電波体では入れないといわれてる所にあるらしい・・・もし1つ目の方法がだめだった時は、「炎の結晶」を取りに行く・・・」って・・・すごく詳しく書いてある・・・暁さんすごく必死だね・・・」  
ウォーロツク「「炎の結晶」か・・・なんかすごそうだな・・・」

スバル「どうですか？」

暁「ハハハ、まさか勝手に見られるとな！」

スバル「いいえ、ロツクが勝手に見ただけで・・・」

ウォーロツク「なっ、スバルだって気になって一緒にみてたじゃねーか！」

ライオ「じゃあ、暁さん・・・」

暁「そのとおりだ・・・三週間後には戻ってくる・・・俺はアメロツパに行ってくる、それとゴン太に言っといってくれ・・・」「俺は絶対にゴン太を強くさせる」ってな！」

ライオ「俺に任せてください！」

暁「ああっ！たのんだぞライオ・・・じゃあ行ってくる、お土産も買ってくるからな！」

ライオ「はい！暁さんおきよつけて！」

そして暁はアメロツパに向かった・・・

第206話 特訓が出来ない日々・・・(後書き)

次回もお楽しみに！

第207話 ゴン太(前書き)

いや〜昨日書けなかった・・・



## 第207話 ゴン太

その頃ゴン太は自分の家に居た・・・

ゴン太はベットで横になっていた・・・

ゴン太「・・・・・・・・」

「・・・・・・・・しばらく特訓はやらない！」

「それとですねもし牛島君が無理をすると・・・

牛島君は二度と自由に体を動けなくなってしまうです」

ゴン太「・・・・・・・・ちくしょう・・・・・・・・」

オックス「（さすがにゴン太も苦しいか・・・なんとかしたいが俺には何も・・・・・・・・）」

### ピンポン

ゴン太「！」

その頃外では・・・

ライオ「おいゴン太ー、出て来いよー・・・・・・・・」

スバル「・・・・・・・・出てこないね・・・・・・・・」

ライオ「おいゴン太！お前の気持ちはわかるけどよ・・・・・・・・これはしょうがない事なんだ！たとえ一ヶ月の間特訓できないぐらいで落ち込むなよ！」

ウインドウ「（やっぱり人間って生き物はわかんねえな・・・・・・・・）」

スバル「・・・・・・・・暁さんは今アメロツパに向かっているよゴン太・・・・・・・・」

「

ライオ「そうだ、それもお前のために！」

ゴン太「（暁さんがアメロッパに・・・それに俺のために・・・）」

ライオ「・・・まったく、しょうがねえな・・・おいゴン太！今から出て来い！俺と・・・」「ブラザー」になれ！」

ゴン太「！」

ライオ「・・・たとえな、特訓できないくらいで落ち込むなよ・・・お前はそう簡単に弱音をはく野郎だったのか？お前強くなりたいたいんだろ？だったら今のまま、ずっと弱音をはいて強くなるのか？そんな奴はどんなに特訓しても強くなれねえーよ！」

ゴン太「（・・・・・・・・・・）」

ライオ「それにお前悔しいだろ？だったらその悔しさを三週間後にすべてぶつければいい！そうだろ！？」

ガチャ

スバル「！」

ライオ「！」

ゴン太「サンキューなライオ・・・スバル・・・俺、目を覚ましたぜ！」

ライオ「へっ・・・んじゃーゴン太「ブラザー」になるうぜ！もちろんスバルもだ！」

スバル「えっ・・・うん」

こうして3人はブラザーとなった・・・

ライオ「じゃあ牛丼屋に行こうぜ！」

ゴン太「おう！」

スバル「うん！」

3人は牛井屋に行った・・・

久々の・・・おまけ！

「そいえば・・・」

作者「どーもー作者のレッドスターです いや、久しぶりに「おまけ」ツス！さて所でこの小説を見ている方・・・1つや2つ気になつていた事とかありませんか？今回はその気になる中の1つを教えましょう・・・それでは・・・」

お題「ライオ」

作者「なんかライオの性格が変わつたつていうか・・・もう完全にいい役キャラですね！（作者もビックリです！）しかし何故こんなキャラになつたて言うそれは（たぶん）本編に出ると思います・・・（でなかった場合「おまけ」か「番外編」ででると思います）それにしても今回の本編も、もう普通に「じゃあ牛井屋に行こうぜ！」とか言っていますね・・・さて今回の「おまけ」はここまで！今度はいつやるかわかりませんが・・・次回があったら・・・お楽しみ！」

第207話 ゴン太(後書き)

今回は久々の「おまけ」ツスね・・・  
次回もお楽しみに！

第208話 三週間

暁がアメロッパに行つてから一週間がすぎた・・・

ゴン太は特訓を今はやめている・・・

そして今の時刻7時・・・

その頃ライオは・・・

ライオ「暁さん・・・まだかなあ・・・」

ヨイリー「あと二週間でしょライオちゃん、心配しなくても平気よ」

ライオ「うん、そうだよな、暁さんならきつとうまい棒を食べながら

戻つてくるよな！」

ヨイリー「さあライオちゃん、朝ごはんよ」

ライオ「よしこれ食つたらゴン太の家にも行つてくるか」

そしてこの頃ゴン太は・・・

ゴン太「モグモグうめーっ！」

オックス「ゴン太！今日はよく食うな！」

ゴン太「何言つてんだまだ」超・ビッグハンバーガー<sup>スペシャル</sup>を7個しか

くつてねーぞ！」

オックス「そうかまだ7個か・・・」

ゴン太「オックスも食うか？最近発売した「電波バーガー」ってや

っ」

オックス「おう！貰うぜ！」

その頃スバルは・・・

スバル「ぐうぐう・・・」

ウォーロツク「朝だスバル！」

スバル「ぐうぐう・・・」

ウォーロツク「・・・起きろよ・・・」

スバル「ぐうぐう・・・もう食べられない・・・」

ウォーロツク『……ウォ〜ロツク〜〜パ〜ンチ！』  
ドスツ

スバル「ぐええ……痛い……ってロツク……なんで僕のお腹  
にパンチを入れないでよ……」

ウォーロツク『いや〜なかなか起きなくてな！』

スバル「（さいきんロツクの起こし方が怖くなってきた……）  
すると……」

茜「スバルー？起きたのー？もう朝ごはんできてるから食べなさい！  
い！」

スバル「はい……はあまだお腹に違和感が……」

そしてスバルは朝ごはんを食べに行った……

そして時間がたち、朝10時……

ピンポーン

ガチャ

ゴン太「よう！ライオおはよう！」

ライオ「ようおはようさん、じゃあスバルの所いこーぜ！」

ゴン太「おう！」

そして2人はスバルの家に来た

ピンポーン

ガチャ

スバル「ぜえぜえ2人とも……おはよう……」

ライオ「どうした？スバル？まさか敵……？」

スバル「ち、違う……ただロツクが……」

1時間前……

ウォーロツク『よしスバル、俺達もゴン太に負けてらんないしな  
！特訓だ！』

スバル「えっ……でも」

ウォーロック『よし俺はこの棒を持つ、お前はこっちの青い棒に  
もて!』

スバル「ええええええ!?!もうやるぜんていなのか!?!」

ウォーロック『いざ!真剣にしようぶ!』

スバル「ひいひい」

そして今にいたる・・・

ライオ「・・・大変だったな・・・」

スバル「うん・・・」

ゴン太「なあとどこ行く?」

スバル「僕はどこでも・・・」

ライオ「んじゃーそのへんぶらぶらするか!」

ゴン太「おう!」

スバル「うん!」

その頃・・・

???1「・・・やはり「ライオガ」の所に来ないかあの生き残  
りは・・・」

???2「まったく、あいつ「ソロ」って奴の所に向かうなんて、  
計画失敗だわ!」

???3「ZZZZZZZZZZ」

???1「だったら「失敗」を「成功」にすればいい・・・」

???2「どうするのよ?」「失敗」を「成功」にするなんて難しい  
わ!」

???1「いや、簡単さ・・・なんとって・・・「ソロ」を利用  
すればいい話・・・」

???2「・・・でもさあ、どうやって利用すんのよ?」

???1「それは

だ

「！」  
「???2「クスクス、なるほどね・・・それなら絶対ね・・・」  
「???1「・・・ニヤッ・・・」



第208話 三週間（後書き）

ソロを利用する？

果たしてどうなってしまうのか？

次回は、スバル達は遊びまくり！

## 第209話 映画は何を見る？

その日スバル達は映画館に来ていた・・・  
しかし・・・

ゴン太「だから、「世界の牛丼」全国編」を見るんだ！」

ライオ「なんだとー？いいや絶対に「男の守るべき青春！」だろ！  
牛丼なんて食べばいいじゃねーか！」

ゴン太「へへーん、この映画を見るとなんと！牛丼の香りのキーホルダーをもらえるんだぜ！」

ライオ「なっ・・・そんな事で・・・こっちなんか強い男になれる  
秘伝書がもらえるんだぜ！？いつ香りが消えるか分からないキーホルダーよりこっちの秘伝書ならいくらでももつよーだ！」

ゴン太とライオの間に激しい火花がたつていた・・・  
スバル「2人ともやめなよお・・・」  
ウォーロツク「あの2人、ガキっばいな・・・」

ゴン太「絶対」世界の牛丼」全国編」！」

ライオ「いいや絶対の絶対」男の守るべき青春！」だあーっ！」

スバル「（だめだ・・・2人とも僕の声聞こえてない・・・）」

ゴン太「ライオ」「ぐぬぬ、だったら！」

スバル「（なんか嫌な予感がするからここから逃げ・・・）」

ゴン太「ライオ」「スバル！お前が決める！」

スバル「えっ？えっ？・・・ええええええ！」

・・・となつてしまった・・・そしてスバルが選んだ映画とは・・・  
？

「そうあれが火星だよ、今からあの火星に行くんだ」

「やだよー、この地球から離れたくないよー」

「……しかた……ないんだ……」

ゴン太「……………」

ライオ「……………」

スバル「わああすごいリアルだあ」

スバルが選んだ映画は……「僕らは地球が大事」って言う映画を見ていた

この映画はいろんな星がでるので今人気の映画である……

そして映画が終わった……

スバル「最期いい話だった」

ゴン太「（つまんなかった……）」

ライオ「（なんか地球を大切にしないといけない感じがした……）」

ウォーロック「ゲウ……」

そしてまた始まった

ゴン太「よし次こそ「世界の牛丼〜全国編」を見るぞーっ

！」

ライオ「いいや、次こそ「男の守るべき青春！」だ！」

ウォーロック「……おいスバルあの2人止めなくて……」

スバル「楽しかったー」

ウォーロック「（スバルもだめだな……）」

スバルは今も映画の事を思い出していた……

しかし2人の言い争いは続いているのであった……

そして今……この言い争いを止める者がいた……それはーっ！っ！

ウォーロック「じゃあ、見たい映画を1人で見ればいいんじゃないね？」

ゴン太「ライオ……」

「っ！」

ウォーロツクは2人の言い争いを解決した・・・  
ウォーロツク「・・・バカだろあの2人・・・」  
スバル「いい話だったなあ」

そして数分後・・・

ゴン太「はあ、面白うまそうだった・・・」

ライオ「なんか・・・燃えるぜ・・・」

スバル「よかつたね2人とも・・・」

ライオ「おおつ、スバルやつと夢の国から戻ってきたか！」

スバル「えっ？あ・・・うん・・・」

ゴン太「よー！ー！今から牛丼食べに行くぞー！」

スバル「えええっ！？もう帰ろうよ！」

ライオ「いいぜ！男なら絶対食べる！」

スバル「・・・」

スバルは思った・・・「もう、勘弁して」と・・・

第209話 映画は何を見る？（後書き）

次回もお楽しみに！

## 第210話 ライオとウィンドウ

暁がアメロツパに行つて約二週間すぎていた・・・

そしてWAXA<sup>ワクサ</sup>では・・・

ライオ「よし今日こそ・・・ウィンドウ!」

ウィンドウ「だから・・・俺は人間のウィザードになろうと人間の  
いう事なんて聞かぬよ!」

ライオ「いいや!今日こそ俺のいう事聞いてもらつからな!じゃあ  
・・・まずは・・・」

ウィンドウ「俺はいう事聞かな・・・」

ライオ「ゴミを捨てて来い」

ウィンドウ「俺の言つてた事聞いてたか!?それとなんでこの俺が  
ゴミをすてなきやならぬんだよ!」

ライオ「クハハハ残念だったなお前は俺のウィザード・・・それに  
だウィザードは主人のいう事を聞け・・・なあ?ウィンドウよ・・・

」

ウィンドウ「ムカつく主人だな・・・だが!やっぱり俺は人間のい  
う事を聞くのはごめんだぜ!」

するとウィンドウはWAXAから出て行つた・・・

ライオ「あつ、おい待てよ!どこ行くんだよ!」

ウィンドウはどこかに行つてしまった・・・

ライオ「・・・はあ、やれやれだな・・・」

そしてウィンドウは・・・

ウィンドウ「やっぱ、俺は自由のほうがいいぜ!あの人間もいない  
しな・・・」

その時ウィンドウはあの時の事を思い出していた・・・

「俺のウィザードになれ!」

ウィンドウ「……ケツせつかく自由になったのに、俺は何を思い出してるんだよ……」

ウィンドウはそのままコダマタウンに向かっていた……

そして今コダマタウンでは……

スバル「くうー……なんたるやっぱり1人だとラクだなあ……」  
ウォーロックは、今どこかの電波空間でウイルスを倒して体を鍛えているのであった……

それにゴン太は牛丼大食い大会にでていてコダマタウンには今はいない……

だから今スバルは1人なのである……

スバル「にしても平和だなあ、最近ノラウィザードも現れていないし……このまま平和が続くといんだけどなあ……」

スバルは空を見上げた……すると!

ウィンドウがいたのであった……

スバル「あれ?あれって……ライオのウィザードだ……なんでここに?」

すると足音が聞こえてきたしかも早い……

タタタタタッ

スバル「ん?あつライオ……」

ライオ「よう!スバル!……つてあいさつしてる場合じゃねえ……

・スバル、ウィンドウ見なかったか?

スバル「えーと……たしかあつちに……」

ライオ「サンキュー!じゃあまたな!」

ライオは行ってしまった……

スバル「……?」

ライオは追い続けた……そしてとうとう!

ライオ「あつ!見つけたぞウィンドウ!」

ウィンドウ『チツあの人間め！へっいいだる俺は逃げ切るまでだ！』  
ウィンドウは飛ぶスピードを上げた！

ライオ「何つくそっこれじゃ走つてもおいつかねえ・・・」  
その時だった・・・

チャリーン

通りすぎりの人「やっぱ最新の自転車」「こがなくていいよ自転車」  
は快適・・・」  
すると

ライオ「その人！その自転車かりるぜええ！」  
通りすぎりの人「え・・・？」

そして・・・

通りすぎりの人「だれかー！変な子供が僕の自転車をー！っ」  
そしてライオは・・・

ライオ「追いついたぜ！ウィンドウ！」

そしてウィンドウが止まった

ウィンドウ『しつけえな！お前！』

ライオ「そりやーどーも・・・さあ戻つて来い！」

ウィンドウ『いやだね！もうこりごりなんだよ！人間に飼われるの  
は・・・いつ裏切りかどうかもわかんねえやつなんか・・・』

ライオ「おまえさあ・・・まだ言ってるのかよそんな事を、それに  
俺は裏切らないしな・・・」

ウィンドウ『嘘だ・・・俺は、もうやだんだ、あんな苦しみはもう  
・・・』

ライオ「だったら1つ聞く俺としばらく一緒に居て苦しかったか？  
裏切ったか？」

ウィンドウ『！・・・』

ライオ「人つてもんはたとえ同じに見えても「心」<sup>な</sup>は違うものなん  
だよ・・・それにお前人間に復習するって言ってたよな？だったら  
何故しなかった、俺はいつもすきを与えてた、なのになんで俺が居  
た時に復習をしなかった！」



ウィンドウ』……」

ライオ「お前はもう気づいてるはずだ……人間には悪い奴もいれば、良い奴も居るってな……」

ウィンドウ『うるせえ！黙れ……黙れよ！お前に俺の何が分かるってんだ！』

ライオ「……分かるさ……」

ウィンドウ『！？』

ライオ「なんたつてお前の「主人」だからな！」

ウィンドウ『！！（なんでだろう……いままでこんなに人間と話したことがない……けど、こいつならこいつのウイザードになってもいいかな……）ケツ……分かったよ……お前の所に戻ってやるよ……ライオ！』

ライオ「へへっ、じゃあ帰るか……WAXAに！」

ライオとウィンドウはWAXAに戻っていった……だが……

通りすがりの人「オヨヨ、僕の自転車が戻ってこないよおお……まだ買ったばかりなのにオヨヨ……」

第210話 ライオとウィンドウ（後書き）

心を開いてくれたウィンドウ・・・今後の活躍に目が離せない・・・  
かも。

次回は、ある大会が・・・？

## 第211話 ウィザードバトル大会！

ここは星河家・・・

そして星河スバルはいつもどおりにテレビを見ていた・・・

『・・・・・・それではCMに入ります』

ウォーロツク『あ~~~~っ戦いてえ~~~~っ!』

スバル「じゃあいつもみたいはどこか電波空間にでも行って戦って  
くればいいじゃん」

ウォーロツク『それじゃあだめなんだよ!ウイルスとも戦ってもウ  
イルスはザコばかりでぜんぜん本気が出せないんだよ!』

スバル「ふーん」

その時!

テッテレーテテテッテレー

『テレビの前のちびっ子!そして少年少女達よ!明日開幕する「ウ  
ィザードバトル大会」に出てみないか?しかもいろんな国からも人  
がくるよ!出たい人は受付は今日まで!皆、待ってるよー!』

ウォーロツク『・・・・これだ・・・・オレもこの大会にでる!』

スバル「へえ~~~~ってええええ!?本気なの!?」

ウォーロツク『俺は本気だ!なあスバル、でよーぜ?』

スバル「えー・・・・はあ、分かったよ・・・・」

こうしてスバルは大会の受付をした・・・

そしてとうとうこの日が来た・・・

ザワザワ

スバル「うわ~~~~人が沢山いる・・・」

ウォーロツク『くう~~~~っ楽しみだぜ!』

????「あれ?お前スバル?」

スバル「えっ?」

刃「よう！俺だ人だよ！」

スバル「刃！」

覚えてる人もいるだろうとりあえず説明しようこの人は「ちていじん地底刃」スバルのちよつと苦手な人だ・・・詳しくは第180話〜第182話を見よう！

スバル「どうして君がここに・・・？」

刃「アハハあたり前じゃないか、大会ある所に俺ありっというだろ？」

スバル「（聞いたことも見たこともないよ・・・）」

刃「所でスバル、お前の後ろに居るのっってお前の友達だろ？」

スバル「え？」

ゴン太「よう！スバル！」

ライオ「なんだ、お前も居たのか・・・」

キザマロ「僕は大会には出ませんがスバル君たちを応援しにきました」

委員長「まあ、ブラザーだものこれぐらいは当然よ」

スバル「ええええええどうして皆がここに!？」

刃「あつ、俺はスバルの大大大親友でーす！」

スバル「違います」

刃「俺とスバルはあの太陽に向かって走った仲なんだぜ！」

スバル「走ってません」

刃「まあまあ、そんな否定すんなよおスバッチ」

スバル「少し黙っててくれる？」

刃「OK！」

スバル「（やつと静かになった・・・）えーと皆も大会に？」

ゴン太「そうだぜ！たとえ俺は安静にしろって言われたから電波変換だけは出来ないけどオツクスなら戦えるからな！」

ライオ「俺は暇だったから」

スバル「へえー・・・」

ピンポンピンポン

『大会に出る人は急いでバトルルームに来てください、くりかえします・・・』

スバル「あっ、そろそろいかないと!」

委員長「頑張りなさいよ!」

キザマロ「応援してますからねー」

ゴン太「よしっ!行くぞオックス!」

オックス「おう!」

ライオ「ウインドウ俺の言うとおりにしろよ?」

ウインドウ「はいはい・・・」

スバル「絶対に優勝しようねロック!」

ウォーロック「当たり前だ!」

こうしてウィザードバトル大会は今始まった・・・

第211話 ウィザードバトル大会！（後書き）

久々の登場、刃！

そして始まった「ウィザードバトル大会」！

果たして優勝するのは誰だ！？

## 第212話 参加者112人の中から・・・

スバル達はバトルルームに集まった

司会者『はい、集まりましたね？これより予選を始めます！』  
ワアアアア！

司会者『予選のルールは簡単です、まずクジを引いてそのクジに番号が書いてあります、その番号と同じ人と戦ってもらいます、これが予選のルールです、では誰か質問はありませんか？』

参加者1『はい、バトルカードや装備はありますか？』

司会者『はい、どちらもありません』

参加者2『じゃあ、勝負は何分間ですか？』

司会者『それは、1回の勝負に10分間です』

参加者3『はい！最終的に何人生き残るんですか？』

司会者『まあ、場合によるけどだいたい16人ぐらいです・・・質問はもうないですね？では皆さんクジを引いてください・・・』

そしてスバル達はクジを引いた

スバル『えーと・・・52番だ・・・』

ライオ『おーいスバル聞いたか？』

スバル『何？』

ゴン太『それがよお、今回のウィザードバトル大会の参加者、俺達含めて112人だつてよ！』

スバル『ええええええ！112人！？』

刃『うおおお燃えてキタアアア！』

スバル『ねえ刃、黙っててくれる？』

刃『OK！』

司会者『それでは皆さん、クジを引きましたね？それでは始めます！まず番号が1番の人！一番奥のフィールドに！そして2番の人は真ん中！そして3番の人は私の目の前にあるフィールドを使ってください！』

ゴン太「俺だ2番！」

スバル「頑張つてね！」

ゴン太「おう！」

「???」「よおお、デカイ奴！」

ゴン太「！」

ワルイ「俺の名は「悪是あくせワルイ」だせいぜい楽しませてくれよ、デ

カイ奴！ガハハハ！」

ゴン太「……………」

司会者「それでは始めてください！」

ゴン太「行けえ！オツクス！」

オツクス「ブロロ！」

ワルイ「いけええええええ、ワルキー！」

ワルキー「ワルワルワル」

3分後……

ゴン太はワルイに勝った！

ワルイ「や、やるじゃねーかデカイ奴……」

ワルキー「ワ……ル……ワル……ガクッ」

ゴン太「まあこんなもんだろ！」

スバル「ゴン太とオツクスの息が合ってた……すごい！」

そして少したつて

司会者「え……次の人は24番の人は奥のフィールド！そして

25番の人は真ん中で！」

刃「24番は俺だな！」

ライオ「25番は俺だ！」

司会者「それでは始めてください！」

刃「さあ始めようか！」

ザコダ「俺の名は、「気路野へろのザコダ」だよへろへろ」

刃「んじやー略してザコ！勝負だ！」

ザコダ「俺はザコじゃな……いへろよ！」

刃「はいはい」



そして1分後・・・

ザコダ「へろへろ・・・ガクッ」

刃「おいおい何故ザコダまでたおれんだ？」

ザコーピオン「ご主人・・・ガクッ」

そしてライオのほうでは・・・

司会者「こつ、これはー！ー！初秒さつだあー！ー！」

ライオ「はあ、弱かったな」

ウインドウ「だな！」

アルイ「いいもんどうせ僕本気じゃなかったもん！」

こいつの名前は「伊井輪家アルイ」とにかく言いわけをする

そして・・・

司会者「では、52番の方は、私の前のフィールドです！」

スバル「よし！やろう！」

ウォーロック「ああっ！」

第212話 参加者112人の中から・・・（後書き）

次回スバルとウォーロックの番だ！

## 第213話 スバル&ウォーロック!

司会者『それでは、52番の方はフィールドにウィザードをセットしてください!』

スバル「よし、ロック!」

ウォーロック『おう!』

???「君のウィザードカッコいいね、でも僕のウィザードもカッコいいよ?ウィザードセット!ドルル!」

ドルル『ドルルルウゝ・・・お前が俺の相手かぁ・・・』

ウォーロック『せいぜい楽しませてもらうぜ!』

ドルル『あぁっ、いいぜドルル・・・』

司会者『それでは・・・始めてください!』

ウォーロック『スバル!』

スバル「うん!バトルカード「ソード」!」

キーン

ウォーロック『うおお!くらえ!』

スバン!

ガッ!

ウォーロック『何っ・・・止められた・・・!?!』

ドルル『ドルル・・・力はなかなかだが、動きがにぶいな!今度はこっちからやるぜ、くらえ!ドリルアタック!』

ウォーロック『なっ、ドリルだと!?!』

ドオオン!

ウォーロック『ぐあああああっ!』

ドサッ

ドルル『ドルルルウ、少し急所からはずれたか・・・』

ウォーロック『ぐっ・・・なんでお前ドリルなんて持っているんだ?』

ドルル『装備だ、ウィザードは、1つだけ装備が出来る、そして俺

の装備は「ドリル」だ!」

ウォーロック「なるほどな……(これはめんどい事になるな……)」

ドルル「ドルルウ、まだ戦いは始まったばかりだ、これからだぜ?」

ウォーロック「へっ、あたりまえだ!」

スバル「バトルカード「ボム」×2!」

キイン

ウォーロック「うおりゃ!」

ポイ!

ウォーロックは、ボムをなげた

ドルル「そんなの俺には効かないぜ!ドリルアタック!」

ドリルでボムを破壊した!

ボオオオオン

ドルル「ドルル……!」

ボムから出た煙で周りが見えなくなっていた……

ドルル「やばい!……だがあいつも俺には近づけない……」

コロツ……

ドルル「!?」

なんとドルルの足元にボムが転がっていた

ドルル「なっ、しまっ……た……」

ボオオオオオン

ボムは爆発した……

ドルル「ぐああああッ!(まさかこんな方法で俺に……)」

スバル「やったあ!」

???「やるねえ、君のウィザード……でも……」

スバル「?」

ドルル「……ドルル、お前なかなかやるな……でも……」

……

ウォーロック「!(まだ立てるのか……)」

ドルル「俺を本気にさせちまったな!」

???「バトルカード」「キャノン」!

キーン

ドルル『ドルルル・・・さあ、やるうか・・・戦いの続きを・・・』

『!』

ウォーロック『面白い・・・』

第213話 スバル&ウォーロック！（後書き）

次回、ドルルに勝てるのか？

第214話 ウォーロックVSドルル！（前書き）

いやー昨日はまいったな

昨日急に熱がでて大変でした・・・

まあ気合と根性と神祈りで治しましたがね・・・アハハ

## 第214話 ウォーロックVSドルル!

ドルル『くらえ! キャノン!』

ドオン!

ウォーロック『!』

サツ!

ウォーロックは相手の攻撃をギリギリ上によけた

ポオオン!

ウォーロック『あぶねえ・・・!』

タツタツタツ!

ドルルはウォーロックに近づいた

ドルル『上に飛んでてちゃあよけられないな!』

ウォーロック『ふんっどうかな!』

ドルル『ドルル・・・だったらくらえ! ドルルアタック』

サツ!

ウォーロックは軽々とよけた

ドルル『なっ、ありえない! ドルル!』

ウォーロック『俺はただのウィザードとはちょっと作りが違っんだ

よ!』

???『(なんだ? あのウィザード普通じゃあ出来ない動きをした

!)』

ウォーロック『スバル! 今だ!』

スバル『バトルカード「キャノン」!』

キイン

ウォーロック『これでもくらえ! キャノン!』

???『よけるんだ! ドルル!』

ドルル『! (しまった

ドオオオン!』

(』

ドルル『ドルウウウウっ!』





スバル「勝った!」

ウォーロック『……(こいつ……最後の最後に俺に傷をつけやがった……)』

???「……僕の負けだよ……おめでとう!そして……優勝してね……スバル君……」

スバル「あの……君の名前は?」

武「僕は「なとう拿導武」たける小学3年生だよ、スバル君、会えたらまた会おうね!」

スバル「うん!」

そして……

ライオ「やったな!スバル!」

スバル「うん!」

司会者『なつ、なんとおー、まさかの2秒で勝ちました!』

ライオ「2秒!?俺よりも早いじゃん!」

司会者『2秒で倒したのは、今回初参加の、「ひかりかくめい光革命」だあー!』

革命「……弱い……弱すぎるよ……」

ライオ「なんだ?あの光つて奴……?」

スバル「光……?」

第214話 ウォーロックVSドルル！（後書き）

ひかめくめい  
光革命登場！

・・・えっ？光って・・・あの光？

第215話 光 革命（前書き）

なんか「光 革命」って・・・なんか違和感があるけど気にしない  
てくださいね！

## 第215話 光 革命

スバル「光……？」

その時！

ギロツ！

スバル「！？」

スバルは革命に睨まれた

革命は少しずつスバルに近づいていた……

そして……

革命「星河スバル、お前は後から邪魔になる……覚えておけ！」

革命はそのまま、スバルの横を通った……

スバル「……どうして僕の名前を……？」

ウォーロック「どうした？スバル？」

スバル「……ううんなんでもない……（光……革命……君は一体？）」

そしてしばらくし……予選一回戦が終わった……

司会者「予選第一回戦は終わりますそれでは第二回戦をやりたいと思います……ですが第二回戦は一時間後にします、それまでは休憩してください……」

そしてスバル達は休憩していた……

ライオ「一体何者だ？あの光ってやつ……なあスバル！」

スバル「う、うん、そうだね」

ライオ「にしてもお前さああいつと知り合いなのか？何か話してたけどよ……」

スバル「えっ、いや……初対面だけど……」

ライオ「そうかあ……」

ゴン太「もぐもぐ、予選第二回戦にそなえて食わないとな！もぐもぐ」

ライオ「お前……やきそばパン何個目だ？」

ゴン太「20個」

刃「ハハハ八食べすぎだろ！」

スバル「刃！いつからそこに！」

刃「ずっと！」

スバル「そうなんだ・・・（刃つて以外と影うすいなあ・・・）」

ライオ「なあもしかしたら予選であたるかもな！」

スバル「そうだね・・・」

ウォーロツク「早く戦いてえぜ！」

スバル「そうだね（あの光つて人もわかるだろうし・・・）」

あつというまに一時間がすぎた・・・

そして・・・

司会者「それでは第二回戦を始めたいと思います！しかーし！第二回戦は第一回戦とは違います！今回は・・・「宝探しゲーム」！です」

ライオ「なんだそれ？戦いじゃねーじゃんかよ！」

ウォーロツク「宝探しなんてやってられるか！」

司会者「ただし普通の宝探しではないのです・・・宝は16個・・・そして探してゲットするのもOK・・・戦って奪ってもOKです・・・つまり今ここにいる56人の中かいらたつた16人しか宝をゲットできない！つまり・・・「宝探しデスマッチ」なんです・・・そして今からルール説明します、さっきも言ったように探してゲットしても戦って奪ってもOK！しかし宝をただ持っているだけじゃ合格といけません・・・宝を探すフィールドには16個の宝を入れる穴がありますそこに入れれば合格です！分かりましたか？」

ライオ「つまり宝を手に入れたら宝を入れる穴に入れたら本戦に出れるわけか・・・」

スバル「何か怖いなあ・・・」

ウォーロツク「まあ俺にまかせろ！」

司会者「それではフィールドの所に行きましょう！」  
そしてその場所は・・・

スバル「で……でかい！」  
そうそこは「コダマタウンと同じぐらいの大きさのビックホールだっ  
た！」

第215話 光革命（後書き）

次回、予選第二回戦！



第216話 予選第二回戦は宝探しデスマッチ!? (前書き)

昨日書けなくてすみません・・・

ただ昨日色々とやる事が多すぎてしまって・・・

第216話 予選第二回戦は宝探しデスマッチ！？

ライオ「本当にでかいなあ．．．まさかここで．．．」

司会者「そのとおりです！56人のウィザードにやってもらおう」「宝探しデスマッチ」はここビックホールでやってもらいます！それと今回はウィザード自身でやってもらいます！」

ライオ「よーするに、俺達はバトルカードを使っちゃだめってわけか」

司会者「それではウィザードをこのビックホールに転送させてください！」

スバル「ロック、頑張ってね」

ウォーロック「まあ俺にまかせろ！」

ライオ「ウィンドウちゃんと手加減しろよ」

ウィンドウ「はいはい（めんどくさいな．．．）」

ゴン太「負けるなよ！」

オックス「任せとけ！ブロロロ！」

刃「ロックドック！お前の中にある「ロックの魂」と「犬のプライド」を忘れんなよ！」

ロックドック「ワアン！任せとけ！」

そして4人のウィザードはビックホールへと入って行った

ビックホールの中は．．．

ウォーロック「うおお何だ何だ？広い草原みたいじゃねえか！」

ウィンドウ「ここですか．．．」

オックス「草原など俺がすべて燃やして．．．」

ウォーロック「やめろ！」

オックス「．．．」

「それでは、ウィザードバトル大会予選第二回戦「宝探しデスマッチ」を始めてください」

ウォーロック「よしっ！やるぞ！」

その頃外では・・・

スバル「今頃どうしてるかな？」

司会者「えー・・・皆さん後ろを見てください」

スバル「なんだろ？」

後ろには大きなモニターが3つおいてあった

司会者「いまからこのモニターにビックホールの中の様子を写します」

そしてモニターに電源がついた！

スバル「・・・あつ！ロックだ！」

ライオ「おつ！ウインドウも居るぜ！」

ゴン太「オックスも！」

刃「あれ？ロックドックは？」

司会者「・・・おや？たつた今ビックホールの中から情報が・・・

！出ました！たつた今来た情報によると2体のウィザードが予選第二回戦クリアしました！」

スバル「えっ！？まだ始まって2分しかたつてないのに！」

司会者「えーとクリアしたウィザードは・・・ロックドックです！」

スバル「嘘っ！？」

刃「アハハ「犬のプライド」を忘れなかったな」

スバル「・・・そうか・・・あのウィザードは「犬型」だもんね・・・

・

司会者「そしてもう一体は・・・EXE六世だぁー！」

ライオ「EXE六世？なんだそれ？」

スバル「EXE・・・？」

革命「・・・ニヤ・・・」

司会者「早いですねー・・・それでは引き続きビックホールはどうなっているでしょうか？」

ビックホールの中では・・・

ウォーロツク『ねえな．．．どこにあるんだ？しかもあの犬は．．．  
「見つかったぜ！お前達も早く見つけるよ！ウォーーン！」って．  
．．．うざかったぜ．．．』

オツクス『お前は探さないのか？ウィンドウ』

ウィンドウ『まあな．．．（誰かが宝を見つければ俺が奪えばいい  
しな．．．）』

ウォーロツク『．．．おっ！見つかったぜ！』

オツクス『俺も！』

その時！

バツ！

ウォーロツク『．．．何っ！？』

オツクス『宝が消えたぜえええ！』

ウィンドウ『！』

???『ゲハハハ、すきだらけなんだよ！お前等！』

ウォーロツク『誰だお前は！』

又スツト『俺はゲハイ！盗み担当さ！』

カクツト『そして俺、戦い担当、カクツト！』

ウォーロツク『なるほどな．．．だったら勝負だ！』

オツクス『俺の宝~~~~~！』

又スツト『ゲハハハ』

第216話 予選第二回戦は宝探しデスマッチ！？（後書き）

次回ウォーロックとオックスは宝を取り返せるのか！？

## 第217話 又スット&カクツト!

又スット『ゲハハ・・・さあやれえ!カクツト!』

カクツト『オツス!お前達に俺の力見せてやるカクよ!』

ウォーロツク『だつたら見せてみる!』

オツクス『俺の宝を返せ!』

ウインドウ『さーて俺は見学といこうか』

ウインドウは戦う気ゼロであつた・・・

ウォーロツク『ん?おい!俺の宝をとつた奴はやんねえのか?』

又スット『俺は盗み担当でね、戦う気ない!』

カクツト『さあ!戦うカクよ!』

ウォーロツク『いいぜ!うおりゃあ!』

ズバツ!

ガキン!

ウォーロツク『何っ!これは・・・盾?』

カクツト『俺の装備はカクカクガードでカクよ!しかもこのカクカ

クガードには秘密がカクされているカクよ!』

ウォーロツク『「カクカク」うるせえー!』その秘密って?』

カクツト『見せてやるカクよ!ちゃんとカクごするカクよ!』

その時!カクカクガードは光つた!

ウォーロツク『ぐっ、まぶしい!』

オツクス『うおおお、目がアアア!』

ウインドウ『・・・』

ウインドウはサングラスを書けていた

又スット『ハッハッハッ!この光は俺には効かないようにしてある

んだ!ゲハハハ!』

ウォーロツク『目があかねえ・・・』

ドカッ!

ウォーロツク『ぐあっ!』

カクツト『どうかクよ！この光をまともに見ると5分間は目が開かないカクよ！』

ウォーロツク『くっ、卑怯な・・・』

カクツト『カクカクカク 戦いに卑怯もずるいもあるかカクよ！』

又スツト『カクツト！俺は先に宝を入れてくるお前は後から来いよ！ゲハハハ！』

カクツト『分かったカクよ！こいつら倒したらすぐに行くカクよ！』

その頃外では・・・

スバル『・・・ロツク！』

ライオ『（ウインドウの奴完全に寝てやがる・・・）』  
ゴン太『オツクスはどこだ？』

その頃オツクスは・・・

オツクス『目が開かん！どうすれば・・・ってかここはどこだ！』  
オツクスはさ迷い中・・・

ウォーロツクの方は・・・

ウォーロツク『（どこだ・・・相手は・・・）』  
ドガッ！

ウォーロツク『ぐふっ・・・はあはあ』

カクツト『どうしたカクよ？それとももう限界カクか？』

ウォーロツク『・・・（感じるんだ・・・相手の気配を・・・）』

.....

ウォーロツク『（まだだ！もっと・・・集中して・・・）』

ガタッ

ウォーロツク『そこだあ!』

スバァン!

ガキィン!

防がれてしまった・・・

カクツト『残念だったカクね・・・』

ウォーロツク『くっ、ガードされた!』

ウインドウ『ZZZZZZ』

ウォーロツク『だったら、もう一度!』

カクツト『遅いカクよ!』

ウォーロツク『・・・!!』

ドオオオン!

カクツト『カクカクカク 手ごたえありカクよ・・・!!』

ウォーロツク『そろそろ5分たつな・・・少し目を開けられたぜ!』

ウォーロツクはカクツトの攻撃を防いだ!

カクツト『っ・・・ならもう一度カク、フラッシュしてカクね・・・』

バツ!

カクツト『!・・・あっ!』

ウォーロツク『お前のカクカクガードは俺が奪ったぜ!』

カクツト『俺のカクカクガード返せでカク!』

ウォーロツク『それはできないな・・・返してほしければ俺を倒し

てみる!』

カクツト『なら・・・カクウウウウウ!』

ウォーロツクはよけた!その時にカクカクガードは上に飛んだ!

カクツト『やったカクよ!アイツよけた時にカクカクガードを放し

たカクよ!バカな奴カクね!』

ウォーロツク『バカなのはお前だ!すきだらけなんだよ!』

カクツト『まさか!わざとカクカクガードを上に入れてそれですき

を作ったカクね!』

カクツト『まさか!わざとカクカクガードを上に入れてそれですき



ウォーロック『もう遅い！くらえ！ビーストスイング！』  
ズバアアン！

カクツト『うぎやややでカクウウウウ！』

ドサツ！

コロツ

その時にカクツトは宝を落としてしまった・・・

ウォーロックはそれを拾った！

ウォーロック『宝を取り返したぜ！』

そしてウォーロックは穴のある所へと行った・・・

ウインドウ『ふあああ・・・よく寝たつと、あれ？決着ついたんだ

！・・・んじゃ俺もそろそろ宝を奪いに行きますか！』

そしてウインドウは宝を奪いに行ってしまった・・・

その頃外では・・・

スバル『やった！ロックが勝った！』

ライオ『おっ！やっと動いたなウインドウ！』

ゴン太『オックスが全然いない！』

そのころオックスは・・・

オックス『おっ！やっと目が開いた！・・・ってウォーロック達

はどこだ？そしてここは！もしかして・・・迷子か俺！』

????『クククあの牛みたいなのウイザードにしよう・・・弱そうだしな！』

第217話 ヌスト&カクツト！（後書き）

次回はオックス対・・・誰だ！？

第218話 オックスがピンチ！？（前書き）

いや、しばらく休みました（たまには少し長い休みもいいもんだね！）

その間に色々（小説ネタ）考えました！

## 第218話 オックスがピンチ!?

オックス「ここはどこだ〜〜!」

???「おい!その弱そうな牛!」

オックス「弱そうだと!?誰だ!」

シカケ「俺はシカケ!俺と勝負しろ!」

オックス「いいだろ!来い!」

シカケ「その前にねお前、宝持つてるか?」

オックス「持ってたが盗まれた!」

シカケ「・・・盗まれたって・・・マジで?」

オックス「おうよ!」

シカケ「・・・(んじゃあ、こいつと戦う意味ないじゃん!)」

オックス「さぁー来いブロロ!」

シカケ「(だからと言ってあいつはやる気になっている、今勝負をことわったら俺って・・・何?ただ「勝負しろ!」って言って相手が宝を持っていなくてそれで俺は戦わずに宝を探しに行く・・・つまり・・・俺って逃げてるだけなのか!?)」

オックス「ウオーーまだか!来ないなら俺からやるぞー!」

シカケ「(まあいい・・・あの牛は弱そうだからサツサと勝って宝を探しに行こう!) よーしやるうではない・・・」

ドカアーン

シカケ「ぎゃあああああす!」

オックスはシカケに突進した、そして・・・

シカケは一発で終わった・・・

オックス「あれ?もう終わったのか?」

シカケ「ちよっ・・・待て!卑怯だぞ!まだ俺は「よーいスタート

」って言ってないだろー!」

オックス「悪いな、あんまりにも遅かったからもう終わらそうとし

ただけだけどな!」

シカケ「お前・・・本当に悪いっと思ってるのか?」

オックス「えっ?何が?」

シカケ「(こいつ・・・)」

オックス「まあまあ、早くやろうぜ!」

シカケ「はあ(いろんな意味で)やばい奴と当たったな・・・

では、よい・・・スタート!」

オックス「ウオータータックル!」

シカケ「やるぜ!ミニボール!」

シカケは小さいボールをオックスに当てたがボールは沢山はじかれた!  
た!

そして

ドシューーン!

シカケ「ぐああああ!」

ドサツ!

シカケ「くっ・・・なんとか絶えたぜ!」

オックス「次でとどめだぁー!」

シカケ「・・・残念だな・・・お前は俺にはとどめをさせない・・・

するとシカケは指を鳴らした

パチン!

その時だったさっきの小さいボールが膨らんでそしてはじけて網が

出てきた!

そしてオックスはその網に引っかかった

オックス「何っ!動けねえ!」

シカケ「このミニボールの本命は・・・」  
「トリックボール」指を鳴らすとミニボールふくらんではじける・・・  
そうして網が出てくる・・・

・・・そう俺の装備はトリックボールだ!」

オックス「こんなの燃やして・・・燃えない!」

シカケ「残念!その網は、熱は効かないぜ!」

オックス『くそっ！ブロロロ！』

オックスは網を引っ張ってちぎろうとした

しかし全然ちぎれなかった・・・

シカケ『さあーて・・・どうしようかな？この牛を・・・』

オックス『・・・』

第218話 オックスがピンチ！？（後書き）

次回オックスは、勝てるのか！？

## 第219話 運がいいオックス!

シカケ『さあーて．．．どうしようかな?この牛を．．．』  
オックス『．．．．．』

シカケ『んじゃあ、この牛をボッコボッコに．．．』  
その時だった

ビュウウウウウウ

突然風が強くなった

シカケ『うをつ!なんだ?急に．．．』  
スパツ

オックスが捕まっていた網が切れた

オックス『切れた!』

???『おい、オックスー』

オックス『!、おおっ、ウインドウ!』

ウインドウ『まったく何捕まっていたよお前．．．』

オックス『助けに来てくれたのか!?』

ウインドウ『え?まさかあ、俺はただ宝を奪い取ったからこの宝  
を入れる穴を探していたらお前が居たからついでにお前を助けたま  
でだ』

オックス『ついでって．．．』

シカケ『ふう風がおさまった．．．ってそのお前はなんだあ!』

ウインドウ『えっ?いや、通りすがりのウィザードですが、何か?』

シカケ『通りすがりい?ふざけんな!お前がさっきの風を起こした  
んだろ!』

ウインドウ『まさかあ、ただのウィザードが風なんて使えるわけ  
なんじゃないかあ』

オックス『(ウインドウの奴逃げたな．．．)』

シカケ『そうだよなあ、ただのウィザードが風なんて操れるわけな  
いもんなあ』



ウインドウ『オックス、俺はこの宝を穴に入れてくるから』

シカケ『まてえ！お前は宝を持っているんだな！だったら俺と勝負しろ！』

ウインドウ『ほほーう、この俺と勝負・・・ねえ』

オックス『（今のウインドウの顔・・・怖い・・・）』

そしてウインドウとシカケの勝負が始まった・・・

シカケ『くらすえ！ミニボール！』

ウインドウ『・・・甘い！』

ビュウウウウウ

風でミニボールが吹き飛ばされてどっかに行ってしまった・・・

シカケ『・・・』

ウインドウ『うわ！偶然な風が偶然ミニボールを偶然遠くに吹き飛ばした！』

シカケは思った・・・「本当に偶然なのか！？」と・・・

ウインドウ『さあ勝負の続きだ！』

シカケ『くつ・・・もう偶然など起こらない！ミニボール！』

ビュウウウウウ

またミニボールが吹き飛ばされた

ウインドウ『わあ、本当に偶然に風が起きたあ』

シカケ『くつ・・・まだまだあーー』

～数分後～

シカケ『ぜえぜえはあはあ』

ウインドウ『いや！偶然だねえ！』

シカケ『（偶然にもほどがあるだろ・・・じゃあなんだ？あいつには幸運が沢山あってそれで風が起きているとか？いやいやいや絶対に無い！きつとどこかに風が起きる装置を仕掛けたんだ！そうに違いない！いや、絶対にそうしか思えない！）』  
ウインドウ『早く来いよお』

シカケ『くそおーもうやけくそじゃー』  
スカッ

シカケ『．．．あれ？無い！ストックがもう無い！まさか．．．使  
い切った．．．？』

ウィンドウ『あれー？来ないの？だったら終わりにしますか！』

シカケ『えっ！？』

ドゴッ

シカケ『ぐはあああ』

ドサッ

ウィンドウはシカケを倒した．．．

ウィンドウ『はあね時間を無駄にした．．．さっさと宝を入れに  
行くか』

オックス『．．．あつ、石の影に宝が．．．ラッキー』

オックスもこうして宝を手に入れた．．．

第219話 運がいいオックス！（後書き）

オックスあつけな！偶然見つけたオックスだったね！（今回「偶然

」と言う言葉多いなあ・・・）

次回は、とうとう本戦へ！？

## 第220話 残った16体のウィザード!

予選第二回戦が始まってから3時間がたった・・・

ビックホールの外にいるスバル達は・・・

スバル「よかったー、ロックがクリアしたよ」

ゴン太「オックスも無事に残ってよかったぜ!」

ライオ「ウィンドウもだ!」

スバル「所で刃は?」

ライオ「さあ?どつかで寝てるんじゃない?」

その頃刃は・・・

刃「ぐうおおおおおZZZZ」

ロックドック「スーサー・・・」

普通に外で寝ていた・・・

そして戻ってスバル達は・・・

司会者「・・・えー、今までクリアしたウィザードの数は、14体です、そしてそろそろ予選第二回戦を終わりにしたいと思います・・・もしあと2体決まりませんでしたら、このまま14体でやります・・・そして予選第二回戦終わりまで10分で終わりにします」

スバル「あと2体決まるといいね」

ライオ「バーカ、二体決まんなければ優勝するのも楽になるだろ!」

スバル「(せこいけど・・・確かにそうだね・・・)」

ウィンドウ「(はあ、減る減る二体でもいいから俺を楽にさせる)」

そして・・・

司会者「えー・・・そろそろ終わりますね・・・おっ!ビックホールから情報が来ました!なんと、ギリギリで二体決まりました!」

ライオ「チツ!」

ウィンドウ「ケツ!」

スバル「これで16体のウィザードが決まったね!」

ウォーロツク『くうくう本戦が楽しみだぜ!』

司会者『それでは予選第二回戦「宝探しデスマッチ」を終わります! 本戦は明日! 明日の10時から始めたいと思います! 今日の本戦へ行く参加者16人がとまってもいいホテル・・・「16(シツクステイーン)超豪華ホテル」です!』

スバル「えええええ!? 本戦は明日!? (それになんて凄いや? 名前のホテルだ!)」

ライオ「ゴージャスかあ・・・絶対にとまるぜ!」

司会者『なんとこのホテルは、凄くゴージャスでマーベラスなホテルなのです! 本戦へ行く16人の方は特別にタダです! でも16人以外の方が泊まるならちゃんとマネーを払ってください! なお値段は150万マネーでえええす!』

参加者「えええええマジでかああああ!」

スバル「(僕そんな高いホテルに泊まるの!? てか司会者の人キヤラ変わってない!?)」

ライオ「おおおおお! なんかワクワクしてきたああああ!」

ゴン太「・・・(きつとうまい飯が・・・) ジュルル」

スバル「ゴン太は絶対にご飯狙いだな・・・(分かりやすい・・・)」

司会者『それでは今日は終わります! それでは明日!』

そしてここは「16(シツクステイーン)超豪華ホテル」では・・・

スバルは102号室・・・

スバル「・・・」

部屋はベツトは真っ黒の毛布でさらにベツトは超ふかふか、そして鏡は金色の鏡で傷は一つもついていない・・・さらに部屋はスバル

の家の3倍ちよいある・・・さらにさらに部屋の壁には赤と金の色の壁であった・・・  
これを見たスバルは・・・  
スバル「・・・」  
ただ見とれるばかりであった・・・

その頃ライオは・・・  
ボヨン ボヨン  
ライオ「うおおこのベットよくはねるぜー！」  
ベットではねていた・・・

ゴン太「まだかなまだかな、飯はまだかな？」  
ゴン太は飯を待っていた・・・

そしてご飯の時間・・・  
皆食堂ルームへと向かった

そこには凄いゴージャスはバーキングがあった  
そう高級な肉や、100%の高級オレンジジュースや、目の前でステーキを焼いてくれるパフォーマンス？もあった・・・

ゴン太は興奮していた・・・  
ゴン太「まずは肉だぁー！ー！」

スバル「わぁあ・・・何を食べていいのか分からない・・・」  
ライオ「よし、俺は今日食べまくってやる！（ゴン太に負けないぐらいにな！）」

こうしてあっという間に時間はすぎ・・・  
夜10時・・・  
スバル「なんかこの部屋夜になると・・・広くて怖いな・・・」  
ウォーロツク「怖がつてんのか、スバル？」  
スバル「こ、怖くないよ！さぁ寝よう！」  
スバルは早く布団に入ってそして電気を消して寝ようとしてた・・・

が、

ウォーロツク『?、どうしたスバル?寝ないのか?』

スバル「寝るよ!(でもこんなゴージャスなベットで黒いふかふかの毛布で気持ちいいんだけど・・・落ち着かなくて眠れない!)」  
スバルはしばらく眠れなかった・・・そして、次の日の7時・・・  
ゲツソリ

スバル「はああああああああ・・・」

ライオ「どうしたスバル?そんなゲツソリして、よく眠れたか?」

スバル「その逆だよ・・・とても寝心地良くて眠れなかった・・・

(てか落ち着かなかつた)」

ライオ「俺はぐっすり眠れたぜ!ベットで寝て10秒で眠れたぜ!

スバル「よかつたね・・・」

ライオ「所でゴン太は?まだ寝てんのか?」

スバル「そうじゃない?」

ライオ「よし・・・ヒヒヒ」

スバル「?」

ライオ「スバル・・・やるぞ!」

スバル「・・・何を!?」

そしてライオと無理やりつれてこられたスバルはゴン太の部屋の前に居た・・・

ライオ「よし、やるぞ〜」

スバル「僕は何も知らないからね?」

ライオ「分かってるって!それじゃー鍵を開けるぞ・・・」

スバル「(なんでゴン太の部屋の鍵を持ってるのライオは・・・?)」

」

カチャ

ライオ「・・・入るぞ!」

スバル「・・・」

スバルは無表情だった・・・

そしてそのままライオはゆっくりドアを開けた・・・





オックス「なっ……ウォーロックお前……絶対にまけねえぞ！」

ウォーロック「へっ、俺もだ！」

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴ

スバル「わあ〜燃えてるなあロック……」

ライオ「そいえば優勝賞品は世界最新の望遠鏡だつてよむ

スバル「絶対に勝つて優勝してその望遠鏡も手に入れる！」

ライオ「（あのスバルが燃えてる！？）」

ゴン太「でもその前に飯だ！食って食って食べまくって優勝してやるぜ！」

ライオ「俺も同じだ！腹ごしらえして勝つてやる！」

スバル「僕も！優勝する！」

そしてスバル達は朝ごはんを食べてお腹いっぱいになった……とうとう……

本戦へ……

司会者「まもなく本戦です！ここまで勝ち残った16名のウィザードが誰が一番かを今決まる！大会……ウィザードバトル大会！！そしてとうとう今日一番のウィザードが決まります！！」

ワアアアアアアアア

司会者「観客席は1000人超えています！それでは始まります、ウィザードバトル大会！本戦です！！それでは出てきてください、16人のウィザード！」

とうとう始まったウィザードバトル大会！

しかしスバルはまだ知らなかった……この大会で事件が起きる事を……

第220話 残った16体のウィザード！（後書き）

わあゝ・・・もう12月23日だ・・・本当は22日までに書き  
かっただのに・・・ガツクリ（涙）

とうとう次回は本戦！優勝するのは誰だ！？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9637s/>

---

流星のロックマン4黄金のヨロイ・ライオーガ/ツバサ・ドラゲーン

2011年12月23日00時47分発行